

# 京浜第3シエルターの アイツ

FD一枚ケルベロス

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

199X年

人類の歴史は終わった

そして時は流れて…

あたりのようすかへんだ

くうきのなかれかかわったようだ

どくも様のカオス転生ごちやませサマナーの設定を使わせていただきました。

三次創作ですが、お楽しみいただければ幸いです

タイトルがわかりにくいので変更しました  
才能限界84↓京浜第3シエルトーのアイツ

# 目次

新約・女神転生

才能限界84の男 | 1

★地方状況報告スレ その24

54

いまからあなたはデビルバスターです

| 96

じ、やあくなくまたちをたおしてく

ださい | 110

せかいにへいわをとりもと、してくだ

さい | 130

ガイアの章

★ガイア連合地方派遣社員スレ その

| 17

★ダークサマナー対策スレ その4

184

あなたはあくまときようそ、んて、き

ますか? | 211

★悪魔召喚プログラム(原作)について

語るスレ | 219

よーこそ、らいほうしゃ! | 250

さあーて、やくしやはそろったな!

| 267

たのしいサハ、トのはし、まりました、

! | 295

★わくわく手作り工房♪雑談板 その

3 4 | 321

ほれ、まわってワン！ | 365

いまのは、ケ、ームし、やないんだ、 | 383

よな | 383

メシアの章 | 383

★海外派遣の是非について語るスレ | 401

1 出航 | 401

アメノトリフネ 情報ログ1 | 435

☆デジタルサマナー雑談スレ その3 | 457

4 (イギリス) | 457

★国際情報交換スレ 33スレ目+@ | 493

トモダチさまか、しんのきゆうせい | 493

しゅて、した | 543

わたしの しれんを のりこえたなら | 559

まことのきゆうせいしゅとしてみとめ | 579

ましよう | 579

あなたは いのちをかけてて、も | 597

しれんをうけ、るゆうきか、あります | 612

か | 612



## 新約・女神転生

### 才能限界84の男

気がつくとき、そこは出発の地だった。

多くの人々が建物内部から外に出ようとしている。

「なにをしてるんだ、お前たち。ここは閉鎖するんだ、とつとどこから出る」

見慣れない青い軽装の男が、大声を上げてこちらを睨んでいた。

自分のことだろうか？

「キョロキョロするな！ お前だ、お前！ 早く出る」

軽装のガードマンが困っている。

早く出たほうがよさそうだ。

「なんだその腕は。ここは渋谷でも、ハロウィンの日でもないんだぞ」

怒られてしまった。

気になることはあるが、指摘された右手をジャンパーにいれようとして気づく。

武器も防具がなくなっているが、右腕だけは変わっていない。

失ったままだった。

十

外の世界は平和そのものだった。

襲われている人の姿も、ばらばらになって道路を汚している肉片も、腐臭もしない。ただ排気ガスの臭いが少しだけ鼻につく。

——いいか、これで終わったわけではない。

——汝らはより苦しい道を選んでしまったのだ。

奴が言っていた言葉を思い出す。

隣には誰も居ない、あの瞬きの間に消えてしまった。

始まりの場所だというのに、あの時のように親友も、魔獣もない。思わず顔をしかめかけて。

そんなことをしても意味がないと思ひ直す。

表情だけでも弱みを見せれば舐められる、あれらとの交渉の繰り返しで覚えた経験だ。必要なのは進むことだ。



それにしても。

見上げる。

平和な街の光景が目映る。

京浜はこんな発展してただらうか？

・  
・  
・

魔貨が使えない。

久しく新鮮な気持ちになりながら、町中を探索する。

身体が重い。

武器ももっていない、ひどく不安になる。

ガードマンに追い出される前に隣の部屋を探索したが、ワルサーがなかった。随分と弱くなった、貯めているMAGも奴との戦いで消費した残量のままだ。

あのカエル野郎のようになにかの呪いだらうか。

東京タワーに向かってみたが、展望台に上がるのに三千円がいると言われてしまっ

た。

彼女がいればきつと払ってもらえる、はず、多分。

そう思い、連れがいるので、と言ってみたが事務的に無理ですと断られてしまった。暴力で殴ってくる相手でもないのに、強引に押し通れずに引き返し、破壊されていない自販機でジュースを購入する（小銭の入った財布がジャンパーに入っていた）

一息つく。

頭の中に巡るのはどうやって金を稼ぐか。

新宿と上野にでもいけばディーヴァ教徒がいるだろう、あいつらから巻き上げるか。装備も欲しい。お金は必要だ、魔界でもなければ日本円で拠点も買える。

上野にまた殴り込みに行くか？

格好とは裏腹に物騒になった自分に苦笑しながら、思い浮かぶのは考えないようにしていた彼女のこと。

——彼女はこの世にいないのではないのか？

親友もいない。一緒に遊んで、あの決別まで頼りにしていた親友はどこにもいなかった。

あれは夢だったのではないかと考えてしまうが、軋みを上げる右手がそれを否定する。

——彼女を探さなければいけない。

また封印されているのかもしれない。

それならば助ける。

当然の結論だった。

彼女を信じると決めたあの時からずっと迷わず、何度でも決断し続けてきた選択。

今更何を迷うものか。

「？」

上野まで歩いていくかと立ち上がった時、気配を感じた。

耳でも目でもない。

風だ。

風が運んできた気配。拡散し切らずに風に混じった荒々しい生体マグネタイトの気

配。

戦いだ。

言語化すればそんなものになる感情の残滓が、肌を刺激する。

自分はそちらへと足を向けた。

戦いを求める生物ならば、大体殺しても平気な奴だろう。

「ああああああああああああ……！」

「あんまり叫ばないでくれねえかなあ、うっせえんだわ」

落ち葉が枯れるようにシワ付いていく男……いや、もう老人か。

もうすぐ干物にランクダウンする男を踏みつけながら、着膨れたダウンジャケットを着た青年はタバコを吸うようにMAGを吸い込む。

デスタッチ 呪殺スキル 使用者のレベルと運及び対象の運を比較し、累積経験値を減少させる

苦く感じるMAGの感触。味覚でも、嗅覚でもない霊的感觉だが、言語化するならこういう感じ。

「やっぱり男はまずいな、まあ現地人のクズでも覚醒してるなら贅沢はいえねえが」

簡易測定器で精々3レベルのゴミクズから、出洩らしになるまでMAGを奪いなが

ら、わずかずつ上がっていく力を認識する。

レベルドレイン。

悪魔を一つ殺すよりはお手軽に経験値が手に入る。

青年がこの異能に目覚めたのは、まさに天恵としか言いようがなかった。

(やったぜ、だがめっちゃ使える奴が来た！)

本来ならゴミスキルだが、敵の累積経験値の減少の想定外効果が、青年の未来を変えた。狂わせたといつてもいい。

青年はあるゲームのユーザーだった。

だったというのとは自分が死ぬ前、転生する前の話だ。

このクソヤバな世界のモデルになったゲーム。

真・女神転生。

ポップな音楽とデートが楽しめるペルソナシリーズと、アクションゲーのライドウシリーズ、あとソシャゲーのほうをやった自分は、他の大半の同類共よりはアドがある。

あいつらはいずれくる破滅の未来を乗り切る予定だろうが、そこから先のプランを殆ど考えてない。

大事なのはそこから先だ。

弱ければ死ぬしかない。

強ければ幹部にだってなれる。

自分でルートも選択出来る。

弱ければ何も出来ない。

それがメガテンだ。

「要はどれだけ強くなれるかだ、それが分かかってない連中は、ん？」

レベル0の愚者にギリギリなるかの出洩らしを離れたところで、視線を感じた。

目を向けた先には見慣れない青年の姿。

茶髪に染めた髪、どこにでも歩いてそうな格好だが、妙に背筋が伸びている。

右手は上着のポケットにいれたままだが、男と出洩らしを見比べて「ふむ」と声を出した。

「誰だお前？」

この場はエストマ効果のある封魔の鈴を使っている。

悪魔もそうだが、覚醒もしていない人間なら認識も出来ない。格下の相手なら、最低でも近寄るのも厳しい。

いや、まて。

「お前、覚醒者か」

「？ なんのことだ」

探りをいれてみるが、自然な態度で首を傾げられた。

すつとぼけられてる可能性もあるが。

「どっちでもいいさつさと失せろ。俺は忙しいんだ」

「その男はなにをしたんだ？」

「あ、？ 借金だよ、借金。借りたものを返さなかった層だ」

こひゆこひゆとめんどくさく呼吸をする出洩らしを蹴りつけて、ポキンと折れた音がした。

この分だと労働力にならねえな。

内臓を売るか、いや、最後まで吸い尽くして始末したほうが楽か？

「やめろ」

「あん？」

「殺す気ならやめろ。それ以上は死ぬぞ、早く回復させたほうがいい」

「おいおいなんだよ、止める気か」

「そうだと云っている」

呆れた。

こんなご時世だ、借金を抱えたクズなんて助けようとする奴はいねえ。

それも覚醒者なら、悪魔業界のルールぐらいは知ってるもんだ。

(いやそれも知らないやつか?)

「お前も転生者か? 安心しろ、こいつは現地人のクズだ。問題ねえやつだよ」  
探りをいれる。

「……転生者?」

「は! 何だお前、同胞じゃねえのかよ!」

思わず笑みがこぼれる。

ついでに、一日に二匹も覚醒者のエサだ。

デスタッチ 呪殺スキル 使用者のレベルと運及び対象の運を比較し、累積経験  
値を減少させる

スキルを発動。

現地人程度の雑魚なら撫でるだけでグズグズに倒れ伏し、手足も動かなくなる。  
それで茶髪の小僧に手を伸ばし。

さつと避けられた。

「エナジードレインか」

「!!」



見破られた。スキルを知っている?!

小僧が後ろに飛び退き、手早くなにかをつける。なんだ、スコープ？  
それに右手を出して。

—ANALYZE—

種族：ガイヤーズ      ガイヤーズ      LV21      属性：NEUTRAL—CHAOS

「ガイヤーズ？ 狂人だと思ったが、知らない種族か」

「なんだ、お前？ その手はなんだ!？」

ポケットから出した腕。

それは見たこともない、古臭い映画に出てくるような義手だった。

サイバネティックアーム  
機械仕掛けの右腕。

あんなものをつけているということは一般人ではない。

「答える必要があるのか、悪魔なんぞに」

「悪魔だど!？」

「人にエナジードレインをかけてくる、人を殺そうとしている、弱者を虐げる。どれも人間のやり口じゃない」

「それは悪魔の道理だ」

「言いやがったな、現地人のゴミが!! アギラオ!」

アギラオ 火炎魔法 敵単体に火炎中ダメージ

スキルを発動。

放てば自動車が丸ごと融解する火炎弾をぶちかます。

高くてもレベル10未満の現地人のクズなら死体も残らない。

—SUMMON—

はずだった。

「CALL、アプサラス」

右腕から出現した青い肌の悪魔——妖精アプサラスが、アギラオを涼やかな顔で弾いた。

種族：妖精    アプサラス    LV13    属性：NEUTRAL—NEUTRAL

相性耐性    銃に強い    火炎に強い    電撃反射    氷結に弱い

「義手から出した？    管内臓の義手か、いやまて、お前今呪文もなしに……」

現地人の連中は面倒な呪文や道具を使って悪魔を使役する。

式神を使えばそれも多少省けるが、それでも時間がかかる。こんな早くに呼び出せるのは一握り。

だが、あんな機械の腕で。

(まさか！    まさか!!)

「来い！    オレの式神——ザントマン!!」

手を鳴らし、式神を呼び出す。

種族：造魔    ザントマン改    LV20    属性：DARK—NEUTRAL

ザントマンをモデルに、カスタムした俺の式神。

物理耐性あり、呪殺はほぼ無効、電撃の弱点は残ってるがそれ以外にも優秀な耐性がある。

現地人程度ならミンチに出来る。

「お前も悪魔使いか」

驚いてねえ。

「てめえ!! デビルサマナーか!!」

その言葉に、茶髪の小僧は顔色一つ変えずに言った。

「悪魔使いだ、見ればわかるだろ」

言質は取れなかったが、ほぼ確定だ。

こいつは殺さないとやばい。

「殺せザントマン!! 悪魔召喚プログラム持ちは生かしておけねえ!!」

俺の知らない外見な以上、おそらくモブのCOMP使いだろうが、悪魔召喚プログラムはまずい。

この世界にはなかったはずじゃねえのかよ!!

そう喚き散らしたい気持ちに嘔み潰しながら、指示を出し、銃を抜く。

(ぶち殺して奪う。悪魔召喚プログラムは俺のものだ!)

あれさえあれば主人公になれる。

こんな式神一体でちまちまと金かけて育てる必要もない。

悪魔合体が出来なくても幾らでも悪用方法がある。

《マハ・ザン!》

マハザン 衝撃魔法 敵全体に衝撃小ダメージ

ザントマンの背負った袋から吹き出す衝撃が、アスファルトを削り上げながらCOM P使用に迫る。

低レベルの全体魔法だが、人間程度が喰らえば即死だ。

アップサラスに衝撃耐性はない。

だが、COMP使用は背を向けるように回転し——アップサラスの後ろに飛び込んだ。

「アップサラス」

アップサラスを盾に、アップサラスが庇うような姿勢で。

どちらも涼やかな声で言った。

「ラクカジャ」

「はい、サマナー。ラクカジャ」

ラクカジャ 補助魔法 天啓 味方全体の防御力を上昇させる（魔防も含む）

爆風。

マハザンに飲まれて吹き飛んだ、そのはずだ。

アプサラスに衝撃耐性はない。

例え盾にしようが、まとめて消し飛んだはず。魔法の発動も遅い、間に合わない。

「メデイ」

そのはずなのに。

「なぜ」

メデイ 回復魔法 味方全体の傷を癒やす

回復魔法の光と共に、COMP使いが平然と向かってきている。

何故、どうして、何故！

なんで生きている！ 二体とも息をして、傷が即座に治っている。

「アプサラスの耐性は、ザン系列で6割強だ」

(は??！)

疑問に答えるような声が、耳に届いた。

それと同時に、何かを投げつけられたザントマンが、感電したように弾けた。

『ジオマストーン』 戦闘中に使うとジオマの効果

雷鳴が三度。

ジオストーンでもぶつけられたのか、派手にのたうちまわり、弱点に麻痺している。

(クソ、役立たずが！)

銃を発砲。

式神がやられた以上、このままやりあうのはまずい！

ハンドガンを撃ち込みながら、全力で距離を取ろうとした。

—SUMMON—

「こい、オルトロス」

COMP使いが、腕を鳴らし——見惚れるほど滑らかな動きでキーデバイスを打ち込んで

それに沿って魔法陣が形成される。

膨大なMAGを食らって、魔獣が顕現する。

種族：魔獣    オルトロス    LV18    属性：NEUTRAL—NEUTRAL

相性耐性    破魔に強い    神経に強い    氷結に弱い

オルトロス。

女神転生シリーズにおけるケルベロス、それと同種の獅子型魔獣。

「おおおおお〇〇〇!!」

それが吠えた。

破壊力を伴った咆哮を上げて、距離を取っていたこちらにまで届く。



ほえる 特技 小ダメージ+BIND効果

「あ、が」

身体が動かない。

震えたように手が止まる、足が止まる。

撃つていたはずの銃弾は、魔獣の身体に阻まれて届いていなかった。

「(っ)までだ」

そして、いともたやすく俺の式神は2体の悪魔によつて砕かれた。

なんで。

どうして。

昨日までと何も変わらなかったのに。

どうして俺がこんな目に。

「命を狙ったんだ、殺される覚悟ぐらいあるだろ」

「た、たすけ」

「そういつて助けたことがあつたか？」

義手のCOMP使いは冷たく、本当に見たこともないほどに冷たい目つきで男を見て

いた。

悪魔を見る目で。

淡々と殺し尽くしてきた相手を見る顔で。

「悪魔を殺しても平気なら、人間を殺しても平気なんだろ」

男の視界は真っ黒に染まった。

安らぎが訪れたかどうかは彼にもわからなかった。

・

・

・

+

★デビルハンター総合雑談所 その22

376：名無しのデビルハンター

いやあ最近すっかりみなくなつたよな、Dサマ

377：名無しのデビルハンター

そらそうだろ

378：名無しのデビルハンター

狩り過ぎたんだ

俺たちは・・・

次は保護しなくてはいけないのでは？

379：名無しのデビルハンター

草

380：名無しのデビルハンター

俺たちは保護されるべき希少種だった??

381：名無しのデビルハンター

しかし本当に見かけなくなっちゃな

少なくとも名乗るやつはいなくなっちゃ

382：名無しのデビルハンター

軽犯罪はばりばり破ってますが、一般的なサマナーです

383：名無しのデビルハンター

呪殺とか今どきないよねーww

少なくともガイア連合と関係してないか下調べするわ

384：名無しのデビルハンター

アニメ会社の社員に、よく効くおクスリ（意味浅）売りつけてやろうとしたら  
ガイア連合傘下でしたとか聞いたな

385：名無しのデビルハンター  
おいおい死んだわ

386：名無しのデビルハンター

>>384

あそこで売ってる自販機のエナドリ、三本飲んだら目からビーム出るってマジ？

387：名無しのデビルハンター

ねえよwww

……ねえよな？

388：名無しのデビルハンター

ありえないとは言い切れない

389：名無しのデビルハンター

それがガイア連合クオリティ

390：名無しのデビルハンター

ガイアしか勝たん！

391：名無しのデビルハンター

そういえばまだ地方ってダクサマ狩りしてんの？

392：名無しのデビルハンター

魔女狩り

393：名無しのデビルハンター

コビウリ売り共だぞ

都内から必死こいて逃げたのを追ってるわね

394：名無しのデビルハンター

ちよつと前

業界「たすけてーたすけてー！ 事件多すぎて誰でもいいから手を貸してほしいニ

キー」

「ダークサマナー「幾ら出せる？」

「業界「おほ！ 幾らでも出します！ 一生かかってでも」

「ダークサマナー「どおれ」

今

「業界「ダークサマナーなどこの日の本にはいらねえんだよ！ 殺せー！」

「ダークサマナー「貴様あ！ 私たちがいないとどうなつてもしらんぞ！」

「業界「いやガイア連合がいるので問題ないです^^」

「業界の熱い手のひら返し

395：名無しのデビルハンター

「業界くんはいつだってそうですよね！」

「私たちのこと何だって思ってるんですか！」

396：名無しのデビルハンター

「ガイア連合「バイトくん」

397：名無しのデビルハンター

くそwww

398：名無しのデビルハンター

確かにガイア連合でもなければ殆どパシリくんだけどww

399：名無しのデビルハンター

たった数人で異界つつこんで潰してくるなんておかしいんご

400：名無しのデビルハンター

常識がこわれる

401：名無しのデビルハンター

もう世界は壊れちまつてるよ

402：名無しのデビルハンター

めっさ人手も多いしな

まあ現場保存だけして数日時間稼げば来てくれてほんま助かる



403：名無しのデビルハンター

でもあいつら、こつち業界ウン十年のベテランなのに  
敬語も使えないのは失礼だと思おうわ

404：名無しのデビルハンター

失礼ですが、レベルはおいくつで？

405：名無しのデビルハンター

>>404

.....

406：名無しのデビルハンター

.....戦闘力5か、ゴミめ。

407：名無しのデビルハンター

ち、ちち地球人ちゃうわ!!

408：名無しのデビルハンター

地球人じゃなかったら悪魔だろうが！

409：名無しのデビルハンター

そういや最近めちやくちや強いダークサマナー出たらしいね  
点数稼ぎでブイブイ言わせてた組織壊滅させられたらしいわ。

410：名無しのデビルハンター

はあ？ どこで？ 地方の雑魚ども？

411：名無しのデビルハンター

都内。

東方魔術協会系列の傘下組織、幾つか事務所潰されてる。

412：名無しのデビルハンター

嘘乙

413：名無しのデビルハンター

んな強いダークサマナー残ってるかよ

一発逆転仕掛けたダークサマナー共はまとめて拠点ごと吹っ飛んだんだぞ

414：名無しのデビルハンター

修羅ってるやつはまあ生き残ってると思うが

誰だ？ 船岩とか？

415：名無しのデビルハンター

あいつならまあやりかねんが、んなことしたらガイア連合出てくんदार

間違いない死にますわ

どこの頭の悪いやつだ？

416：名無しのデビルハンター

俺も噂だけだからな

417：名無しのデビルハンター

あ、もしかして義手マン？

418：名無しのデビルハンター

誰？

419：名無しのデビルハンター

義手？

420：名無しのデビルハンター

最近名を挙げてるサマナーだわ

めっさ雰囲気あつたからガイア連合の霊能力者だと思つてたんだけど

421：名無しのデビルハンター

名前わかる？

422：名無しのデビルハンター

占術するならやめとけ。

今それっぽいのが探査したら、なんか寒気覚えた。

423：名無しのデビルハンター

なにそれこわ

やばそう

424：名無しのデビルハンター

確か、最近高難易度指定されてた異界、誰かに潰されたっていつてたな。

425：名無しのデビルハンター

シヨバ荒らしってこと？

426：名無しのデビルハンター

どっかの組織の秘蔵子じゃねえの？

ペ天使共でもなけりゃあ、そんな活躍出来ねえよ

427：名無しのデビルハンター

世の中おかしいやつもいるからな

ガイア連合とか

428：名無しのデビルハンター

いやでも、点数稼ぎ共でも潰したら上出てくるんじやね？  
身内判定されてるかどうかわからねえけど

429：名無しのデビルハンター

おいおい死んだわ

430：名無しのデビルハンター

こりない奴はいつだつて出てくるからな

431：名無しのデビルハンター

邪教の館って今どこにあるか知らない？  
見つからないんだけど、移転したのかな

432：名無しのデビルハンター

いきなりどうした

433：名無しのデビルハンター

>>431

サバト系の組織情報なら別スレですわよ

434：名無しのデビルハンター

>>431

ダークサマナーだ、殺さなきや！

435：名無しのデビルハンター

>>431

ここは健全なスレだぜ、ボウヤ

いや悪魔業界で健全なスレなんておかしいけど

436：名無しのデビルハンター

ガイア連合ってディーヴァ教とかか

437：名無しのデビルハンター

？

438：名無しのデビルハンター

ミクミクダンス？

439：名無しのデビルハンター

なんのことだよ。

440：名無しのデビルハンター

>>436

つ　ガイア連合を語るスレ

最近世間の出してきた系かな、昨今のオカルト事情にガイア連合欠かせないから  
みておいたほうがいいぜー



441：名無しのデビルハンター

情報サックス

便利だなこのホームページ

442：名無しのデビルハンター

ほーむページw

443：名無しのデビルハンター

久しぶりに聞いたわ、その言い直し

444：名無しのデビルハンター

昔はHTMLで打っておってのお

445：名無しのデビルハンター

古の話をするな！

プログラミングするより悪魔と殴り合ってるほうがわかりやすいです

445：名無しのデビルハンター

社畜もデビルハンターになる時代か

446：名無しのデビルハンター

どちらにしろ長生きできねえからな

それぐらいならまあ？

447：名無しのデビルハンター

BASICって今使われてないのか？

448：名無しのデビルハンター

古の言語はやめろサル！

449：名無しのデビルハンター

ば、ばしつく?!

わかるわかる、あれうまいもんな

450：名無しのデビルハンター

>>449

わかってない

451：名無しのデビルハンター

ちよつとー、オカルトしか知らない悪魔業界に

機械言語は難しすぎるんよー

452：名無しのデビルハンター

今パーツとか増やそうと思ったんだけど

なんかGBとか、TBとか凄い数字出ててびっくりしてる

数値だけみると千体ぐらい入りそうなんだけどどうなってるんだ

453：名無しのデビルハンター

フロツピーの時代かな？

454：名無しのデビルハンター

手提げかばんサイズのノーパソ担いできたのかな？

455：名無しのデビルハンター

千体ってなんだよ

456：名無しのデビルハンター

いやナカマの数。

457：名無しのデビルハンター

なかま？ ガチャキャラ？

458：名無しのデビルハンター

ソシヤゲかよw

459：名無しのデビルハンター

んー組み直すにしても新しい言語全然わからないな

勉強し直すけど、おすすめ言語ある？

460：名無しのデビルハンター

悪魔業界に言われても、その、困る

461：名無しのデビルハンター

社畜にお戻り

462：名無しのデビルハンター

SEになってガイア連合に就職！

そういうルートもあったか!!

463：名無しのデビルハンター

(ないです)

464：名無しのデビルハンター

(今更頭使う仕事に戻れないんご)

465：名無しのデビルハンター

プログラム？ まさかな・・・

俺の勝手な推測でみんなを混乱させたくない

466：名無しのデビルハンター

（事務は嫌だ、事務は嫌だ、事務は嫌だ）

467：名無しのデビルハンター

レベルの高い悪魔って今どこらへんで出てるか知ってる？

都内に見かけないんだけど、手持ちがちよつと心もとない

468：名無しのデビルハンター

都内近辺は暇だよ

大組織多いし、根願寺いるし

469：名無しのデビルハンター

都内だけはな・・・

470：名無しのデビルハンター

稼ぐならやっぱり地方かね

山梨は強者多すぎて仕事全然ない

471：名無しのデビルハンター

前にガイア連合おすすぬ支部紹介なスレあつたけど

あそこ載つてるようなところ、大体外様入れるところねえからな

472：名無しのデビルハンター

なお、東北青森

473：名無しのデビルハンター

まだ独身でいたいんです!!

474：名無しのデビルハンター

やめろ、きちやうだろお!

475：名無しのデビルハンター

それ以外ならまだ未攻略エリアあるということかな？  
情報サックス、行ってみる

476：名無しのデビルハンター

え？  
いくの？

477：名無しのデビルハンター

あれ、マジでむかつちやった？

478：名無しのデビルハンター

(おいおい死んだわ)

479：名無しのデビルハンター

連合支部ねえところだとまあ穴場だけどさ  
ねえからわりとマップナーなのに



480：名無しのデビルハンター

まああとでスレ見るだろ

見なかったらその時だ

481：名無しのデビルハンター

死ぬ時は死ぬからな

今は命がほんま軽い時代よ

482：名無しのデビルハンター

ところで話題戻すけど

話戻すけど、その義手マンの名前って？

483：名無しのデビルハンター

誰か知ってる？

484：名無しのデビルハンター

ああ、確か

ヒデトとかつて聞いたな

＋ ・ ・ ・

くく ちよつと先の未来 くく

★ガイア連合・人外専用雑談スレ その3X

960：名無しの悪魔

SSRの種がほしい！

961：名無しの悪魔

>>960

んほ〜!

962 : 名無しの悪魔

SSRの氏が欲しいです

963 : 名無しの悪魔

>>961

おほー

964 : 名無しの悪魔

SSRの生贄を久しぶりに踊り食いしたいです

965 : 名無しの悪魔

>>964

はい、成敗

966：名無しの悪魔

サツバツ！

967：名無しの悪魔

酒飲まされて泥酔レイプ

女装と化した戦神パイセンフラグだわ

968：名無しの悪魔

昔はあんな子じゃなかったのに

いや、わりとああいうやつだったわ

969：名無しの悪魔

やると思っていました（影薄身内感

970：名無しの悪魔

極東こえく

971：名無しの悪魔

もう少し我々を敬って欲しいよね

972：名無しの悪魔

負けるやつが悪いし

なんなら武器壊れたら殴り殺しに来るやついるし

973：名無しの悪魔

あの島国どうなってるの？ ちよくちよくバグ枠出てくるんだけど

うちなんて一時代に数人いればいいほうだったよ

974：名無しの悪魔

あー戦士戦士、ガッツのある戦士またたくさん生えてくる時代にならねえかな

975：名無しの悪魔

A M A Z ● N その頃ないけどな

976：名無しの悪魔

人の子よ、よくここまで成長しましたね  
見直しました

977：名無しの悪魔

熱い手のひら返し

978：名無しの悪魔

手のひらあるやつなの？　ちなみに俺はない

979：名無しの悪魔

八本ぐらいあるぞ

三本までなら主義を変えておりませんので

980：名無しの悪魔

欺瞞！

981：名無しの悪魔

頼むよ、AMAZ●N

SSR戦士とかポチツと配送できるようにしてくれ

982：名無しの悪魔

あとガチャもできるようにして☆

んごんご、なんで人間孕まないと子供産めないの？

顔洗うぐらいの気持ちでぽこぽこ出して欲しい。

983：名無しの稲神

どれだけAMAZ●Nに希望抱いておるのじゃ

人はそんな都合よくいかぬわ

984：名無しの悪魔

それでもガイア連合なら！ ガイア連合なら！

985：名無しの悪魔

SSR大量確定ボーナス中の極東なら！

986：名無しの悪魔

なんか犬連れただけで竜ぶつ殺す童ちゃんが出てくる極東なら！

987：名無しの悪魔

100年待つてください、本物の戦士ってやつをみせてやりますよ！  
とか言ってくれるに違いない！

988：名無しの悪魔

お前ら俗世に影響されすぎい！

989：名無しの悪魔

これが情報汚染

990：名無しの悪魔

異教の羽共は許すまじだが、新種も出てるらしいの



確かにゆるーなんとか

991：名無しの悪魔

そろそろ次スレの時期

減速しろー

992：名無しの悪魔

次スレたててくる

993：名無しの悪魔

よろ

994：名無しの悪魔

建てたぞ

h t t : . . . . .

995：名無しの悪魔

盾乙！

996：名無しの悪魔

>>1000 ならAMAZON あと500年もつ

997：名無しの悪魔

>>1000 なら信者一万人増える

998：名無しの悪魔

>>1000 なら主神返り咲き

999：名無しの悪魔

>>1000 ならUR戦士が！

1000：名無しの主神

そういえば私たちが封印される前に呼んだ戦士はきたのかしら？  
ワタシの衣を渡したはずだけど・・・

1001：名無しの悪魔  
このスレッドは1000を超えました

# ★地方状況報告スレ その24

## ★地方状況報告スレ その24

76：名無しのデビルハンター

んほー！

どうしようもなくなる!?! どうしようもなくなる!!

77：名無しのデビルハンター

知ってた

78：名無しのデビルハンター

わかるよ

79：名無しのデビルハンター

愚痴ってもねえ

80：名無しのデビルハンター

で、どこの限界地域の話？（集落にあらず）

81：名無しのデビルハンター

山陰地方です

詳しい具体名は言うのと逃げられそうなので言えないが  
ダークゾーンが多すぎてしんどい、きつい

82：名無しのデビルハンター

（あっちかあ）

83：名無しのデビルハンター

しようがないにやあ異界攻略手伝ってやんよ  
ダークゾーン？ あ、帰りますね

84：名無しのデビルハンター

てのひらくるー

85：名無しのデビルハンター  
誰だって命は惜しい

86：名無しのデビルハンター  
ダークゾーンはきつつい  
ワイだってそうおもうし、皆そう思う

87：名無しのデビルハンター  
そんな！ 皆も疑似黄泉通りで覚醒したんでしょ！  
それと同じようなもんだって！

88：名無しのデビルハンター  
してないです。

89：名無しのデビルハンター

悪魔に殺されかけたぐらいで覚醒したから。

90：名無しのデビルハンター

精神崩壊はちよつとー。

91：名無しのデビルハンター

黄泉通りつてなんよ？

精神崩壊するつて、んな修行あんの？

92：名無しのデビルハンター

あー流派が違うやつか。もしかして瞑想ルート？

93：名無しのデビルハンター

霊地で瞑想して、悪魔との対話とか、それとのふれあい覚醒するもんだろ。

94：名無しのデビルハンター

呪いの井戸から死にものぐるいではいでてきたワイ、

今では呪殺耐性あるので可愛い女の子の悪霊追いかけてまわしてる

これは復讐！ 復讐だから!!

95：名無しのデビルハンター

トラウマでEDにならないよう気をつけろよ

エイズガールとか悪魔もどきでいたからな（トラウマ

96：名無しのデビルハンター

黄泉通りつてことは八雲方面かー

完全感覚遮断で、迷路巡らされるやつ

アレ確か覚醒確率、名家でも6割切らなかつたっけ？

97：名無しのデビルハンター

なにそれーこわ

98：名無しのデビルハンター



だから子供最低3〜4人作ってから、チャレンジさせるんだよな  
半分しくじっても跡取りと戦力は残るし

99：名無しのデビルハンター  
そうです。

音もない、光もない、完全な真っ暗な洞窟をまっすぐ歩いていくんだけなんだけど  
永遠に感じるレベルの苦痛

実際には一時間ぐらいなんだけど、発狂するかと思った

100：名無しのデビルハンター  
こわ

101：名無しのデビルハンター  
そんなんでビビってたら宇宙飛行士なれねえだろ  
あれも宇宙で永遠の闇なんだし

102：名無しのデビルハンター

悪魔業界で宇宙目指してるやつなんていねえだろ  
盲目系のバステ喰らったことないんか？

103：名無しのデビルハンター

あー目が見えなくなるやつだっけ？

104：名無しのデビルハンター

それ軽度のほうな。

未覚醒者とか、レベルが高い状態になると聴覚までイカれる

105：名無しのデビルハンター

一度訓練で受けたことあるけど、あれきつついわ

霊感があつたからまだ発狂せずに済んだけど、平衡感覚まで消えるからな  
魔法とか特技なんて使ってられなくなる

106：名無しのデビルハンター

ヒエ

やっぱり前線で戦わないで、使い魔にやらせるツピ！

107：名無しのデビルハンター

そして空から悪魔が！

108：名無しのデビルハンター

銃が欲しいンゴ

109：名無しのデビルハンター

ダークゾーンってそんな状態になるんだっけ？

異界の中でも最悪だよな

110：名無しのデビルハンター

未覚醒者が巻き込まれて、大体廃人になるやつだっけ

その異界から湧き出てる悪魔は対外適応外だから普通に襲ってくるっていう。

111：名無しのデビルハンター

そんな異界はガイア連合に任せよう

112：名無しのデビルハンター

ガイア連合なら！ ガイア連合なら！

113：名無しのデビルハンター

まだ慌てる時じゃない

114：名無しのデビルハンター

うちの地方、ガイア支部ないんですけどおおおおおおおおお！

115：名無しのデビルハンター

あきらめろん

116：名無しのデビルハンター

ダークゾーンだけならお前ら八雲系統でいけるだろ

霊感そっち特化してるし、覚醒状況的に強いんじゃないかなかったつけ？

117：名無しのデビルハンター

だ、ダメージゾーンもありまして・・・（小声）

118：名無しのデビルハンター

解散

119：名無しのデビルハンター

ばかなの??

お前ダークゾーンだけでもライトマ使える異能者なんてレア過ぎていねえよw

120：名無しのデビルハンター

儀式やって、ヌエとか呼ぶぐらいか？

いやでもよほど家繋がりぐらいじゃねえと使役出来るやついねえよな

121：名無しのデビルハンター

ガス式ならまだガスマスクでいけるけどさ

どんなんだよ、いってみろ

122：名無しのデビルハンター

なんか燃えてるんですよね。異界のあちこちの地面が、はい  
多分マグマみたいな・・・

123：名無しのデビルハンター

もうだめね

124：名無しのデビルハンター

ばーかばーか！

125：名無しのデビルハンター

こうしてその地方は終わりを迎えたのだった

126：名無しのデビルハンター

マジでそれ

127：名無しのデビルハンター

助けてください!!

いやほんまもう悪魔そこから這い出てくるし、封鎖してるんだけど

避難指示出しててるのにガン無視してるじいさんばあさんがうるさいんだよ!

真実言えないし、言っても信じねえし、役所から毎日クレームがががが

高い金出して雇ったサマナーも撤退してきて、引き上げちまったし、どうすんだよこれ

128：名無しのデビルハンター

ガイア連合いつくんの?

あいつらぐらいじゃないと無理だろ

129：名無しのデビルハンター

半月ぐらいまってって(白目)

130：名無しのデビルハンター

しゅうりょー！

131：名無しのデビルハンター

いやあああああああ！

132：名無しのデビルハンター

いやほんと無理だろ

ダークゾーンだけでも普通のデビルハンターなら難所扱いだぞ

それにダメーヅって……

133：名無しのデビルハンター

確かどつかの異界だと希少な自己回復もちの異能者が、ゴリ押しでクリアしたんだっけ？

134：名無しのデビルハンター

あいつなら戦国装備して頑張って地方異界クリアしてたけど、

たまたま○事故って○遭遇した天使に、破魔されて死んだよ



ところでその異界、無断で侵入制圧しにきたのはどちらでしたっけ？

135：名無しのデビルハンター  
ほんまくそ

136：名無しのデビルハンター  
メシアンはさあ

137：名無しのデビルハンター  
破魔通じるから悪魔でしたね（笑）  
とかいってた奴いたから、そこの教会爆破されたんだっけ

138：名無しのデビルハンター  
いやあヤクザの争いは怖いっすねー（棒）

139：名無しのデビルハンター  
中華マフィアの仕業だから！

修羅の国はいつつも争いしてるからなー

140：名無しのデビルハンター

今の霊脈暴走もどうせあいつらのせいだろ

何が穏健派だよ、優しい刑事だろあれ

141：名無しのデビルハンター

そろそろ封鎖も限界だし、出てくる悪魔叩いても強くなれる気がしねえ

残った物資かき集めて、ワンチャン突っ込むしかねえかな

都会まで出張していったジュネスで家財処理して手に入れた金で、回復アイテム揃えただんだけど足りる気がしない

ダメージゾーン防げるアイテムとかありますかとかいわれたけど、「研究中ですので部外者には」

とかいわれた（絶望）

142：名無しのデビルハンター

現ナマ？

あいつらマツカじゃねえと買い叩くぞ

143：名無しのデビルハンター

知ってるけど、マツカなんて現金で交換出来るところないだろ  
ガイア連合の知り合いなんていないんです

144：名無しのデビルハンター

実質専用通貨だからなあ

紹介状あれば適正レートで交換してくれるらしいけど

145：名無しのデビルハンター

ないと塩だわ

マツカなんて使いみちないでしょ（笑）されるけど、使うんですけど！  
貢物とか、悪魔から情報仕入れるのに割と使うんですけど！

146：名無しのデビルハンター

悪魔の声聞こえる異能者も最近増えてきたからな

それ護衛しつつ、情報集めて、攻略ライン考えないと地方やってられねえわ

147：名無しのデビルハンター

キョウジ呼べないかな

あの人いればなんとか抑え込めそうなんだけど

148：名無しのデビルハンター

あいつ強いというか腕がいいからなあ

でも呪殺通じないと前線で戦ってくれないというか、させられないわ

最低アドバイスくれるだけでもありがたい

149：名無しのデビルハンター

でも根願寺のひもつきだしなあ

150：名無しのデビルハンター

最近はフットワーク軽いらしいから、一応連絡してみる？

誰かホットラインもってるやついれば協力してやれよ

151：名無しのデビルハンター

いやだめ。

最近都会で顔合わせたんだけど、事務処理で死にかけてるっていつてた

152：名無しのデビルハンター

はあああああああああ！

なんでえ!!?

153：名無しのデビルハンター

ガイア除いたら最強異能者なのに、どうして！

154：名無しのデビルハンター

また 根 願 寺 か ！

155：名無しのデビルハンター

メシアン「救援が必要ですか？」

156：名無しのデビルハンター  
かえれ！

157：名無しのデビルハンター  
てめえらにだけは絶対頼らねえ！

158：名無しのデビルハンター  
うちの家系、忍者の分家の分家だから生き残ったけど  
あいつらヤクザと組んで、第二次世界大戦のあれこれで忍者根絶やしに  
したの絶対ゆるしてねえからな

159：名無しのデビルハンター  
銃器横流しだっけ？

160：名無しのデビルハンター  
ほんまくっそ

甲賀と伊賀の秘術どんでんだけ失われたか  
鍛錬法もかなり損失したから、爆炎の術とか習得がわからん  
火を吹くつてどうやったんだ?? 油??

161:名無しのデビルハンター  
忍者つて魔獣かなんか? ファイアブレスやんけ

162:名無しのデビルハンター  
わからん、口伝ではあるらしい  
それほんとお?

163:名無しのデビルハンター  
悪魔倒してレベル上げるしかないだろ  
レベル限界にぶつからなければ

164:名無しのデビルハンター  
簡易測定器でレベル3、雑魚め

とか言われた時、心折れそうになりました

165：名無しのデビルハンター

自分の限界を数字で言われるのはきついわ

166：名無しのデビルハンター

腕を切り落として、ガイア連合のシキガミ腕に置換するんだよ！

……俺もやるかなあ

167：名無しのデビルハンター

力がほしいかといわれたら、欲しいとしかいえんわな

うちの地方も、いい加減処理が追いつかなくて愚痴もでない

ガイア連合の支部誘致してるんだけど、後回しにされてんだろうこれ

168：名無しのデビルハンター

切り捨てはあるよ、される側だと納得できねえけどな

地元が地元だから捨てられないけど、自由な連中は都会に逃げてるからな



169 : 名無しのデビルハンター

賢い

170 : 名無しのデビルハンター

賢い奴らは悪魔業界なんてやってねえけどな

171 : 名無しのデビルハンター

わかる

172 : 名無しのデビルハンター

わかるよ

173 : 名無しのデビルハンター

山陰地方のどこだ？

174 : 名無しのデビルハンター

もしかして、受付けで揉めてた人だろうか

175：名無しのデビルハンター

え。

もしかしてあそこにいた人？

176：名無しのデビルハンター

ダークゾーンはまだ慣らしてる最中だが、ダメージゾーンならなんとかなる

あそこのジュネスに言伝手配しておくから、場所と出てくる悪魔の種類、

あと現地でもいいから分かる範囲のマップを教えてください

攻略にいく

177：名無しのデビルハンター

マジで!!?

すぐに用意します、いますぐ電話しても？

178：名無しのデビルハンター

すまない、今ホテルから書き込んで

受付に行つて事情を説明してみる。

行列からして一時間後でいいか？　そういうのが出来るかわからないし

179：名無しのデビルハンター

わかりました

ありがとうございます！

無理そうなら使い出します！　タクシー代なら請求してくればいいんで！！

180：名無しのデビルハンター

気にするな

それぐらいなら必要経費だし、現地の情報まとめを頼む

181：名無しのデビルハンター

はい！

一人でもきてくれたら本当に助かるんで！！

ありがとうございます！！

182：名無しのデビルハンター  
はえー

183：名無しのデビルハンター  
いい話だな

184：名無しのデビルハンター  
おれたち応援しか出来んが、上手くいくといいな

185：名無しのデビルハンター  
人間助け合いだよ

186：名無しのデビルハンター  
悪魔業界いると心荒むからこういう流れみるとほっこりする

187：名無しのデビルハンター

わかるよ

188：名無しのデビルハンター

なんだったら最寄りの教会にヘルプ出してくれてもいいんですよ？  
天使様なら浄化してくれますからね!!

189：名無しのデビルハンター

帰れ

190：名無しのデビルハンター

日本語読めない洗脳者についても無駄だ

191：名無しのデビルハンター

スルーしろ

192：名無しのデビルハンター

お前らみたいなのいるから、現地の名前出せなくなっただよ

193：名無しのデビルハンター

にほんはすくわないといけないんですよ！

194：名無しのデビルハンター

人は悪魔に祈らねえんだよ

.....

★ガイア連合地方派遣社員スレ その16

24：名無しの転生者

地方仕事めんどくさいんご

25：名無しの転生者

わかるよ

26：名無しの転生者

A M A Z O N なかったら電車乗って買い出しかねえといけないからな

27：名無しの転生者

車必須必須

28：名無しの転生者

お前も覚醒者なら走っていけ

29：名無しの転生者

お前幾らフルマラソン可能な体力出来たから

走るのがしんどくないわけじゃないんだぞ??

普通に宅配便にするわ

30：名無しの転生者

雑魚のくせに泣きついてくるのほんましんどい

31：名無しの転生者

お、現地民？

32：名無しの転生者

非覚醒者差別はやめてもらおうか！（まだ修行中

33：名無しの転生者

お前もちよつとシヨタおじの拷問を受けないか？

34：名無しの転生者

お前も覚醒者にならないか？

35：名無しの転生者

んほー！ 雌になっちゃおう！

36：名無しの転生者

前世覚醒したらTSしてたならいいけど、前世が女で



今世が男だった場合の醜さよ

37：名無しの転生者

逆ならありありなんだけどねー（子持ちで記憶覚醒した）

うちの旦那が、前世より逞しい男らしさでキyunキyunして

雌落ちしててよかったと思つたよ

38：名無しの転生者

もうちよつと地方に支部増やして欲しい

現地の連中が毎度泣きついてくるんだけど、シャットアウトして

39：名無しの転生者

これ以上現金出されても、マツカ出せよマツカ

ない？ なら断つてもしょうがないよね

40：名無しの転生者

良くないです

41：名無しの転生者

ちやんと仕事しろよ

42：名無しの転生者

いやでもマツカ持っていないってレート違反じゃないの？  
いつもニコニコ現金払いしてるけど。

43：名無しの転生者

>>42

マツカで払え馬鹿！

44：名無しの転生者

マツカでの収支と支出が毎度デットヒートしてるよ  
なんでお金稼いでるのにそだけ赤字なんだろうねえ  
もつと製造しろやおらああん！

45：名無しの転生者

ルキフグス「ゆるして」

46：名無しの転生者

あいつソルハカだと隠しボスだから体面したくないが  
過労死してそうだなって

47：名無しの転生者

最悪なのが、きちんとレート通りに対応してたのに

「きずぐすり三個なんかじゃあ間に合わないんです！ 現金しかないんです！

なにかダメージゾーン攻略とか出来るアイテムか、異能者紹介してください！」

とか紹介状もなしで喚いてたのよ。

弱いのが悪いのにね

48：名無しの転生者

草

49：名無しの転生者

塩過ぎて、その態度にドン引きするわ

50：名無しの転生者

人の心ないんか？

51：名無しの転生者

一応番号控えて、対応リストに上げておいてやって。

ダメゾンとかリストにあったら回せる奴のリストアップいけるから

52：名無しの転生者

事務の仕事じゃないんだけど

53：名無しの転生者

お前事務でいつてんのかよ

給料のうちだろ

54：名無しの転生者

アライメントまでガイアになってたらあかんだろ

55：名無しの転生者

事務業務のうちだろ

テンプレでちやちやつといれて上げるだけだから大した手間やないだろ  
もう夜遅いが、まだ仕事してたら上げろよ

56：名無しの転生者

定時で上がるから明日やるわ

57：名無しの転生者

草

58：名無しの転生者

お前もブラック業務しろ!!

山梨のほうはてんでこ舞いだぞ！  
ドーピングしながらやつても

HP削れていくのがわかるんだぞおお！

59：名無しの転生者

地方は素晴らしいな

60：名無しの転生者

まったくだ

61：名無しの転生者

ま、温泉ありますけどね！

社員食堂でHPもSPももりもり回復するぜ！

62：名無しの転生者

治っては倒れる起き上がりこぼし（ボソツ

63：名無しの転生者

絶対健康に悪い

64 : 名無しの転生者

は?? 追加残業ふざけんな

65 : 名無しの転生者

どした

66 : 名無しの転生者

クレームの続きだわ

なんか喚いてた奴の、連絡先聞いてないかって。

一応メモとってたけど、職場だから戻らないと、めんどくせえ

67 : 名無しの転生者

あるある

68 : 名無しの転生者

引き継ぎしてないのが悪い

69：名無しの転生者

うわ、またあいつかよ

職場戻りたくないわ

なにあいつ、義手とかせめてシキガミ製付けなさいよ。

ロボとか、SFじゃないんだからさあ

70：名無しの転生者

腕とか千切れたら、すぐ治らんから。

71：名無しの転生者

ロボはロマンだけど、肉体は生物に限るわね

膝の軟骨も入れ替えたらすすきりだぜ

72：名無しの転生者

おじいちゃんおつ

同じ転生者なんだから仲良くしないとあかんよ



73：名無しの転生者

いや、あれ現地人だし

転生者じゃねえのに、無理なんかするから雑魚のくせに腕もげんだよな  
あれ一々質問多いわ、話長いわ、相手したくねー  
マツカで払ってくれるから断りづらいし

74：名無しの転生者

ほーん、気合の入った現地人だな

75：名無しの転生者

メシアンじゃねえだろうな

あいつらサイボーグわりと導入してくるし、腕ぐらい置換してんだろ

76：名無しの転生者

メガテンこええよ

前世のクリスチャンと違いすぎて涙目

77：名無しの転生者

レベル上がらないなら体改造するわも最近多いからなあ  
ところでそいつ腕どつち？

78：名無しの転生者

腕？

79：名無しの転生者

義手になつてるほう

80：名無しの転生者

右だけど、なんかあるの？

81：名無しの転生者

右手ならいいや

あれじゃねえだろうし

82：名無しの転生者

アレ？ どれ？

83：名無しの転生者

それ

84：名無しの転生者

むつかしのメガテンキャラで、確か左腕が義手になってるやつがいてね  
それだったら全力で土下座しないとあかんからセーフ

85：名無しの転生者

はえー、そんなのいたんか  
全然覚えねえけど

86：名無しの転生者

俺もむつかしの前世の記憶だからうる覚えだけど

左手が義手つたらやべえってのだけおぼえてた

87：名無しの転生者

どういうやつなの？

88：名無しの転生者

メガテン最強キャラだったはず

89：名無しの転生者

はえー

． ． ． ． ．

560：名無しの転生者

>>73 なんだけど、誰かこっちきた？

なんかやばい異界が潰れて、メシアンのテンプルナイトが殺されたって苦情きてんだ  
けど

561：名無しの転生者

ナンデ??

いまからあなたはデビルバスターです

山陰地方、島根県に存在する大山に連なる山峰の麓。

その地方の一角で、青年は頭を下げられていた。

「本当に、本当にありがとうございまして！」

「気にしないでいいよ。コレも仕事みたいなもんだからね」

懸命に頭を下げる少女——十代半ばのどこか子犬っぽさを思わせる少女。

それが青年——ヒデトの今回の協力者だった。

「とはいえ、結構悪魔の種類も多くて手持ちも増えたけど、ここらへんはどこもこんななのか？」

「はい。この辺りは出雲の国ですから」

ヒデトにそう応える少女はこの地方に生まれた異能者の末裔の一人だった。

島根県東部。

山陰道から連なるこの地方は古代において出雲の国と呼ばれていた。

やつかみずおみつぬのみこと  
八束水臣津野命曰く。

——八雲立つ出雲の国は、狭い布のような国であることよ。最初に国を小さく作ってしまった。それ故、作って縫いつけよう——

と告げて、自らを解き束ねて三身化身の綱を用いて、四つの地方より土地をかき集めて八雲の国は始まりよりも繕い膨れ上がった。

国引き神話に語られるまさしく神造の土地である。

故に四種の産土が入り混じり、古来よりも混在した靈力が宿り、近代における外来の知識に第二次世界大戦後より混入された一神教の信仰から怪奇な悪魔が出没する土壌を得てしまった。

それ故にここで発生する異界は最低でも5種類の悪魔、最悪十種類を超える悪魔が一つの異界に出現し、綿密な調査と対策装備を固めて挑むデビルハンターたちの過酷な壁となっていた。

人は悪魔よりもずっと弱いのだから。

少女も残り少ない——逃げた、あるいは死んだ地元の異能者たちの中でも数少ない生き残りであり、僅かな物資を苦心して、封鎖し続ける異界からこぼれ出る悪魔と戦い続けていた。

日々目減りしていくリソース。

日に日に力を増していく悪魔の気配。

知覚する力がないゆえに昨日と今日も変わらないと思ひ込んでゐる常人たちの不  
解。

悪魔を倒し、残されて得たドロップアイテムも自分たちの手に負えないものばかり。

地方零細なりに文献を調べ呪い師の知恵を持ち寄つても、必要とされる器具や施設、それらを伝えてきたとされる一族はメシア教の一派によつて根絶やしにされ、施設は悪魔信仰という名目で焚書され、あるいは根願寺に禁忌指定されて没収されていた。

残つたのは本当に力も知恵も血も残つてない出洫らしばかり。

せめてなにかの足しになればとガイア連合派出所に持ち込んでも思つた以上の金額にもならず、支出よりも上回ることはない。

コネクションさえあればもう少し便宜を図つて貰えるところに聞かぬも、厄介ばかりで実りがない地方に彼らはこない。

来てくれてもずっと先、本当にくるかもわからない。

せめて一昔前のようにダークサマナーでも来てくれれば、この貧弱な体でも貢いで便宜を図つてもらふという手もあった。

いや、事実そういう手管もよくあることだったのだという。

正道でなせぬならば左道をもつてズルをするしかない。

ダークサマナーと呼ばれる非道的手段、非正規を用いたずる賢い外法師たちはその多



くが意外なことに、我々とあまり変わらない血筋だ。

才能がない、家がない、一般人からたまたま覚醒した、あるいは才能の兆しを見つけられ、引きずり込まれた。

才能限界

ガイア連合が現れ、レベル測定と呼ばれる言葉と共に誕生した観念によつて打ちのめされた者たちは多い。

いや目をそらしていたものを突きつけられたというべきか。

力の限界、才能の限界は以前から存在していた。

だがそれを乗り越える、あるいは誤魔化すのに何を使うか。

修行では出来ないならば、悪魔と契約する。

年齢を誤魔化すために、病気を克服するために吸血鬼になる、その血清を打つ。

天使と契約し、洗礼を受けて生まれ変わる。

悪魔と交配し、その血と肉を混じらせて、人としての器を捨てる。

よくある話だ。おぞましいことに、悲しいことによくある話なのだ。

努力を用いても夢が叶うとは限らない。

努力を用いても伸ばせるのは才能の壁まで。

測定器を用いて観測された自分の限界に、少女も早々に壁を知った。

祖先はイヌガミと化した悪魔と交配し少女の一族に力と悪魔の血を与えたという。

南総里見八犬伝における伏姫伝承に基づき、第二次世界大戦後に根絶やしにされた本家から逃れた末裔は報復のために自分の飼っていた霊犬に血を飲ませ、自らを畜生腹にしてまで子を生み落とし、死ぬまでに十人の子を産み落として、魔の力を得た一族を繋げたという。

そのために少女はここでは強いほうだ。

レベルもまだ二十にも満たない身で5まで上がった。

いずれは大成すると、獣混じりの血筋を誉れと屈託もなく褒めてくれた恩師も、可愛がってくれた爺たちも、いない。

全員死んだ。

そして、いつか自分も死ぬ。

死んで記録になり、そのニュースなどをもって不理解な一般人たちが避難してられるだけの日数を稼げるかな。

ガイア連合の派出所から非紹介者に許された回復薬きずぐすりを三個、弱点の火炎相性を出来る限り対策して、異界に突撃するしかない。

それしか故郷の命を延命させる方法がなかった。

掲示板で愚痴を出したのは正直遺書みたいな気持ちだった。

それを救ってくれたのがヒデトだった。

(本当に奇跡みたい)

心の底から感謝を捧げて、少女は思い返す。

その奇跡みたいな出会いのことを。

・ ・ ・

たまたまガイア連合の派出所で少女を目撃し、掲示板での会話から連絡をとってくれた彼は少女から話を聞き、異界の攻略を乗り出してくれた。

右腕が見たこともない機械式の義手で、管も使わずに悪魔を使役する悪魔召喚師<sup>デビルサマナー</sup>。

腰にプラズマソード——ヤクザから巻き上げたとか言ってたが信じられない(女神異聞録ペルソナにおいてヤクザが所持してる)——ガンホルダーに日本だと所持が許されてないはずの大型マグナム<sup>デザートイーグル</sup>——これも巻き上げたとかいってたけど、東京のヤクザって一体……(ガイヤーズなんてヤクザの一種だと勘違いしてる)

さらに今は外してるけど、全身を覆うように纏っていたマント——賭博場で当てたとかってどういうことなの？（旧約Ⅱにおいてマント類は全てコードブレイカー景品）マスコ——米軍の流出品らしいガスマスクに、あと今も付けている小手と具足とあとアーマー。

ついでに首から六芒星の飾りのついた確かヒランヤっていうアクセを下げている。

物凄い重装備だった。

現場につくなり、キュインソンと音を立てて稼働する右腕の義手とフル装備も相まつて。

「え、SFかなにかです？」

といつちやった少女はしようがないと思う。

けれど、そんな彼のおかげで異界は崩壊した。

案内役であり、補助係——体質的に火炎が弱点だけど、呪殺が通じない特質持ちの少女と共に攻略したのだ。

悪魔を恐ろしい強さで蹴散らし、時には交渉……信じられないことに、腕の義手を操作しながら、悪魔と会話してみせたのだ！

魔石などで取引を行い、時には目の前で仲魔にしてみせて、腕の義手に格納していき、時には魔法も使わずに、コンピュータ操作で悪魔を退去！  
する信じられない光景ば

かりだった。

「COMPにはそういう戦い方もあるんだ（偽典女神転生においてはコンピュータ戦闘技能がある）、エレメント操作ぐらいならプログラムで出来るけど、俺は魔法が使えないからな」

という彼は見たこともない装備もあつて、おそらくガイア連合の戦士なんだろう。彼らはみんな様々な戦い方をすると聞いている。

そういつて異界の中を進んでいき、マグマの煮えたぎるダメージゾーンに関しては、取り出した白く輝く光のような衣を今までつけていたマント代わりに纏うとびっくりするほど熱を感じず、むしろ涼しいぐらいに抑えてしまった。

おかげで拍子抜けするぐらいにあっさり奥に進めてしまった。

「さすが——の衣だな、——界よりはこころへんは大した勢いでもなかったけど」  
「？」

なんか気になることを言っていた気がするけど、周囲に恐る恐る警戒をしていた少女の耳には入らなかつた。

そうやってダークゾーンも慎重に突破、夜目と闇の中の感知に長ける少女が手を握り、誘導する形で乗り越えた。

「帰り道にはオートパイロットで戻れそうだ」

「オートパイロット?」

「COMPの機能の一つだ。セットした箇所に自動的に誘導、その位置まで進める。三次元的な登録だから迷わない（旧約女神転生IIIのみで採用されたシステム、その最中には悪魔とも遭遇しない）」

というテクノロジーがあるから、帰り道はいらないらしい。

一度さえ乗り越えれば帰りは怖くないと、いたれりつくせりで本当にガイア連合って凄いい。

そんなこんなで異界の一番奥、最奥にいた悪魔へと辿りついた。

其は土くれであった。

其は人が意思を見出したもの。

其は山であった。

其は人が恐れを抱いたもの。

其は権威であった。

其は人が崇め見上げたもの。

すなわち大いなる山の神である。

種族 国津神    オオヤマツミ    L V 2 7    属性    L I G H T | C H A O S

相性耐性    破魔に強い    呪殺に強い

《うおづおおおおおおおおおおお!!》

「く、国津神!?    神が、こんなところに?!」

本来なれば伏して、目を合わせることも許されない強大なる神。

ここまでの道中で飛躍的に力が増して、L V 1 0 まで跳ね上がった少女を持ってしても桁違いの強さ。

「ひ、あ、あ……」

狂い、山そのものが人の形を模したと思える巨像の神に、足が震えて、ソウルが震え

て縮む。

神とは祀るものであっても立ち向かえるものではない。

人が山へと抱く畏敬そのもの。

異能者として悪魔と戦っていた少女にして、それはペタンと腰を落としかけて。

「破魔・呪殺耐性、全体的に弱点はない……氷結、電撃、衝撃に確か抵抗があるタイプだったな」

ガツンと冷たい腕がそれを支えて、後ろへと優しく下げた。

「え」

だがヒデトは——青年は目を細め、マスクを付け直し、ブヴォンとプラズマソードのスイッチを入れた。

歩みに恐怖はなく。

歩みに侮りはなく。

自然体で仲魔を呼び出して、狂いのたうつ狂い神へと刃を向ける。

《ゆずぎぶ！ ゆずぎぶ！ おのれおのれおのれおのれ、ぼうおわれるがいい！！ 羽つ

きどもよおおお!!》

「理由は知らんが、お前が暴れていることで苦しんでる人がいるんだ」

慣れた仕草で、それよりも遥かに強大な山の神を滅ぼした青年は告げた。



「倒させてもらおう」

・ ・ ・

そして、ヒデトとその仲魔たちは神を倒してしまった。

悪魔と一緒に剣を叩きつけて、神様相手に生身で戦つてだ。

そうして大きく広がっていた異界は暴走が静まって、この分ならあと数日と立たずに消えてしまふだろう。

救われたんだ。

「ふふっ」

思い出し笑い。

「？」

「いえ、人間って捨てたものじゃないんだな」

人間が剣を銃を手に、悪魔と一緒に神様を懲らしめてしまう。

本来なら不敬にも程があるのに、たまらないぐらいに愉快だった。

その顛末も含めて、クスクスと少女が笑った。

子供のような笑顔だった。

お腹を抱えて笑って、悪魔の気配もしない野原に転がって高校生にも成れなかった少

女はお天道様を見上げながら笑っていた。

「まったく子供みたいだな」

「子供でーす！」

「それもそうか」

無邪気に笑う少女に、大人になってしまった青年は穏やかに微笑んだ。

「あれ？」

「どうした」

「いえ、なにか空に大きな鳥が——」

太陽に向かって指差す。

その太陽を背に、何かが天を舞っていた。

神々しく、神聖に、輝く雷をほとぼしらせて。

破魔の雷光 スキル 敵前列に破魔相性中ダメージ＋即死

浄化の雷撃が大地を焦がし尽くした。  
自然なる命を浄化しながら。

天使は正しく悪魔を滅ぼす微笑みを浮かべた。

じ、やあくなあくまたちをたおしてください

一人の男——少年が笑っている。

彼はこの島国で活動する敬虔なテンプルナイトだった。

日々誤った信仰に蒙昧な人々に正しき信仰を布教し、啓蒙する日々。

盲目の羊たちは闇の中に慣れきってしまい、光の元に目を見開くことを恐れてしまっている。

だから我々はその目を開かせ、闇の中から引き上げなければなりません。

多少の傷みはそれ乗り越えるための試練なのです。

大丈夫。

主は決して乗り越えることの出来ない試練を与えることはないのですから。

ああ。

故に私の行いに迷いはないのです。

痛み、苦しみ、未知に否定する蒙昧なる羊たちよ、恐れることはない。

その閉じた目を開き、正しき信仰の光を見さえすれば、その心身は救われるのです。

だから、私は邪を払い、悪魔を退けましょう。

一人でも多くの目を開かせるために。

「聖なるかな、聖なるかな！ ああ、ああ、素晴らしき浄化よ、また一度この地にてご覧あれ！」

そして、今、一つ聖務を実行した。

聖句を歌い上げて、白いコート、内側に十字の紋様の施された外套を纏った少年は愉しげに笑った。

かつて我々が封じた忌まわしき異界に、呪われた者たちが出入りしている。

その情報を聞きつけて、彼と彼の守護天使は急行した。

そして、今まさに天罰は下されたのだ。

「天使様、あれが悪魔だったのですね？」

《そうですね、我が戦士よ。あの忌まわしき気配、汚らわしい悪魔に違いありません》

なるほど、やはり間違いがないようだ。

（道理で教会へ助けを求めないわけだ）

未知を恐れ、正しき信仰を遠巻きにする者たちは悲しいほどに多い。

だがそれでも、自分たちの身が危なければ勇気を振り絞り、助けを求めてくれるはず。

しかしその最後の最後まで助けを求めなかったのは何故か。

勇気がない？ 違う、邪悪だったからだ。

光のもとへ手を伸ばせば、自らが焼き滅ぼされてしまうことを邪悪たちは知っている。

(とはいえ)

どうやら側にいた人間も巻き込んでしまったようだが、まあ問題もない。

天使の使う力は破魔。

文字通り悪魔を払い、清きものたちを決して傷つけることのない慈悲深き光。

それで死ねば悪魔、そうでなければ人である。

単純明快にして、間違いのない結論。

しかし、土煙の晴れた先の光景に、少年と天使は眉を潜めた。

「……愚かな」

その無知蒙昧さに、思わず声が漏れた。

痛みはない。

ただパチパチとレンジの音みたいな音がして、ギョツと閉じていた目を開いた。

「え」

ヒデトが、少女に覆い被さるように佇んでいた。

機械式の右手を空に掲げて、片手で彼女を抱えていた。

カバー スキル 味方一人に対する攻撃ダメージと追加効果を自分に移し変える  
(TRPG版スキル)

「ヒデト、さん……？ あれ、私生きて——」

「破魔は人間には無効だ（ただし全裸は除く）。だからといって使っていいわけじゃないけどな」

キュウンと手首を捻り、腕サイバネティック・アームの機能を起動させながらヒデトが少女を降ろす。

その視線の先は少女ではなく、反対側。

晴れた空に一点、白く滲むように浮かぶ翼を生やした異形とそれを従える白い人間。

心臓が縮みあがった。

「め、メシアン!？」

「めしあん?」

「唯一神教メシア派です! まさかなんで……?!」

見上げて見えたのは間違いない、天使だ。

それも震えが走るほどに強い。

—ANALYZE—

種族 天使 パワー(妖魔シワンナ転写) LV32 属性 NEUTRAL—

LAW

相性耐性

???????

種族 メシアン スキャナーズ LV32 属性 NEUTRAL—LAW



相性耐性 衝撃に強い、呪殺に弱い

「レベル32か」

「えっ」

ヒデトの漏らした言葉に、少女が耳を疑った。

(さんじゆう、につて……オオヤマツミ様より上?! そんな、嘘)

「何の用だ。悪魔使いだからといって、問答無用でデュエルするのは礼儀知らずだろう」  
マントを羽織り、悠々とヘルムを付けながらヒデトがそういった。

その言葉に白いコートの人間——テンプルナイトが奇妙なほどに平坦な声を上げた。

「すみませんが、そこをどいてもらえますか？ 悪魔を討伐したいので」

「悪魔などいない。ここに居るのは人間だけだ。いや、その天使も含めるならいるが、お前の仲魔だろう」

「天使は悪魔ではない!!! 一緒にするナ！」

金切り声を挙げて、テンプルナイトを聖書——いや、聖書型のPC? を振り上げる。

《落ち着きなさい、我が戦士よ》

それをたしなめたのは横の天使だった。

哀れな顔に浮かぶような表情で、されども口元には確かな嘲りを浮かべて天使は告げた。

《人は無知ナルもの、正しき信仰を知らない悲しみを祓うのが我らの使命デス》  
「祓うとはどうやって?」

ヒデトは淡々と訪ねた。

そばにいる少女から見れば息が詰まり、立っていることすらも奇跡のような上位存在に對して。

(凄い、ガイア連合の人ってこんな凄いのか?)

ヒデトを見る少女は自然と息が楽になるのを感じていた。

頼れるもの、立ち向かえる大人、英雄への忠誠。

それが安定を齎している。

例えそれがかつてこの国を蹂躪し尽くし、あらゆる嘆きと絶望を敷くことになった創造神の玩具と相對することであっても。

《無論。浄化です》

「穢れた悪魔の血を消し尽くし、この国の拭い残った汚れを消すのです」

天使とテンプルナイトは指摘するように指を指した。

ブスブスと煙を上げて、わずかに掠めた少女の足先を。

破魔の光にて消えかけた肉体を、おぞましいものだという目つきで見る。

「見なさい、その少女を。かのものは貴方が庇わなければ浄化の光にて消え去ってしまいました」

《その少女は人の姿をした悪魔です。消し去らなければなりません、悪魔と触れ合ってはけません》

「今からでも遅くありません、早くその悪魔を捨てるのです」

《貴方には高潔な魂を感じます。この忌まわしき異界を滅ぼした戦士ともあれば、神の国に相応しい聖戦士となるでしょう》

「どうですか？ 私メシア教徒として相応の地位についています。その歳でレベル2 9ともあれば相応しい待遇として迎え入れられます」

(勧誘？ ヒデトさん?!)

あれほどの激情をしていたのに、平然とした顔で勧誘を行うテンプルナイトの振る舞いに、少女は信じられなかった。

そして、嘲る顔から、ニコリと慈愛を思わせる微笑みへと切り替わり、ヒデトへと手を差し伸べる天使。

気色が悪かった。

理解が出来ない立ち振舞い。

それが悪魔の行動原則。

もはや失われた悪魔との交渉、対話、恫喝などの悪魔会話<sup>トク</sup>

これを理解できるものは今のこの国では多くなく。

「なるほど」

ヒゲトは。

「断る」

それを理解している者だった。

少女を庇うように義手を掲げて、プラズマソードの柄を抜く。

電子音が鳴り響き、悪魔召喚プログラムが待機状態から起動し始める。

《……愚かな。すでに悪魔に誑かされていましたか》

「女の体を真似た肉にて浅ましくも取り入ったのだろう。嘆かわしい、せめて脳だけで

も救出出来ればよいのですが」

あつさり<sup>アツサリ</sup>と表情を切り替え、テンプルナイトも天使も戦闘態勢へ。

聖書型COMPを稼働させ、嘆くような言葉を囁きながら高速詠唱による魔法を発動

「ガブリエルとミカエルは来てないのか？ 俺と交渉するつもりなら連れてくるべきだろう」

「——は？」

「え？」

《《??》》

その言葉に少女も、テンプルナイトも、天使すらも硬直し。

「俺も第二位・智天使以下とはほとんど出会ったこともないんだが、なるほどな」

次の言葉に動揺し。

「第五位・能天使ならこんな感じか」

《《貴様、なにを戯言を。智天使が、大天使が貴様如きを知るわけがないだろう！》》

「俺を殺しに、Y・H・V・Hから命じられたわけじゃないのか」

「？」

ヒデトが告げた単語を、少女は認識出来なかった。

何と言ったのかすらもわからない。

だから小首を傾げて。

感情の全てが抜け落ちた天使とテンプルナイトを見た。

!!!《ああAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA!!!》

?!?!?!「この冒読者がああああああああああああ!!!」

!!!顔色の一切が抜け落ちた二体が発狂したかのように、否、発狂同然に咆哮を上げた。

光が溢れる。

狂乱した天使とテンプルナイトが襲いかかってくる。

それに。

「コール」

—SUMMON—

種族 地霊 アトラス L V 2 5 (50) 旧約Ⅱ (真・女神転生) 属性 N E U T

R A L | L A W

相性耐性 火炎・氷結・電撃・破魔に強い 魔力にやや弱い  
《世界を支える我がここに、今再び立ち上がろうぞ》

種族 妖精 ルサルルカ魔神転生Ⅱ仕様 L V 2 4 属性 N E U T R A L | N  
E U T R A L

相性耐性 爆発に弱い 火炎・電撃・凍結・衝撃・破魔に強い 呪殺無効  
《愛にて溺らせ、恋にて輝かせるわけでもなし。貴方たちのそれは美しくないのです  
》

種族 幻魔 クーフーリン L V 2 5 ( 4 0 ) 旧約Ⅱ ( 真・女神転生 ) 属性 N E

## U T R A L | N E U T R A L

相性耐性 衝撃に強い 破魔無効 弱点なし

《我が槍を覚えているか！ 葛葉ライドウの名を思い出させてやろうぞ！》

ただの一息で、仲魔を四体。

どれもが最初少女が見て驚愕するほどの力を、そしてその最後に。

種族 国津神 オオヤマツミ真・女神転生 i f L V 2 3 属性 L I G H T |  
C H A O S

相性耐性 破魔・呪殺反射

《唯一神の手先め！ 今再びこの国を荒らさんとなれば討ち滅ぼすのみ！》

「オオヤマツミ様！」



今先程打ち崩し、荒御魂から和御魂へと荒ぶりを鎮め——ヒデトの仲魔となつた国津神が降臨した。

天地を支える巨人、洗礼を受けられずに死した少女の変じた水の精霊、夜の国にて修練を受けて伝説を残した光の御子。

今はまだ存在しないはずの——ある観測者が解析、配布した悪魔召喚プログラムのオリジナル。

それが邪神の策謀によつて産み出された天使召喚プログラムと相対した。

戦いは一息を持つて情勢を決めた。

風を突き破らん速度で神の戦士と天使が踏み込む、常人には反応すらも出来ないだろう超<sup>し</sup>越<sup>v</sup>の<sup>3</sup>領<sup>0</sup>域<sup>超</sup>。

《テトラジャ！》

テトラジャ 補助（天啓）魔法 味方全体を破魔&呪殺属性の攻撃から守る

オオヤマツミが呪殺・破魔を無効にする結果を展開する。

《蹴散らす!!》

《かつきれろお、デスバウンド!》

暴れまわり 物理スキル 敵グループに突撃属性の物理ダメージを与える

デスバウンド 物理スキル 敵1〜2体に剣相性大ダメージ

見上げんばかりの巨人が大地を粉碎する凄まじさを持って、天使とテンプルナイトの居た場所を踏み潰し。

それを凌いで駆ける改造人間たる神の戦士を、巨人の肩から駆け飛んだ槍の英雄の魔槍が貫いた。

「がっあ?!」

胴体半ばから引き裂かれて血反吐を吐く。

それを横目に飛び荒ぶ能天使が、冷酷な目で判断する。

《破魔無効。破魔の雷光は通じませぬか、ならば!》

呼吸を鋭く、妖魔シワナ——米国にてネイティブアメリカ、プエブロ族に伝わる精霊。

雲の人、精霊と死者を意味する天への導き手。すなわち天使の一解釈たる姿。

そのスキルを転写、全てを溶かし尽くし、その邪悪なる力を封じる聖氣を吐く敵の編成はどれも力自慢ばかり。

全てを透かせばおそるるに足らない。

その思考を打ち破るように銃撃が轟いた。

《ごぶ?!》

デザードイーグルの銃撃が、天使の腹部を正確無比に撃ち抜いていた。

呼吸が乱れる、スキルが上手く使えない。仮初めのものであるがゆえに。

(あの悪魔使い!)

ヒデト、人間がこしやくなる銃を持つのは当然想定していた。

貧弱なる無知な羊たちはどれも弱い。

そのためメシアンでもクラリックと呼ばれる最下級の悪魔祓いたちは銃社会であるアメリカの思想を伴って、銃を基本装備としている。

だから銃自体は驚くほどのことではない。

これまでに密かに拉致したガイア連合の異端者も、その親類関係者を守ろうとした羊たちも持っていた。

だがしかし。

戦闘ヘリの転換速度にも匹敵する、風すらも追い抜く戦闘状態の天使を、当たり前のように命中させるなど。

「随分とこの世界の天使はのろいな」

踏み込み、左手に銃を持ち替えて、右手から抜いたプラズマソードで、首を掻っ切るうと剣を振り下ろした刃を受け止める。

スキヤナーズの怪力を、金属の戦車すらも破壊する斬撃に、その機械式義手は軋みも上げず。

平然と受け止めていた。

《マハザン!!》

マハザン 衝撃魔法 敵グループに衝撃相性の魔法小ダメージを与える

衝撃高揚 パッシブ 5倍

轟!

テンプルナイトが突き出した掌から爆発的な衝撃が吹き荒れた。山をも震わせる超自然的な鳴動。

魔力を引き上げる改造措置に、衝撃高揚と呼ばれる特性を付与された彼のマハザンは、マハザンマの領域にすら届き得る。

人間などザンの段階で四散、ザンマともなれば原型すらも残さずに砕け散る。

覚醒者であろうとも手足がもげ、あるいはその衝撃と痛みから呻き、シキガミと呼ぶ悪しき霊の守護されたものたちは泣きわめくばかり。

舞い上がった土煙の先で、ギウルギウルと音を立てて塞がりつつある腹部を気にせず、残りの悪魔をどう始末するか思考を巡らせ。

「回復」

《メディア》

メディア 回復（祝福）魔法 味方全体のHPを小回復

ルサルカ力の呪文が美しく響き渡り、悪魔たちの傷が癒えていく。

——その物理スキルの代償に消費したHPが。

——衝撃に強い耐性のままに、少女を守った精霊の肉体が。

——眼前で衝撃魔法を叩き込まれ、頬肉の半分と片目が千切れ飛んで、なお平然と指を下さすヒデトの傷を。

「貴様、その傷で!?!」

「何を驚く」

癒えながらも、平然と振り下ろされたヒデトの剣を、テンプルナイトが受け止める。  
覚えのない太刀筋。

どこの流派なのか、幾十にもデビルバスターとの戦闘経験が、戦士としての教育を受けた神の戦士にもわからぬ剣筋。

「まだ死んでないなら動くものだろう」

だが恐ろしく洗練された刃。

数百数千の悪魔を殺し尽くし、あらゆる魔王の首を切り飛ばした、ただその身体能力のみが全盛期に届かぬだけの剣。

ヒデトにスキルはない。

使えたとしても得意なプログラムによるコンピューター戦によるCOMP操作。

彼の親友のような魔法も、彼とともに戦い抜いた魔女のような魔法もない。

ただ悪魔と仲魔になれるだけ。

ただ悪魔と共に戦えるだけ。  
ただそれだけで。

「悪魔を倒すのはいつだって諦めない心だ。お前らの神様もそうやって討ち倒した」  
彼は、神殺しを成した男である。

せかいにへいわをとりもとゞしてください

水が上から下へと落ちるように。

戦いの趨勢は決まっていた。

《溶け落ちよ、フォッグブレス!!》

フォッグブレス 特殊補助（神経相性） 敵全体の命中・回避・攻撃一段階ダウン

真・女神転生IV仕様

天使。パワーがむせ返りながら、全体を弱体化させる強力なスキルを発動させる。

複数回命中すれば戦いが決まる、それほどの理不尽な強スキル。

事実、数を頼みにするような軍勢であればこれを使い続けるだけで烏合の衆となるほどの。

《スクカジヤ》

《タルカジヤ》

《マカラカーン》



## 《メディア》

「ダメージを一手減らしてくれるなら御の字だ、全快」

仕様  
スクカジヤ 補助（天啓）魔法 味方全体の命中・回避率を上げる真・女神転生

様  
タルカジヤ 補助（天啓）魔法 味方全体の攻撃力を上げる真・女神転生II仕

開する  
マカラカーン 補助（天啓）魔法 味方全体に魔法を反射する結界をIターン展

メディア 回復（祝福）魔法 味方全体のHPを小回復

巨人と幻魔が下げられた命中率と攻撃力を即座に建て戻し、天津神が魔法を反射する結界を構築、妖精が残っていた傷と体力を癒やす。

ヒデトが銃を抜き、彼らを視認出来る位置にてブレスを吐き続ける天使へと引き金を引いた。

## 《がぼつ》

強<sup>消</sup>靱<sup>費</sup>なスキルに見合う消耗<sup>M</sup>を払<sup>P</sup>っていた。パワーの翼に風穴<sup>4</sup>が開く。

「守護天使様!？」

マカラカーンに、属性を切り変えて聖書COMPを起動させようとしてまごついていたテンプルナイトが声を上げる。

「おのれよくも!」

天使から教わった物理スキルへと切り替える。

ギロチンカット 物理スキル 敵単体に剣相性ダメージ+PALYZE

人体をまるごと両断せんばかりの刃、それをヒデトが受け止め——【PALYZE!】ヒデトの体が、硬直した。

——【PALYZE状態】 行動不能、敵攻撃を回避不能、毎ターンSP6・25%ずつ減少女神異聞録ペルソナ仕様、デモニカスーツを装着した場合回避不能以外のデメリットを無視出来る——

装着していた護符ヒランヤは、BIND・STONE・CLOSE以外を打ち消すことは出来ない。

(通った!)

麻痺が入った手応えにテンプルナイトの頬が釣り上がる。

（邪悪なる悪魔使いめ！ 貴様の指示がなければ悪魔なぞなにもしないだろう！）

ガイア連合の屠った戦士共を思い出す。

シキガミと呼ばれる人造悪魔を従える連中、その中でも下位であったがテンプルナイトはそれを異界にて葬っていた。

彼らの大半はシキガミと呼ばれる悪魔に守られ、その主が倒れると同時に士気が崩壊か、激情にて我を忘れていた。

極僅かに自らも戦い、物理スキルや魔法などといった奇跡を使うものもいたが。

手の内を変え、状態異常にて心身を乱されれば、その余裕は引き剥がされていた。我々とは戦いの速度が違う。

まるで一手一手ごとに待ち合わせるようなゆったりとした動きか。

あるいはがむしやらにスキルを連打し、ゴリ押しで潰しにくるようなものか。

（貴方も同じだ、所詮力と速度だけの悪魔使い！ 真の戦士にはならない）

戦闘の興奮に、かつて少年兵だった頃からの教化された人間性を僅かに浮かび上がらせながら。

鋭く腰を落とし、回転するようにヒデトの首へとテンプルナイトの刃が翻り——ヒデトの掲げた機械式の義手から、チカチカと点滅していたのをみた。

（なんだ？ なにかモニターに）

「う、あああああああああ!!」

声を上げて、視界から外れていた少女が何かを投げた。

瓶詰めされた薬瓶が、麻痺したヒデトの頭にぶつかり、割れた。

デイスパラライズ。

サマナーのバイタルと同調し、必要な処置メッセージを仲魔に伝達する。これをルサルカから伝えられて、少女は異界探索の時同様に支援した。

故に首を跳ね飛ばす刃を、目をそらすことなく睨んでいたヒデトが首筋を裂かれながらも、踏み込んだテンプルナイトに靴底を叩きつける。

撃打。

くの字をもつて吹き飛び、胃液と共に咯血する神の戦士が、さらに撫で斬りに両断される。

左腕が肩から吹き飛んだ。

首筋から鮮血を撒き散らしながらも、動きを止めない悪魔使いによって。命を止めない限り、最適な動きを続ける。

そして、攻撃魔法を使いあぐねていた天使が、物理スキルへと切り変えて。

それを万全の肉体で受け止めながら、仲魔たちが反撃し、回復を行う。これにて。

水が上から下へと落ちるように。

戦いの趨勢は決まっていた。

・ ・ ・

天使は地に落ちた。

テンプルナイトが瀕死で倒れ伏している。

ヒデトと仲魔たちは血に汚れながらも、万全に立っている。

それだけ見ればまるで数の暴力で押し負けたように。いや、流れだけを見ればその通り。

ただ手数で負けた。

強者が数の差に敗北した。

(だけど、そんなんじゃない)

あの忌まわしい、恐ろしい天使が地に墜落している事実には、今すぐにも止めを刺しに行きたいのをヒデトが押し留め、そして周囲を警戒しているルサルカや、悪魔たちの動きに少女は学習していた。

オオヤマツミの異界探索で少女は知った。

この世界の本当の戦いを。

何一つ命の保証がない、怯えながら、必死にリソースを削りながら、通じる怪物を打ち払いながら進む失うだけの戦いではない。

悪魔の力を。

道具の使い方。

仲魔との連携を。

仲間との協力を。

人が使える武器と道具の有効さを。

かき集めた知識の必要性を。

何故か風漬しに埋めるマップの意味不明さを。

スキルとステータスだけではない強さ。

戦術と選択と大胆さと慎重さを駆使する戦闘論理

彼の戦い方は、仲魔の動きは、迷い一つもなく、相手の動き一つ一つに食い込むように、最速だった。

臨機応変と言うレベルではない。

動き止めずに、手数を即座に切り変えて、意思疎通しながら、同じことを繰り返しながら、同じ場所に一度たりともいない。

筆舌にし難い、だけどなんとなく理解し始めていた。

少女は高揚していた。

眠る力に、前進する覚悟が宿り、震えていた足がいつの間にか止まっていた。

それが唯一神が恐れていた彼の、〈観測の力〉としての片鱗。

人の力そのもの。

かつての世界において激滅し、それこそ終末そのものだった人類に機能しなかった本質。

「ぐ、あ」

テンプルナイトが、改造された肉体の限界に達しながらも動く。

「!! ヒゲトさん!」

「まだ動くか、メシア教というのは随分と俺の知る奴よりも頑丈だな。パズスのやり口には似てるが」

「……我が信仰に、主の力は、決して陰らさず！」

ヒデトの語る悪魔の名に、僅かに疑念が浮かぶが、それを信仰心でスキヤナーズは振り払い、立ち上がった。

「我が守護天使よ!! 我が生命、我が主に、その信仰を届け給え!!」

血を吐き、両手を広げて、テンプルナイトは叫んだ。

「リカーム・ドラ!!」

リカーム・ドラ 回復（奇跡）魔法 味方全体のHP・MPを回復させ、蘇生する。発動者は死亡する

殉教の輝き。

とつさに少女と仲魔たちを下げ、様子を見ていたヒデトの前で、テンプルナイトが輝きながら、そのそばの天使が癒えていく。

《ふう、はははっはあ!!》

天使パワーが翼を広げて、その傷一つない翼を掲げて、笑う。

両手を広げて、十字を思わせる体勢のまま、絶命した己の戦士だったものを見て――



微笑んだ。

《さすがは我が神の戦士、よくやりました！ その忠誠、信仰心、私は誇らしくなります！ 感謝しますよ！》

ケラケラと決して攻撃が届かない距離まで飛んで、天使が笑う。

「おまえ、おまええ!! 自分のせいでその人が死んだのが悲しくないのか!!」

《? 悲しむ、なにをです?》

その眼下、塵芥のような蟻の叫びに、天使は小首をかしげた。

《天の御遣いたる私のために命を捧げたのです。その名誉にさぞ満足でしょう》

「おまえええええええええええええええええ!!」

《ハハハハハ!》

高笑いを上げながら天使が翼を翻す。

その背に、少女が怒りの唸り声を上げ。

当然のように備えていたヒデトが、決して逃すことのない魔槍ゲイボルグを最大強化タルカジャ\*4の姿勢で構

えていたクローリンに手を上げ。

《ぐべつ》

天使が奇妙な音を上げた。

《あぺ？》

中空にて、天使の翼がねじまがり、首が歪んだ。

「なんだ？」

「えっ」

《い、あ》

まるで重力を無視したかのように、空中に固定された天使が、手足がねじ曲がる。首がねじ曲がり、激痛と血しぶきを上げながら、ぐるぐると、玩具のようにひっくり返り。

《い、あ、い、あ》

面白いゲストだ、一芸披露してくれないかね？

それは飛行生物だった。

それは一見蟻のようだったが、触覚は短く。

それは人間のような皮膚と目、鋭い鉤爪の付いた左右二対の手を備え。

それは蝙蝠のような羽毛の翼を広げていた。

《いあ！ いあ！ いあ！ いあ！ いあ！ いあ！》

アルカナ

悪魔<sup>DEVIL</sup>

ビャーキ

LV42

属性

??????

相性耐性 神聖・暗黒・神経・精神無効 万能半減・全てに強い公式耐性、ただ

し回復・相性無視は除く

「呼吸が止まった。」

言葉では言い表せない恐怖に、少女の精神が凍結し、心臓が、流れる血の停止に合わせて止まっていく。

勝てる、勝てないの領域ではなく。

それは存在してはいけないものだった。

この場の全員で挑んでも勝てるかなんて、アナライズ出来なくても理解出来る。

恐怖に。

少女は、その命と共に意識を喪失させかけ。

「切りたくなかったが、出さないとまずいか」

右腕を翳し、幾重にも起動承認を行い、オリジナルの悪魔召喚プログラムが。

「コール」

— S U M M O N —

膨大な、溜め込まれていたMAGとマツカを触媒に、今再び決戦の力を開放する。  
本来国家を賭してなご呼び起こせるか未知数の神格が顕現する。

「魔神 ■ ■ ス」

—— マハジオダイーン ——

極大の神雷が、全てを消し飛ばした。

天地が引き裂かれる、かつて魔界の宇宙を焼き尽くした稲妻だった。

神星ローマ帝国

「ツ、あんだ？」

「どうした、ゼウス」

天使共と戦いも一区切り、ふとした談話の中で突然虚空を見上げた狂雷。

その顔は相棒たる少年にして始めて見るほどに険しく、そして、ゆっくりと目を見開く。

「うっそだろ、ハハハ!! やりやがった、どこのどいつだ! いや、なんかわからねえが懐かしいなあおい!」

「? なにか？」

「どこかの奴がオレを呼んだ。神霊たるオレの面をなあー!」

それは歓喜だった。

・ ・ ・

???

米国

「この鳴動、まさか、あの方が言った通り……」

「バカな、この世界にあれほどのものがあるはずが！」

「愚か者！ 我々と一時とはいえ翼を共にした奴の気配を忘れるものか」

本来ならば対立しているはずの三枚の翼。

大天使と呼ばれるものたちが、その支配化たる修道会にて、祈るように手を組み合わせる。

「奴を消さねばならぬ、我々が計画のために」

「主よ、我々に力を！」

「奴を、消し去る!! 今度こそ！ 信者たちを動かせ、神の敵を討つのだ！」

それは恐怖だった。

．．．

???  
日本

「？」

ピクンと小柄な少女が背筋を震わせて、天井を見上げた。

「……代表？」

側に仕える修道女が、手に抱えていた膨大な書類を落とさぬように気をつけながら、声をかける。

「どうかされましたか？ やはり日頃の激務で体調を崩されたのでは」



「いえ、大丈夫です。……〈アドナキエル〉、感じましたか？」

パンと手を叩き、少女の側に光が集った。

白髪金眼の見惚れるほどの端正な美少年。

それこそ少女——メシア教日本支部の代表の守護天使。

その姿こそ見慣れたものの、顔色はひどく青ざめ、汗ばんでいる。

「ああ……恐ろしい気配がした、一瞬だが」

「場所は？」

「遠い、おそらく西のほうだが——触れないほうがいい、私の天敵だ。今回ばかりは壁にもならないだろう」

「!? そんなアドナキエル様が……」

「どこの神話体系か、アナライズ出来ますか？ それとガイア連合に連絡を、おそらく彼

らの——」

そこまでいいかけて、代表たる少女がふいに片目から涙が流れた。

「ツ！」

「代表!?!」

慌てて修道女がその体を支える。

その中でもブツブツと言葉にならない言葉が漏れ出して、同時にそのもう片方の目か

ら血涙が流れ。

「——人を集めなさい、連絡があります」

「？」

「早く!! 事は一刻を争います!」

「は、はい!!」

修道女が駆け出し、守護天使は困惑した顔で少女を見る。

彼女はぼたぼたと流れる血を床に流したまま、笑みと引きつった顔をしていた。

「なにかが起ころ、心の底から震え上がるほどの恐怖が……それとも歓喜か、主よ、貴方の御心は」

それは困惑だった。

???  
インド

「——タイタス？」

インドの山奥、誰も来ぬ未踏破の秘境にて。

もはや終わり続ける世界に、微睡んでいた老人……否、男が目を見開いた。

「ユピテル」

声が響く。

幾重にも重ねた、神格を、絶大なるものにして、深淵にて彷徨い惑う旅人の声が。

「ハスター、クトウルフを撃退せし雷なるもの。それを使役するか、カダス・マンドラの元型に等しき器を」

胸元に手を当てる。

数万年ぶりの迷い、息を吸い、嘲笑い続ける邪神の狙いに、思考を巡らせて。

スワーム・チャンドラプトラは、その腰を上げた。

それは希望だった。

. . .

???????

「わははははは！　すごいすごい!!」

「なんだこれは！　なんだこいつは！」

「うー！　にゃー！　楽しくなってきましたね！」

「誰か知ってるー？」　「知らないな」　「知りたいな」　「気になる」　「アレフではないみたいだ」　「観測者も知らないといっている」

「ならば」　「ならばならば！」　「ならばならばなら!!」

「」「我々のダンスを楽しんでもらおう！」「」

それは狂喜だった。

・ ・ ・

星神社 日本

「仕事が終わらないんだけどおおおおおおおおお!!」

神主はブラック労働を続けていた。

それは絶望だった。終りが見えない意味で。

・ ・ ・

世界は激震した。

ただ一人の観測者が、世界を揺るがす。

それはほんの少しの天秤の揺れ。

なれどもそれは正史より——混沌よりもなお、秩序よりも、中庸へ。

歴史が変わることを、今はまだ誰も知らなかった。

新約女神転生  
デジタルデビルストーリー

## ガイアの章

### ★ガイア連合地方派遣社員スレ その17

「行つてしまふんですか」

旅支度を終えたヒデトに、少女は声をかけた。

「ああ。オオヤマツミも君たちの守護に残つてくれると約束してくれた、彼がいればここは大丈夫だ」

そう彼は仕事を十二分に、いや、身に余るほどにしてくれた。

オオヤマツミが封じられていた異界の攻略。

襲撃してきたテンプルナイトと天使の撃退。

そして、あの理解出来ない悪魔？ の撃滅。

その時にした光に関しては——少女は不思議と殆ど覚えていなかった。

ヒデトが目を覆つてくれたのもあるし、あまりの迫力に、意識がシャットアウトしたのも原因なのかもしれない。

「無理に思い出さないほうがいい。少しばかり刺激が強すぎるからな、あれは」

……る99は、彼女と合流するまでは常用出来ないな。

(?)

よく聞こえなかったけど、何かあの倒すために使った力には事情があるらしい。

他の人に聞かれてもあまり教えないでくれとヒデトに頼まれた。

だから約束した。

命をかけて決して口外しませんとまで誓おうとしたら、「危ない目にあつたら喋つても構わない、無理はしないでくれ」なんて慌ててしまつていた。

彼はとても優しい人だ。

そして強い人だ。

残つた里の人たちは、誰も彼もこの稀人を逃さないように、何をしてでも引き止めるように言つてたけれど。

「ヒデトさん、お気をつけてください。今各地はどこも大変みたいですから」

私には出来なかった。

邪魔をしたくなかった、いえ、それ以上に。

「ああ、海外の渡航制限……? とやらの発令されたみたいだし、あまり無茶をしないようにするさ。まだ四国に用事もあるし」

《サマナー、オオヤマツミからの情報によればあちらの異界に、ライドウの仲魔がい



るはずだ」

「ガイア連合からは聞き出せなかった、他の国津神だったか。頼れるのか？」

《当たり前だ。師匠同様、優れたる前衛にして壁だ。雷電族でもある、様々なことに役立つぞ》

「わかった。スカアハの情報も一緒に探そう……悪魔合体師が生きてればいいんだが」

《ヴィクトルは吸血鬼の血清を取り込んで不老だ。おそらくどこかに身を潜んでるだろう、アイツは存外しぶとい》

「出会うのが楽しみだな」

側を歩く仲魔の英雄クーフリーンとヒデトの会話。

それを聞きながら、少女は微笑む。

この人は何か、大きなことを成し遂げる。

そんな確信があるのだ。

こんな私の明日が暗く沈んでいたものを吹き飛ばしてくれたように。

きつとこの世界もきつと明るく、何か変えてくれると。

「ヒデトさんー！」

歩き出し、駅へと向かうヒデトの背に、少女は声を上げた。

「本当に本当にありがとうございましたー！」

声を上げる。

彼が聞こえてると、楽しみに微笑む横の幻魔の笑みで確信しながら。

「私、絶対に強くなります！　また会いましょう！　絶対に!!」

叫ぶ。

両手を口に当てて、この世界に負けないと、少女は——叫んだ。

「私の——ボクの名前は時雨です!!」

少女——時雨は、機械じかけの腕を上げるヒデトの背が見えなくなるまで、手を振り続けた。

それから彼女は研鑽を積み、己が限界と言われたLV13の壁を超えて行くことになる。

.....

★ガイア連合地方派遣社員スレ その17

38：名無しの転生者

いやマジで誰よ、あれ??

どっかの私らじゃねえの？

なんか発狂した腐れメシアモブが、うちの支部にカチコミしてきたんだけど

39：名無しの転生者

だから誰もいってないって。

そも報告あったやんけ、行ったのいいんだけど異界終わってたって

40：名無しの転生者

電車乗り継いでへとへとになりながら、おらー！ ダークゾーンどこじゃー！

とかむかつたら「え？ ガイア連合の人じゃなかったんですか??？」

アンジャツシュだよ！

4 1 : 名無しの転生者  
おつかれー

4 2 : 名無しの転生者  
いやあ仕事せずに食べる飯は美味いか？

4 3 : 名無しの転生者  
地元銘菓貰ったわ。

まあいいんだけどね、下手に媚び媚びされるよりは心傷まないし、情報貰ったり、交渉楽だったし。なんかやべえ神いたし。

4 4 : 名無しの転生者  
悪魔の守護あつたんだっけ？  
レベル幾つだった？

4 5 : 名無しの転生者  
L V 2 3 (簡易測定器)

国津神オオヤマツミ

弱点とくになし、破魔と呪殺反射

こんなのが後ろでふんぞり返っていて、代表ちゃん以外はビビり散らしてたわ

46：名無しの転生者

ええ（困惑）

ハワイブタと同格やんけ

47：名無しの転生者

強い、強くない？

俺らからみたらちよつとめんどくせーなぐらいだけど、現地民からしたら化け物だろ

48：名無しの転生者

こんなのがいたらそりゃあ地方異界ぐらい殴り倒せるだろうけど

なんで俺ら呼んだの？

49：名無しの転生者

いや、こいつが異界のボスだったらしい

50：名無しの転生者

??

51：名無しの転生者

ええ（困惑）

52：名無しの転生者

どういうこと？

53：名無しの転生者

なんか俺らと勘違いするような霊能者と代表ちゃんがつつこんで殴り倒して、鎮めたんだって

それで仲間に取り込んで、祭神に収まってもらったとかなんとか

54：名無しの転生者

つよい（確信）

55：名無しの転生者

ほえー、頑張ったんだな やるやんけ

ところでその代表ちゃんってどんだけ強いの？

56：名無しの転生者

信じられなくて、図らせてもらったんだけど

LV13だった

ついこの間までLV5だったらしい

57：名無しの転生者

化け物かな??

58：名無しの転生者

破魔矢！ 破魔矢の仕業じゃ!!

59：名無しの転生者

先手を取ってしんけいだーん！

60：名無しの転生者

うちの弟子のほうが可愛いし、レベルも負けてないんですけどー！

61：名無しの転生者

はいはい、弟子自慢おつ

62：名無しの転生者

自己浄化してくれるのは実際ありがたい

この間のくそICBM連打から地方の手が届いてなかった場所、悪化激増したからな

63：名無しの転生者

なんか各地にぶち巻かれるはずだったICBM、4割ぐらいきなり転進して

うちの結界に集中砲火されたんだっけ？

メギドアーク混じってやがったとか、真1の流れだったらしいけど



64：名無しの転生者

シヨタオジと幹部全員ガチギレしてたなあ、あれ

シエルターとつきに逃げ込んだけど、マジ殺意感じる空気の揺れだったわ  
そんなに日本滅ぼしたいのかあいつらー

65：名無しの転生者

なんかメシア過激派、どかどか日本に向かっているとか聞いたんだが  
ついに東京滅ぶのか？

66：名無しの転生者

アトラスならありえる

67：名無しの転生者

やめて、新宿遺構にはなりたくないねん

68：名無しの転生者

おい、四国誰か黒札つっこんでる？

【死蓋】異界、攻略されたんだけど。

69：名無しの転生者

え

70：名無しの転生者

まってるまってる、あそこ確か根願寺がうるさいこといってなかった？  
禁忌地（笑）だとか。

71：名無しの転生者

攻略推奨レベル確か30超えてたよな？

72：名無しの転生者

推奨レベル40強です

出てくる悪魔も最低30以上で、10種類以上の悪魔が湧いてくる

73：名無しの転生者

禁忌地（ガチ）やんけ

黒札と幹部でもない怖くていけねえよ

74：名無しの転生者

【天樹山】よりはマシだし（震え）

75：名無しの転生者

支援組だったけど、あそこはほんまに地獄だったとよくききますわ

76：名無しの転生者

おかげでうるせえクス神共出てきたけどな！

77：名無しの転生者

言うな

78：名無しの転生者

衝撃の真実う！ でしたね。

79：名無しの転生者

まあそれはともかく、誰か四国いねえの？

【死蓋】 攻略されたって、下手したら悪魔湧いてくるだろ

というかよく無事だったな、根願寺の操作ってあそこまで届いてたのか？

80：名無しの転生者

今四国労働中のわい参上

なんかあそこには楔とか、葛葉の封印があつたらしい

81：名無しの転生者

メシアンに破壊されてなかったのか？

82：名無しの転生者

でかいところから小さいところから全部根こそぎ荒らしてるからなあいつら情報集まるごとに本当に嫌いになっていくぜ

元から嫌いだが

83：名無しの転生者  
うそやろん

84：名無しの転生者  
どした

85：名無しの転生者  
ライドウの名前が出た

86：名無しの転生者  
どの？

87：名無しの転生者  
40代目とかいうなよ

88 : 名無しの転生者

14です

89 : 名無しの転生者

?!

90 : 名無しの転生者

!!

91 : 名無しの転生者

? (・O・)

92 : 名無しの転生者

すまないが、デビチルで例えてくれないか?

93 : 名無しの転生者

なんか強いやつだっけ? (デビサバしか知らん)

94：名無しの転生者

児童版ベルセルクの主人公ぐらい強いやつ

バグキヤラ

95：名無しの転生者

14代目がなんか死蓋に訪れてたらしい

自分の手持ちを封印に使ったんじゃねえか？ とかなんとか

名誉あることだから口伝で残ってたみたいで、信憑性はわからん

96：名無しの転生者

まさか死蓋に、あの無敵前転マンのクソつよ悪魔が?!

97：名無しの転生者

八艘ビート互換のとんかちメイドダタラっているだつて?!

98：名無しの転生者

ライドウの仲魔「我に力を見せよ、さすれば認めてやろう」

99：名無しの転生者  
ででん！

100：名無しの転生者  
パトリそう。

101：名無しの転生者  
絶対LV99とかだろ、前世のソルハカでキレた

102：名無しの転生者  
超力兵团とかはなさげだったんだけどなあ  
じゃないと陸軍あそこまでボロ負けしないだろ

103：名無しの転生者  
しても負けてそう、あの神共見る限り



104：名無しの転生者

マレビト案件あつたら、シヨタオジがでばらないと死にますわ

105：名無しの転生者

(ライドウやってねえからわからねえ)

106：名無しの転生者

(そも女神転生わからないまま、必死に覚醒したわい置いてきぼり)

107：名無しの転生者

まあ転生者ならなんとかなるだろ

レベルもなんか全体的にくっそひくいし、いいとこ半分ぐらいじゃねえ？

108：名無しの転生者

アナライズの基準も霊視ニキ基準だから結構ガバガバだからなあ

109：名無しの転生者

それより東京よ、未だに世界終末こねえから働かねば

110：名無しの転生者

種馬になるのだけはいやどすえ

111：名無しの転生者

結構気持ちいいぞ、おいでよ沼に

112：名無しの転生者

働け、前世と違ってな！

113：名無しの転生者

(過労死しました)

114：名無しの転生者

あ(察し)

115：名無しの転生者

今世はのんびりしろよ

この世界メガテンだけどな

116：名無しの転生者

命の保証はねえ！ いえあー！

117：名無しの転生者

いやあああああああああ！

・  
・  
・

(このあとしばらくとりとめもない雑談が続く)

・

. .

221：名無しの転生者

そういえばあの噂知ってるか？

222：名無しの転生者

知らないというのが礼儀のフリ方おつ

223：名無しの転生者

あの噂って？

224：名無しの転生者

魔女だよ、魔女

ダークサマナー狩りを返り討ちにしてる金髪の魔女

225：名無しの転生者

船岩とかじゃなくてか？

あいつも結構現地民だと手に負えない最強筆頭（笑）やったやん。

226：名無しの転生者

原作と違つて悪魔召喚プログラムねえのに、スキルはあるからなあ  
造魔滅却とか、シキガミ一体ぶつ殺されたやついたんだっけ  
ぶち殺しに追つてるやついるらしいからな

227：名無しの転生者

シヨタオジみたいに魔術で悪魔を使役出来る奴はいるところにはいる  
どこで手に入れた技術かしらんがな  
で、魔女つて？ 美人？

228：名無しの転生者

すっごい美人らしい。  
ヲチスレとかで、声かけた俺らの誰かがこっぴどく振られたとかで  
荒れてたやん

229：名無しの転生者

童貞丸出し過ぎるw

230：名無しの転生者

うんうん、そういう自律精神は大事よ

231：名無しの転生者

声かければほいほい食えるような環境に、慢心した奴も多いからな

232：名無しの転生者

日本メシアン教会「もつと仲良くしましょう！」

233：名無しの転生者

個人の好悪はともかく組織はNG

234：名無しの転生者

うちの玄関、踏み絵だから踏めたらいいぞ

235：名無しの転生者

宗教勧誘お断りシールをどこも張っていて、知恵大事だなーと思う

236：名無しの転生者

いつまで続くかねえこの状態

アメリカも邪神とかでてるし、いやすぎるわ

237：名無しの転生者

なんだったら海外も魔人がちらほら出現予兆して、襲いかかってくるらしいぞ

まじかよーとなるわ

238：名無しの転生者

結局終末は回避できないだっけ？

239：名無しの転生者

シヨタオジがクソ頑張って、元凶の神共が抑え込みつつ、もうでしやばりまくってる  
あの唯一神と天使共をしげば

なんとかなるかも？ という大本営発表じゃったろー？（白目）

240：名無しの転生者

ジーザズ

241：名無しの転生者

立川の二人、休暇返上中ですわ

242：名無しの転生者

誰かアメリカにいつて、あの4文字とかぶところしてきて

243：名無しの転生者

狩人ニキなら！ 狩人ニキなら！ 赤子の緒集めてなんとか！

244：名無しの転生者



現実とゲームを一緒にするな（モツ抜きパンチ）

245：名無しの転生者

もう勘弁してほしいわね

悪魔による美術館襲撃とかあつたしさー

246：名無しの転生者

治安も悪くなってるよな

247：名無しの転生者

もうこんな時代さいやさ！

248：名無しの転生者

レッツ終末！

249：名無しの転生者

あーもー金を、こんなのケツ拭く役にもたたねーよー！ とかいいてー！

250：名無しの転生者

早く終末くるならこいよ！

金稼ぎ辛いんだけど!!

251：名無しの転生者

マツカ、マツカ、式神のカスタムしなきゃ。

252：名無しの転生者

ガチャを、ガチャをよこせ、採集決戦だ！

253：名無しの転生者

終末来ても、俺ら休暇入れるかな

254：名無しの転生者

無理じゃね？

255：名無しの転生者

ですよねー!!

256：名無しの転生者

労働時間は一定以上伸びると幸福度が上がるぞ。

257：名無しの転生者

それ最初と比べていつてくれる??

258：名無しの転生者

わかった、ハピルマ!

259：名無しの転生者

わあいくなのらゝ

260：名無しの転生者

やっぱりの俺達だよ

261：名無しの転生者

安心の転生者クオリティ

.....

.

(さらにしばらく後)

.

.....

★【現地民】ダークサマナー対策スレ【弱ww】 その2

277：名無しの転生者

フィネガンが俺らの支部襲撃したって。

278 : 名無しの転生者

は  
????

29 : 名無しの転生者

なんだあのコンビ

魔女とダークサマナー最強コンビってやばくねえか???

# ★ダークサマナー対策スレ その4

静かな浜辺だった。

つい先程までいた夜闇に包まれた森とは打って変わった気候と眩しいほどの月光がテラテラと輝いていた。

皺くちやになつたタバコを啜える。

ひび割れたジツポライターの蓋をねじり開けて、三度ほど回し、最後の火でタバコをつける。

不味い。

血が染み込んでいるせいか、気に入った銘柄なのにゴミのような味だ。

「どうして俺を助けた」

もう一度吸えるとは思つてもなかつた紫煙を吐き出しながら、彼——フィネガンと呼ばれる男は目の前の女に訪ねた。

女。そう女だ。

それも恐ろしいほどに美しい女だった。

まだ年若い二十歳にも届いていないだろう年齢だろうに。

女神……比喻表現ではない悪魔で見たことがある——に匹敵するほどの美貌に、夜空に輝く月光にも負けないほどに艶やかな金色の髪をなびかせている。

泥濁色カキの無骨な外套とフードに普段は隠れていても一目見ればわかるだろう。

両手には見たことがないタリスマンに覆われた長手袋に、足には拍車を付けたメタルブーツ。

外套に隠れてはいるが、ガンベルトに銃を差し、さらに細身だが西洋剣まで持つている。

そのどちらも扱いこなしたのを、つい先程見たフィネガンは内心声を漏らした。

(なるほど、魔女と言われるだけのことはある)

彼女のことを風の噂で聞いたことがあった。

だからあのガイア連合の追手と戦い、当然のように討ち死ぬところで乱入してきた彼女を見て、すぐにそれだとわかるほどに。

こんな風体をするのは顔商売の霊能者ならば当たり前だが、今の環境に見合う力を持つているのは稀だ。

さらにあいつらを当然のように撃退し、撒くまでとなるとさらに稀だ。

騒がれるのも当然だと思つて、そんな他人に興味を覚えた自分に思わず口の端が歪んだ。

「あら、随分と余裕があるわね。さすがダークサマナー最強の男かしら」

「俺とて死に損なえば、平常通りとはいられんものだ」

「へえ、死神と契約して行くせに死ぬのは怖いのね」

「ふん」

ピクリと片眉を上げた程度で済ませたのは、長年の業界経験によるものだ。

死神——ケルヌンノスとの契約こそ、フィネガンの力の根源だった。

ケルト神話における死と冥府の神〔ケルヌンノス〕

狩猟と動物の神であり、死神としての死と再生、すなわち弱肉強食の輪廻を司る。

若き頃、力の限界を超えるためにフィネガンと呼ばれる前の男が、自らのソウルを

持つて覚悟を示した。

強き戦いから逃げぬこと。

戦いの連鎖において死に、その死後の魂をケルヌンノスに捧げること。

強大なる神に恩恵を与えられ、フィネガンと今呼ばれる男は自らの限界を超えた。

命を刈り取る死神の恩恵の影響か、ゴレムやドールなどの仮初めの命を与えられた

ものに対して特攻となる【造魔滅却】と名付けた火炎魔法を体得し、その力もあつてあ



のガイア連合の大半が駆使する式神ともなんとか渡り合えた。

だが限界はあった。

一人二人程度ならば経験と鍛え抜いた肉体と格闘術に銃技で戦っても、それ以上は荷が重すぎる。

奴らのいうところのレベル36ソウルハッカーズVSフィネガン第一戦における設定レベル。

たった十年前まではどいつもこいつも退屈なほどに弱いものばかりだったが、最近ではもはや自分程度の力を持つものも珍しくない。

黒札と呼ばれるガイア連合の実力者となれば自らよりも格上で当然。

スキルと呼ぶ、異能の種類も豊富で、銃弾を叩き込んでも死なない程度なら可愛いもので、傷が治る、弾丸を生身で止める、それどころか反射する。

もはや人間とはかけ離れた存在と言っても過言ではない。

今や数える程度にしか残っていないダークサマナー共とて、もはや掌を変えて、傘下に従っている。

不器用に、戦いと汚れ仕事しかしていなかった自分の時代ではない。

そう思い、強者との戦いにて果てようと考えていたのだが。

「フィネガン、貴方死ぬつもりだったでしょ？」

「一度、戦いの中に身をおいた人間に安息の死などありはしない……」  
当然の末路だ。後悔などありはしない。

「でもそれは困るのよ、貴方の力が欲しいの」

「魔女が、俺の魂でも欲しいのか。生憎だが、既に先約がある。くれてやることは出来  
ん」

「魂なんていらないわよ、悪魔じゃないんだから」

心外とばかりに唇を尖らせて「察しがいい男とずつといたのも問題ね、一々説明す  
るのも疲れるわ」とため息を出す。

「なんだ、魔女には魔女らしく悪魔のご主人でもいるのか」

「失礼ね、人間よ。魔王より強いけど」

「……惚気か?」

「ただの事実よ。今はいないけど、そのうち出会うわ」

どうやらこの魔女は結構な過大妄想を抱えているらしい。

力の代償か、思考能力に著しい欠陥を持つている異能者は珍しくないが。

「ちよつとやらないといけないことがあってね。そのために頼れる前衛が欲しかった  
の、私も剣と銃は使えるけど本領は後方支援だし」

「やらないといけないことだと?」

——この魔女が、単独では成し得ないこと？

前衛として自分を欲しがる、必要となる。

なにをするつもりだ。

そう考えながら、半分まで灰となったタバコを吸い込み。

「ガイア連合の支部にいくわ。ことによっては荒事になるから、戦える手数が必要なの」

ポロリと唇から落ちた。

「……………正気か??」

ゆつくりと鼻から煙を吹き出し、ギリギリ醜態を晒さない程度に振る舞いながらも、おおよそ5秒ほど時間をかけて、ひねり出した言葉がそれだった。

「ええもちろん。お金とか、依頼ぐらいで済めばいいんだけど」

「俺は手配されている身だぞ?」

「じゃあ外の車まで待っていてくれていいわ。私、この時代の運転免許ってやつもってないの。運転は出来るけど」

「お前言ってることが滅茶苦茶だぞ?」

「うーん、そうかしら? 暴力と交渉、どっちでも備えておくのが当たり前だと思うんだ

けど」

やはり思考能力に決裂を持っている。

高位の悪魔に、よほどの代償を捧げたのだろう。

あるいは器の限界を越えた力を与えられたのか、耐えきれぬソウルがなければ肉体に障害が起こるものらしいが。

「で、どうかしら？　貴方だけじゃなくても、契約してる死神との融通だけでもいいわ。それでも使えるでしょうし」

「馬鹿な。貴様、ケルヌノスの力を理解してないのだろう。見るだけでもおそらく発狂する——」

「レベル6と70前後程度でしょ？」

「うん。うん？」

「バエル神ぐらいなら今の私でも交渉出来るわ。短時間ならマツカとMAGも踏み倒せるし」

「うん????」

「まあさすがに長時間は彼とプログラムないと厳しいけど」

こいつは既に破綻してるのではないだろうか。

激しく出会ったこと事態を後悔しながら、フィネガンは割れたサングラスを一度外して、軽く掃除してから掛け直した。

そしてなんとか、本当に死ぬ寸前するときよりも力を振り絞って、訪ねた。

「わかった……おそらく逆らっても無駄なこともわかった」

「賢明ね。悪魔よりも人間のほうが殴らなくてもいい分楽だわ」

「だがこれだけは聞かせろ。ガイア連合に敵対しかねないことをしてまで、お前は何を求める。言っただけだが、奴らはもはやこの国の柱そのものだ。ガイアの名前も決して虚仮威しではないほどに」

力を求め、戦いに身を置くフィネガンとて社会の崩壊は望んでいなかった。

だからダークサマナー共の自分たちが浮上できるまで日本の霊的基盤を吹き飛ばすなどというくだらない企みにも参加しなかった。

自らが老いぼれ、衰退していくぐらいならさっぱりと戦いの中で無様に死ぬべきだ。

それだけの矜持を、覚醒者となつてしまいかつて夢見た表のボクシングの栄光から転落しても、彼は捨てなかつた。

捨てられなかつた。

人間であるがゆえに。

人であるがために。

「ガイア連合をどうこうするつもりはないわ。興味もないし、個人の好悪はともかくメシア教会を抑え込んでくれるならありがたいし」

さすがに私一人じゃあどうしようもないと横手に振って。

「今の私よりも装備も潤沢、さすがにレジスタンス偽典女神転生のレジスタンス ブラックホール弾頭や劣化ウラン弾などを開発使用していたが開発してた圧搾<sup>B</sup>弾<sup>H</sup>や光子弾まではまだだけど……そのうち追いつくでしょうしね」

まああれらはバアルによって壊滅したけど。

と、ぼそりとしたも気になる眩きをされつつも魔女は言った。

「ガイア教でもないみたいだし、レオナルドでも本尊に抱えたディーヴァにでも墮ちなければ私が口出しする理由もない」

知らない言葉を、遠くを夢見るように、深々と。

「だけど、私たちが必要となるものを彼らが手に入れてしまった。私たちはそれを手に入れなければならない」

「必要となるもの？」

「柱よ」  
「ピラー」

.....

★ダークサマナー対策スレ その4

71：名無しの転生者

死ぬかと思ったんですけどおおおお！

72：名無しの転生者

インフレ反対!! インフレ反対！

ふざけんちくしょう!!

73：名無しの転生者

俺たちは忘れていたのかもしれない、ここが女神転生の世界だつて……

74：名無しの転生者

久しぶりに風邪引いたわ、ちくしょうが！

75：名無しの転生者

馬鹿な、こんな力が存在するはずが……ぐはあ！

76：名無しの転生者

噛ませ犬おっ！

まあ俺も殴り倒されたんですけどね、ぶへへ

77：名無しの転生者

なにがあつたの??

すげえ勢いでスレ伸びてただけど、ここ過疎スレじゃなかったっけ？

78：名無しの転生者

雑談スレみてないのか？

襲撃あつただよ



79：名無しの転生者

どこ？

80：名無しの転生者

ガイア連合の支☆部

81：名無しの転生者

俺たち殴り倒されましたーいえあー！

いやあまじ嘘だろんだったわ

82：名無しの転生者

はあ?? ショタオジか、霊視ニキの嫁さんにもちよつかい出したん？

あるいはイギリスのプーサー嫁、コピー作ったんか？

83：名無しの転生者

あれもひどい戦いでしたね

マジギレしてたもん

84：名無しの転生者

リアル二次キャラで生まれたのが運の尽きでしたね  
せめて乳上にしておけば

85：名無しの転生者

いやいや乳下こそ最高よ、馬に乗って貰って  
下から見ると忠誠心とご褒美、だが夜では俺がご主人さまでぶへへ

86：名無しの転生者

逆ガウエインニキおつー

87：名無しの転生者

やっぱり現地人ぶつ殺そうぜ！  
アイツら危険だよ！ 逆らいやがった！

88：名無しの転生者

例外数人ぐらいで全部くるのは、メガテン主犯共の流れだからー

89：名無しの転生者

わかめくんはさあ、一緒にしないでほしかったよね

90：名無しの転生者

俺、終末始まったら悪魔相手にねずみ講するんだ

91：名無しの転生者

詐欺の手法マニュアルは揃えているぜ！

92：名無しの転生者

なんかいつもどおりのおれたちだけど

襲撃っていつもの鉄砲玉程度だった？

93：名無しの転生者

いんや、ダークサマナー（笑）共の自爆特攻の百倍ぐらい被害でたわていうかなんていうか、ううん。なめてたなあーって。

94：名無しの転生者

前スレみろ、マジブチギレてて炎上してたぞ

ヲチスレに誘導されてたけどよ

95：名無しの転生者

何がきたの？

96：名無しの転生者

LV63の悪魔が出てきた

97：名無しの転生者

は??

98：名無しの転生者

つ 「死神ケルヌンノス L V 63

破魔・呪殺・精神・魔力無効 衝撃弱点

使用スキル：デスバウンド マハ・ザンマ ベイバロンの気 咳き込み 悪化

ムドオン

さすがにムドオンとかは撃たれなかったが、咳き込みで風邪引いたやつめっさ出たし  
マハ・ザンマとかで囲んだ式神ふつとばされて、殴り倒されたわ

99：名無しの転生者

ひえ

100：名無しの転生者

L V 63?? 幹部級でも対抗できるか怪しいやんけ!?

101：名無しの転生者

結界! 結界はどうしたの?!

102：名無しの転生者

雑魚現地人が出せるわけねえだろこんなの  
やっぱり他の転生者が手引したんじやねえの？

103：★運営

現在調査中ですが、転生者は関係していません  
関係者による関与もないと判明しています  
冷静に判断してください

104：名無しの転生者

運営！ 運営！ あっちのスレやばいけど大丈夫？

105：名無しの転生者

あんまりBANされるようなことしないといいいんじやが

106：名無しの転生者

シヨタオジはどうした。

さすがに支部襲われたりしたら、出るべきだろ

107:★運営

神主「さすがに死人も出てないし、全員治ったからいいじゃん」と過労死手前で労働中です。

現在結界見直しと日本GPの上昇中の対応のため手が離せません。

108:名無しの転生者

シヨタオジダイーン!

109:名無しの転生者

神主ダイーン!

110:名無しの転生者

酒でものませてやってくれ

111:名無しの転生者

それ違う神主!

112：名無しの転生者

そんなクソやば出されたのって俺たち支部の結界に不備があったってこと？

113：★運営

死神ケルヌノスの契約者がいたこと

そして結界をすり抜けて、魔界本体から直接召喚出来る術者がいたこと  
それらによるイレギュラーです。

これらを含めて現在改善対応中です

114：名無しの転生者

魔界本体から??

115：名無しの転生者

ペルソナと違うの??

116：名無しの転生者



いやあれは心の海からだから。

117:★霊視

どうやらサバトマの使い手がいたらしい

118:名無しの転生者

サバトマって？

119:名無しの転生者

は?? あれって悪魔召喚プログラムなしで使えるもんなの？

120:名無しの転生者

ネミツサでも出たのか

121:名無しの転生者

メガテンしらねーからわからねえんだよ

誰だよそんな魔法、俺たちの中で取得したやついねえの？

122：名無しの転生者

悪魔プログラムなしで使える悪魔召喚魔法

一手番に一体しか出せんけど召喚コストを踏み倒せる特殊召喚  
ただし維持コストは別だったはず

123：名無しの転生者

式神ちゃんには無意味っすねえ！（悲しみのサバトマ初期覚醒者）

124：名無しの転生者

プログラムとか、管無しで意味あのかそれ

125：名無しの転生者

下手すれば格上相手でも呼び出せるぞ、コストいらなから  
呼び出せるだけだが……

126：★運営

支部の被害ですが、応接室と通路、壁の一部の物的破損のみ報告されています。

どうやら完全に制御されていた模様

死者は出ていません

127：名無しの転生者

死者が出てなくてもテロじゃん

128：名無しの転生者

何が目的だったの？

129：名無しの転生者

確か支部の代表が対応したんだよな？

アイテム欲しいとかかって、金とか交渉されたって

130：名無しの転生者

技術班が解析してた祭具だったはず

なんかどっかの神殿に収められてた柱型の祭具？

131：名無しの転生者

船乗りの柱じやね？

ケルヌノスっていつたらそれやん。

132：名無しの転生者

L V 6 3 の化け物悪魔を常時召喚出来るようにする道具ってコト?!

133：名無しの転生者

現地人何名生贖いるんだよ

俺たちでもさすがにキツイぞ

134：★運営

現在調査中です

対応敵性レベルの高さから、運営としても相応の対処を決定しました。

皆様には冷静な判断をお願いします

後ほど具体的な地名を出されたレスを削除します。

135：名無しの転生者

ほーい

136：名無しの転生者

しょうがないね、さすがにLV60はなあ  
勝てんわ

137：名無しの転生者

いきなりインフレしすぎだろ

138：名無しの転生者

もうちよつと鍛えておくか

139：名無しの転生者

LV30でも安全圏じゃなさそうだ

140：名無しの転生者

国外だけだと思ってたんだけどなあ

141：名無しの転生者

早く御霊狩りしたいです

142：名無しの転生者

タルタロス攻略班増えてくれー!!

レベルならなんとか上げる協力するからー!

もうハムネキへの補充運搬に登るのきついんじやー!

143：名無しの転生者

ハムネキのコミュ力鍛えさせたほうが早い定期

144：名無しの転生者

む☆り。

145：名無しの転生者

どうしてそこで諦めるんだ、もつと熱くなれよ！ もつとry

146：名無しの転生者

危機感が足りない!!

147：名無しの転生者

だって俺たちだもん

みつお

148：名無しの転生者

終末来ようが、殺伐したくねえぜ

149：名無しの転生者

しつかし強いやつはいるところにはいるんだなー

どんな奴だったんだろ？

（しばらく、現地の異能者あれこれ語って）

・ ・ ・

531：名無しの転生者

シヨタオジ出撃していったお

533：名無しの転生者

最終兵器GOしちやったかあ



あなたはあくまときょうそゝんてゝきますか？

ようやく束縛の解けた体を持ち上げてため息を吐く。

「まったくデタラメだな……メガテンらしいといえばメガテンらしいが」

ゴロゴロと転がる死屍累々（死んでない）。

市街地よりやや離れた閑散道、そこで追いついた手配犯である魔女とフィネガンとの戦いの結果がこれだった。

各支部と派出所からの情報連携、そしてトラポート最後に立ち寄って拠点などに戻る魔法、この世界においてはルーラのように各地に移動出来るなどを駆使した高速移動で転生者でも戦い慣れた連中と式神による混成チームだったのだが。

「まさか戦いもせずに即座に離脱に入るとは」

トラフリー戦闘から確実に離脱する魔法、ただしイベント戦闘などは除くを即座に使用、なんら躊躇いもなくあの魔女とフィネガンは距離を取ったのだ。

日頃からこちら転生者に勝ち目がないと逃げに入る奴らは多いが、それにも勝るとも劣らない即座の逃げ足にむしろ惚れ惚れするほどだった。

さぞかし日頃から逃げることに慣れているのだろう。

……いや、あれだけのレベルがあるのに国内で逃げるほどの悪魔がそう出るものか？

ともかく。

それで、囲んで袋叩きする前に俺たちは距離を取られた。

念の為にナトラップ100%属性スキル、3ターンの間戦闘逃亡不能効果を与える（女神異聞録ペルソナより）を身につけていた奴も用意していたが、いかんせん希少なスキルであり、先手が取れなければ意味がない。

結果的に複数人ずつ、連続した戦いになったのだが……

「レベル格差で状態異常も耐えられると思っていたが、効く時は効くものだ」

まさかシバブーでぶつとばされたあげくに、状態異常にさせられるとは。

精神系全般の対策をしていた奴らは無事だったが、魅了や幸福などの片方だけの耐性だった奴はどちらかか両方喰らった

（ダメージの発生するシバブーといい、複合効果のあるマリンカリンといい、あれは……）

「全く見事にやられたみたいだね」

つい先程まで気配もなかった場所から声が出た。

「最悪逃げ切られるぐらいは考えてたけど、少し予想外だな」

聞き慣れた声に、傍で自分を守ろうとして抱きついた式神を抱えながら振り向く。

そこには十代半ばにも満たないだろう少年が岩の上に座っていた。

思わずちつちえなとか言いそうなその外見を、転生者の男は知っていた。

神主、通称シヨタオジと言われる星神神社のデビルサマナー。

「シヨタオジか。分身か？」

「いや、今回は本体だよ」

そういう少年の後ろからするとネコ耳を生やした美少女にしか見えない悪魔——  
ネコマタが出てきた。

《にや、にや。情けない奴らだにや。やつぱり泣いたり笑ったり出来ないぐらいに修  
行させるべきだったんじゃないかなにや？》

クスクスとネコマタが嘲るように嗤い。

《主の判断に口を挟むな》

《ニヤ!?!》

耳元から囁かれた声にピンと背筋を伸ばした。

そのネコマタの足元の影が僅かに波紋を起こしていた。

「オングヨウキまで出して、今回は本気だな」

「まあね」

パチンと指を鳴らし、転がっていた連中の体が光に包まれて、のろのろと起き上がる。メシアライザー味方全体のHPを全回復し、状態異常回復か、あるいは常世の祈りメシアライザーと同一効果か。

まあどちらにしても神主なら使っても不思議ではない。

そんな色んな意味での信頼があった。

「ちよつと気になる情報を聞いて、想定レベルを上げてきたわ」

「……気になる情報？」

「うん。例の魔女つて奴に強奪された祭具もそうなんだけど、調査の結果やつぱり先 hands 出したのはこちらだった」

「やはりか」

あの魔女とフィネガンは、こちらの襲撃に關しても出来るだけ人死は避けていた。

瀕死状態になった連中には蘇生不能になるような追撃はしなかったし、式神に關しては容赦をしておかなかったがそれでも完全に潰すとばかりの戦い方をしていなかった。

まあこちらの装備とさんざん課金・ガチャした式神に、「種族どころか能力ばらばら

「じゃないのー！」とマジギレしながら引いていただけかもしれないが。

「襲った理由は？」

「クソツタレの邪神だよ。オールドメイドペルソナ2罰よりJOKER専用スキルって知ってる？あれでいきなり外から攻撃してきて、結果的に誰も知らない下手人と、襲われた被害者が残されたわけさ」

「あのスキル実在してたのかよ」

オールドメイド。

ペルソナ2罰で登場する、ジョーカーと呼ばれる怪人あるいはそれになった奴が使うスキルだ。

その効果はジョーカーを他人に寄生させ、突然同士討ちさせること。

ジョーカー様してないやつだろうがくつつくし、原作仕様ならアナライズしてもわからねえやつじゃねえか。

「はっはっは、最近先祖の悪魔とかが目覚めて共存してたのもあって普通に通しちゃったみたいだよ」

「やばい、やばくない？笑い事じゃなくない？」

「大丈夫、もう結界を改修した。喰らう憑依は避けられないけど、それを付けたまま支部に入る事は出来ないよ」

「早い、さすがシヨタオジ」

「褒めるのはいいけど、休みをください」

「ダメです」

「だよーなー」

いつもの問答をしつつも、他の連中がわーぎやーいいながら、自分たちの式神を蘇生したり、それに抱き締められている光景を見つつ、彼は声を出した。

「一回だけならうちの支部にも侵入出来ただろう虎の子を使うほどの、やばい案件だったってことか?」

「いや、あの邪神だからイケルと思ったからやったんじゃないかな。彼もそうだった」「これだからうーにやー野郎が!!」

敵も味方もどちらでも自由自在、なんなら自分同士で殺し合いすらも楽しんでやる最悪の糞邪神。

メガテン知識以外にもCOC知識などで散々理解している性根だが、現実にはやられると溜まったもんじゃない。

(クトウグア呼び出して焼き尽くしてやろうか、いやあれメガテンだと確か出てなかったな偽典・女神転生にて邪神クトウグアーとして登場。イカ邪神はいるくせに)

「で、なにをそんなことをしてまで妨害した祭具って?」

「あ〜……………」

「？」

珍しく、神主が顔を渋くする。

人の心がない。永遠のシヨタ。人の心がわからない。鬼畜外道。童貞。72時間働けますか？ お前だけだよ！ 日本最強異能者などなど、あらゆる尊敬恐怖畏敬を向けられているシヨタオジ。

星神社の神主にして珍しく、当たってほしくねえなーという顔を浮かべて、呟いた。「ごっくりつけておいた式神から情報は手に入れたけど、魔法の魔法って僕たちの知らない仕様だったんだよね」

「ああ。ダメージを与えるシバブーもそうだが、魅了・幸福を併発するマリソカリンを使っていた」

「……真1と2はどうだった？」

今回の追跡にわざわざ指名で食い込まれたかなり重度のメガテニストの転生者は少し顎に手を当てて。

「いや、確か違ったと思う。そも幸福ならハピルマで分かれたはずだし」

「僕たちが知らないとしたら、あとはNINE……はそこそこやってたやつがいるか」

「スタンドアローン版なら俺もやってた、スキル多すぎだが」

「となると、あとは携帯版と、偽典と」

「原作小説と、それが元になった真がつかない方の1と2だ。ん？」

なんか思い出したような……

額に手を当てて、体感記憶にして五十年以上の記憶を探り——神主の言葉がそれを中断させた。

「奪われた祭具はおそらくピラーだ」

「ピラー……？　皮むきじゃないよな、ピラーというて——?!」

思い出す。

その言葉の理解して、彼は青ざめた。

かつてこの世界がメガテン世界だと言われた時に匹敵するほどの青ざめを。

シヨタオジは少しだけ嫌なような顔を浮かべて、ぐるりと肩を回し、告げた。

「魔界の門が開く」

「真・女神転生2で救世主アレフが、魔界の門を開くのに使ったのが7本のピラーだ」



★悪魔召喚プログラム（原作）について語るスレ 11

.....

123：名無しの転生者

だから悪魔召喚プログラム欲しいんだって！

いい加減式神以外にも手数ほしいんですけどー！

124：名無しの転生者

世界滅びるわ馬鹿

125：名無しの転生者

スマホでなんとかならない？

デビサバ式でこつちで管理できるサーバー用意してさ

126：名無しの転生者

んなもん出来るのにそもそも悪魔召喚プログラムが必須な件について

127：名無しの転生者

なんでや！ 悪魔自体電子データにぐらい出来るだろ！

128：名無しの転生者

いや俺らまだ大半電子じゃなくて呪術的なあれこれで加工してるわけで

そうじゃなかったら一々手引書なんて見ずに、式神作ってるわー！（まだ下位式神しか作れない奴

129：名無しの転生者

でもよお、グラン

もうシヨタオジとか悪魔合体出来るじゃねえか

130：名無しの転生者

悪魔合体は悪魔召喚プログラムなしでもできんだよ

ライドウシリーズやってないのか？

131：名無しの転生者

そもペルソナでも鼻長おじさんがやってるし

まいんどまんさーなんたらかんたら

イビルフォンとか誰かみつけてねーかな

132：名無しの転生者

あれもオカルト技術定期

金王屋とか現代残ってないんだっけ？

133：名無しの転生者

普通に東京空襲で焼けたっぼい

子孫とかはデパートやってる

134：名無しの転生者

地下は？

135：名無しの転生者

あのマッド、今は船乗りだったら見つかったんだけどなー！  
メシアに狩られたかなあ

ほとんど吸血鬼だし

136：名無しの転生者

原作キャラなんてゴトウとかぐらいしかいねえから諦めろん

フィネガンはこの間暴れてたらしいけど、マヨーネお姉さまでさえよわよわだし

137：名無しの転生者

味方になるだろう戦力は原作レベルで欲しい！

なんで使えそうな味方だけ弱いんじゃない？！ メシア共だけまんまの強さやんけー！

138：名無しの転生者

これだからメガテニスト共は

ゲーム設定をリアルに持ち込まないでくれる？

139：名無しの転生者

それ以外に使えそうな知識が、ね。

前世パンピーだったのに、転生チートできるかあ！

140：名無しの転生者

悪魔召喚プログラム、上のほうで開発禁止らしいしなあ

でもそんなに強いのか？ 名前とかよく聞くんだけど、誰が作ったんだっけ

141：名無しの転生者

ステイブン

なお同じ名前多すぎてマジで見つからない模様

142：名無しの転生者

いやあれ、ヴィクトルだろ？ デビサマシリーズでステイブンでねえし

143：名無しの転生者

あの二人共どっちもコピーだぞ

オリジナル作ったのアイツじゃない、中島です

144：名無しの転生者

は???

145：名無しの転生者

え、違うの？

146：名無しの転生者

それ原作小説信者の意見じゃねえの？

147：名無しの転生者

ちやう、これ公式設定。

TRPGの覚醒編だったかな、Nの作った悪魔召喚プログラムを解析  
幾つか段階をわけてDDS—NETに流したのがステイブン

だから最初の真1だと格納数がしよぼいとか、魔界のジンだと会話しか出来ない不完  
全な奴だった

148 : >>143

連レス失礼

で、多分自力で開発か、あるいはその流れた悪魔召喚プログラムを手に入れて

改良、オカルト技術などで補強したのがヴィクトルだと思われる

原作キョウジのGUNPとか、ファントムの連中のCOMP類もあいつが作ったりしたやつだし

キーボードがルーン文字のならあいつ製作だな

149 : 名無しの転生者

中国かよー!! スティーブーン!

150 : 名無しの転生者

そんなコピィでイキつてた奴らだったなんて・・・

がっかりしました、ミクにやんのファンやめます

151 : 名無しの転生者

なんでやミクにやん関係ないだろ!

152：名無しの転生者

もういい、あたし競馬やめる!!

153：名無しの転生者

そうするんだな、故郷にお前の帰りを待っているものもいるだろう

154：名無しの転生者

悪魔召喚プログラムってつまり

・中島オリジナル

・ステイープンコピー

・ヴィクトルコピーの三種類があるってこと？

155：名無しの転生者

あと魔神転生とかのDIOってやつもなかったっけ？

あれ確か2の主人公が作ったやつだっけ



156：名無しの転生者

いや1の主人公に流しただけのはず？

DIOは政府が作ったタイムマシンとかの機能があったような

157：名無しの転生者

デビルライターって誰が作ったんだよ

どうせ閣下だろうけど

158：名無しの転生者

デビチルまでしらねえよ！

159：名無しの転生者

これで5種類か

悪魔召喚プログラム多すぎい！

160：名無しの転生者

確か漫画版とかで、鳩だったか、悪魔使役できる淫紋があったはず？

161：名無しの転生者

人修羅の紋様と違うんか？

162：名無しの転生者

管でいいだろ、管で！

いやたくさん出せるならそっちのほうがいいけど

163：名無しの転生者

あーもーめちやくちやだよ

164：名無しの転生者

この世界でねえならメガテンであっても意味ねーんだけどな、がははは！

165：名無しの転生者

中島つてやつが作ったのは凄いいけど

悪魔召喚プログラムっていうほどやばいか？

せいぜい魔界に繋がって、ちよつと終末早めるぐらいだろ 今の環境だと

166 : 名無しの転生者

それも政府協力的ないと無理だしな ターミナルとか作らんと

167 : >>143

学校のパソコンあればいけるぞ、中島のだと

下手すると今のPCスペックならスマフォだけで魔界直通する

168 : 名無しの転生者

は??

169 : 名無しの転生者

あいつ、フロッピーとか使ってる時代の糞雑魚PCで

しかも学校とかの学習の雑魚スペックPCだけで

魔王ロキがスライム状態から、魔界直通させて、復活させちやったし（放置して）

170：名無しの転生者  
まって??

171：名無しの転生者

おいまてえ、IFってたやつでもガキぐらいしか学校のPCで出せんはずなんだが??  
魔王ロキってどういうことだ??

172：>>143

原作小説はちよつとインフレ激しい設定だから省くし、原作だともいう前提で言うが  
推定中島の悪魔召喚プログラムだとステイブンとかヴィクトルのやつより何倍も  
やばい

確か、終末入ると物理法則狂うからPC使えない奴でも、悪魔召喚プログラムいれ  
ば使える推定あつたやろ?

173：名無しの転生者

あー魔界のジンの携帯のやつな?

確か魔界の空気だとエーテルあれこれ問題あるから、電気繋がってなくても使えるか

もみたいな

174：名無しの転生者

メガテンは都合いいなあ！エネルギー問題解決！

175：名無しの転生者

ゲーム版だとあいつ、魔界に殴り込んで普通に悪魔召喚プログラム使ってるから多分使える

ついでに学校のPCで使える辺りの設定、悪魔召喚プログラムだと俺たちの今やってるオカルトあれこれの

儀式よりも遥かに精密で高効率で存在確定する（おかげで学校のPCでロキが復活した）

だから大正時代に管とかで1体or2体でライドウ頑張ってたのに対して、5体ぐらい並べられる

176：名無しの転生者

□

177：名無しの転生者

「

178：名無しの転生者

いや、それぐらいはゲームでよくあるやつで、うん

179：>>143

さらに俺もうろ覚えだが、それでゲート作り出して、高位の悪魔を何体も手先で呼び出すわ

ゲームだとなんとか中島たちが殴り倒したけど、そこから魔界に繋がってたせいで

閣下とか大魔王として出てきたりして、結局魔界に乗り込んで殴り倒しにいったはず、LV60ちよつとぐらいのレベル制限で

180：名無しの転生者

よくもまあおぼえてますね（汗）

181：名無しの転生者

もしかして悪魔召喚プログラムって存在したらいけないやつ？

182：>>143

割とガチでやめとけ案件ですわね

デビサバみたいに携帯ばらまきで、繋がったら多分一日で終末来るわ

183：名無しの転生者

ステイプン殺さなきゃ！（錯乱）

184：名無しの転生者

本当にこの世界に存在してなくてよかった

185：名無しの転生者

まだどつかで作られてる可能性あるかもしれないがな

186：名無しの転生者

なかじまあああああああ！

187：名無しの転生者

そういえばイザナギとイザナミって、封印されてなかったんだっけ？

188：名無しの転生者

今の所見つかってないな、トップは引きこもりぐらいだし

189：名無しの転生者

転生してないだろうな（汗）

190：名無しの転生者

やめやめろ！ ちよつと思いついたけど、されたらたまつたもんじゃねえぞ！

191：名無しの転生者

日本神話の神共は迷惑しかかけられないのか??



192：名無しの転生者

わいら日本人、別にアイツらに作られてないのになんか威張ってんだぞ

193：名無しの転生者

利用し合うしかないだろ

結局終末問題解決してねえしー、かー

・ ・ ・

（このしばらくあと、悪魔召喚プログラム（メ）の存在が公表されて阿鼻叫喚になった）

・ ・ ・

841：名無しの転生者

すていいいいいいいぶううううん!!

842：名無しの転生者

お前ほんままじで!! まじでさあ!

843：名無しの転生者

誰だよ、この世界に存在してないっていったやつ!  
多分ワイだ!!

844：名無しの転生者

落ち着け! 中島製作じゃないのは判明したんだ!

845：名無しの転生者

同じNだからあいつじゃねえの???

846：名無しの転生者

違うだろ多分、きつと、おそらく

847：名無しの転生者

誰か天津神に膝蹴りして、イザナギ呼びにいかせろ！

怪物には怪物を、悪魔召喚プログラムには悪魔召喚プログラムをぶつけんだよ!!

848：名無しの転生者

悪魔合体する未来しかみえないわ!!

849：名無しの転生者

世界が滅びる、もうだめだあおしまいだー！

850：名無しの転生者

まあ機能制限したやつでもわいらの手に入るみたいだし？ 少しはね？

851：名無しの転生者

イアイア呼べる奴だけは絶対嫌だけどな!!

852：名無しの転生者

こうなったらパスカル飼ってる男子高校生を虱潰しに探してその近所を!

853：名無しの転生者

落ち着け定期

854：名無しの転生者

もうこんだけやばいなら今更いらないつすねー、おほほほ

世界は手遅れだったんだよ

855：名無しの転生者

アメリカなんてことをしてくれませうの??

856：名無しの転生者

ていうか、今あつちの(メ)スレで言われてるけどさ

4 文字の加護ってことは、やっぱりアイツのじゃないよな？

857：名無しの転生者

同じNだからといって、中島の作ったやつなら違う加護入るよな？

858：名無しの転生者

イザナギ本体だもんな

オリジナルではない加護のはず

まあ斜め上にクソ厄介な性能詰め込まれてるけどなあ！ くそが！！

859：名無しの転生者

確か旧約であいつのプログラムで、あのくされ奴に歯向かってたはずだからオリジナルはないってことだな

860：名無しの転生者

旧約？ 閣下ぶんなぐりにいくやつじゃなくて？

861：名無しの転生者

いや確かメシア教と戦うストーリーがあったはず  
中島の次のも同じ閣下で、あとサタンだったけど

862：名無しの転生者

何度でも殴られる閣下

863：名無しの転生者

大体あいつが頑張って黒幕やってるしね？

864：名無しの転生者

使いつぱしりのくせに大物感マシマシだけどな

865：名無しの転生者

女装もするぞ

866：名無しの転生者

なんか忘れてる気がするんだが、なんだっけかな

867：名無しの転生者

どした？

868：名無しの転生者

閣下とは出会いたくねえ、マジで

869：名無しの転生者

ともあれこれでコソコソ作ってたGUMPの出番ってやつだ！

870：名無しの転生者

スマホをガントレットに内蔵して、かしやこーん！

アームターミナルうゝ（CVのぶよ）

871：名無しの転生者

わさびじゃないのか

872：名無しの転生者

俺の前世だと既にわさびしか聞いたことがない件について

873：名無しの転生者

やめやめろや！

874：名無しの転生者

悪魔合体も実装されるのかしら

技術部う、頑張ってくれ！ メギドラオンピクシー作るんだ！

875：名無しの転生者

悪魔合体師この現代で生き残ってる奴いないんじゃないか？

876：名無しの転生者

ガイア技術部ならなんとかかにかかるとかするだろ



877：名無しの転生者

DS改造して、悪魔呼び出せるようにしなきゃ。

878：名無しの転生者

あんまり仲魔ばかりいじっていると、式神が拗ねるぞ

879：名無しの転生者

メガテニストのサガなんだ許してくれ！

880：名無しの転生者

メガテニストなんてこの世界で言っても誰も理解出来ないんだよなあ

881：名無しの転生者

体が闘争を求める

882：名無しの転生者

フ〇ム脳なら俺たちが再現したでしょ？

883：名無しの転生者

さすがだよなあ、ばつちり流行らせたぜ

884：名無しの転生者

しかし本当に出現情報誰も出してないけど

銀座の地下に閣下水漬けになってねえだろうな

885：名無しの転生者

メシア共が封印した南極に置き去りにされてるんじゃないかね？

886：名無しの転生者

今思うとあっちもイアア封印してたってことになるのか

887：名無しの転生者

あー

888：名無しの転生者

そういうこと？

889：名無しの転生者

やんなるわね（汗）

890：名無しの転生者

マンセマツトは膝蹴りしないと焼売にされる

891：名無しの転生者

段々ガチでメガテン世界に近づいてるのを感じる

892：名無しの転生者

いまさらだよ、もうこの世界はメガテンなんだ

893：名無しの転生者

つれえ

894：名無しの転生者

悪魔の力を借りてでも生き延びないとな

895：名無しの転生者

悪魔なんてこの世から消えちまえばいいのに

896：名無しの転生者

そんなこと出来たメガテンは一つもねえよ

897：名無しの転生者

人類もろとも死滅したエンドはあつたけどな！

898：名無しの転生者

コトワリ無責任とどつちがいいやら

899：名無しの転生者

転生も楽じゃないわー

900：名無しの転生者

女神転生は伊達ではないんだぜ

901：名無しの転生者

お前らも雌オチするんだよ！

902：名無しの転生者

速報 中華街でヴィクトル発見される

903：名無しの転生者

は  
???

904：名無しの転生者

え  
??

905：名無しの転生者  
なんで?!

906：名無しの転生者

悲報 同場所でガイア連合の黒札持ちバトルが勃発中

907：名無しの転生者  
ナンデ??

908：名無しの転生者  
悪魔召喚プログラム持ちが見つかったんだよ!  
国内でなあ!!

909：名無しの転生者  
やばくね?

910：名無しの転生者

おのれめしああああああああん!!

911：名無しの転生者

平和は遠のいていくんだな、こうやって

.....

よーこそ、らいほうしや！

ずるずる。

ずるずるずる。

中華街、その片隅で見つけた中華料理屋でヒデトは担々麺を啜っていた。

(美味しい)

ずるずる。

この時代、この世界の飯はどこも美味いと感じる。

思い返すのはシエルター暮らしの限られた配給制と、外に出てから雑多な食えるだけでいい飯。

探索の最中には大体期限もわからない缶詰や、携帯食料品を齧りながら、悪魔と戦っていた気がする。

(いや、魔界でも美味しいのを食べたな)

ビストロアングリー。

魔界の怒りの地で立ち寄ったレストランで食べた記憶が蘇る。

自分がスタミナ定食(白蛇の蒲焼き 電気鰻丼 朝鮮人参のケーキ)で、彼女が珍味



デイナー(フオアグラ ニライタメ定食 キャビア丼 トリュフの土瓶蒸し)だったか。  
(意外と人間界の食料も、魔界人の口に合うんだったか)

あそこの店主はゾンビだったわりにはいい腕をしていたし、あそこのテイクアウトで  
モーラと交渉も出来た。

(また魔界にいったら寄るのも悪くないな)

懐かしい思い出に浸りながら、担々麵の汁を啜る。

辛い、痛さにも似た味だが、心地よく感じる。

この世界に来てから数ヶ月、様々な場所にいったら悪魔も探さなければ見つからない  
程度に少ないし、表立って悪魔を信仰する教団もない平和さだ。

過去の記憶資料などから見たことがない人間らしい生活というのだろうか、それがあ  
る。

戦力の確保とレベル上げに全国を回りながら、ヒデトはその生活を見て回り、様々な  
ものを口にした。

遠い記憶というにはまだ生々しく、まだまだこの世界の暮らしには馴染みきれていな  
いが、それでもこういうのは嫌いではない。

自分にそんなことを思える感性があつたことに我ながら苦笑している。

(次は何を食べるか)

腹の心地を確かめながら、片付けていたメニューを開く。

全国を廻り、もう一度邪教の館を探そうと都心部に戻ってきて寄った中華街だったが、この店は当たりだ。

「ヴィクトル！ 次運びなさい！ ちんたらしないの！」

「ええい、何時に成ったら終わるのだ！ ようやく念願のプログラムが手に入って、いざ研究というのに！ 私は会計だったのでは?！」

「休日になりなさい休日に!! 電気代嵩むし、またブレーカー落としたら只じゃおかないわよ！ 家賃分は働け!! 手が足りないのよ！」

「ぬおおお！ いらっしやいませー!! 太陽があつーい！」

黒髪の美人店主に叱られながら、血色の悪い店員がわたわたと働いている。

ゲコゲコとどこことなく悪魔な気配もするメイド（とかなんか見かけた？）風味の店員が、それ以上にせかせかと働いている。

とても忙しそうだ。

まあここの飯は美味しいし、美人がいるとなれば客も来るだろう。

（お金を稼ぐというのも大変だな）

こっちは道具を揃えて悪魔を殺すだけで大体事足りるが、そうでない場合はもつと大変な気がする。

そういえば彼女と魔界の魔王全部斃したら、悪魔も地上に出てこなくなるかもね。

なんて会話をして、そしたら何をやるか笑いながら話したような気がする。

(ネットで調べたところ、プログラマーというのも悪くないが、どこかの会社で研修受けながら覚えるんだらうか。新しい言語はたくさん出てみたいだし、あ、その前に高卒認定テストの対策もか)

さすがに大卒認定試験は色々勉強が足りない。

戸籍はなんとでもなったが、そろそろどこかに拠点を作るべきか。

幸い金はある程度溜まってきたし、ガイア連合の貸し出し工房サービスなどもあるが、それらは大体予約がいっぱいか、大きな組織の紹介状がないと門前払いだ。

おかげで旅の途中とサイバネ博士のところまで身につけた知識技術で義手を整備し続けているが、どこかで一度オーバーホールをしたい。

サタンとの戦いに、唯一神との戦いから動かしっぱなしだ。

ある程度は時間を巻き戻されたかのように治っていたが、それでも不安は残っている。

(いやしかし、まだマグネタイト屋も見つけてないし、封印されてるといふ悪魔も一部

残ってるしな)

どこのダンジョンにいつても、たまに遭遇していたマグネタイト売り女神転生ⅠⅠにて出沒、マグネタイトの詰まった大・中・小の袋をマッカにて販売していた。ただし大きな袋に大きいポイントが詰まるとは限らないランダム要素ありに遭遇していない。

そして、どこかしらにいた悪魔使い女神転生ⅠⅠにていた主人公以外の悪魔使い、COM Pを装備していたが基本ダーク属性悪魔も殆ど見かけない。

(サイバネ博士も悪魔召喚プログラムを研究していたくせに、存在していたことを知らなかった)

この世界に存在しているかかわからないが、自分の義手をかなりの値段で接合手術をしてくれた博士の言動を思い出す。

まああれは研究し過ぎて頭わりとおかしくなっていたけど。世界征服するとかいってたし。

いや、他の悪魔使いはたしか……滅んでいたレジスタンスの使っていたものを再利用してたか？

(魔王バアル、東京を支配し、天使すらも従えた超越存在)

俺と親友がシエルターにいた時代よりもっと前に人類の反撃は終わった。

ICBMで世界中の人間は死んで、放射能や、出現していた悪魔に対して、機械技術などで装備していたデビルバスターなどが必死に応戦していたという。

東京を支配していた悪魔に対しても、レジスタンスが結成され、戦っていた。

だがそれも結局全滅した。

女神イシユタルを崇めていたイシユタル信仰や、魔王バールを崇めるバエル信者などが東京にいたらしい。

まだ人間と悪魔が争って抵抗していた時代で。

だがそれも結局滅んだ。

俺と親友がシエルターから出たのは何もかも終わった時代だった。

悪魔に支配され、無力な人々はサバトを行い、何もかもが悪魔に置き換えられた世界で。

魔王ルシファアは斃されて(まあ結局は氷漬けに封印されていたが)、その混乱していた時に出ただけで。

全てを殺し尽くすだけでは何も変わらなかったのか。

(難しいな)

彼女のようにな、自分は魔法も使えないし、プログラムなしでは悪魔も呼び出せない。

やれることは悪魔を殴り、斬り、銃で撃つぐらいだ。

悪魔に苦しめられている人がいればその悪魔を倒すか、交渉する。

人に苦しめられている悪魔がいれば話を聞いて、取り成すか、どうしようもないならそいつを倒す。

それしか出来ない。

「色々考えることも多いな……………」

ため息が出る。

まあ何か腹に入ればいいアイデアも出るだろうと、追加を頼もうと手を上げようとして。

—— ENEMY ALERT ——

サイバネアームが警報を表示していた。

「全員伏せろ!!!」

感じた寒気と、外窓から見えた魔力の輝きに声を上げて、荷物を手で掴んだ。

窓ガラスが粉碎された。

・  
・  
・

メイガス。

そう呼ばれるメシアンたちの指導員となり得るほどの靈マダネタイト力を保持している初老の男は逃げ向かつていた。

秘密裏に向かったのは横浜の中華街。

すなわちチャイニーズ共がいる異端の依代であり、必然中華戦線とも縁が強く、安全な日本へと逃れた華僑の縁者も多い。

(ガイア連合を、毒婦たるチャイニーズ共から引き剥がす。さすれば正しき信仰にすぐ目を覚ますに違いない)

メシア教ガイア派に対して、そのメシアンは盛んに叫ぶ自称穩健派の言葉都合よくを彼なりに受け止めていた。

故にそれを毒す多神連合や、中華戦線、信仰を違う者たち全てを敵と見なしていた。

意見を共にする同士たちも動き、中華街を囲うあちこちで一斉に聖務テロを發動せんとした。

「なにしてくれてんだてめえら!!」

「やめろや! 人どんだけいると思つてんだ!」

「これだからメシアンは」

「デュエル開始い！」

だが呼び出さんとした同士たちの多くは、その寸前で飛び込んできたガイア連合の戦士たちに阻まれ、あるいは天使を封じる結界にて討たれ、一部はプログラムの発動を阻害された。

「くそつたれ！ 天使召喚プログラムの対策システムなかったらアウトだったぞー！」

男を逃さんと、その身をもって立ちはだかった仲間を聖書型COMP諸共両断した戦士が叫んでいた。

（異端派<sup>秘健</sup>の仕業だー！）

逃げる、必死に逃げながら、ついに天使を裏切った異端共めと男は罵倒を繰り返していた。

サタニスト、魔女、天使を裏切る、神へとツバを吐く行為を行った者共へ、無限にも思える義憤の怒りが漏れ出し、その足のままに中華街へと飛び込んだ。

本来使うはずの聖書型COMPは初手にて叩き落されていた、同時に腕は折れている。

だが震えながら懐から取り出したのは携帯型ゲーム機。

与えられた天使召喚プログラムを、改造を施した携帯型ゲーム機にインストールして



いたそれは戦士たちの目を免れていた。

(呼び出す、我が生命を全て捧げてよい、汚らわしい神を信じぬものたちに鉄槌を!)  
設定されたのは中華の偏見たるもので歪められた解天使の釈似姿たち天的に天使っぽい奴ら。

これを暴れさせ、中華戦線の者共による日本への被害を出す。  
さすればその本心をついに彼らも理解するだろう。

「ふあはーははは!! いでよ、天使様!」

必死に走り出し、十字路のど真ん中で叫び声を上げた老躯の男に怪訝な顔をする通行人たちに、狂った笑みを浮かべて。

彼はスイツチをいれて。

— ERROR ERROR —

「は?」

起動しなかった。

「てめえがスイツチを入れるその寸前で、俺が停止プログラムを起動させた」

ドドドドドという音が聞こえそうなほどの気配が後ろに。

男はゆつくりと振り返り、それを見た。

両手をポケットにいれて、黒い学ランを着た青年を。

「な」

「オラア!!」

学ランの青年の拳が腹部にめり込み、ゲーム機が吹き飛ぶ。

上げられる悲鳴を、時を止めたような速度で口を塞ぎ、ねじりながら首を圧迫して失神させる。

見た目からはガクツと倒れた男を、学ランの青年が受け止めたようにしか見えなかっただろう。

「まったく、ちょっと医者に連れていくぜ。大人しくしているよ、じいちゃん」

口を塞ぎ、見えないところで骨を数本へし折って、びくびくと痙攣するのを抑えながら、アピール。

通行人たちがあ、そういうこと。という雰囲気を目をそらしたのを見ながら、彼は帽子のつばを抑えた。

「やれやれだぜ。デビサバされたらたまったもんじゃねえからな」

完全に失神してるのを確認し、目を落した携帯型ゲーム機——奇しくもCOMPと呼ばれるだろうものに向ける。

「悪知恵だけは本当に働くな。これもメガテン補正つてやつか、くそつたれめ」

確かプログラムを入れるだけで加護が入る、ゲーム機でも異界でも動くようになる。そんな説明を思い出しつつ、彼はゲーム機を拾い上げて見た。

— OPEN FULL SUMMON —

「なに?」

手にした端末機からぎゆるぎゆると音を立てて、マグネタイトが奪われる!

「馬鹿な、こいつは!」

— JESUS —

救世主を

— DESTROY —

破壊せよ

「スロープラチナ!!!」

空間が膨張する、即座にスタ<sup>ベル</sup>ンドを召喚。

その拳がゲーム機に叩き込まれ……壊れない

「!? シアーハー○アタック並の耐久力だとお!!」

物理無効か、あるいはそれ以外のギミックか。

とにかくまずいと距離を取り、飛び上がった地面が揺らいだ。

(まずい!!)

この兆候を、青年は知っていた。

幾度にも挑み、破壊し、あるいは生み出されたものを。

異界。

世界が変貌する。

「承太郎さん!!」

「ジョータロー!!」

「下がってろ!! こいつはやば」

駆けつけてきた転生者の仲間に声をかけながら、彼は視界が白い光に塗り潰された。

なにかまずいことが始まる、始まっていた。

その予感を確認しながら。

世界が一変した。

転移した時にも似た感覚、掴んでいた荷物と武器をチェックしながら、起き上がる。

「……異界化か」

店の配置は変わっていた。

正確に言えば、外と内側の光景が変わっていた。

悪魔の気配がとどころどころからする。

(人は、いない、いや取り込まれたか)

一定以上の異界となると、覚醒していない人間では変換された異界に取り込まれてしまう。

自分のいたかつての世界では全員が既に覚醒していたから知らなかったが。

早く解除しないと、どれだけの人間が廃人化するか。

(店員も、店主もいない。取り込まれたか?)

ざっくりとアナライズした時は全員ともレベル0だったから、一般人だろう。どちらにしろ早く助けないといけない。

銃と武器を確認し、フル装備に身を固める。

最後にマントを羽織り、外へと出る。

空は……黒く染まって、月は銀色に輝いていた。

悪魔の気配が濃い。

これは取り込まれた人間の影響か？

## — ANALYZE —

悪魔召喚プログラムを起動、内包エレメントから神話体系を抽出、解析する。

【仙族】と【ヘブライ神族】……仏教と大陸系か？ インドもあるだろうか）

あとは直接戦って、基礎レベルと傾向を見ないといけない。

## — SUMMON —

種族 天使 ニケー LV36旧約II（魔神転生II） 属性・CHAOS—LI

GHT

相性耐性 火炎弱点 氷結・電撃・爆発・破魔に強い 呪殺無効

《勝利を捧げるは我がサマナーのみ》

種族 飛龍 パイロン LV35(64) 魔神転生(旧約Ⅱ) 属性NEUTRAL

相性耐性 火炎・氷結無効 ガン・神経・精神に強い 破魔無効 呪殺反射

《うううう! まったくようやくの出番だナア!》

「頼むぞ、ニケー、パイロン」

《任せてオケ! 飛ぶか?》

《私が護衛に付きましよう》

「空の警戒を頼む、まずは地上から取り込まれてない人がいれば助ける。情報収集だ」

加速度的に激化する戦いの中で出せずに、眠らせていたかつての仲魔たちに手早く指示をしながら、周囲を警戒。

何が起こったのか。

何者かの戦いの余波？

だがここには人が多い。

(また人が殺され回る光景を見るのはうんざりだ)

ヒデオは決意し、天使と龍を連れて歩き出した。

今のこの環境で悪魔を、天使を引き連れて歩む意味を理解せずに。

「見つけたぞ、メシアン！」

「ぶつとばすのじゃ！」

二度目の、ガイア連合との戦いが始まる。



さあーて、やくしやはそろったな!

異界の空は薄暗い。

出没する悪魔は都内とは思えないほどに強い。

種族 夜魔 エンプーサ L V 1 4

種族 降天使 ゼパール L V 1 8

種族 夜魔 リリム L V 2 0

種族 降天使 ヴォレル L V 1 4

種族 妖鬼 オニ L V 2 5

種族 龍王 オウリユウ L V 2 7

種族 降天使 アバドン L V 2 4

△フライ神族  
天使が多い。

マグネタイトの消費も考えて、ニケーとパイロンで始末していく。

(基本GPは20前後ぐらいか？ イケブクロのほうなら確かコンガンジとかいうのが悪魔の発生を防ぐらしいが)

それとも抑えてこの程度で済んでいるのか。

剣を滑り込ませ、オウリユウの胴体を輪切りにしながらそんな事を考える。

《サマナー！》

ニケーの声が響き、引き抜いた銃口を上に向けて、発砲。

奇声を上げて襲いかかっていた降天使墮天使と同じく元は天使であったが、自ら魔界へ降ることを選んだ悪魔たち。TRPG覚醒編以後、墮天使と習合された種族が砕け散り、マグネタイトの残滓を残してかき消える。

最後の足掻きと投げつけられた槍の残滓に首を捻り躲し、下半身を落として、旋回。  
風切音。

デスタッチの燐光を放ちながら手を振り抜いた夜魔を見上げながら、顎下から剣を突き上げた。

《あ、べ》

「悪いな」

断末魔を上げ終わる前に、腕を叩いて、勢いのままに両断する。

マグネタイトに変換されるより早く吹き出す血飛沫。

これは邪魔になるので死体ごと蹴り飛ばし、マントで防ぎながら、次はどこかで見渡して。

……気がつけば既に周囲は全滅していた。

「数が少ないな」

息を一度吸い、死んだふりをしているだろう倒れた悪魔に銃弾を叩き込む。

《都内の異界だからでは?》

死んだふりから死体に転げ落ちる悪魔。

それが銃撃無効でも耐性でもないことを記憶しておく。アナライズすれば耐性を読み直せるが、とっさの時でも判断出来るようにする癖だ。

「いやあれだけの人数を巻き込んだんだ、もつと頻度が多くてもおかしくない」

銃弾を一発装填し、マガジンを交換して、装着する。

グリップが滑らないように軽く拭いてからガンホルダーに入れて、ようやく地面に突き立てていた剣を手取る。

「誰か戦っているか、あるいは統率を取っているボスがいるな」

びゅんと軽く振って血糊を払う。

すぐに使うことを考えれば血まみれでも構わないが、血塗られた状態だと悪魔との交渉もしにくくなる。

余裕があるとは、身だしなみも大事だ。

殺すにしてもすぐに逃げられたら面倒だし。

《なるほど、数が割れていると》

《どちらにしろブチ殺せばいい!》

「状況次第だな」

血糊を払った剣の状態を見る。

今使っている剣はプラズマソードではなく、好事家から譲り受けたカタナの一振りだ。

何本かまとめてもっていて、予備はコインロッカーに預けている。前に使っていたプラズマソードは気に入っていたが、酷使のせいかこの間壊れて捨てた。

大物との戦いに同じく悪魔から殺して奪った妖刀ニヒルもあるが、使っていると体力を奪われるのでその時以外は使いたくない。

(そろそろまともな名刀が欲しいな。デーモンスレイヤーまでであると安定するんだが)

風神剣でもいいと思うし、出来ればエクスカリバー旧約女神転生Ⅱにて登場、男女両方で使える聖剣。装備して歩く度にHPが回復するが欲しい。

あれはいいものだった。

使っていれば勝手に体力が回復するし、切れ味もよかったので彼女に渡していた。

(イギリスにいけば手に入るだろうか?)

前は魔界で手に入れたものだが、こっちの世界ではイギリスという場所に伝わっていた聖剣らしい。

昔はICBMで吹き飛んだ場所だが、その縁もあつて魔界に落ちたならまだこの世界にあるのかもしれない。

(アーサー王しか使えない剣とかつてたってたけど、俺も彼女も普通に握れたしな)  
武器探しに公立図書館を利用して、調べた伝承の内容を思い出す。

松明100だったか、1000本分も輝いてはなかったなと思つたんだつたか。

(いやそれは選定の剣だったか？ んーごちゃごちゃ色んな説があつてよくわからないな)

まあどつちでもいい。

使える武器なら欲しいと思うし、魔王クラスと戦うにはカタナだけだと辛い。

今の装備だと魔界に入つてすぐに苦戦するだろう。

金がいる。

日本国内だけだと武器も足りないし、今上げたエクスカリバー以外にも伝説級の武装が欲しい。

渡航するための手段はやはりお金と、あとコネだろう。

(平和に生きたいつもりだったが、この流れだからな)  
備える。

巻き込まれたこんな事件もあり、ますます危機感を強く感じる。

かつて起こつたという魔王ロキによる地上侵略の再開か。

あるいはそれ以上か。

ICBMの乱射で地上がまた焼き尽くされるようなら、今以上に悪魔が出没することになる海外はもうそうなっている時系列である。

《サマナー!》

「どうした?」

《異界の中心地に近づいています》

パイロンとニケーの声に、思考を現実に戻す。

長く続いた通路の先にあつたのは、どことなく砦を思わせる門前だった。

「ハハハ」

周囲を見渡し、買っておいだ携帯食を口にする。

パック焼きそばペルソナ5S 味方全体のHPを20回復、肝油キャンディーペルソナ5S 味方単体のSPを30回復、シークワーサーソーダペルソナ5S 味方単体のSPを10回復など回復量は微々たるものだし、マグネタイトの回復効率は良くない。

だが、この世界では回復薬はろくすっぽ売ってないし、取り扱ってららしいガイア連合では売ってくれる場所や扱いにもバラがある。

マツカでの購入が出来ても、そもそも販売してくれないケースが多い。

現金はあるのにと嘆く人がいて、その人のために異界に潜り、探索することも多々あつた。

だがそれでも、やれることはある。

不条理に嘆くだけなら悪魔に喰われるだけだ。

動ける程度に腹に収めて、意識してマグネタイトを発生。

プログラムを表示し、次に出す仲魔のリストを整頓して上へと上げながら、順番を認める。

切り札にはきついが、それなりにコツコツ殺した悪魔の不活性マグネタイトのおかげで出すには足りる。

息を吐く。

吸う。

そして、扉を蹴り開けた。

中を見た瞬間、視界に飛び込んできたのは三人の人影で。

—— 混沌の海 ——

膨大な破壊が、ヒデトたちを迎えた。



— 聖なるかな！ 聖なるかな！ 聖なるかな!! —

— 我が祈り、人が痛み、全ては主の試練なり！ —

種族 聖柱 メイガス LV32 Dark—Law

相性耐性 火炎に弱い 氷結・衝撃反射 破魔・呪殺・神経無効

それは人間にも似た輪郭を伴った巨体。

人を戯画化したような顔に鮮紅色に燃え上がる瞳から血涙を流しながら、盛んに神の名を叫ぶ狂信者の末路。

地面から体を生やし、悍ましき賛美歌を歌う怪物の成れの果て。

「見つけたぞ、メシアン！」

対峙するのは一人の男。

両手に剣を、腰に銃を、前髪が白くなった巨躯の雄々しい男。

「ぶつとばすのじゃ！」

「任務了解」

それに付き従うのは狐耳を生やしたチャイナ服を着た美少女に、漆黑に塗られた鉄と鋼にて構築された甲虫を思わせる鉄兵。

戦闘は苛烈に始まり。

「こやつ、風と氷結を使うぞ！ レイジ!!」

——勇奮の舞——

「火炎が通じるようだな、打撃は通じる。叩き続ける、ナハト!!」

——カードチャージ・火炎掌——

「!!」

——忠義の打撃——

苛烈な一撃が、補助を伴って、乱舞と叩き込まれる。

戦いの時間はそれほど長くは続かなかつた。

「これで決める! 混沌の海!」

混沌の海 万能魔法スキル 敵全体に万能大ダメージ、Law属性に威力上昇

あらゆるものが防ぎ切れない、彼が覚醒し会得した万能たるスキルが狂信者を消し飛ばした。

悲鳴すらも残さずに、全ての残滓が打ち砕かれる。

「思ったよりレベルが高かったな」

「でも雑魚じゃったのじゃ」

広い広間、砦の中に擲っていた巨体を苦もなく蹴散らし、レイジと呼ばれた男は息を吐く。

彼の名は有栖 レイジ。

ガイア連合の転生者であり、ナムコクロスカプコンの主人公のレイヤーである。

元々は名字もなく、レイジという名前だったのでせっかくだからと戸籍を取得する際に、名字も合わせたガチ勢である。

出身が地方の異能者の家系だったこともあり、廻りのレベルの低さに幼少時から絶望視していたが、ガイア連合という同じ転生者の集いを知り、その伝手を辿って参加した

戦士だ。

鍛えれば鍛えるほど伸びる才能に、転生前の記憶がありつつも、それを神仏の導きだと教育されて、同格以上の素養を持つ転生者たちに出会い、驕ることなく強さを増した。

その甲斐あつて幹部勢に比肩するほどのレベルを得た。

だからこそLV30強の悪魔だろうが一蹴出来るが。

(この強さ、現地人ではまさに死地だろうな。雑多に湧く悪魔でさえレベルだけなら同じクラスとは)

この砦に辿り着くまでの道中で出没した悪魔はどれも30未満で、苦もなく蹴散らせたが、現地の人間からみればまさに地獄だろう。

自分から見れば肩慣らし程度だが、転生者といえども大半が20未満、10レベルを超えたぐらいで安堵して鍛えるのをやめてしまう。

(日本のGPが、あの集中ICBMでじわじわ上がってる影響だろうな)

今は知り合い含めて、ガイア連合の所属家屋で保護しているが、最終的にはシエルターに逃げ込む事も考える必要がある。

最低でも頭に入れておく必要があると強く感じた。

「メシアンめ、まったくとんでもないプログラムを作ったもんだ」

「天使召喚プログラムじゃえ？ レイジとわしらなら問題ないじやろう」

管狐から育てて、ある日突然仙狐にハイレベルアップして、アイエエエエエエと腰を抜かさせてくれた仲魔が気軽に言うが、レイジとしてはそんな気楽に考えられない。

「油断は禁物だ、小牟。シャオムウ 雑魚メシアンでもこのレベルの悪魔を呼べたことが不味い」

この世界はメガテンなのだ。

天使悪魔召喚プログラムⅡヤバいである。

(しかもこんな巨大な異界を都会のと真ん中であつさり作るとは)

「んーそうじゃな。ジョータローもまだ見つかっておらん、アレがボスかと思ったんじゃないが」

「ああ。あの人なら死んでないと思うが」

マッピング的にもこころへんだと思ったが——「レイジ!」

「!」

相棒の声と同時に気配に気づき、それとほぼ同時に閉じていた扉が蹴り開けられた。

人影が三体。

「天使じゃー!」

……メシアン!

その呼び声と同時にスキルを発動させる。

## —— 混沌の海 ——

消費MPは多いが、雑魚ならこれでLaw属性で消し飛ばせる。

初手にて打ち破られることのない万能スキルにて叩き潰す！

そう思い、見慣れた光景のように消し飛ばなかつた。

甲冑と剣を携えた悪魔——簡易的に見えた靈視アナライズへ天使ニケーの名前——が、前に飛

び込み、一瞬だけ堰き止める。

《ヒデト!!》

その隙にもう一つの影——オウリユウとは違う龍王らしき悪魔が、最後の人影のところまで飛び込んで、最後の人影が跳んだ。

龍王を足場に上へ跳んで、それが全体攻撃諸共に碎かれるのを——切り抜けた。

「!!」

早い。訓練された動きか。

壁を蹴り、右手——そこから機械的な光を放つ、天使召喚プログラムで見かけたものと酷似した光を放ち、召喚陣が形成される。

「コール」

—SUMMON—

複数体。

四・体・に・も・及・ぶ・悪・魔・が・召・喚・さ・れ・た・

・ ・ ・

種族 地霊 アトラス LV50 (制限解除) 真・女神転生 属性NEUTRA

L—LAW

相性耐性 火炎・氷結・電撃・破魔に強い 魔力にやや弱い

《おおお! おお! 今こそ戻りし我が番力、見せようぞ!》

種族 幻魔 クーフリーン LV40 (制限解除) 真・女神転生 属性NEUT

RAL—NEUTRAL

相性耐性 衝撃に強い 破魔無効 弱点なし  
 《悪魔使いか。サマナー、ゆめゆめ油断なざるな！》

種族 聖獣 ハピルサグ LV33旧約II 属性LIGHT|NEUTRAL

相性耐性 破魔を反射し呪殺が無効  
 《バリバリ刺してやろうかのお》

種族 精霊 ウインディーネ LV30真・女神転生II 属性NEUTRAL  
 |NEUTRAL

相性耐性 電撃を反射する  
 《水の力を今再び魅せましょう》



種族 悪魔使い  
ヒテト  
LV43  
属性 NEUTRAL | GOOD

「なるほじ」  
相性耐性  
?????

— ANALYZE —  
— 万里の眼鏡 —

L  
種族 ガイヤーズ  
有栖  
レイジ  
LV56  
属性 LIGHT | NEUTRA

相性耐性  
?????

R A L  
 種族 妖精 シャオムウ（センコ） L V 4 6 属性 N E U T R A L | N E U T

相性耐性  
 ??????

T R A L  
 種族 造魔 アルトアイゼン・ナハト L V 4 8 属性 N E U T R A L | N E U

相性耐性 破魔・呪殺・神経・精神無効

「強いな」

「ここまで強い悪魔を?! いや天使がいない……?」

「レイジ! 過激派の連中は天使以外にも隷属させて使うことを忘れたか!! 〈洗脳〉洗脳 特殊交渉スキル、使用する悪魔より格下に高確率で要求が通る、10以下ならばほ

「ほ確実に成功するじゃ!」

(過激派?)

「というか支部長と天使第五話登場 天使アドナキエルLV18 (カオス転生ごちやまぜサマナーより参考) よりめっちゃレベル高いぞ!」

「ああ」

(支部長?)

ガイヤーズ……ガイヤ連合の悪魔使いか。

以前に一度戦ったが、あちらもあちらでしっかりプログラムを持っているのか、あるいは独自の召喚術を使っているのか。

造魔に、センコ……妖精仙狐を連れている。

(いやまで、武装している?)

錫杖に、人間のものとしか思えないジャケットとドレス。悪魔のデータを参照し、解析するアナライズだけだと読みきれない武器に身を包んでいる。

造魔のほうも同じくロボットめいた装甲板に覆われている。

(悪魔が武器を使う文明は、廃れたときいたが、この世界では残っていたのか?)

自分たちがシエルターに籠もっていたよりも古い時代、悪魔と人間が争っていた頃には悪魔も人間と同じように武装をしていた偽典女神転生において仲魔に装備が可能で

あり、敵ボスなども装備などに身を包んでいる。

だが悪魔たちが勝利したあと、ごく一部の高位悪魔などを除いて、それぞれが人の武器を投げ捨てて、踏みにじり、さながら楽園時代のアダムたちのように自らに由来しないものを脱ぎ捨てた。

人間を嘲笑するためだとも、あるいは高位悪魔たちが、下の悪魔たちに下剋上させないために操作したとも聞いたが。

(厄介だな。レベルだけなら問題ないが、特技と装備次第で苦戦するか)

思考するのは僅かな間、お互いに睨み合い、呼吸が一つ終わる。

その瞬間、お互いに駆け出していた。

「腕の義手、ジェレーターか、ターミネイターレベル真・女神転生IIにて登場するメシ

アン、LV34 LV40のメシアンどちらも肉体改造済みだ！ 蘇生可能なレベルで仕留める!!」

制圧射撃 物理スキル 全体にガン相性ダメージ、低確率でPANIC状態にする

「了解じゃ!」

結界(NINE) 特殊魔法スキル 異常耐性上昇(破魔/呪殺/神経/精神への耐性、3ターン継続する)

「戦闘力向上開始」

ジャ効果  
マハタルカジャオート パッシブスキル 戦闘開始と同時に味方全体にタルカ

忠義の打撃　物理スキル　敵一列前列に打撃ダメージ、忠誠度（MAX）によって威力が上昇

強化された打撃の銃撃が吹き荒れる。

さらに反撃された時のための結界を展開、慣れ親しんだスタート手順。

全員が物理反射されても問題ないように耐性と防御力を固めている。

ここから突き崩していく。

だが目の前のメシアンは、マハタルカジヤが発動する寸前に、一歩下がった前列から後列へ——スイツチ。

ウインディーネの側に、庇うように。

「二体とも耐えろ」

銃撃が全身を防具に固めた体に突き刺さりながら、前列に立つ巨人と幻魔に命じる。

ナハトの忠義の打撃が、物理貫通を伴って二体の体を砕く。

血飛沫が舞う。

強化された打撃と先制の銃撃を伴って、半ば体を引き千切るほどの重傷を負わせながら。

《メデイラマ》

水の精霊の回復が飛ぶ。

《反撃、タルカジャ》

幻魔が体を千切られながらも槍をナハトに叩きつけ反撃・IMAGINE版クーフーリン初期所持、TRPG版においては剣相性（物理攻撃）を受けた時回避の代わりに発動、相手は回避も反撃も出来ない、血反吐の代わりに強化魔法を発動し。

《暴れまわり》

強化されたアトラスが拳を振り上げ、流れるように全員を薙ぎ払った。

暴れまわり 物理スキル 敵全体に突撃属性物理相性の中ダメージ

「が!?!」

「しぶといや、アイタあー!」

毒針<sup>3</sup> 物理スキル 敵単体にガン属性物理 中ダメージ 一定確率で毒状態に

なる旧約IIにおいて毒針には3レベルあり、毒針3は高威力を誇る

小牟が思わぬ激痛に声を上げた。

きちきちと回復を飛ばされて回復した聖獣が、揺るがずに狙いを定めて、自分の腕に毒針を打ち込んでいた。

ガン耐性があるから大したことがないと踏んでいたが、既に腕は紫に染まり、ダメー  
ジよりも毒に歯噛みする。

「レイジ、気をつけよ！ こやつは毒針、通常スキルではない！」

「回復に優先しろ！ アトラスがかなり強い！」

小牟がメデイラマを発動し、全員の傷を癒やす。

それをじつとメシアンは見ていた。

的確に回復役を潰さんと迫るレイジに足止めをしながら、タタンと腕の義手にあるキーボードを叩き。

《キツネとサマナーにガン耐性、承知！》

《硬いが物理で殴れるか、潰してくれよう！》

二体の幻魔と巨人が上げた声に、耳を疑った。

「！」

（情報共有している？ プログラムにそんな効果が！）

「二体ずつ処理する！ シフトを切り替える！！」

——回転斬り——



ガイヤ連合技術によって鍛造され、鍛え上げられた霊刀を用いて毒針をナハトに連射していた聖獣の首を刈り飛ばし、メシアンへと追撃する。

ギインと僅かに引き抜かれた日本刀に受け止められ、即座に氷結し「！」両断する寸前に、メシアンがひっくり返る。

そのまま首を刎ね飛ばすはずだつ斬撃を、武器を放棄することによって回避した。

キュオンと駆動音——改造された体だと思つたが、まさか機械鎧？

いつかガイア連合の中では使えないと判断した糞重いデモニカスーツの動作音を思ひ出す。

「魔剣か。氷結効果があるな、正規版ワードスーツ・旧約Ⅱではただの防御力が上がる防具だが、TRPG版などでは物理耐性と引き換えに火炎・電撃に弱くなるじゃないから火炎でも問題はなかったがやはり弱点はつけないべきだな」

「デモニカスーツか」

思考能力がある。

会話にて情報を少しでも抜く、その間に仲間たちが残りを駆逐する。

その算段を見抜くように、ガスマスクを付けたメシアンがジツと見て。

「物理辺重なら、これでいく」

—SUMMON—

種族 降天使 デカラビア LV36 偽典・女神転生属性 NEUTRAL | C  
H A O S

相性耐性 属性攻撃に強い 破魔・呪殺・神経無効 魔力反射

《我は天を見限り、魔界へと降り立ったデカラビアなり！ 挨拶代わりにテトラカーン！》

ヒトデ型の、星にも似た墮天使が現れた。

見覚えがある、わりと誰もが知ってるメガテンの悪魔。

—万里の眼鏡—

テトラカーン 結界系魔法 物理攻撃を跳ね返す魔法をひとりに作る

物理反射の結界を、デカラビアが纏う。

それをアナライズでレイジは見ていた。そして、当然のように判断した。「残念だが、テトラカーンは物理無敵の結界ではない」

壁に動くメシアンに、巨人が打ち倒されたのを見て、ここで優劣を決めると息を吸う。スキルを発動。

メシア教徒と天使殺しの万能スキル。

—— 混沌の海 ——

マカラカーンでも、テトラカーンでも防ぎきれない文字通り万能たる破壊を放ち。

《無属性ならば問題なし》

それが弾き返されたのを彼は見た。

「は？」

彼は自分のスキルで吹き飛ばされた

たのしいサハトのはしまりたー！

いつかの時に。

あるいは何度も経験した錯覚めいたふらつきから、光が飛び込んできた。

「う、ぐ」

レイジは息を吹き返した。

ゆつくりと蘇生独特の気だるさを感じる。

（カロンには出会わなかったか、そういえば転生者で  
お前の財産半分を蘇生してやるよ強請り  
カロンからマツカを巻き上げられた奴は聞いたことがないな）

ぼんやりとそんな事を考えて、身体を起こしたところで衝撃が走った。

「レイジー!! よかったー!!」

「蘇生確認、診断プログラムを開始します。痛みの段階は十段階でどれですか？」

「小牟、ナハト……無事だったのか？ なにがあった」

「そちらの蘇生アイテムで生き返った。凄いな、アイテムまで豊富なんだなガイア連合

は

「!!」

横から駆けられた声に、慌てて首ごと目を向ける。

そこにはマスクを外したあのメシアンと思しき男が、デカラビアを腰掛けに座っていた。

いやなんかくるくる回っていて、回転椅子みたいに戯れていた。

「……てつきり殺されるかと思っていたが」

マスクの外した顔の額を見るが、調理跡手術跡はない。

「投薬タイプか……? と思うが。」

「なにかしら誤解があったようだからな」

「誤解?」

「俺はメシヤ教徒ではない」

「なにつ」

「まあ、あいつらからメシヤ認定されたことならあるが」

「はあん??」

お薬なで頭にに信仰いっキメてちまったたような発言メーに、何時もロールしている口調も忘れて素の声を漏らした。

やっぱりやばいやつでは？ と考えるも、左右の自分の仲魔たちが無事なことから会話は通じると考えて。

「しかし、慕われているな。お前が万能魔法で瀕死になったあと、追撃されないように必死に庇い出したぞ」

「当たり前じゃ。わしもナハトもレイジがいなければ生きていけん」

「マスターを最優先は式神の最優先規則」

「DARK悪魔でも忠誠はあるだろうが、冷酷さは別問題か……他者に使役されている悪魔はどのような種族の悪魔でも、DARK属性として扱うものとされているが」偽典女神転生 DB入隊試験より抜粋

一般に何者かに使役されている状態の悪魔は交渉して仲魔にすることができない。

そのため、悪魔そのものの本質とは無関係にこうした悪魔はDARK属性に分類されている

あくまでも悪魔との対峙の場合のマニュアルか。

そんな言葉を漏らすメシアン(?)に、訝しげにレイジを見た。

(DARK属性?) 現この国の異能者地にそんな知識残ってないはずだ。米国か？ しかし顔立ちを

見る限り日本人に近い……まさか)

「……お前、まさかおれたちか」  
転生者

「……………日本人と言う意味か？」

「それもあつてるが、違う！ 転生者じゃないのか？」

「転生？ ああ、たまにそういう異能者もいるな」

（天然か、すつとぼけてるのか、わかってないのかどれだ???)

つい先程まで繰り広げられていた死闘とは裏腹に、何かとても違う空気を感じる。

頭痛がしてきて、頭を押さえると「脳にダメージが？ マスター、離脱の準備を。脳

腫瘍は回復魔法では完治不全真・女神転生 廃墟のジンより 脳腫瘍などのダメージは魔法では回復出来なかったため、あるキャラクターが死地へと陥った」

「大丈夫だ、そういうのじゃない。転生者じゃないのか……」

（まさか現地人の才能限界が高い奴なのか、腕も義手だし、改造とかで限界を超えたタイプだろうか……）

霊視ニキに見てもらえばはつきりするんだが。

幾つかの思考や、迷惑を含めつつ、会話を続ける。

「と、そうだ。自己紹介が遅れたな、俺は有栖レイジ、こつちがセンコの小牟と、式神の



アルトアイゼン・ナハトだ」

「俺はヒデトだ。名字は幾つか作ったが、アナライズしても出てこないだろうからいら  
ない」

「……戸籍のない生まれか、まああるな」

不思議ではないと頷くと、少しだけヒデトと名乗った奴が目を細めた。

この業界では珍しくない境遇のはずだが……?

「俺からも質問がある」

「なんだ。言っておくが、仲間の情報は売る気はないぞ」

自分を含め、仲魔全員の命を握られているような状態だがそれだけは譲れない。

最低限の矜持があった。

メシアンと戦い、敗北すればその死体を改造され、下手すれば魂の尊厳すらも奪われ  
るといふ前置きを受けて、去っていった他の同胞たちとは違うように。

「この異界を作ったのはお前か?」

「……! 違う、お前じゃないのか?」

ヒデトの質問に、質問で返す。

探るような駆け引きに、彼は意外なほどに率直な返事を返した。

「ならなにを斃したら解除される。人が死ぬぞ」

「……………異界のボスと思しきメシアンの成れの果ては先程オレたちが倒した。だが、まだ続いている。ここが中心地のはずだが」

占術などを駆使して、この砦の中心地だと判明している。

だからこそ突入し、巢食っていた聖柱を撃滅したのだ。

そのあとに突入してきたヒデトとの戦いは予定外だったが……まだ終わっていない？

「何かしらのギミックだな。まだ奥がある、手がかりかアイテムは？」

「最終手段として、小牟のカルト・マジック（TRPG女神転生にて語られる、魔界魔法（ジオ・アギなどのメガテン魔法）以外の信仰に基づく魔法。道術や、忍術、マントラや神通力など多種多様な魔術があり、P2における石神千鶴の鬼面符や撫護符、ソウルハッカーズのナオミの召喚術、クズノハライドウ対超力兵团での「封魔術」などがこれらに該当すると思われる）でこの異界を送還させる。ただしリスクがある」

「それは？」

「異界に取り込まれた人間も魔界へと落下する可能性がある。異界形成時に取り込まれたオレたちの仲間も巻き込まれる可能性が高い」

「なるほど」

巨大な、古くから存在している異界ならばいざしらず

即興で造られた異界の類なら力技で破壊する手はあるのだ。

しかし正攻法ではないからこそそのデメリットがある。

そのことを伝えると、ヒデトと名乗る男は考えるように天井から地面を見て、腕を動かした。

そこにあるキーボードを叩き……天使召喚プログラム（だよな？）を起動させている。

「デビルイレース（偽典にて登場COMP特技 悪魔をこの世から消し去る（即死）で消すのも難しいか」

「デビルイレース？」

「COMP情報戦プログラムの一つだ。情報量が少ない悪魔なら消去する事が出来る、魔界への退去だけだと終わらないしつこい奴用だがな」

基本的に戦闘で破壊し、魔力相性への耐性がなくなつたものの残骸処理に使う。

その解説を聞いて、レイジと小牟が顔を合わせた。

「なんだそれ、消去つて魔界への追放じゃなくてか？」

「魔界に追放したらまた戻つてくることがあるだろう。復活もする、弱体化だけではなく怨恨にも対処する。悪魔殺した後のお祓いみたいなものだ」

「……なんじゃそれ、こわ」

「天使召喚プログラム、そこまで自由自在だったのか」

（技術班から聞いた聖書の高速詠唱、解釈による他悪魔の召喚、天使の別側面による相性変化だけじゃなかったのか）

「……天使召喚プログラム？」

「その使っているプログラムだろ。隠す必要はないぞ、米国のステイブンとN神父が開発したものだというのは知って」

「これは悪魔召喚プログラムだぞ。まあ天使も呼べるが」

「……………？ ……うん？」

なにか。

なにかとてつもなく。

やばいものを今、改めて、ありましたよ、と言われたような気がする。

「！」

「どうし、っ！」

突然横を向いたヒデトに、そちらに目線を向けて気づいた。

地面、いや、異界が震えている。

ピシピシと、音を立てて、砦の中心部分に亀裂が走っている。

「な、なんじゃ!」

「小牟! 回復から、結界を! ヒデト、戦闘させてもらうが構わないな!」

「問題ない、こちらでも手勢を二体出す。そちらに合わせる」

「助かる!」

ヒデトが悪魔召喚プログラムを起動させて、再びあの幻魔と水の精霊が呼び出される。

マスクを装着し、予備の武器だろう禍々しい雰囲気を放つ刀を抜いていた。

幻魔クーフリーン、精霊ウエンデーネ、降天使（堕天使じゃないのか?）デカラビアの三体でいくつもりらしい。

（まるでメガテン主人公だな）

レイジもポーチからチャクラドロップを口に入れ、転がっていた自分の銃のマガジンを新しいものに装填する。

小牟も渡しているガイア連合産の回復アイテムを道具の知恵で使い、ナハトを術と道具で回復させている。

（こちらはさながらライドウ系か、管は使えんが）

左右に分散し、起こる現象の顛末に備える。

そして。

バゴンと拳から叩き割るような光景と共に三人の人影が躍り出た。

「しゃおらああああああああ!!」

「ぬおおおお!!」

「オラア!」

ゴロゴロと一人の白髪の男を抱えた帽子の男と、エプロンを付けた黒髪の女が見事な回転受け身を取る。

「!」 「!」 「!」 「登録データ確認、空条承太郎の生存を確認」

レイジたちはその中の一人を知っていて、ヒゲトはそのうちの二人を知っていた。

「中華屋の店主と店員さん?」

「承太郎! 大丈夫か!」

駆けつけようとしたレイジに、帽子を被った男は目を向けず、手だけで制した。

その顔に余裕はない。

「お前らすぐに構えろ、来るぞ!!」

「しつこいやつらね! ここで迎撃するわ、ヴィクトル、下がってなさい!」

「う、うむ！ 任せたぞ、ナオミ！」  
「なにを——「来るぞ、レイジ」!!!」

ごう、ごうと音擦れる。

空気が震えて、風が渦巻く。異界の風が動く。

暗黒がゆらゆらゆら、粘着質な、水棲の色合いを帯びる。

いあいあ

幻聴が聞こえる。

はすたあ はすたあ

讚える声が聞こえる。

くふあやく ぶるぐとむ

異界のあらゆる角度を持って開いた子供の口が、男の歯が、女の裂けた鼻孔から、老人の唇が。

ぶぐとらぐるん ぶるぐとむ

あーん、あーんと泣き叫ぶ赤子の声が、忌まわしき呪文に泣き叫ぶ。

あい あい

異界の穴が

はすたあ

溶けて、広がった。

名状しがたいものが、暗黒の水面から浮かび上がっていた。

／カカカツ／

アルカナ TOWER 塔 ハスター（弱体化身） LV60 属性DARK—LAW

相性耐性 物理に弱い。魔法を反射する相性耐性はペルソナ2罰に準拠、LVは  
真・女神転生CGに準拠する

「  
」



呼吸が止まった。

比喩抜きで心臓も凍りつき、顔から血の気がまたたく間に失われていた。

SAN値チエツク。

レベルだけならば僅からレベル程度の格上——わずか——?——この世界で……?

小牟も、心のないはずのナハトでさえ、凍結したように硬直し、レイジは<sup>極めて貧弱で弱き現地人共</sup>当たり前の人間のように正気を失いかけて。

「アナライズしろ、物理に弱く、魔法を反射。それ以外見えるか」

横から掛けられた声と光メ・パトラの石（ソウルハッカーズアイテム）：正気を奪回する 偽典・女神転生においてパトラは精神を正気に戻す魔法に、正気を取り戻した。

「%\$#% ■■■■&% %!!」

冒流的な叫び声が響き渡り、名状しがたき水棲生物めいた暗黒の冒険情報生命体が動き出した。

「気合をいれろ! 心で負けたら、こいつには勝てねえ!」

＼カカカツ／

L—CHAO S  
 種族 ガイヤーズ ペルソナ使い空条 承太郎 LV65 属性NEUTRA

——ギガンフイスト——

「まったくこちとら足抜けしてたつていうのに」

／＼カカカツ／

種族 人間 悪魔召喚師ナオミ LV53 (本来レベルLV63 ソウルハツ  
 カーズよりも実戦経験の少なさ、引退などによって弱体している。現地人SSR、人権  
 キャラ) 属性NEUTRAL—NEUTRAL

——戦の魔王——

神にも悪魔にも等しきもう一人の自分が、中国に伝わる魔王たる軍神が、名状しがた  
 きものを殴りつけた。

そうして深淵から来たる邪神との戦いが始まった。

——勇奮の舞——

——ギガンフィスト——

——ブルズ・アイ——

——妖刀ニヒル——

——忠義の拳——

——観世音の濟度——

——メデイラマ——

——デスバウンド——

強化をかけられた拳が、銃撃が、妖刀が、パイルバンカーが、英雄の槍が、回復と生命力の底上げを織り交ぜて矢継ぎ早に叩き込まれる。

それらは確かに弱点として刻み込まれ、血飛沫を上げている。

「ッ!？」

だが。

——ムドオン・呪いの言葉・アクアリータイド——

ムドオン 暗黒（呪殺）魔法 敵全体に闇（暗黒）属性の瀕死効果を与える、呪

殺耐性に対する準貫通として扱う【準貫通】真・女神転生D2にて登場したスキル 無効・反射・吸収に対して30%のダメージを与える

呪いの言葉 闇魔法 敵全体に闇属性中ダメージを与える、呪殺耐性に対して準貫通として扱う

アクアリータイ 水撃魔法 敵全体に水撃相性の特大ダメージを与える

「3回行動、だど!」

全員を冥府の底へと引きずり落とす呪殺が、心身を蝕む呪われた言語が、そして戦場を全て飲み込む水流が吹き荒れた。

小牟が張った結界にて呪殺に耐えるも、無効化——最低でも耐性を得ているはずなのに、それを貫いて言葉にならない呪詛が苦痛に引き絞る。

そして、殆どのものが耐性を得ていない——氷結ではない——水流に切り刻まれる。

《おの、れえ!》

幻魔が槍を投げ上げて、砕け散る。

「マスター、勝利を」

小牟を庇い、ナハトが大破する。

におうだちパッシブスキル 回避不可能になる代わりにあらゆるダメージを軽減するのスキルでもなお耐えきれないダメージ。

レイジは自らを固めた強力な装備で耐え凌ぎ、それでも堪えきれない衝撃に壁際に打ち付けられ、血反吐を吐いた。

（これは、なんだ！）

ナオミが向上した生命力で呪いに耐え凌ぎ、とつさにタオで地面に潜って水撃を躲し。

（これは、なんだ！）

承太郎は真つ向から呪いに耐え、水流を殴りつけながら進んだ。

（俺の、戦いはなんだったんだ！）

死地と呼ばれる強力な異界にも潜った。

封じられていた神々のある【天樹山】にも参加した。

強大な万能スキルであらゆるものを打ち砕く少年とも、聖剣と転生者である魔女を連れた騎士王夫婦とも鎬を削りあつた。

米国で未だに戦う狩人とは武器の使い方によく話をしたり、渡航していく彼の背に、

いずれ応援にいくと誓った。

死地を乗り越えた。

戦場を乗り越えた。

前世を乗り越えた。

だからこそここで、戦いの道を、天使と悪魔、神々と幻想の戦場に自ら踏み込んだというのに。

こんな苦戦をするものなのか。

こんな苦労をするものなのか。

(格上など、すぐに乗り越えられるものだった)

転生者たちは誰も彼もが、壁に当たらない。

(俺たちは特別で)

もしくは高いと思っていたのが拍子抜けなほどに低い。

鍛えればあつという間にレベルを追い越し、あるいは他の廻りの低さに呆れ返る。

プロレスラーの如き体躯も、腰に付けた武器も、身につけた衣服も、全ては与えられた才能と仲間たちのものだ。

いや、この名前も、性格すらも——憧れた誰かの真似っ子。

(何を考えている、今は戦う時だ！)

そう思って、手を床に打ち付け……ペチンと音がした。  
身体が、起き上がろうとしない。

手に力を入れて起き上がったはずの視界は、床を見たままで。  
動けない。いや、動いていない。

(なんだ、状態異常か！)

いや、違う。

違うんだ。

レベルが5も上なんて。

それも60を超えている邪神なんて。

戦ったことがない。

ゲームじゃないんだ、リアルじゃないんだ。

それも自分が最前線なんて、数を頼みにした戦いでもなくて、  
こんな下手したら死ぬような、蘇生も出来ないような。

(ちがう)

俺たちにとってこんな世界はフィクションの世界だ。

(ちがう)

だから本気になる必要はない。

だから守るものもないし、恋人も仲魔でいいし、シキガミさえいけば終末がきても問題はなひ。

ガイア連合という同じ気持ち、同じ境遇のおれたちとダベっていればいい。

(ちがう!!)

——何が違うんだ——

自分の中の、ゲームで遊んでいた、リアリティのあるかつての自分が、何かを囁いている。

——誰かが戦えばいいじゃないか——

——生き延びるなら後ろから適当に銃でも、スキルでもやっていろよ——

——そしたら誰かが倒してくれる——

甘く、逆らい難い声が、聞こえ、聞こえて。

「レイジ！」

都合のいいペツト中が声をかけてくる。

気合が入らない。

邪神の気配は強く、お前が動かないと苦戦するぞと言おうとして、いや、そのまま心身喪失したと言ひ訳が出来るかなんて考えて。



「俺は主人公じゃないんだ。無理だ、特別なあいつらがやってくれる」

言ってしまった。

主人公のロールをしていた誰かが。

「レイジ？」

「無理だ。身体もくっつき痛いし、次食らったら今度こそ死ぬ。蘇生出来るなんてわからねえ、カロンも見たことないし、ガーディアンもないんだ。やべえよ」

声が止まらない。

弱音を吐き出すクズみたいな自分が出て、流れて。

「そういうのは特別な力を授かった奴しか、舞台上上がれないんだ」

「舞台上上がる資格なんてものはないぞ」

ドンツとボロクズのように壊れたアーマーで、ヒゲトが横に転がり込んでいた。

「……」

「……」

「運命というのは踏み込むか、あるいは放り込まれるかだ。力の有無は関係ない」

「いや、お前死にそうなんだが」

滅茶苦茶強そうに、一度俺を倒したじゃないか。そう思うレイジは見た。

ヒデトの剣は既に折れて、義手こそ原型を留めているものの、あちこちからアーマーが火花を上げている。

口から血は流れ、鼻はフンと息する度に、どろりと鼻血が流れていた。

「物理剣はあるか？ お前のメインウエポンは氷結属性で、多分反射される」

「一応予備があるが」  
「借りるぞ」

よっこらせつと、折れた腕を支えに、レイジからコテツブレードを借り受けて、ヒデトが立ち上がった。

はつきりいつて物凄い死にそうだった。

というか未だにやらおらとハスターと殴り合ってる二人と比べて、非力だった。スキルもないし。

水の精霊が、デカラビアに守られながら、回復を飛ばしている。

そんな英雄の戦いが、ヒデトの動きに釣られて見上げたレイジの目に入ってきた。

場違いじゃないのかと思った。

「やめとけ、お前のレベルだと死ぬぞ」

「死んだらまた蘇るさ」

「死ぬのが怖くないのか？」

「もう生き返れないかもしれないと思いつつながら、いつも必死だぞ」

「ならなんで戦う」

「安心するために、俺と俺の大事なものをぶち壊してくるやつを倒すためだ」

それ以上の理由があるか？

そんなことを大真面目に言われて、レイジは、くふつと笑ってしまった。

「そいつは重畳だな」

笑い、笑って、気がついたら力が入っていた。

緊張していただけかもしれない。

だが動けた。

動けるならば、似たような理由で動くなら、それはいいことだ。

「下がってる、悪魔使い。ここからは俺たちの戦いだ」

「手を貸すだけだ、皆でやれば早く終わるだろう」

「なるほど、賢いな」

小牟に、回復の指示を出す。

地面に落ちていた銃を握って、銃口を邪神に向けて。

「いや、Law属性なら混沌の海使ったほうがいいか？」

効率的に、つい先程自分が死んだような原因のようなスキルを口に出し。

「やめておけ。あいつは万能属性も反射する、それで吹き飛ばされた」

「誤射ったか〜」

「ゼウスが言っていたが、魔法反射といいつつ特技で放つ万能も反射するらしい」

「魔法を反射するといいつつ物理以外全部じゃねえかペルソナ2の相性耐性において、ハスターは万能相性をも100%反射する」

メガテンこええなど、笑って——いつもどおりに、銃技スキルを発射した。

気合 補助スキル 5倍にする

ブルズ・アイ 物理スキル ガン相性ダメージ、防御力を無視する。ど真ん中だ

「■■■■!!」

「ジャックポットだ、これは違う台詞だな」

鍛え抜いた身体が、頑張つて稼いで手に入れた銃器の反動に耐えて、邪神をよろめかせた。

そして、その隙にヒデトは走っていた。

右腕を輝かせ、よろめいた邪神の死角に、デカラビアに指示を飛ばす。

「デカラビア！ 呼べ！」

「いやっつはあああああああああああああ！」

——サバトマ——

「わらわを呼ぶか、ならば今一度殺戮の宴を見せようぞ」

／カカカツ／

種族 地母神    カーリー    L V 7 6 デビルサマナー    属性 ・ L I G H T — C H

邪神を滅ぼす、修羅の地母が、召喚された！

それは瞬きよりも早く、風よりも早く、水すらも割いて。

「最後の時止めだ!! 龍の眼光!!」

——タルカジャ・タルカジャ・タルカジャ——

「カンゼオンボサツよ、力を!!」

——観世音の濟度——

空間が割れる。

力を増す加護の力を、同じ地母神の力を、無数の劍舞を放つ鬼神が、放つ。

——百人斬り——

空間すらも引き裂き、風の邪神を、消滅させた

## ★わくわく手作り工房♪雑談板 その34

戦いは終わった。

まもなく異界も崩壊するだろう。

「やれやれだぜ」

邪神を殴り倒し、その残滓を祓うナオミ——エプロン姿……既に激闘でズタボロで、どこからどう見てもただの民間人ではない女店主が、手早く術を用いて封じていくのを、呆れたような顔で承太郎は見ていた。

小牟が「わしの、わしの出番は?」「ないな」「こーん!」のような悲哀を上げている。

ここに来るまでの間、承太郎もギリギリのところだった。

あの天使召喚プログラムの入ったCOMPにMAGを吸われて、異界の最下層に放り込まれたのである。

しかも半ば魔界と化した深度のだ。

その消耗と格下の雑魚共とはいえ、相性も異なる相手とやりあって、自力での脱出は

不可能かと判断しようとした時に彼女が現れた。

〈隠景舞天〉TRPG女神転生誕生編に記載されたカルトマジック。魔界に移動する

(習得条件・導師)

俺たちも知らない、シヨタオジめいたオカルトの秘術。

「ん？ 核を潰そう思ったら、生きてるのいたか。手伝ってくれる？」

元は大陸のほうから流れてきたという悪魔召喚師で。

覇気もなく、霊脈活性化に対処をしようとしなない仙人共ときき使おうと命令してくる

中華上層部に嫌気が差したとか。

そんなことを情報交換ついでに話し、自分と同等に渡り合う強者だった。

(ナオミと言ったが、どこかで聞いたような……?)

どこで聞いたのか、首を傾げる承太郎。

そんな彼らを見ていたヒデトは貰った宝玉を怪しみもせずに使って回復していた。

「これで異界は消えるのか？」

「うおー!! なんだこのプログラムは!?! ええ、核になってたのは潰したし」 なんと

いう、なんという! 「あの邪神が強引に維持してたからな」 確かに改造さえすれば天使

以外 「魔界からやってきたのか? 地上にあんなの出たらとんでもないことになって

たぞ」 にも召喚可能だと判明していたが 「アルカナと表示されていたが、あれは悪魔



なのか?」これほどの安定性!「わからねえ、シヤドウタイプにしても万能まで弾く耐性なんて経験したことが」精密な儀式再現! 完成度が桁違いだ! 悪魔召喚に特化した洗練さはまさに芸術「うっさいわ」がふ!

ヒデトの義手にすがりつくように興奮していたヴィクトルを、ナオミが拳で黙らせた。

そして、それをナオミが札から呼び直したメイド型の悪魔が介抱している。

「……あのメイド、まさかイツポンダタラじゃあ?」

「うおおおれの名前を呼んだかあー? ですわ」

「マジだ、マジだった」

M A D口調の最後に洗練された女性定形を返す悪魔に、どことなく気楽さの混じったレイジが驚いていた。

「それにしても、L V 60か。首都圏だとやはりこれぐらいのレベルが出るのか? 邪神マンモンよりもL V だけは高かったが」

「……邪神マンモン?」

「なにそれ。エジプト勢力から最高神アメンが貶められたとかつて聞いたけど、ここに出たの? 邪神マンモン 真・女神転生 i f においてエジプト最高神アメン・ラーが悪魔に貶められた姿、旧約女神転生 2 において地上での中ボス」

「いや初耳だが」

「? あー、すまん。ここだと俺はまだマンモンとは戦ってないな、エジプトと信者がいるならもう少し強くなってるか……?」

「??」

なんとなく話が食い違っている。

「とにかくだ。そっちの装備の修理もあるだろうし、近場の支部まで一緒に来てくれ。お礼もしたい」

「いや、気にしないでいい。宝玉を貰っただけでも十分だ、悪魔と戦うなら損耗は当たり前だしな」

「その装備、デモニカスーツだろう。自衛隊駐屯地まで距離があるぞ、支部でなら直せる。金なら命の礼だ、俺が出す」

「……俺は別にガイヤ信者じゃないんだが」

「? 俺も別に信者じゃないぞ、実家は神道系列だし」

「そうなのか? 洗礼された信者なり、連合の組合員じゃなければ利用権限はないですとどこでも言われたんだが」

「……………言われた場所のリストを後で教えてくれ、上げておく」

「? そういう規則なんだろう?」

「そんな規則はない。受付には最近現地の人間雇ってるはずなんだが」  
「難しいところだな、やれやれ」

悪魔の気配も薄くなり、タバコを一本啜えて火を付ける。

水撃でビショビショだったのが、気晴らしだ。

「あ、そうだ。あれ、そっちで処分しておいてくれる？」

一区切り付いたのだろう。ナオミが手を降ろし、ヴィクトルに指を向けて言った。

正確に言えばヴィクトルが小脇に抱えていた小さな祭具だ。

「ま、まて！ ナオミ！ これはとても貴重な道具だぞ!! 吾輩が研究するのだ!!」

「どう考えても厄ネタでしょうが。私の店の再建費用にするわ、売れ」

「まてまてまて!! これはどのようなものかまだ調べないとわからんが、これのおかげで異界深度が増したのだ！ 責任もって吾輩の悪魔研究の礎に」

「それピラーじゃないか？ こんなところにあつたのか」

「「え？」」

全員がヒデトを見た。

「ん？」

ヒデトが全員を見た。

「ピラーって？」

「魔界の門を開ける道具だな」

『……………』

全員がヒデトを見た。

「ん？」

ヒデトが全員を見た。

「ちよつと支部までご同行してもらおうか……」

「え」

ヒデトは連れて行かれた。

ヴィクトルは連れて行かれた。

そして、ナオミは請求に向かった。

.....

★わくわく手作り工房♪雑談板 その34

531：名無しの転生者

きええええええ！

きええええええ！

532：名無しの転生者

静まり給えー！

静まり給えー！

533：名無しの転生者

なにゆえそれほど荒ぶられるのか！

534：名無しの転生者

さぞかし名のある山の主と見受けたが何故そのように荒ぶるのか！

535：名無しの転生者

お前らよくおぼえてんなー

536：名無しの転生者

いやまあ日本人の必修だからちよつとはね？

537：名無しの転生者

古の作品じゃん

538：名無しの転生者

えっ（ぐさ）

539：名無しの転生者

やめるのだフェネクス！ おれたちにも時代の差があるということには！

540：名無しの転生者

そういうば前世だとうるせえ奴らとか銀英伝とかガン〇ムやってたな

541：名無しの転生者

どっちだ？

バスタードやってたほう？ やってないほう？

542：名無しの転生者

おそ松くんがニートやってたほう。

543：名無しの転生者

どっちだよ!?

544：名無しの転生者

で、なにがあつたの？

545：名無しの転生者

持ち込まれた装備のあまりの粗悪さにマジギレしてた

なんで式神も入ってないデモニカスーツ使ってたんだよ??

546：名無しの転生者

はあん？

547：名無しの転生者

式神入ってないって、それただの棺桶やんけ！

548：名無しの転生者

しかも重量初期型の奴だったわ。

わらたわらた、思わず爆笑しちゃった

549：名無しの転生者

は??

初期型って「90キロオーバー」のアホだよな？



550：名無しの転生者

草生える

ムキムキマッチョメンの軍人でもないと思えないゴミ装備やんけ。

551：名無しの転生者

覚醒者ならいらねえやつすねー

552：名無しの転生者

式神入ってないから霊装にもならんやつだぞ

やったね、状態異常とかは効かないぞ？

553：名無しの転生者

それただの糞重い全身鎧やんけ

え、なんでそんなのが式神抜かれてるの？

554：名無しの転生者

多分流出品だわ

式神部分抜かれてるのは、多分解析とかでどつかの奴が抜いて

結局放置したんだろ、パワー道具とかの可動部分は一応生きてた

機械制御に完全置換されてたけど

あ パワーアシスト機能ありました！

555：名無しの転生者

それは正規版と比べて？

556：名無しの転生者

レベルアップもしないゴミっすね

精々最大リミッター解除で数百キロぐらい保持とかするぐらいで

557：名無しの転生者

はい、産廃wwww

558：名無しの転生者

せめてトン単位はやってもらわんと。

鍛えた覚醒者でもそれぐらいいいけますわよ？

559：名無しの転生者

現行のデモニカスーツはかなり軽量化と高性能化してるからなー

まあ覚醒者向けの防具にはそこそこ使えるんじゃないか

外野向けには、うん

560：名無しの転生者

で、さらにだ。

なんか一緒に霊装じゃない刀数本とただの大型銃器持ち込まれたわ。

561：名無しの転生者

は？

562：名無しの転生者

ええ、素人さんかな？

563：名無しの転生者

お客様「これと同じかマシな装備欲しいんですが」

わい「あの、これはなにかの冗談ですかね？」

お客様「いいえ、真面目です。幾ら出せば買えますか？」

わい（そこらへんのすみに転がってる試作品とかのほうが性能上々なんだけど）

564：名無しの転生者

完全に一般装備で草生えるわ

ド素人で？

565：名無しの転生者

悲しいね、技術格差つてやつは

566：名無しの転生者

とりあえず量産ライン入ってる銀の弾丸入れた拳銃と聖別したナイフを

渡したら予備にされた

567：名無しの転生者

は??

568：名無しの転生者

お客様「これはいいいナイフとレイガンだな。弾丸も聖なる弾丸か」

わい「はい。今まで使ってた武器よりも悪魔に対しては効果があるやつですよ」

お客様「ビームライフルか、レールガンはないのか？ あと破魔効果があるのはいいが、通常の弾丸も欲しい」

わい「び、ビームライフルですか」

お客様「ビームライフルだ。あとナイフは切れ味がいいが、長いのが欲しい。●●（知り合いの名前）が使ってたコテツブレードか、でかくて構わないから斧をくれ」

わい「お、斧ですか。あ、ここに標識板とがありますけど」

お客様「何度か使ったが、それだと取り回しの重心がきつい。武器として使えるやつが欲しいな」

何を言われたのかわいいはわからなかった。

569：名無しの転生者

こいつ、オタクかなにかで？

570：名無しの転生者

覚醒者ならたまにいるよね。アニメに汚染されたようなやつ

571：名無しの転生者

リアルがこんなんだからしょうがないわね

572：>>>568

とりあえず馴染みの知り合いにも一番いいのを頼むと言われたので

ごつめの霊装渡しておいたわ

このゴミデモニカスーツもどき、どないしょ

ブラックボックス（式神）いれたほうがいいかな

573：名無しの転生者

軽量化と素材置換ぐらいいいんじゃないかね？

戦えてたってことは普通に覚醒者なんだろ。それなら簡易式神補助なんてジャマだし

574：名無しの転生者

ただの装甲板とパワーアシストだけならパワードスーツだからなあ  
でも呪術処置しねえと出せる出力も制限あるし、重さマシマシだけ？

575：名無しの転生者

ま、式神いれなくても素材とか技術次第で同等以上の性能余裕なんだけどな！  
軽量化して、パワーマシマシ、さらに対魔法耐性も加えてやるぜー！

576：名無しの転生者

見えないインクで魔法陣を書き込むとかあるある

577：名無しの転生者

そろそろ分子単位で魔法陣組み込みみたい

578：名無しの転生者

ナノマシンも式神にできるのでは？

という発想した奴はエライ！

579：名無しの転生者

もはやSFだよ。

580：名無しの転生者

海外はリアル世紀末FPS状態だからなあ

581：名無しの転生者

もつと弱くてもいいから量産性を！ という声と

もつと高くてもいいから強いのをくれ！ という声が

同時に飛び交い合う、辛い、辛い

582：名無しの転生者

一般人でも使える装備もいるし



決戦用の精鋭もいるからなあ

魔人ともぼちぼち交戦したって声きたし

583：名無しの転生者

今ん所の俺たちなら順当に勝てるけどな

基本メタ張って、俺たちの防具も式神も属性無効以上揃えられるしあつ

584：名無しの転生者

未覚醒の馬鹿もまだいるところにはいるからな

デモニカもつと強いので楽ちんに強くなりたいたいかマジうぜーし

585：名無しの転生者

レベル上げないと意味ねえんだって

586：名無しの転生者

天使材料ばちばちこつちに転送されて

うまうまMAG稼ぎして技術班でもレベル上がってるからな

587：名無しの転生者

班長は結構つらそうだけどな

588：名無しの転生者

支えねば

589：名無しの転生者

ほんとそれな

590：名無しの転生者

対物ライフル手持ちで運べるようにするってハンドベルトつけければええんかー？

591：名無しの転生者

なにいつてんだおまえ

592：名無しの転生者

怪獣との戦いに備えて欲しいっていわれた

いやマツカとかフォルマ出せば作るし、用意するけどなにいつてんだ??

593：名無しの転生者

怪獣？

594：名無しの転生者

いや、まあでかい悪魔なんて怪獣みたいなもんだが

595：名無しの転生者

海外だとリアルモンハンしてるだろうしな

596：名無しの転生者

いやあの、お客様

ティポーンなんて日本にでてこないですから、どこに出てくるんだ??

597：名無しの転生者

どした

クレーム???

598：名無しの転生者

今担当に確認しますと行って逃げてきた

LV40ぐらいの怪獣怪獣ティホンLV42 旧約女神転生IIにて登場、ソロモンの王剣をドロップする、乱獲しろに通用するかっていわれたんだけど

これどう答えればいいのか?! (対物ライフル)

599：名無しの転生者

LV40ってんなの日本に出たら死ぬわ

600：名無しの転生者

異界にいつてる連中に聞いたほうが早いと思う

601：名無しの転生者

LV5ぐらいのゴミなら一発でいけるぜ!

といえるんだが、LV40ねえ……

602：名無しの転生者

銃撃弱点ならまあいけるんじゃないやねえ？

いやでも戦車でも蹴散らされるよな、LV40って

603：名無しの転生者

とりあえずそれで答えてくる！

さんくす！

604：名無しの転生者

一般デモニカの観測限界超過してるからな、30でギリギリだし

605：名無しの転生者

LV30までがまあ民間限界だわな

606：名無しの転生者

そこから上は神の領域なんよ  
悪魔的な意味で

607：名無しの転生者

LV57の間違いだったといわれた  
どうすればいいの

608：名無しの転生者

通じるか馬鹿

609：名無しの転生者

LV57って俺たち見たこともねえよ  
転生者以外で

610：名無しの転生者

マジでな

611：名無しの転生者

どこからでたのそれ？

612：名無しの転生者

邪龍とかで一度異界ボスで出たらしいIMAGE版 邪龍ティホンはLV57  
それに有効打になるような銃器欲しいって

613：名無しの転生者

もうロケラン背負うしかないんじゃないとおもうんですが???

614：名無しの転生者

覚醒していれば戦車砲でも悪魔には通じる！

勉強になったな！

615：名無しの転生者

してないと通じないけどな！

616：名無しの転生者

ついでに銃撃耐性あつたら半減だけどな！

617：名無しの転生者

たまに反射もされるぞ

618：名無しの転生者

やめろ凶鳥のくせに！！

619：名無しの転生者

とりあえず鳥を見たら撃ってください

ただしカマソツソツって名前だけはやめろと注意書きな

620：名無しの転生者

メガテン知らない僕「凶鳥だな、撃てー！」

デモニカくん「カマソツソツデス、射撃中止します」

ぼく「なんで?? あー逃した！」



621：名無しの転生者

命拾いしたな

622：名無しの転生者

あの時クレームをいれてすいませんでした

623：名無しの転生者

ギリメカラとカマソツソ、あとランダだけは全面手配だからな

624：名無しの転生者

メガテン世界だとわかってから指名手配よ

625：名無しの転生者

マニユアルにも載せてるレベルの怨嗟

626：名無しの転生者

外の異能者にも出てくる異界のレベルがちよつと合ったら  
イラスト付きで確認してるからな

627：名無しの転生者

「失礼ですが、こいつらの顔を見たことは？」

「いえ、この怪物たちがなにを」

「我々を最も多く殺してるやつらです」

628：名無しの転生者

殺してる×

事故らせてる○

629：名無しの転生者

物理スキルしか目覚めてないあのリア充くん

うっかりであって全力で怨嗟の声上げてたからなあ

わかるよ

630：名無しの転生者

耐性は許す、無効も許す、吸収はちよつと許さない  
反射は滅べ

631：名無しの転生者

わあい、貫通なのらゝゝ  
あ、反射だ 死ねゝ ↓カーン

632：名無しの転生者

貫通の定義を統一しろ!!  
反射は貫ける！ 貫けない！ どっちだ！

633：名無しの転生者

仕様です反射の仕様 真4までは貫通とされる耐性無視でも反射だけは防げなかつた 真4F及びD2から反射でも無効化された

634：名無しの転生者

貫通出来るスキルって表示されても

ためさんとわからんからな

相手の霊格次第で反射されたり、それ無視できるときもまちまち

635：名無しの転生者

格上は怖いわ

636：名無しの転生者

俺たちが作る装備でも、稀に耐性抜かれる場合もあるからなあ

そういう例外でも怖いわ

637：名無しの転生者

概念バトルはきつつい

おれたちでもマニュアルにできてない感覚作業も結構あるし

638：名無しの転生者

そこらへんの情報が、女神転生のプレイヤー共頼りだからな。

あとシヨタオジ

639：名無しの転生者

先取りならそこらへんのメタネタで、頑張れば作れるのがわかってるが

この世界だともオカルトメインだからなあ、ゲームとのすり合わせがきつい

640：名無しの転生者

中位の式神ならなんとか作れるようになったけど

上位がまだ手が届かねえ

641：名無しの転生者

きついー完成形が頭に浮かんでるんだけど

そこまでがほんま地道に積み上げ出しな

642：名無しの転生者

悪魔召喚プログラム（メ）のおかげで、フォルマ辺りは

いじれるようになったけどなー！ 電子データで直送されてくるぜ（白目）

643：名無しの転生者

天使直葬だけどな

644：名無しの転生者

COCかよ

645：名無しの転生者

国内にステイブンいなかったせいで、ゴトウのやつ  
ターミナルとか全然知らないのが悪い

646：名無しの転生者

つかえ！

いやでもアメリカにいやがったからマジくそ！

647：名無しの転生者

属性弾とか雑多な販路は丸投げだわー



706：名無しの転生者  
ヨソロー！

707：名無しの転生者  
ウエルカム！

708：名無しの転生者  
遅かったじゃないか！

709：名無しの転生者  
なにがあつたの？

710：名無しの転生者  
チート技術者が来た

711：名無しの転生者  
ヴィクトルうううううううううう！



まっていたぞおおお!!

おら、お前の仕事がいくらでもあるんだ!

712：名無しの転生者

まじかよヴィクトル!

ヨーソロー!! (歓喜)

713：名無しの転生者

悪魔召喚プログラム担当にする??

714：名無しの転生者

いやいや、中位式神を悪魔合体させて

上位式神にしてみらおうぜ!

715：名無しの転生者

ぞ、造魔を。

造魔をほしいんです、英傑とか制御可能で欲しい!

716：名無しの転生者

原作的にCOMP作れるだろ！

おら、ルーン文字で作るんだよ！

717：名無しの転生者

現地人がゲットできて、お前らそんな嬉しいの？

718：名無しの転生者

めっさ嬉しいんですが??

719：名無しの転生者

お前原作補正舐めんなよ

ヴィクトルだぞ、ヴィクトル

720：名無しの転生者

ライドウが養ってたヒモだぞ！

721：名無しの転生者

メアリたんがついに現実に！

722：名無しの転生者

式神でいいじゃん

723：名無しの転生者

言うなよ

724：名無しの転生者

処刑済み○ステイブンが多分居ない以上

ヴィクトルの確保はガチで大事だからな！

725：名無しの転生者

あの暴走クソプログラマー野郎と違って暴走させたことはない！

726：名無しの転生者

しかしなんで見つからなかったんだ？

フアントム（笑）ともつながつてたはずだろ

727：名無しの転生者

いや、あまりにもレベル低すぎて殆ど夜捨て人してたらしいわ

ヤタガラスもアレだし、根願寺とかにも保護されてなかったらしいから

728：名無しの転生者

うわ

729：名無しの転生者

あとヴィクトルから聞いたんだが

ライドウが自害する時に、ヴィクトルの記録と足取りを消すように確約させてたらしい

守ってたんだって

730：名無しの転生者

つら

731：名無しの転生者

いやうん、悪魔合体師は必須だもんな

732：名無しの転生者

そりゃあちよつとめげるわ

733：名無しの転生者

しかしこうしてみるとほんまにメガテン世界だなんて実感する

734：名無しの転生者

わかるわ

735：名無しの転生者

終末どうなるかなー

見込み立ってきたし、装備も転生者もどんどん覚醒してるけど  
マジ足りるかかわからねえ

736：名無しの転生者

割とのんきに終末早くこねえかなーとかいってる奴多いけど

あと五十年ぐらい先にお願ひしたい

こねえよ

737：名無しの転生者

(わかるよ)

738：名無しの転生者

(辛いよな)

739：名無しの転生者

口に出せ

740：名無しの転生者

次代に丸投げして隠居したい  
終末になんて直面したくねー

741：名無しの転生者

ICBM日本に着弾したら終わりだぜ  
メガテンされるわ

742：名無しの転生者

いやですいやです、誰かシエルター作つて  
どでかいの

743：名無しの転生者

真4されるからいやです  
アイツラ方舟作つてるらしいからありえそうだけど  
拉致されそう

744：名無しの転生者

俺たちいなかったらそうなるやんけ  
ファイナルしなきや案件だし

745：名無しの転生者

全部バットエンドルートやんけ  
いやメガテンらしいけどさ

746：名無しの転生者

Nで皆殺しはマジでやめろや  
俺たち誰かトチ狂ったらありえるけどさ

747：名無しの転生者

真2も結局荒野に旅立つエンドしかないからな  
つら、つら、ふわあ

748：名無しの転生者



悲報 仕事増える

749：名無しの転生者

なんで?!

750：名無しの転生者

全世界巡れる高速船作れって指令がきました

設計図用意！ 掲示板みながらだらってるやつ、身支度整えておけ  
メール飛ぶぞ！

751：名無しの転生者

なんで?!

752：名無しの転生者

俺たちが世界救うかもしれないってよ

753：名無しの転生者

は  
あ  
ん  
???

ほれ、まわってワン!

決着は付いた。

「まったく、久々に汚れを付けられたよ」

パンパンと煤汚れのついた手を叩く。

十代半ばの少年にしか見えない男性——神主の周囲に無事なのはたった一人だった。

肩で息をし、それでもなお側に神主を守るように立つ妖鬼オングヨウキ。

それ以外は全滅していた。

雑魚だと舐めていたネコマタはフラグを立てたように地面にめり込まされて死どうせ蘇生出来る亡。

それ以外にも数体ほどの式神はどれも打ち破られ。

強面の傷だらけの男、神主が信用する幹部の霊視能力をもつ男は——

瀕死Hで転PがFっていた。

「フイネガンはまだ戦えるみたいだけど、君が落ちれば勝ち目はない。わかるだろう?」

真つ向から式神モードレッドと殴り合っているフイネガンを見る。

そして、未だに剣と銃を構えて、ネコマタを討ち倒し、オンギョウキに手傷すら負わせた少女を見る。

「魔女ロザンナ」

転生者とごく僅かな現地人以外にはありえないはずの神主の式神すらも打倒した魔女。

悪魔カードをセツト。

ペルソナを切り替えながら、相性を切り替え、スキルを使う。

「常世の祈り」

常世の祈り 回復スキル 味方全体のDEAD/FLY以外のバッドステータスをすべて回復。HPを最大値まで回復

ついでにサマリカムを続けて発動、死亡状態のネコマタを回復し、結界NINE仕様、破魔・呪殺以外にも神経・精神への耐性を上昇させるを構築。

当然のように三回行動を行うそれに、ロザンナと呼ばれた少女は呆れた顔でいった。

「まったく、魔王かなにかかしら」

「よく言われるよ」

「まったく地上でこのレベルって……あー、きつついわ」

「ぜーぜーと息を吐き、手足も折れて、吐血をしているというのにまるで心が折れていない。」

「それどころか未だに戦う気概も消えていない。」

「その上で奇妙なのが……」

「(本当に、ただの異能者か……?)」

「ぬ。不覚を取ったな、勝負はついたか」

「睨み合い、さてどうするかと考えたところで後ろから声が聞こえた。」

「霊視ニキと周囲から呼ばれる男がむっくりと起き上がっていた。」

「大丈夫? 初手で床ペロしてシヨック受けてない? 覚醒した?」

「やめろ、それで覚醒したなんかいったら魂砕波リンチを覚醒コースにいれるだろ」

「うん♪」

「相変わらず人の心がない」

「初手で魂砕波万能属性、敵単体HPを1にするを、テトラカーンで反射されて吹っ飛んだ男が苦い顔を浮かべる。」

「霊視ニキ、アナライズを」

「ああ」

## | FULL・ANALYZE |

種族 人間 魔女ロザンナ LV51 / 84 属性NEUTRAL | NEUTRAL

相性耐性 破魔・呪殺無効 精神・神経・魔力に強い

種族 人間 悪魔召喚士フィネガン LV38 / 54 属性DARK | NEUTRAL

相性耐性 破魔無効 呪殺・精神・神経・魔力に強い

「ロザンナのレベルは51・限界84。フィネガンは38・限界54だ」

「……………どうなってるの?」

(やつぱり転生者じゃない。レベル84程度で止まるような霊格ではないはずだ)

多少の個人差はあれども、覚醒の早く遅いはあれども、大半がレベル限界の打ち止めに達したことはない。

成長した霊視ニキの霊視があれば、ある程度の限界点は見えるが、それでもまだ上にいける。

それだけの経験と本人の意思さえあれば

そも、レベル51程度でレベル80オーバーのオンギョウキに手傷を負わせている事態おかしい。

「不躰な観察遊びは終わった? その猫ちゃんが、私たちで弄びたがつてるけど」

「舐めるな人間が。一度のまぐれで、悪魔に勝てたつもりか。魂まで裂いてくれる」

「下がれ、ネコマタ。彼女はお前で勝てる相手じゃない」

叩かれた軽口に、神主の前で恥をかかされたネコマタが毛並みを逆立てて唸り声を上げるが、神主が制止する。

キャラ付けの語尾も忘れて、殺さんとするのはそれだけ危険視している証拠だ。

あのゴトウ相手にさえ、余裕を持って実験しようとしていた彼女がこれだ。

格上を殺し得るソウルの強さがある

使われている装備も、レベルも、こちらに比べれば劣るものに過ぎないのに。

探りの意味でぶつけたシキガミも、ネコマタも打倒し、仕留めに入ったオンギョウキの不意打ちを凌いで、神主にかすり傷を負わせた。

もちろん全力でのやり取りではない。

周囲の被害も考えて、全速で走り抜けたわけでもない、が。

彼女とフイネガンは戦えた。

それがどれほどの異常なものか。

「とはいえこれで詰みだ。ピラーを渡してもらおうか、それは人の手には余る品物だよ」  
「そうね、同感だわ。穏便に渡してもらおうと思っただけならいきなり殺しにかかるわ、物凄い数で追手がかかるわ、ひどいものだわ」

「……色々事情があるんだよ。クソ邪神とか、面子を守るためとかね」

「? 崇拜してる神の指示かしら、貴方レベルなら大抵の邪神ぐらい潰せそうだけど」

「こちらの前に出てくれればね。まあいいや、とにかく渡して欲しい」

悪魔が化けているなら、もう霊視ニキに看破されているはず。

化けの皮を剥がす意味で追い詰めたが、Nが付く奴の化身でもなさそうだった。

(これ以上抵抗するなら、めんどくさいし消そ)



「それで魔界を開いて、終末を早められたら困るからさ」  
「生憎、魔界に行くのに必要だから渡せないわ」

「ん？」

「ん？」

「？」

神主が首を傾げた。

魔女が首を傾げた。

霊視が、なんか違うかないかと顎に手を当てた。

「…………ちよつとまで。それで魔界の門を開くつもりじゃないの?」

「そうね、開く予定よ。まあここの東京だと開けそうにないからまた爆心地を探すけど」

「……………魔界にいくつて?」

「魔界に渡るための道具でしょ、これ」

「……………魔界の門を開いて、GPアップとか」

「……………あー、開き放しだとなるかもしれないわね」

「……………」

「……………」

何かがおかしい。

二人が沈黙した。

「あのー、ちよつといいか？」

おずおずと霊視の男が分厚い手を上げる。

「どうぞ」

「いいわよ」

「なんのための魔界にいくんだ？ 魔界なんか人間が行ったら死ぬと思うんだが」

極々常識的な疑問に、魔女は「まあ信じないでしょうけど」と前置きをして、言った。

「ある奴を倒しに行くの。そうすれば世界を救えるから」

彼がいないと多分無理だけどね、と付け加えて。

それからしばらくあと。

ガイア支部の特別隔離室にて。

「あ、ヒデト。元気にしてた?」

「ロザンナか。良かった無事だったんだな」

ヒデトが連行されたガイア連合支部で、同じように確保されていたロザンナが再会した。

「いやあ、君も無事だと思ってたが、ここで仕事してたのかい?」

「半分正解半分外れ。ちよつとこのボスに打ちのめされてね、戦っても勝ち目薄いわ」

「アスタロートにでもまた攫われたのか?」

「多分あれより強いわね、アフラ・マズダぐらいよ」

「ん。となると二人でやらないと無理だな」

「そうね。ま、今の装備だとよく考えないと大体死ぬわ」

「だろいな」

二人がそんな会話をしている、見張りに付いていた強面の男——靈視ニキと承太郎は顔を見合わせていた。

「あの男、あんな感じでいいのか？」

「割と無頓着というか天然だな」

情熱的なハグをするまでもなく、お互いの無事もそこに情報交換をしている。

その態度には、当然のようにお互いが無事だという信頼。

そんな絆があるんだろう。

「ヒデト。貴方はいつからここに？ 私は二年前ぐらいからよ」

「時間が違うのか？ 俺は大体半年ぐらい前だ、ああだからレベルが君のほうが上なのか」

「そうね。ここにきてからかなり弱くなっちゃって、頭痛かったわ。色々常識も違うし、

まーた魔女なんて呼ばれるし」

「まあ美人だからな」

「なによそれ。今更口説いてる？」

「事実だろ、君は綺麗だ」

「はあああ……相変わらずよね。センダがキレたのも当たり前よ」

「別に色香に負けて君の言葉を信じたわけじゃないんだが……」

「はいはい、それならもう飽きるほど聞いたわよ。本当だつていうものね」  
(ぬ。これはかなり甘えているな、うちのと同じ顔をしている)

所帯持ちの霊視ニキはロザンナの態度の変化に目ざとく気づいた。

承太郎は(クールな関係だぜ) と思っていた。

そんな時、扉が機械音を立てて開いた。

「やあやあおまたせ、またせたかな?」

「チエック完了したよ。あの腐れ邪神の気配はなし、安全だ」

神主とその後ろから色白の少年が入ってくる。

承太郎と並ぶペルソナ使いとしての代表だ。

本来ならもう一人ハムネキと呼ばれる幹部級がいるが、彼女は壊滅的にコミュ能力がないため呼ばれていない。

ガイア連合でも実戦派の幹部が並ぶ。国外に出ているもの、国外支部長を除けば神主が信用しているメンツだ。

室内の圧力が増して、武装解除されているヒテトと同じく武装も取り上げられて魔封状態のロザンナが神主を見た。

「さて。こんな狭いところに押し込めて悪かったんだけど、色々事情もあつてね。お話ししていいかな?」

「国津神と天津神の見張りに、何十体と国外の悪魔の監視網が付いてたわね。私も本来ならそこらへん外せるんだけど」

「悪いね。一応こつちでも外すように気を使つてたんだけど、混ざつてたかい?」

「ここに来るまでに身支度はさせてもらえたからね。ヒデトのほうは、まあ保食神嫌いの奴が祓つてるはずだけど」

「?」 直接仕掛けて来るときでもなければ気にしないが」

「……あんたねえ」

「?」

慣れ親しんだコンビ漫才をするヒデトとロザンナに、少年が肩を竦め、神主がパンパンと祓いの作法で手を叩く。

「さて、ロザンナ。僕らは条件を守った、ヒデトを保護して連れてきた」

「俺を?」

「彼女の目的を明かしてもらう条件として、君の保護と合流をさせること。これは君が本物かどうかロザンナが確認する意味もあった」

「間違いない本物よ。私が知っている時よりもレベルは下がってるけど。あ、そうだ。手持ちの悪魔はどうなの?」

「うん?」 M A G 不足で呼べないがあの時そのままだ。多少交渉して増やしてるが、ゼウ

ス、アフラマズダ、カーリー、ハヌマーンもいる」

指折りヒデトが数える悪魔の名前に、神主たちが「こいつマジである悪魔召喚プログラム持ってやがる」という顔をした。

色白の少年に至っては赤い目も相まって、どこぞの通報大好きウサギみたいな顔をしていた。

「おーけー、戦力には十分ね。あとはレベルを上げ直して、装備とピラー集めればいいわ」

「うん？ ロザンナ、ピラーを集めてたのか」

「ええ。貴方が協力してくれると思ってたからね、今度こそアレを成し遂げるわ」

「……なるほど。殺し損ねてたか、あの大魔王も手持ちから何故かいなかったしな」

「多分ね。どちらにしろ四大天使も動いてるわ」

「俺の責任か。まあ全員殴り倒すか」

「そういうこと♪」

「そこまで。気になる情報があったけど、それは後で吐いてもらうとして」

神主が口を開く。

「ピラーを集め、魔界に行き、何を倒すつもりなんだ？ 魔界の本体や魔王などに戦いた

い戦闘狂や復讐者には見えないし、好きに消えてもらいたいところなんだけど」

「魔界から直接Y・H・V・Hを滅ぼしてくるわ」

「は？」

「殺り直しつてところね。ついでに何体か、魔王と邪神も倒してくるつもり。影響を受けてるやつらもいるでしょうし」

「やはり黒幕はあいつか」

「ええ。私も色々この二年間調べてたけど、元凶はあいつとしか思えないわ。そうでなくても北米や、他の国での影響力を削る意味でも倒さないと、この平和な世界が崩れてしまう」

「それは困るな。わかった、やろう」

「貴方がいること前提の目的なんだから断られたら、諦めてたわよ」  
「なにいつてんだてめーら」

トントン拍子に意見をすり合わせる二人に対して、神主は呆れた顔でため息を吐き出した。

「唯一神を滅ぼすって、そりゃあ考えなかったわけじゃないけどさ」



「どんだけ強いのか想像が出来てないのか。」

「そんな夢物語に、皆が口を開けた」

「すまん、シヨタオジ」

「うん?」

「今なんていったんだ? よく聞こえなかったんだが」

「え」

「不思議そうに、霊視と承太郎と少年が首を傾げていた。

まるで言葉が聞き取れなかったように。」

「神を倒すって言ったんだけど」

「何の神をだ? そりゃあくソぎっぱな奴なら俺らでも倒せると思うが」

「邪神はぶつ殺すべきだと思うよ、僕も」

「?」 なんか食い違ってるんだけど……」

「どうした?」

「信じられないのはわかるけど、真面目よ、こっちは」

「うん? あ」

「神主が目を見開いていた。」

「……—そういうことか」

「どうした、シヨタオジ」

「ちよつとまってくれ——機密レベル最上級指定、結界を最大強化する。監視カメラ、記録を停止。本日分のここまでの情報を破棄、処分しろ」

真剣な眼差しで札を取り出し、それを走らせながら、部屋中に光の文字が舞う。

この場の全員がなにをするつもりだと見つめる中、大きく神主が両手を開いて。パンつと両手を打ち付けた。

「認識阻害を解除した、これで聞こえるはずだ」

「認識阻害？ なに、を——あ」

「ああああああああああああああああああ!!」

「そうか!! ああ、思い出した!!」

目を見開き、三人が遅れて顔色を変える。

「な、なによ。いきなり大声上げて」

「どうかしたのか?」

「神殺し、そうだ。前例がある!! 三回ぐらいあるはずなのに、なんで忘れてたんだ?!」

正確には四回 N I N Eでも行われている とういか右手と左手違うが、まんまじゃねえか!」

「……こいつはいっぱい食わされてたってことかな、僕らも」

「むかつくぜ。だが気づけば違和感だらけだった、ドーリで誰もそれを提案しなかったわけだ」

「ぼくとしてはまあ死ぬだろうから案としては無しって思ってたんだけどね」  
「??」

ガイア連合の幹部たちの騒ぎに、部外者である二人だけがついていけない。

防音を張ったのか、彼らの言葉はすぐに聞こえなくなり、そして五分ほどだろうが。

彼らは話し終えて、ぐるっと二人を見た。

何かしら信じられないものを見るような。

眩しいものをみるような、半信半疑のような目つきで。

「……………えーと、君たちがなにをするって?」

「Y. H. V. Hを滅ぼす」

始まりの神殺しは、そう告げた。

この世界における認知の捻じ曲げを受けない観測者として。

いまのは、ゲームしやないんだよな

「それで？ 支援をすることに決めたと」

「うん♪」

「軽やかに言うことじゃないんだよな」

そこは日本のある人工島。

ガイア連合の技術力と火山神によって生み出された神々と悪魔と異能者たちが集う協議場——ではなく、

ひっそりと静まり返ったガイア連合山梨支部のデジタル会議室。

悪の秘密結社じみた暗がりには、無数のモニタが浮かんでいた。

『しかし、なんでまた今回はWEB会議で？ 通信回線はなんとか回ってきた電霊のおかげで繋げてるが』

『だね。ゼウスに電力の消費量を誤魔化すのにマグバッテリーをこそこそ用意するはめ

になったし』

そう質問するのは地獄と化しつつある欧州、イギリスとイタリヤ<sup>ロ</sup>の支部長。

見目麗しい金髪の美青年（既婚、娘持ち）に、未だ年若く燃えるような髪型をした少年。

そんな二人の質問に、会議室の中心でいつものように足を組んだ神主は、側に立つふとましい電子作業担当者に目を向けた。

「唯一神を滅ぼした実績が彼らにあつてね」

『?』

『なんだつて?』

神主の言葉に、モニタの向こう側の全員が目を丸くしたり、首を傾げる。

「……どうだい、今の音声はちゃんと信号化された?」

「ちゃんと信号化して送っているはずだけど、ブロックされたのか、あるいは認識出来なかったのが判別が難しいお。あとこちらで改変した悪魔召喚プログラム（メ）を使った電子通信機で、同じ情報を流した途端、プログラムの加護が一見分からない程度に劣化したお」

「あー、奇しくも最悪の予想通りだったと」

「マジでうちの技術でも解析不可能な領域があつたつてことですねー」

「最悪だね、それだけ恐れてるってわけだ。いや、僕も逆の立場だったらヘラヘラ笑ってられなかったけど」

『あーすまん、話が読めないんだが、つまりなにをするんだ?』

米国からの通信に、僅かにノイズ混じりで通信を繋げている男が声を上げた。

彼が救出をしたのだろうシエルターの一角、うす汚れた壁を背に、深く帽子と全身を覆い隠すコート姿の男。

通称狩人。

米国で起こったクトルルー召喚及び呼び出された天使たちに寄る浄化と言う名の虐殺の地獄に、単身と饑別に渡された物資を背負い、米国中で天使を狩っては、素手で内臓をぶち抜き、ゲットワイルドを流しながら難民を救出し、米国にて行方不明の友人を捜索しているガイア連合屈指の猛者である。

その映像には膝の上で狩人の胸元に頬ずりを繰り返す正体不明フア美肉の魔人の少女おじさんも映っている。

「うーん、唯一神を斃しにいく、っていったらわかる?」

『は? 唯一神を倒す?』

『いや、それが出来れば確かに逆転の一手だが……』

『そんな事出来るの?』

「うーん、これなら通じるのか。こりゃあそれが出来る、出来たってことだけを歪めてみるとみていいかな」

「だな。とはいえシヨタオジに解除して貰わないと信じることも難しいだろう、それが可能だという確信を捻じ曲げられてるんだと思う」

神主の言葉に、頷く靈視。

「まったく厄介だね。とはいえ、やれることはある。例の画像を」

「おkマル」

ふとましいプログラマーの男はポチポチと、操作を行う。

スクリーンに写し出されたのは太く、柱のような形状の祭具。

『これは？』

「これはピラーと呼ばれる祭具だ。今日本国内を全力で探してるが、まだ3本しか見つかっていない」

「全部で7本あるはずですが、日本国内だけではなく国外に流出した可能性があります」  
神主の横に立つ会計事務をまとめる女性は、続いて映し出された幾つかの船と契約書らしき画像、そして幾つかの日本国外の風景を指差した。

「ピラーと思しき品が、イギリス、イタリア、エジプト、そしてアメリカに渡ったと思しき記録が発見されました」



『イギリス、こちらにか?』

『んーどつかでみたような……』

『アメリカつてことは、GHQ辺りに押収されたのか』

「こちらでも僕が占術をした結果、おそらく今上げた4つの国にあるのは間違いない。君たちにはピラーを搜索確保しておいてもらいたい」

『了解。イタリアの美術品にあるかもしれない、詳しい人がいるかもしれないから確認してみる』

『突撃使える物資探しの合間でいいなら探しておく』 『レアアイテムかしら? 見つけたいわ』 『イベントアイテムつてところだな』

『わかった。イギリス中のコネクションを通じて探しておくが』

イタリア、アメリカ、イギリスの担当者たちが快く領く中、思い出したように金髪の美青年は片目を細めた。

『エジプトはどうするんだ? あれは多神連合を裏切り、メシア勢力と単独で交戦し続けてる敗戦土地だぞ』

『それはこちらで回収にいく予定だよ』

『回収にいく?』

「ああ。例の二人、ヒデトとロザンナの二人と幾人かの希望者を乗せる高速艇を今用意

している」

その言葉にモニタの全員がざわめいた。

「彼らが世界中を渡り、ピラーを回収……最終目的地で魔界へと突入してもらおう。僕らはそのサポートってわけだ」

シンと音が止んだ。

そして、数秒遅れて、イギリスの支部長が手を上げて発言する。

『最終目的地とは?』

「悪いけど今は言えない。どこから情報が漏れるかわからないからね」

イタリアの支部長が口を開く。

『あの、それって俺たちも魔界にいくってことなのか? 希望者とかもう募ってたりする? ゼウス辺りならノリノリでいきそうなんだけど』

「それはしない。あくまでも魔界に行くのは例の二人だけだ。僕らは送り届けるだけだ」

首にしがみついた少女をそのままに、狩人は低い声を上げた。

『そいつは、二人を鉄砲玉にするってことじゃないか?』

「はい。その通りです」

平然とした声が響いた。

同席していた女性が、涼やかな顔で書類に目を通しながら言葉を続ける。

「私たちガイア連合は、ヒデト・ロザンナの魔界突入計画を支援しますが、最終目的以降は支援を打ち切り。あくまでもサポートとして支援します」

「打ち切り？」

「ええ。順当にいけば終末までのメシア勢力影響力の減退、失敗してもこちらへの損害は軽微。装備、物資の支援こそすれどもあくまでも一個人レベルで、私たちの終末対策計画には一切影響は出させません」

涼し気な顔で。否、正確に言うなれば飽き飽きしたような顔を彼女は浮かべていた。

——なんでこんな無駄な手間を取らされているんだらうか。

そんな言葉が顔に浮かんでいると断言出来るぐらいに。

『さ、さすがにそれは人でなし過ぎないか？』

『だよな。いや魔界にいくとか、たった二人で天使も悪魔もどばって出るだらう場所にいくとか、なあ』

「まあ……お前からすると当然だろうな、口で説明するのも難しいんだが、ううむ」  
認識の食い違い。

転生者特有の原作知識での前提が通じない、すり合わせが出来ないもどかしさに、霊視は困ったように顔を歪めて。

「うーん、ぶっちゃけるとね。成功の確率殆どないんだよね、これ」  
『え』

「『お、おい、シヨタオジ』」

「いやもう言っちゃったほうがわかりやすいでしょ。というわけでいいまーす、唯一神の推定レベル、幾つだと思う？」

『100ぐらいか？』

『いや、108とか煩惱数じゃないか』

『確か真1のセラフが110ぐらいだっけ、となると130とか』

「150だよ」旧約女神転生Ⅱでのヤハウエのレベル、参考までにルシファーはLV120、魔王サタンは135だった

『――』

沈黙が満ちた。

言われた言葉に自信がなく、お互いの顔を見合わせる。

嘘だろ、なにいつてんだこいつ、いやもり過ぎでは、そんな言葉が誰かしら上がって、信じたくないようにぎわめいて。

「いやーびつくりするよね、マジインフレおかしいうつていうか、まあ勝てないよねー」

「ああ。まあそれが今でもそうなのかはわからないがな」

絶望を通り越して実感がわかない。  
ファミコン時代、初期のガバガババランスで盛り上げただけのレベルの可能性がある。

認識が正され、正しく原作知識がある面々からすれば実感があるのは真<sup>Lv108</sup>2か、真<sup>Lv100</sup>4FINALの黄色いハゲだった。

「勝てる見込みはありませんが、投資分の遅延成果は見込める予定です。皆様方にはご足労ですが、ご協力をお願いします」

「この計画のコードネームはプロジェクトイカロスでよろしく。んじゃ、そういうことで」

パンパンと手を叩き、神主が話を締める。

幾つかの短い通達を終えて、会議は終わりを告げた。

彼らの計画も目的も変わらない。

ただ生き延びるために、終末に備える。

それだけなのだから。  
今は、まだ――

・ ・ ・

「どこまで手を貸してくれると思う？」

「最高で、魔界への突入まででしょうね。それ以上は無理でしょ」

「そんなにか？」

目を丸くして驚くヒデトに、ロザンナは月夜の下で艶めく髪を掻き上げながら息を吐いた。

「貴方は不遇に慣れすぎよ、ここ普通なら怒るところでしょ」

「そうか？ 正直装備をくれるだけでも十分だし、海外にまで送ってくれるとか親切過

ぎると思うんだが。マツカとか払ったほうがいいんじゃないだろうか」

「それそれとお互いに現代じみたラフな格好で、落ち着かない様子のヒデトに、ロザンナは呆れた顔を浮かべて。

「もお」

苦笑へと唇を変えた。

「本当に変わつてないのね、アナタは。善良な隣人だわ」

「不器用なんだ。そもこれから海外にいくとか言われて、魔界より遠いんだろうかとちよつと怖くなつてる」

「違う次元にいくより、海を隔てた先のほうが遠く感じるわね」

他愛ない。

とぼけたような会話をしながら、なんとなく空を見上げた。

「月が綺麗だな」

「……！　　そ、そうね」

「異界とかにいかないよ、こんなに月が綺麗でも悪魔が襲いかかつてこない。いいよな」

「………そうねえ」

「……？　　なにかおかしいこといったか？」

「自分が考えなさいよ、このゲーム脳」

「あ、かなり久しぶりの罵倒だな。最初の頃だったか、それ。脳が変異してるのかとびくびくしてたぞ」

「貴方の脳もわりとおかしいと思うわよ。右腕千切れておいて、あ、どうしようなんて平然としてたじゃない」

「いやああんまりにも現実感なくて。サイバネ博士のこと忘れてたら死んでたな」

「止血しながらでも、普通に歩き辿り着いたのはおかしいわよ」

「頑張りました」

「知ってる」

「そうか」

「……褒めたほうがよかった？」

「今褒められたんじゃないのか」

「50%つてところね。残り半分は呆れよ」

「知ってるか？ この世界、バファオンってやつで風邪にも効くん。半分が優しさで出来てるらしい」

「キャッチコピー普通に信じてるし?!」

「つまり俺にも効く」

「大事なのは優しさ以外だと思っただけど」



「大事なものは気持ちだろ」

「まあ気合も必要だけど、魔法を受けたときとか使うときとか」

「気合で防ぐからな偽典女神転生より公式設定 魔界魔法は精神力で軽減可能」

「反論しづらい流れね」

「いえーい」

「悪魔交渉成功したみたいなのポーズ取らないでくれる?」

他愛ない。

他愛ない会話をしていた。

たった二人の人間が、魔界の空の下を、ひたすら歩いていた時のように。

他愛ない話がたくさんあった。

たった二人の人間が、魔界の大地の上を、ひたすら旅してた時のように。

他愛ない関係だった。

偉業を成した今の時代ではない英雄たちは、他愛もないことをよく喋っていた。

それが人間らしいのかどうかなんて、彼と彼女にはわからなかったけれど。

二人はそんな旅をしていた。

「お二人さん」

声がした。

驚きもせず、二人が目を向ける。

窓際に、月の色めいた色合いのフアッションに身を包んだ女が腰掛けていた。

「色々気になつてる目と耳が来てるんだけど、ちよつとシメとく?」

「ん、国津神と……天津神か。あらやだ、貴方がいるの氣づいてない感じ?」

「多分姉貴のやつ、あたしがいることも氣づいてないわね。まーた引きこもつてそうだし。まーた馬でも投げ込んでやろうかしら」

「やめなさい。太陽陰つたら困るわ、また追放されるわよ」

「まあ、どうせ魔界にいくんだらうから関係ないんだけどね。母上も父上ももうちよいあいつら締めておきなさいよ」

やれやれと歯を剥き出しに、女が床に降りる。

ズンと少しだけ音が響き、おつとつとと慌てて床を見直した。

「うっわ、すげえ頑丈。ヒビ入ったかと思つたぞ」

「化けるのが中途半端だからでしょ、体重とか手を抜くからあんな跡が残つてたのよ」  
「酒飲ましてぶつ殺すまでの一時しのぎだし」

「ゴキゴキと首を動かし、ヒデトの側まで女は歩み寄ると、その義手に手を乗せた。」

「あそこには昔の俺がいる。メシア共の数に負けたなんて思い込んで、天津と国津での殺し合いにばかり気にしてる俺らがな」

声音を変え、否、本来の声色——荒々しい戦神の声で、己が認めた男に告げる。

「今の私なら大半は従えられるだろう。どうする、サマナー？」

「いや、その必要はないだろう」

「何故だ。アホ共を締め上げるのはガイア連合とやらにも恩が売れる、今の私なら昔よりは上手く話を運べる自信がある」

「それでも」

ヒゲトは、自らの仲魔を見た。

魔界に自分を追って、力を貸しに来た戦神を。

「力づくで従え、それが正しい、なんて押し付けても人も悪魔も変わりはしない。ただ生き方と選択で変われる、そうだろうか？」

スサノオ。

口に出さず、声にせず、ただその唇だけで名を呼んだ仲魔は笑って、悪魔召喚プログラムに従い、送還された。

「ふふ。口にした以上、頑張らないとね」

「ああ」

「でもちよつと見てみたかったわね。神々に顔合わせにいつて、いきなりどーん！ つて出すとか観物だと思わない？」

「……ろくなことにならない未来しか見えない」

「ま、それも有り得た選択つてやつよ」

くると、ロザリンドが軽く身を廻す。

自分たちを科学の目で、あるいはそれを上回る術で、監視しているだろう彼らに笑いかけるように、くるつと回り。

黄金の髪を靡かせた、魔女と呼ばれた少女は、彼女を選んだ救世主の男に微笑んだ。

「さあ。世界を救う旅を始めましょう、貴方と私で」

「ああ。もう一度手探りで、何かが出来ることを旅しながら探そう」

「この世界はまだ終わっていないのだから」

「まだこの世界は終わってないから」

「悪魔を斃しましょう」

「天使も倒していこう」

「仲間を探しましょう」

「手を貸せる人を探そう」

「また長い旅になるでしょうけど」

「またいつまでかかるか分からないが」

「貴方がいればきつと上手くいくわ」

「君がいればなんとかなると思う」

「やりましょう」

「やろう」

「自分たちの旅をはじめよう」

新約女神転生  
デジタルデビル  
ストーリー



## メシアの章

### ★海外派遣の是非について語るスレ 1 出航

都内某所。

「つまり、我々から打って出ると?」

「いけるのかね、そんなことが」

秘密裏に隠された超機密性の高い極小異界にて、四人の男たちが麦茶をしばきながら密談していた。

一人は神主。

一人は霊視。

残り二人は険しく彫りの深い顔立ちをした精悍なふんどし姿が似合いそうな男——陸上自衛隊陸将。

同じように鍛え上げられた体躯に黒い手袋を嵌めた欧米人の男性——トールマン。

ガイア連合と共同する日本と米国機関の代表者たちだった。

「正確に言えば強行偵察ってところだね」

「このデータを見る限り、極めて高い戦闘能力に、悪魔の使役が可能なようだが……」  
 「それでも個人ではないよ。戦略を個人の戦術で覆すのはごく限られた例外以外にはありえない、それは貴方がわかってるはずさ」

ぬかづけを一摘み口に放り込み、麦茶を啜りながら神主は熱心に渡された書類を見る  
 トールマンに目を向けた。

「気になるかい、トールマン」

「ええ。まさかこれほど強力な超人が、ガイア連合以外に存在したとは……しかも過激派の天使共に狙われていると？」

「本人曰くだけどね。昔戦ったことがあるそうだよ」

（元は仲魔として使役していたなんてのはさすがに伝えられないしな）

神主と二人の会話を聞きながら、にじみ出た汗を霊視が拭う。

女神転生2の主人公、ヒデト。

さすがにFC時代、それもかなり初期も初期だからこそ詳しい情報は一部の熱心なメガテニスト転生者の記憶にしかないが。

仲魔に出来る天使に、ミカエル・ウリエル・ラファエルがいたらしい。

——あくまでもルシファーを滅ぼすまで。サタンの時には離脱したが。

本人曰くそういうことらしいが、それがこの世界でも通じるかどうかはわからない。



甘く見る気はないが、過大評価するのもまずい。

だから手持ちの悪魔をフル活用すれば四大天使も倒せる、それも鍛え上げれば。という条件付きで、彼らはヒテトとロザンナを換算していた。

「海外情勢の収集か。こちらに余裕さえあれば、私の部下も連れたいところだが」

「やめておいたほうがいいよ。海外のGPは日本の比じゃない、昨日から続いているICBMのせいでジリジリ追いつきつつあるけどね」

「あの忌々しい羽つき共め。好き放題にやってくれる」

今は迎撃に成功しているが、月に5・6発。

3日に1度は撃たれている悪魔召喚プログラムと脳髓込みの核ミサイルの余波で着実に日本国内のGPは上昇速度を加速させている。

ロシアと中国に至っては日本へと送り込む悪魔を増やさんとばかりに打ち込まれ、地獄と化しているようだ。

「ルートはどうするのだ？ アメリカにいくにしても直進では、ガイア連合のタンカーでもなければ天使か、海を荒らす悪魔に沈められるはずだ」

「ガイア連合の防衛力があってこそその安全性だからな。そうでなければすでに物資の輸出入は止まっていたでしょう」

「現場判断で変更があるけど、まずはアフリカ大陸を一周して、イギリスに向かう予定

だ。そして、イギリス支部で情報を集めたあと、エジプトに向かう手はずになってる」  
「イギリスに？ エジプトへといくなら直接向かったほうが早いと思うが、大回りにも  
ほどがある」

「確かにイギリスからは近いが……補充の必要があるのか？」

その質問に、神主はニコリと微笑んで。

「エジプトを救出するわけじゃないからね。イギリスを足場に周辺を調査して、現地の  
情勢を確認するだけさ」

（さすがに魔界につっこむからピラーを探してるとは言えんからな）

魔界への門を開く7本のピラーに関しては、ガイア連合の中でも機密事項となってい  
る。

ゴトウとツールマンを信用してないわけではないがあくまでも外部であり、転生者と  
いうメタ知識と切り分けられた存在ではない。

（それに、下手に叶わない希望をもたせるよりはずっといい）

魔界に乗り込んで聖四文字と四大天使の本体を倒せば、世界を救えるかもしれないな  
んて。

夢物語にもほどがある。

「まあそれも途中で死ななければの話だしね」

「確かに極めて危険性が高い任務だな」

「海に出て大丈夫なのか？ このサイズでは小回りは聞くだろうが、嵐などの災害に巻き込まれたら物理的に沈むリスクがあるが」

軍人としての視点と、数々の特殊任務をこなしてきたブラックハンドとしての視点を変えて、二人が広げた地図と書類を前に質問を交わし合う。

その間にも霊視は定期的に周囲をその能力で見渡し、介入してくる不屈き者がいないかをチェックしていた。

今回の一見に關しては悪魔たち、それも日本国内の神々が息巻いていたのだ。

予想していたことだったが、反撃に打って出ると勘違いし、大量破壊じみた……いやそれそのものの指示を厚かましく言い放ったのだ。

日の本の民と土地でなければ、全て夷狄。

滅びるならば滅べ、いや滅ぼしてやるとでも恨み骨髄に唱えて、他国に信仰を根絶やし、生まれた悪魔たちとの喧騒が凄まじかった。

神主を含む実力者たちが強引に仲裁をしなかったら、今頃血が流れただけでは済まなかっただろう。

多神連合など上手くいくはずもなかったことが証明されたようなもので、ため息が出る。

「ふむ。こんなところか、悪魔召喚プログラムのおかげでデビルアナライズ——悪魔の情報を取藏した悪魔全書の完成度も飛躍的に進んでいる」

「天使共の解釈違いの姿も含めてデータがあれば戦いようがあるからな」

「そういう意味では最新の悪魔情報が手に入る収集任務も必須だ。特に既存デモニカでは計測し切れないレベルでも、脅威比較は出来るようにしなければ」

「ですな。強いものをただ強いとだけ言うならば誰にでも出来る、手に負える強さなのか、負えない強さなのか、それだけでも分かれば間違いが減らせる」

「選べる最善があるかどうかは違う話だが」

「最悪でも次善を選びたいものですな」

「うむ」

二人の会話にうんうんと頷きながら「まあそういう感じの有効活用も出来ると思うからね、投資分のリターンは回収出来ると思う」と神主が言葉を締めた。

それは建前が本当のように聞こえた。

いや、建前でも裏の目的でもどちらでも等しく価値があるのだろう。

しくじったとしてもほとんど痛くはないのだ、俺たちは。

（希望者として乗るフィネガン、多額の成功報酬を求めたナオミ……希望者として乗り込むレイジ以外は、死んでも悲しむほどではない）

その殆どが現地人だ。

神主も、ガイア連合の殆どが顔見知りでもなければ気にしない。

対岸の火事ではないのである。

そして、その感情は冷静に分析しているつもり自分も例外ではなかった。

冷たい人間だ。

どうしようもなく。

(……自己満足だとわかっている、やめられんな)

「ところで神主よ」

「なんだい？」

「空路を使えない以上、海路でイギリスに向かうのはわかるのだが……アフリカ大陸の側は危険ではないか？ 魔人が出る可能性がある」

「アフリカ大陸にはブラックライダー、飢餓とイナゴの黙示録の騎士に、戦争と民族紛争のレッドライダーの出現情報があったはずだ。欧州まで北上すれば白と青ざめた騎士も出る」

「奴らはより強い異能者に惹かれて襲ってくるという噂もあるぞ」

「その対策はあるのか？」

ゴトウとトールマン、どちらも超人と称される二人に見つめられて、シヨタオジはい

つものように微笑んだ。

「それはまあその時さ」

両手を軽く開いて、肩をすくめる。

「そも。地上の四分の一っていうんだぜ、どんだけ広いのさ」

軽やかに。

「そんな簡単に出会わせないでしょ」

彼はフラグを立てた。

やばくね？ と三人が顔を見合わせたのに、神主は首を傾げた。

.....

★海外派遣の是非について語るスレ 1 出航

57：名無しの転生者

反対だわ

58：名無しの転生者

断固反対でござる

59：名無しの転生者

陸軍としては海軍の提案に反対である！

60：名無しの転生者

いやそもなんで一々海外なんか助けにいかないといけないわけ？

資材と予算の無駄だろ

使われるのはオレたちのマツカとフォルマなんだぞ

61：名無しの転生者

だからおちつけーって

あくまでも志願制の希望者だけなんだって  
使うのも中型の船一隻なんだろ

62：名無しの転生者

アメノトリフネだっけ？

63：名無しの転生者

そーそー

こつちでも計画プランにあつた海上決戦用の機動船使うんだって

64：名無しの転生者

わかつている情報

●全世界渡航対応機動船をしよう（試作品？）

●乗務員は例の二人＋希望者俺たち

●世界各国巡って、高位悪魔を首刈りしてくるぜー

●そしたら終末遅れるかも？

ということらしい



65：名無しの転生者  
ばか

66：名無しの転生者  
アホじゃないの？

67：名無しの転生者  
いやだつてなー

メガテン主人公といえども無理あんだろこれ

68：名無しの転生者  
本当にメガテン主人公なの？

似たようなモブだったりしない？  
ゴトウとかまあまあ強いぐらいだし

69：名無しの転生者

そこらへんは運営発表通りだぞ

あと二人には言うなよ、ガチ秘匿情報だし

70：名無しの転生者

そりゃあねえ

メタつていうか、ゴトウとかトールマンとかゲームだとあれだったんですよとか誰も言わんがな

71：名無しの転生者

体のいい島流しっすねー！

72：名無しの転生者

いやだつてメガテン主人公とか絶対酷いこと起こるやん（確信）

73：名無しの転生者

そもレベル限界とかどうなってんの？

俺たちと同等なのか？

74：名無しの転生者

霊視ニキ情報だと、84だったらしい

まあまあ高いっすね〜

75：名無しの転生者

うーん、まあ現地人としては驚異的だな

76：名無しの転生者

俺たちの大半より強いっすねー！

77：名無しの転生者

まあ鍛えれば超えるんですけどね！ おれたち！！

78：名無しの転生者

するんですか？

79：名無しの転生者

いやしないけど

80：名無しの転生者

そこまで検証したのいないし  
いても広めんだろ

81：名無しの転生者

LV30もあれば余裕だしなー  
それ以上はしんどい

82：名無しの転生者

わかる  
死にかけるのきつついし

83：名無しの転生者

シヨタニキ拷問覚醒はご褒美超えた地獄だったけど  
それされたからって痛いのが平気なわけじゃないですしおすし

84：名無しの転生者

まあ主人公さんがなんとかしたいってならつつこんでもらえばええやろで、どんだけ強いのか？

旧約っていうか、無印の2とかってなんか特別設定あったっけ

85：名無しの転生者

メガテン設定スレみてこい

86：名無しの転生者

あそこごちやごちや覚えてること書き連ねてるだけだから

調べるのきついなだよ

時々運営の検閲入るしさ

87：名無しの転生者

N関係書き込むアホもいるからな

88 : 名無しの転生者  
話題に出すな

89 : 名無しの転生者  
鯨島事件

90 : 名無しの転生者  
なつかしい

91 : 名無しの転生者  
スキル使えないことと  
あと悪魔召喚プログラムもってるから5体ぐらいは出せるだっけ？

92 : 名無しの転生者  
ほう、すごいな

93 : 名無しの転生者

ああ！ シキガミ一体と比べたらすげえや！

94：名無しの転生者

そうだな（ムシキチさんの十体同時使役みながら）

95：名無しの転生者

やめやめろ！

割と見た時引いたトラウマを思い出させるのは！

96：名無しの転生者

というか簡易シキガミもいれたら十体どころじゃないぞ

数十体以上余裕で動かせるらしいし

97：名無しの転生者

こわ

98：名無しの転生者

あれ？ つてことは悪魔召喚プログラム大したことないんじゃないかね？

99：名無しの転生者

オレたち転生者がおかしいだけだから

そも一応プログラムのサポありでようやくらしいし

とはいえまだ鍛えれば伸びるらしいんだよな

100：名無しの転生者

悲報 メガテン主人公型落ち

101：名無しの転生者

そもスキルも使えない古いタイプらしいし

ゴミじゃね？

102：名無しの転生者

オリジナルの悪魔召喚プログラムもぶつちやけしよぼいらしいしな

アプリも使えないらしいし



103 : 名無しの転生者

バージョンが違いすぎるから仕方ない

言語違うらしいですし

104 : 名無しの転生者

我々ガイア連合の技術力はすでにオリジナルを超越している！

105 : 名無しの転生者

ま、頑張ってもらうってことで

106 : 名無しの転生者

だべだべ

107 : 名無しの転生者

実質島流しだよな

108：名無しの転生者

国内に入られても絶対なんかトラブル起こるだろ

メガテン主人公のいる場所Ⅱ大破壊だし

109：名無しの転生者

出ていってもらうのが安全だわ

110：名無しの転生者

まあ終末も近づいてるしな

日本はシヨタオジとかのおかげで平和だし、起こるとしたら外だろ

111：名無しの転生者

ゴトウがクーデターとか起こさなければな

112：名無しの転生者

アレは止めただろ

どちらかというとツールマンが核ミサイル押さなければ

113 : 名無しの転生者

そつちも違うみたいだしな

114 : 名無しの転生者

結局どこいくんだ？

海外つて色々あるやん

ボインボインのモルガンママのイギリスとか？

115 : 名無しの転生者

アメリカはいけるのか？

オレたちも何名か行つては、あそこはきつすぎるつてリタイヤしてるか  
残つて頑張つてるの二極だし

116 : 名無しの転生者

イタリアローマは渡航制限されてるからなあ

あつちは激戦区だろ

ペ天使が、自称穩健派の面してるらしいけどさっさとぶち殺しておけよ

117：名無しの転生者

やめろや

あいつレベル高いからオレたちでもレベル上げてるやつじゃねえと殺せんだろ

118：名無しの転生者

と覚醒してない奴がいつておりました

119：名無しの転生者

ギク

120：名無しの転生者

生憎だがつい先日覚醒したぞ

121：名無しの転生者

おめでとー

これでお前も人外よー

122：名無しの転生者

やったね！

これで街を歩くと胡乱な目をしたゴーストとかスライムに襲われる日々よー

123：>>>120

やめろや！

とりあえずお守りと悪魔も殴れるグローブ買ったけどさ

マジで覚醒するとは思わなかった

124：名無しの転生者

どうやって覚醒したんだ？ いつものリ・ン・チ？ それとも拷問？

125：名無しの転生者

それとも地道に瞑想かー？

最近は一ヶ月前後でも安定覚醒入るらしいけど

126 : >>> 120

布団で寝て起きたら覚醒してたわ

127 : 名無しの転生者

なにいつてんだこいつ

128 : >>> 120

清々しい気分ですよ

なんとなく窓開けたら、いきなりやあつてゴースト見えて思わずぶん殴ったけど  
これってGP上がってる影響?!

129 : 名無しの転生者

せやろな

130 : 名無しの転生者

オレたちクラスになると勝手に覚醒することもあるんだなあ

131 : 名無しの転生者

つら、つら

132 : 名無しの転生者

覚醒したらすぐにレベル10は上げろ

普通のスライムぐらいなら耐性ねえけど、幽鬼系統だと物理スキルだけだと詰むわ。  
大体霊格で勝ってるから準貫通でいけるけど、聞かないと死ぬぞ

133 : >>120

今から全部シエルター暮らしはさすがにばあちゃんの面倒見てるから無理だしな  
ちよつと修行するか

134 : 名無しの転生者

日本も破滅の気配が近づいておる

135 : 名無しの転生者

メガテン主人公が悪い

136 : 名無しの転生者

大体スタートボタンだしな

137 : 名無しの転生者

今すぐ消せ！

138 : 名無しの転生者

過激な発言やめろよ

そういう殺伐意見は滅入るやんけ

139 : 名無しの転生者

メガテンネタはメガテニストにししか通じないって

140 : >>>137

すまん



141 : 名無しの転生者

?

142 : 名無しの転生者

だがメシアンなら消していいぞ

143 : 名無しの転生者

同士討ちちゃんと進んでる？

難民保護してんだからさ

144 : 名無しの転生者

わからん

というか海外の過激派がどいつも大陸渡ってきてるらしくて

中国戦線が今マツハらしい

145 : 名無しの転生者

つつかえ！

146：名無しの転生者

あとロシアも今めっちゃ押されてるらしい

それ以外のところは何故か軽くなってるらしいが

日本殺しにきてんじゃねーか？

147：名無しの転生者

(絶対東京狙いだ)

148：名無しの転生者

(また東京滅ぼされるのか)

149：名無しの転生者

(東京だろうなあ)

150：名無しの転生者

(フアミチキください)

151 : 名無しの転生者

(うちローソンです)

152 : 名無しの転生者

(こいつ、直接脳内に)

153 : 名無しの転生者

(聞こえていますか。貴方は女神転生世界に転生しました)

154 : 名無しの転生者

なつとるやんけー!!

155 : 名無しの転生者

まあ殴り負ける前に攻め込むのもありといえばありかねー

俺はいかないけど

156：名無しの転生者

だな

やりたいやつがやればいいだろ

157：名無しの転生者

あ、そういえば往く船の名前の通称聞いたか？

シロフネだって。

158：名無しの転生者

白いから？

159：名無しの転生者

日本神「逆黒船じゃあああ!! これで奴らに我々の威光を知らしめてやれ、国譲り

じゃあ!」

海外神「おし、こいつメようぜ」

とかのりのりदैいてて、周囲から袋叩きにされてたわ。

160 : 名無しの転生者  
草

161 : 名無しの転生者  
まるで成長していない

162 : 名無しの転生者  
エジプトのアホが同じことやって負けたのわかってねえんだなって . . .

. . . . .

870：名無しの転生者  
続報なし、死んだかな

871：名無しの転生者  
だろうなあ

惜しいやつを亡くしたな  
名前もしらんけど

872：名無しの転生者  
やばい

873：名無しの転生者  
なにが？

874：名無しの転生者  
今悪魔つながりで情報入った

魔人撃破されたらしい

875 : 名無しの転生者  
やっただじゃん

876 : 名無しの転生者  
四騎士が

877 : 名無しの転生者  
どれ？

878 : 名無しの転生者  
レッド？ ブラック？  
ホワイト？

879 : 名無しの転生者  
だから四騎士がだよ

880：名無しの転生者

ぜんぶちころされた

まだ生き残りがいるかもしれないが、  
首切りで追いかけてるらしいとのこと

881：名無しの転生者

はああ???

882：名無しの転生者

え

883：名無しの転生者

なにそれこわい



# アメノトリフネ 情報ログ1

## 序

プロジェクト・イカロス。

この記録はこれから世界を巡り、今後のために収集された記録ログである。

世界は既存法則から逸脱し、終末と呼ばれる段階へと移行するだろう。

これは我々ガイア連合及び日本神話に系譜される神々たち及びアメリカ情報機関ブラックハンド及び陸上自衛隊霊的防衛組織全体の共同認識である。

世界は滅ぶ。

間違いなく、人類はこれより半減し、人間は霊長類の座から転落するだろう。

人類は覚醒したもの——覚醒者と覚醒出来なかった——愚者へと分類されることになる。

今やこの世界は貧弱な人間とそれを嘲笑する邪神たちの策謀によって壊滅しつつある。

米国の旧支配者召喚。

世界の半分を焼き尽くさんと放たれたICBMとそれに搭載された悪魔召喚プログラム搭載の地獄門開通処置。

跋扈する悪魔たちと無差別に災厄を撒き散らす魔人共。

後に召喚され現れた魔王プルートと正体不明の機械兵器群。

大洪水に備えて建造され続ける神の船と三対の狂った大天使。

私たち人類がこの星を支配していた時代は終わる。

古き神々は地の底から蘇り、至高天としての座を我々人類は転げ落ちる。いやそんなものは元からなかったのかもしれない。覚醒者と愚者の力の差を考えれば、我々は無自覚な奴隷でしかなかったのだ。悪魔という主君にして、我々はこれからの時代を生きることになる。

これはそんな時代の到来に抗った虚しい記録になるだろう。

蠟の翼を持って天へと向かったイカロス、その物語を残した記録者のように。意味のないものを少しでも意味があるものとするために。

これはそんな旅路の中で収集した参加者たちの証言であり、その大半が戦略的・戦術的に価値がないものとして判断されつつも、次世代ガイア連合構成員たちへの学習教材として転用されることになるだろう。

人が人があるために。

信仰のなき時代の旧人類のプロファイルデータとして。

この文書はアメノトリフネに同行し、私自身が直接聞くことが出来た証言を、時系列ごとにまとめたものである。当然、証言者の主観的な記憶、個人の信念に基づいて思想、多くの事実誤認や曖昧な点、不正確な情報、私自身の編集による意図せぬ誤解となりえる情報。

これらが含まれていることを閲覧者には十分に留意してもらいたい。

この記録情報は、ガイア連合の非ブラックカード保有者である私が行っているため、おそらく多くの知られざる真実があるのだろう。

私も知らない情報が多くあり、正確な記録、正しき価値の高いログを、電霊たちが収集記録している。

あくまでも比較されるための情報であり、この記録情報を取ることによって与えられる報酬。

そのためだけに私は参加している。

政府での仕事を失い、コンピューター技師としてガイア連合に就職した父には遺書になりえる記述が多く含まれているため、あえて無編集で父に渡して貰えるように契約を行った。

悪魔召喚プログラムを手に入れても、自分は彼らほどの力がなく、途中で死ぬだろう。だがそれでも、いや、例え途中で命尽きてもこの記録した情報は無駄にはならない。誰かが受け継いでくれる、彼らが、私たちが歩んだこの旅路に意味があつたのだと一人でも思ってくれるのなら意味はあつたのだ。

旅路の半分、最終目的地へと旅立つ前のガイア連合山梨支部で、今私はこの記録を編集している。

証言ログに関しては既に上層部へと提出した。

辿り着くまでのそのギリギリまで私は編集を続けるだろう。

私はこの国には生きては帰れないだろう。

私は彼らと共に魔界へ行く。

あの二人の希望を見届けるために。

そのために私はこの記録を書き連ね続ける。

それだけが私に出来る運命への反抗だと信じて。

彼らの生きた証を、彼らの残した声を、その希望と絶望を、形なきものたちへ託した祈りを、誰かに伝え繋げていくために。

—— 私たちはまだ絶望なんてしていない。

R e c o r d e r    T A K E U C H I

出航準備

日本・ガイア連合横須賀支部    有栖    レイジ（ガイア連合所属・デビルハンター）

参加を決めた時？

ああ、プロジェクト・イカロスの発表と希望者募集を聞いた時さ。俺はその場で参加に立候補したさ。

迷わなかったって？    そうだな、自分のキャラからすると迷うわけがないと答えるべきだろう。

だが本音を言えば迷わなかった自分にびっくりしていたよ。

なんだ、意外だった？    ああ、そうだな。自分のキャラらしくはないさ。

だがそれも俺だからな。

だけどこれであの二人の役に立てると思ったんだよ。正確に言えばヒデトさんのだ

な。

あの人にはとても感謝している。他の連中、特にうちの取り巻きたちには嫌われてるけどな。

ああ、ついさつきも言われたんだらう？ 変なことを吹き込まれた俺の目を覚まして欲しいってな。

何度言っても信じてくれないんだ。

小牟への説得も本当に骨が折れた。

(深々と大きな体躯を屈めたため息を吐くレイジ氏、普段は頼れる戦士としての顔しか見せない彼の貴重な一面だった)

ガイア連合でも実力と危機感を持つている人間はいないわけじゃない。

数は少なかったが、確かにいて、その殆どが既に渡航して戦っている。不味いと気付いて、特にメシア勢力とやりあってるのさ。

だけどそれ以外はこの国に留まっている。ガイア連合の古参の大半は国内にいたままだ。

日本は安全だし、与えられたシエルターさえあればこれからの危機にも生き延びられる。それはまあ間違いないだろう、シヨタオジもいるしな。

意外かもしれないが、俺たちの、特に古参でも新参でもそんなやる気があるわけじゃ

ないんだ。

驚いたか？ いや確かに、他の靈的組織から見れば桁違いに強いように見えるだろう。実際戦えば相手にならない。子供と大人、それ以上の力の差があるさ。

いらないうっていつても付きまどつてる、自称俺の味方っていう連中にもそれがわかってる。

「まるで神様扱いだ」

高級油揚げを気軽に奉納されて喜んでる小牟なんて可愛いものさ。変に煽てられて浮つきそうになってる度に拳骨落としてるがな。

俺たちには力がある。そいつは間違いない。

だけど力と意思が両立するかといわれればNOだ。

俺や承太郎さん、ハムネキたちと比べて他の奴らはそんなに強くない。ガイア連合の一員たちにもパワーバランスは歪なのさ。

外から見ればどれも山にしか見えないで、それが富士山なのかエレベストなのか海中に沈んでる氷山の一角なのか、わからない。

小規模驚異用に外部で設定されたDレベルってあるだろ？

あれはカットしておけ、国外にいけばあんなもの役に立たない。戦うレベルはそんな小さな目で見てたら危機感が足りなくて死ぬことになる。

と、脱線したな。インタビュアーなんて初めてだから何を言っているのか、まあいいや、問題があれば編集してくれ。

そうだな、これからの話をしよう。

今建造が進んでるアミノトリフネ、あいつの性能は凄い。

普段海外との往路に使っている船と比べれば中型船だが、機動性とレーダーなどの戦闘向けの性能だけは詰め込んでいると聞いた。

レッドスプライト号……米軍と日本が共同計画で進んでいた次世代型調査船、開発凍結されていたやつ再設計モデルらしい。

もしかしたら電磁障壁も突き破れるかもな。ああいや、こっちの話だ。別につっこむわけじゃない。そいつは多分終わったことだ。

俺たちはこいつに乗って国外に出る。今や飛行機なんて天使の餌食だからな。安全に移動するならこれしかない。

海洋神の加護もあるし、下手な嵐にも乗り切れるはずだ。

問題は出没してくる悪魔なり、ちよつかいを掛けてくるだろう連中だが、まあそのための追加装備を俺の式神にも準備している。海中探索用の簡易式神も開発されてたのを搭載するはずだ。

あとは乗り込む戦闘要員、俺たちも海上、海中戦の訓練をしている。お前もそうだと



? まあ前線は俺たちの出番だ。

だけどな、それがまずかった。いや必須だからしょうがないんだが、想定外だった。俺たちが海に出て訓練をしている。

そんなことだけで、ガイア連合が海外に出る。いや、正確に言えば俺が出ることがバレルた。

森羅って知ってるか? 今はガイア連合に吸収された小さな護国組織だ。

そこで祀ってる氏神が大層自慢気にべらべらと喋ったらしい。

自分の氏子が、悪しき海外の化生共を討つ!

なんてな、頭が赤紙届けられて万歳合唱かよ。

自慢するわけじゃないが、これでも色んな所で活動してきたし、それなりに縁故を繋いできた。慕われている自覚もあったし、俺も衰退した異能者の家の生まれだ。

だからといって出る前にせめて子種をくれとか言うのはどうなんだ。

土下座すればなんでも認めるわけじゃないんだぞ。

必死なのはわかるが、人間としてのモラルも持って欲しい。別に死ぬつもりなんかないんだが。

まったく狩人ニキは上手くやったもんだ。シヨタオジたちにだけ話を通して、さっさか渡米したからな。

俺たちは崇められたいわけじゃないんだ。

ただ取引をしたい。人間なんだ、神様じゃない。崇められるだけでなんでもしていい神々共とはアライメントが違う。

だから、あんなことをしたあいつらは俺からすれば自業自得だろうさ。  
まあともかくこれから頼む。

一緒に旅する仲間だからな、戦友として頑張ろう。

## 兵器準備

日本・ガイア連合開発工房 ” 少佐 ” (ガイア連合所属・開発担当)

ああ、構わないとも。

十分程度だが、食事しながらでも構わないかな？ すまないね、デブは一食でも抜いたら死んでしまうのだよ。

おっとここは笑うところだとも。

(恰幅のいい男性は、薄汚れた白衣も気にならないほど快活した笑顔を浮かべる)

しかし、あれだね。今回の仕事はかなりくたびれたよ。

なんせモノがモノだ。

推定敵性レベルが70前後だからね。

おつところは笑えないところだぞ。私も笑えないが。

しかも強度はLV50ぐらいの怪獣と八連打しても最後まで持つぐらいの耐久性が欲しい。といわれてね。

君たちは何と戦うつもりなんだ？ と言ってしまったよ。

ティアマツト旧約女神転生ⅠⅠ 怪獣ティアマツトLV72。魔界へ向かう爆心地途中の通路にて出現、魔王バエルより強いとヒドラ八体旧約女神転生ⅠⅠ 怪獣ヒドラLV48 魔界にて最初のステージである嘆きの谷にある地底湖で8体同時に襲ってくるかと答えられた時、徐々に胃痛を覚えたね。

青ざめたな。うむ、彼が推定している敵の規模はそれだ。

おそらく、いや本当におそらくであつて欲しいのだがまあ言われた通りに我々も要求に答えようと努力をしている。

とはいえLV70超えなんてものは見たこともなければ戦ったこともない。

銃火器にしたってどれだけの破壊力があるかも想像しか出来ない。

だから我々にしても高レベルの悪魔のデータ、そして実用データが欲しいのだよ。今後のためにも。

そのような今後がこないことを願いたい、それは叶わぬだろうからな。

## 評判

日本・ガイア連合支部　まとめ役C（ガイア連合所属・デビルハンター）

情報？　ああ、こちらにもすっかり漏れ聞こえていたさ。

というかかなり大きく募集が掛かってたからな、当然だろ。

かなり色めき立っていたな。

連合でこんな募集、それもカード持ちじゃないやつでも参加者を募るなんて計画は滅多になかった。

しかも報酬はでかい。目の色変えるさ、装備も用意されるっていうんだぜ？

参加しない奴のほうか馬鹿さ。

……なーんて考えなしの連中は言つてやがるがね。

(都内に存在するガイア連合支部、その中でもまとめ役として頭角を表しつつある青年は冷めた顔つきでノンアルコール飲料を口にしていた)

狂信派閥を一掃するための計画じゃねえかなつて俺は踏んでるよ。

忠義を示す、恩義を返すなんて血気立つてやがるやつもいるしな。少しでも冷静に考えれば生きて帰れそうにない、外から聞こえてくる惨劇に比べりゃあマシな日本から飛び出て外で仕事だ？ カニ漁船かよつてよ。

それでもその少しの冷静さもないやつが世の中多い。かなり飛びついてんだろ？

ダークサマナー狩りで点数稼ぎをしていた奴も稼げる相手が殆ど見かけなくなつたから焦つてやがんのさ。自主的にガイア連合に反対してる、いやその邪魔になりそうな人間を消したりして媚び売つたりとかよ。まったくクソだぜ。

あん？ オザワのやつがそれだつて？ ちげーよ、そういうのは黒札反対主義者の仕事じゃねえ。

狂信者共のほうだろうさ。

まったく、恐ろしく感じるぜ。

人間あんな極端になれるもんかよつてな。

ま、俺はダチ共がいるからいけないが頑張れよ。

……英語もできねえし。

(デモニカスーツでの応用機能で、会話だけならどこでも翻訳出来ることを彼は失念していたようだ)

## 反発

日本・大地信奉会 少女M (メシア教会穏健派所属 (破門済み)・異能者)

はい、全てはガイア連合のためなのです。

だっておかしいじゃないですか。

レイジ様は我々日本の守護者、護国の誉れたるガイア連合の烈士なのですよ？  
それが外へと往くなどありえませんが。

せめて我々も共にと志願しましたが、門前払い。明らかにおかしいです。

しかもガイア連合の貴重な資材に船まで貸し与えられたのが、所属もしていないただの男と女。名前も聞いたことがない風来人共です。

我々は調べました。

すると出てきました。彼の悪行が。

彼はガイア連合の名を偽証して、その名誉と信頼を踏み躪っていたのです。

——それはあくまでも誤解、外部に寄るレッテルだと判明していますが？

そんなもの幾らでも誤魔化せます。

この世界には洗脳も暗示もあるんですよ。

その証拠に彼はたった半月前までカードの一つも持っていないなかったじゃないですか。後ろ暗いことがあるダークサマナーだったに違いありません。

なんらかの口口でガイア連合に取り入って、搾取をしようとしている。

いえ、レイジ様と始めとした連合の方々を外に連れ出して拉致への手引をしようとしているに違いないのです！ 騙されてはいけません！

——だから暗殺をしようと。車でつつこんだ、と？

奴は化け物です！

何故車で死なない！ 受け止めて破壊までした！ 銃弾も打ち込んだのに、防ぐなんて！ 悪魔だ！ 悪魔が化けています！！

騙されてはいけません！！ 奴を追放し、今すぐ消さないと大変なことになります！

——貴方がたが起こしたテロで、危うく一般人の死傷者が出るところでしたがそれに

関しては。

才能がない羊たちなど、皆様方に比べたら塵芥では？

大丈夫です。私たちは証拠など残していません、あなた方に迷惑をかけることはして  
おりませんから。

我々には殉教の覚悟があります。

どうぞご迷惑になるようでしたら消してくださいませ。

ただあの悪魔だけは決して目を離さぬように……

信託

日本・関東 匿名希望デビルハンター（フリー・デビルハンター）

ああ、覚えているよ。

男女二人組で、しかも片方が物凄い美人だったからな。忘れようにも忘れられないも  
んだ。

エライごつい装備で、あーデモニカスーツっていったか？ それを着けてたな。



白魔術をかじってたおかげでピクシーでの偵察が俺は出来てな、異界を見つけては連合に報告して、その金でぼちぼち生活してたんだよ。

Dレベルで9もあれば生活には困らない。

だからまいったね、そんな自分が見つけた異界に行きたいなんて尋ねられた時はよ。

測定器で両方ともレベルを振り切ってて、これはヤバイなんて思って、逆らったら殺されるって思った。

ところがあくまでも場所とルートを教えて欲しいなんて言われて、金まで渡されたんだぜ。

信じられるか？ 人間の会話してたんだ。

なんで驚いてるって？ そりゃあお前さん、こつちの業界の連中で会話なんて出来るわけ無いだろ。

交渉はあくまでも対等な力関係のみ。そうでなければ搾取か圧迫だよ。

俺はそこそこ賢いからな。

自分に戦う才能がない、出来ても妖精とのお喋りが出来る、その程度だとわかった途端住処を固定するのはやめた。

今でこそ霊能組織なんて連合にペコペコしてるがな、ダークサマナー狩りなんてなんで直ぐに出来たと思う？

ノウハウがあるからだよ、ノウハウ。

地元に根づいた家柄があつて、気に入らない奴は家ごと放火、一家まるごと消すなんて慣れたものだったのさ。

異能なんてあつても車で轢かれりやあ死ぬし、寝てる間に二酸化炭素を充満させられればお陀仏。

取り込めないような奴は消したり、追い払つたり、やりたい放題さ。

んな考えと行動したらそりやあ頭もいかれてやがるさ。

俺のあくまでも経験則だが、悪魔に関わるやつは悪魔に近づいていく。

肉体が悪魔になるとか、そのMAGを吸収して影響を受けるとか、そういうことだけじゃねえぜ？

悪魔の言葉と考え方を理解するために、それに共感して、あるいは同意しながらいつのまにかズレていくのさ。

悪魔なんてどこまでもいっても人間とは違う存在だ。

騙したり、そんな気がなくても食い違いが起きて、そのすり合わせのために必死こいて考えるのはいつだって人間のほうだ。

そうやって考えを理解して、同じスタンスになつて、それにあつた行動ができるようになって、そいつは人間なのか？

俺だつて気を抜けば頭妖精かヒーローになるだろうさ。

だから驚いたよ。

あんだだけ強い奴が、見かけだけでも人間らしい会話をしたのをさ。

それで二人共異界に向かつて行って、なんとなく心配になったのさ。

別に普段から誰が死んだり消えたり食われたりなんて気にはしない。んなもんこの世界ではありふれたことだからな。俺だつて全然気にしない。デビルハンターなんてそういう生き方をしてる、自業自得さ。あるいはまあそういう運命だったんだろう。俺にこんな才能があつたようにしようがないことだつて。

だ。だけど久しぶりに人間らしい言葉と会話をしちまつてちよつとだけ心配になつたんだ。

ガイア連合の紹介だったし、どんだけ馬鹿げた力があるんだろう。んな好奇心をもつちまつたんだ。

それで異界まで見に行つちまつたんだ。自分では慎重なつもりでな。

——それでどうしたんですか？

滅茶苦茶後悔したさ。

一步踏み込んだら、途端に別の場所にきちまつた。ワープしたんだ。

そういう異界もあるって知識を思い出したのも後の祭り、周囲は妖精なんかじゃあ太

刀打ち出来ない悪魔だらけ。

こりやあ死んだと思つて、神様は助けてくれそうにないから仏様に祈つた。そこであいつらがきてくれたんだ。

あの二人はびつくりするほど強かった。

目にも止まらない動きつていうか、いや、悪魔のほうは多分音ぐらい早かつたんだろ  
うか。風が吹き荒れて、俺は伏せながら見た。

怪獣みたいにかい悪魔が、プロ野球ばりのスイングで手を振り回すんだ。びびるどころかも死んだと思つた。

それをあいつは避けながら剣で切りつけて、女のほうは的確に足を攻撃していた。

シキガミつていったか？ 見たこともないような悪魔が数体、凄く速度で動き回つていながら、連携してたんだ。協力というか連携、陣形を取つたりとか、とにかく誰かの動きが、次の動きになるみたいで。やばかった。

俺が指輪で購入していたアガシオンなんかよりもめっちゃやくちや強い動きで、本当に腰を抜かしたな。

で、その悪魔がぶつと倒されたあとに、二人が俺を見たんだよ。

俺はぎゅうつと心臓が潰されたような気がして、今度こそ死んだと思つた。なんだつたら異界に入ったときよりも絶望感があつた。

だってよ、普通仲間でもないデビルハンターの手の内なんて見たら殺されても文句言えないんだぜ？

弱点、ああ、相性っていったか。鬼に豆とか、イワシの頭とか、そういう弱点はあるんだ。

異能者の中には氷には強いのに火に触れただけで大やけどになったり、そんな変な法則がある。

悪魔を使えるサマナーって呼ばれる奴らはとにかく何を持っているか秘密にする。

伝承さえ調べれば弱点がわかつちまうし、手の内もわかつたら対策をされるからな。せめて楽に殺してくれって言ったよ。

そしたら、あいつキョトンとした顔で「神経魔法でも喰らったのか？ ロザンナ、パトラを頼む」「そうね、あとお腹空いたからなんかいいところで食べるにいきましょ」なんてのんきに言ってたんだ。

そのあと？ 俺がこうして生きてるみたいに殺されなかったよ。

なんでか地元の穴場ラーメン食いについて、銭湯に浸かってきたけどな。

あーいや、ロザンナちゃんがニンニクの匂いついたまま戻るの嫌だって言ってたんだ。理由思い出したが、その時俺思わず笑ったんだよなあ。

だって今さつきまで悪魔ぶつ殺して、血飛沫浴びてたような奴が、ニンニクの臭いっ

て。

笑うだろ？

でもまあそんなのが人間じゃねえかな。

あの二人は今どうしてんだ？ あーいや言えないならいいんだ、生きてはいんだろ？  
ならいいさ。

こっちに寄ることがあつたら電話をしてくれつて言つていてくれないか。

あそこのラーメンの裏メニュー、まだ教えてなかつたつてよ。

## ☆デジタルサマナー雑談スレ その34 (イギリス)

イングランド南東部ケント州。

フォークストン。

かつての第一次世界大戦において英国軍の出撃拠点となり、ドイツから避難してきた難民を受け入れていた場所。

ここに多くの車両と軍勢が陣地を形成していた。

「そろそろ時間か」

「はい。偵察用の悪魔が送還されはじめています、封鎖用のゲートも既に三枚破られているようです」

一人の中世時代を思わせる甲冑に身を包んだ美青年の言葉に、同じく時代錯誤な世界大戦時の軍服を思わせる格好をした男——リンド中佐が答える。

アーサー・エヴァンズ。

ガイア連合イギリス支部の支部長にして、転生者の中でも上位に値する戦士——否、騎士だった。

「予定よりも随分と遅いが、最終ゲートを破られるのも時間の問題か。霊的連合防衛兵

器の慣らしは？」

「各自アイドリングが終了、対応サマナーたちとの打ち合わせも済んでおります」

フォークスタンの線路上に並べられた陣営に、よりすぐりのサマナー——現地人による逸材と言えるデビルサマナーとその対応をする英傑悪魔。

アーサー・エヴァンズの妻にして転生者であるモルガンが生み出した【造魔・英傑】造魔

真・女神転生デビルサマナーより登場した人造悪魔

本来は悪魔の力を取り込み強化される人工生物だが、特定の組み合わせ、

術法を組み合わせることで、過去の英雄、猛将すらも再現する

それが20体用意され、その中でも安定した十騎が起動に成功、迎撃体制を済ませている。

「……上手く行っているな。最悪5〜7体ぐらいでの迎撃を考えていたが」

「ですな。カレー基地での観測から最速で備えたつもりでしたが、こうまで万全に整えられるとは」

「カレー基地の観測員たちの収容は終わっているな？」

「はい。フランス側で随分と戦っていたようですが」

フランスとブリテン島グレートブリテンを繋ぐドーバートンネル。



そのフランス側に置かれたカレー基地からの緊急連絡によつて、ガイア連合・人外ハ  
ンター双方の戦力を集結している。

それも。

「青ざめた騎士ペイルライダー 終末の四騎士か」

(真3基準ならLV60超えの四騎士最強、ライドウ基準なら70手前の化け物……最  
悪の真4基準はやめてくれよ)

「3来い……3来い……メノラーはないけど……3来い……」

「か、閣下?」

気を抜くとメガテニストというかガチャお祈りめいた儀式を行い始めて、リンド中佐  
の言葉に正気に戻る。

「ゴホンゴホン。ん、ンン! すまない、思ったより待機が長くてね」

「ですが、ここに待機を始めてからももう五時間。カレー基地からの報告で、トンネル内に  
ネズミ対策の殺鼠ガスも充満させましたし」

「フランスで随分と猛威を奮つたようだね。この欧州で黒死病に感染させた鼠を放つか  
と。事前報告がなかったら随分と苦戦してただろう」

カレー基地からの多くの情報が入り、入念な迎撃対策が取れた。

フランスで暴れていたペイルライダー、取り巻きに夜魔ロア夜魔ロア LV53 属

性NEUTRAL 真3における魔人ペイルライダーに召喚される……ヴードゥー教における死霊、祖霊の総称。

呪術的儀式によって呼び出されたものは十字教における聖人の名を冠するという。

その上で悪魔化させた鼠による疫病の感染拡大、それがフランスにて行われていた奴の口。

(核ミサイルに、メシア過激派による呪術的誘導で導かれていたってことだろうな)

ここに今迫りつつあるペイルライダー……正確に言えば逃走を凶っている奴をここで仕留める

「しかし本当なのでしょうか……終末の四騎士が壊滅しつつあるなど」

「確定とは言えないが、そういった情報が幾つも入ってきている。ただの流言にしては被害も減っているしな」

「とても信じられません」

大げさなジェスチャーを伴ってリンド中佐が首を振るうが、その気持は理解出来る。

欧州人としての当然の常識として理解している聖書知識。

黙示録の恐怖、終末への神話に語られる存在、それが実在の悪魔として現れたのだ。

それが倒される？

しかも人類が一致団結した決戦などでようやくとかならともかく、なんかあつさり死

んだみたいな扱いで聞かされたのだ。

(日本でいうならなんかゴジラが死んだ……のは無理だから、ラドンとかが死んだみたいなもんか)

転生前からのメガテニストなら、んーまあそういうこともあるかな? かも?

という気分で受け入れているが、その知識もない真面目な軍人にはとても難しいことだろう。

(そもなんで戦ってるんだ?? アメノトリフネは今フェリックスストウに到着してるって  
いうのに)

この元凶になっていいる一団、本来なら船に乗ってフェリックスストウ港でイギリスと合流する予定だった面子だ。

それが何故かアフリカにて物質の補給、ついでに魔人と会敵、それを撃破。

何故か搭乗員を増やしながらさらに渡航して、船がイギリスに辿り着いたと思っ  
たら。

(フランスで船を守るために一部降りて、行方不明って大丈夫なのか)

顔見知りだったレイジは船に乗っていて「あの人達なら大丈夫だろう、そのうち来る」とか  
かいていたが。

なにをいってるんだこいつは、と思ってしまう。

(それに動きの静かなメシアの過激派が気になる)

この数ヶ月熱にうなされたように人体改造に、強化された狂信者が出てきている。それを今回ペイルライダーを誘導して、こちらにぶつける計画、それだけなのだろうか。

(未知数の魔人も出たときいているが)

イギリスから殆ど叩き出したメシア教過激派共。

それがフランスで奇妙な動きを見せているという情報もある。詳しくはアナライズ出来なかったが、魔人らしきものが出たとも。

「閣下、最終警戒網が突破されました！」準備を！」

「わかったッ！」

思索から目を覚まし、アーサーは剣を抜いた。

ブリテン悪魔の魔力結晶をかき集め、妻モルガンが手ずから製造した鋼アヴァロンソードⅢの剣だ。

アヴァロンソード 真・女神転生 I M A G I N E ショートクエスト「湖の乙女の姦詐」にて入手改造可能武器

同一クエストで三種類の同系統装備が手に入る

娘が持つエクスカリバーにも引けを取らない騎士王の剣。

その輝きと共にサマナーたちも、英傑たちもそれぞれの武器を構える。

トンネルを封鎖していた扉が激しい金属音と共にたわみ、その歪んだ隙間から冷気が吹き出している。

轟音。

最終防衛ラインの悪魔と戦ってるのか戦闘音が響き、悲鳴じみた唸り声が聞こえた。

(ブフダイーン? となると)

「来ます!」

数度の激しい攻防音と共に扉が吹き飛ぶ。

出てくる存在を霊視しようと構える。

そこから飛び出したのは毒々しい煙——と、碎け散った悪魔の残骸だった。

「んん?」

そして、影が複数、凄いい勢いで飛び出した。

大型バイクに乗った人影フイネガンとタケウチ二人、ハクタクに乗った人影ナオミ、オルトロスに乗った女性ロザンナに、

なんかスピードスターみたいなデカラビアの上にサーファーしている片腕義手の男。

その全員が——ガスマスクを着けていた

「——」 スッ

—ANALYZE—

種族 魔人 ペイルライダー LV63真3版データ  
ステータス DEAD

ペイルライダーが死んでいた。

「え」

「ええ」  
マグネタイトの粒子がさらさらと散り、ペイルライダーは消えた。

こうして黙示録の四騎士は全滅した。

.....

.....

☆デジタルサマナー雑談スレ その52

.....

157 : 名無しのデジタルサマナー

朗報 ペイルライダー撃破

悲報 終末の四騎士情けない

158 : 名無しのデジタルサマナー

やったぜ!

159 : 名無しのデジタルサマナー

黙示録の四騎士が雑魚だったってほんとお?

160 : 名無しのデジタルサマナー

嘘だ! 俺は信じない! 終末のラツパだって聞こえたんだ!

もう人類は終わりだー!!

161：名無しのデジタルサマナー  
残念だったな、トリックだよ！

162：名無しのデジタルサマナー  
誰を騙してるんだ定期。

163：名無しのデジタルサマナー  
また家でゆっくり映画見れる生活に戻りたい

164：名無しのデジタルサマナー  
やめろやめろ、過去を懐かしませるのは。

165：名無しのデジタルサマナー  
ビデオとかもうろくに動かないけどな！



166 : 名無しのデジタルサマナー  
ゆるさねえ、俺のDVDがー！

167 : 名無しのデジタルサマナー  
蓄音機ならあるぞ、聞いてく？

168 : 名無しのデジタルサマナー  
アナログ製品が今熱いからな  
物理法則変わってもこういうのが使えるのは助かる

169 : 名無しのデジタルサマナー  
骨董品市場とか賑わってるもんなあ  
色々触媒にもなるものもあるし、掘り出しもん探すの楽しい

170 : 名無しのデジタルサマナー  
閣下 ついに四騎士まで倒したかあ  
マジアーサー王ですわ

171：名無しのデジタルサマナー

はあん？ 真なるアーサー王はアルトリアちやわんなんですけど！

172：名無しのデジタルサマナー

そうだそうだ！ アルトリアちゆわんがアーサー王ですわよ！

173：名無しのデジタルサマナー

なんせかわいい！

174：名無しのデジタルサマナー

イケメンは敵です。

嫁もでっばいだし。

175：名無しのデジタルサマナー

これだから非モテ共は。

真なる余裕者は悪魔でも嫁にしてろよ、ヴィヴィアンとかどうよ。

176：名無しのデジタルサマナー

うちにはシルキーちゃんがいるから。

177：名無しのデジタルサマナー

英傑ジャンヌちゃん、あんなおっぱいで聖女名乗って恥ずかしくないの？

178：名無しのデジタルサマナー

ほんまそれ

うちの崇めてる聖女ジャンヌあんなエッチじゃないんだけど！

解釈違いです、解釈違いです！ とりあえず写真10枚くれ！

179：名無しのデジタルサマナー

これだから日本イズムはやべえぜ。

180：名無しのデジタルサマナー

うちのご先祖様といわれるガヴェインが、あんなでかい巨女なんて！

くやしい(ギリイ)

181：名無しのデジタルサマナー  
撃墜王の祖父で抜いた俺よりはマシだろ……ORZ

182：名無しのデジタルサマナー  
撃墜王っていうと、あーストパン

183：名無しのデジタルサマナー  
い つ も の ガ イ ア

184：名無しのデジタルサマナー  
もはや戦時下だからネット配信でしか供給がこねえ！  
つれえ、つれえよ

185：名無しのデジタルサマナー  
DDSでハンター優先でアニメ配信してほしい定期

186：名無しのデジタルサマナー

DDS運営「どうしてキズ薬だの、マッスルドリンコの陳情に並んでアニメ配信要望が? (困惑)」

187：名無しのデジタルサマナー

癒やしがほしいんだよ!

心が荒むんだよ! エロだけなら適当に悪魔なりで腰振つてりやあいけるけどさー

188：名無しのデジタルサマナー

正直体力使うしな あと無防備になるし、てつてとりばやいなら可愛いピンナップで自分で抜いたほうが早いわ

189：名無しのデジタルサマナー

MAGもつたないからちやんと生体エナジー協会に献血するんやでー

190：名無しのデジタルサマナー

朝起きて、体操して、飯食って、エナジー献血して、昼寝して、献血して、飯食って  
これだけでなんと簡単に痩せられるんですよ

191：名無しのデジタルサマナー  
からだにわるい

192：名無しのデジタルサマナー  
戦う力がないなら血を捧げよ

193：名無しのデジタルサマナー  
：)

194：名無しのデジタルサマナー  
あ、撮影任務また更新されたわ  
ペスト悪魔あいつキモいから嫌なんだけど

195：名無しのデジタルサマナー

イギリス？ それともフランス？

196：名無しのデジタルサマナー

まだまだフランスだよ

湧いてる場所確認して撮影するだけの簡単な仕事でしたね（長距離望遠カメラセット  
しっつ

197：名無しのデジタルサマナー

悪魔可してる鼠だっけ？

実体あるから普通の撮影機器でいけるの助かるよな

198：名無しのデジタルサマナー

場所メモ記載して、写真からさらに画像取り込みする手間あるけどな

光学で可能なやつなら、こういう機材使ったほうが応用が効く

199：名無しのデジタルサマナー

魔人情報どうなってる？

2000：名無しのデジタルサマナー

わからん。めちやくちや強い多分メシアン？ つばい連中だけど、近づくのは無理だ。

アナログ式の自動撮影機材装置使っても、やや残像しか映らなかつたし

2001：名無しのデジタルサマナー

旗持ってたから、多分兵士系の悪魔だと思うけど

これ何時の時代のやつだ？ 鎧着てるし、ジャンヌ・ダルクとか？

2002：名無しのデジタルサマナー

それなら英傑でいるやん。

英国新聞の広告ジャンヌちゃんみてないのか

2003：名無しのデジタルサマナー

フランスの聖女なんですけどおとおお！

なんでイギリスにいんだよ！ おかしいだろ！



204 : 名無しのデジタルサマナー

:  
>

205 : 名無しのデジタルサマナー

聖女認定遅れたのが悪いんだよ

206 : 名無しのデジタルサマナー

あんなおっぱい魔女に決まってんだろ!!

207 : 名無しのデジタルサマナー

異論が難しい

208 : 名無しのデジタルサマナー

青ひげ激怒するわ

209 : 名無しのデジタルサマナー

おっぱいといえはやっぱり殿下だろ

210：名無しのデジタルサマナー

マジでそれな

あんなエツチな格好やばすぎますわよ

211：名無しのデジタルサマナー

もげろ閣下！

212：名無しのデジタルサマナー

閣下もげろ！

213：名無しのデジタルサマナー

閣下に抱かれない

214：名無しのデジタルサマナー

!?

215:名無しのデジタルサマナー

いやわかるよ

あんな綺麗な顔してたら、そりやあねえ

しかもめっちゃ紳士なんだぜ。アルトリアちゃんいればそういう義務果たしてない？

216:名無しのデジタルサマナー

ほんまやめろ

217:名無しのデジタルサマナー

>>208<<>>214

ここまで全員 コンセ↓マハジオダインで焼かれました

218:名無しのデジタルサマナー

あばー！

219：名無しのデジタルサマナー

うぼー！

220：名無しのデジタルサマナー

やはりジャパンにはあんな格好が流行ってるんだろうか

221：名無しのデジタルサマナー

うおー！ 黄金の国ー！

222：名無しのデジタルサマナー

今も平和らしいしなー

いずれいきてー

223：名無しのデジタルサマナー

閣下と殿下たちも出身日本らしいしな

どんな魔境なんだ、興味あります

224 : 名無しのデジタルサマナー

DDS 運営も日本だしな

ガバガバ倫理観除いたら、発信してくれるコンテンツは好きよ☆

225 : 名無しのデジタルサマナー

違法DLだけはやめるんだぞ

226 : 名無しのデジタルサマナー

ゆるさねえ！ アニメコンテンツにみせかけてあの産廃プログラムをDLさせよう

としたのは！

227 : 名無しのデジタルサマナー

メシア共がそういう小細工をするのは腹が立つ

メシア共がアニメ必死にみながらこれならいけるかと研究したと思うと草生える

228 : 名無しのデジタルサマナー

無駄に古くて必要なさそうなやつにばかり仕込まれてるのは草生えますよ

229：名無しのデジタルサマナー

サブカルな悪魔と天使ものとか、異能ハーレム系はあいづら見れないから  
見ても面白いとは思わんだろうからな

230：名無しのデジタルサマナー

おかげで俺たちの神話知識がもりもり増えていく

231：名無しのデジタルサマナー

おら！ 悪魔ども、お前らもTSするんだよ!!  
美少女化しろ！

232：名無しのデジタルサマナー

これには悪魔も困惑

233：名無しのデジタルデビル

とりあえずブームと思って美少女やっけるとも

234 : 名無しのデジタルサマナー

ほえー気合入ってますねえ

235 : 名無しのデジタルサマナー

外見だけ美少女やってたらユニコーン連れたわ

236 : 名無しのデジタルサマナー

それでいいのかユニコーン(困惑)

237 : 名無しのデジタルサマナー

あれ害獣だし、魔獣だし

方舟から叩き落された奴だぞ

238 : 名無しのデジタルサマナー

鳥がトドメさすまで追ってきたやべえやつだしな

まあタイム出来れば助かるのは事実だ、乗れるやつは乗れるし

239：名無しのデジタルサマナー

嚴重管理してるが、一部悪魔調教始めたんだっけ？

騎乗出来る悪魔とか聞いたけど

240：名無しのデジタルサマナー

とりあえず馬型悪魔はコツがいれるが乗れるぞ

DDSあれば意思疎通もできるし、そういう意味では難易度が低い  
乗ったままで戦闘までは難しいけどな

241：名無しのデジタルサマナー

今、うちで鞍や蹄鉄を作ってるぞ

さすがにオカルトはわからんが、これでもフランケル、ハービンジャーを出した栄光  
ある英国だ

悪魔だろうが馬ならば騎乗出来るようにしてみせる

242：名無しのデジタルサマナー



同じサマナーでも、昔の職種で色々個性出るよなあ

243 : 名無しのデジタルサマナー

まあデジタルサマナーなんてちよつと前まで夢にも思わなかったしな

244 : 名無しのデジタルサマナー

未だ覚めない悪夢だな

245 : 名無しのデジタルサマナー

夢ならいずれ覚めるさ

問題は夢じゃなくてファッキングなりアルってことだけだな

246 : 名無しのデジタルサマナー

天使共め

247 : 名無しのデジタルサマナー

あいつら絶対俺たちの信仰してたやつとは別もんだろ

そも人形してるのがおかしい、異形でもそれはそれで解釈違いだが

248：名無しのデジタルサマナー

天使とは、美しい花を振り撒く者ではなく、苦しみあえぐ者のために戦う者のことだ。  
私はあれらを天使とは認めんよ。

249：名無しのデジタルサマナー

病院は常に満杯だ

そして、そこを狙って襲ってくる狂信者共め。嫌になる。

薬も足りん、もっとハントしなくては

250：名無しのデジタルサマナー

おいおいあまり今詰めて戦いすぎんなよ

悪魔とやり合いすぎると汚染されるって噂だぜシンクロ（悪魔情報共感）

真・女神転生TRPG覚醒編にて記述されたシステムルール

悪魔との対話、接触を続けるとシンクロと呼ばれる情報汚染が存在する。

特定のスキル、魔法、悪魔召喚プログラムがあれば防止可能

ただし天使召喚プログラムでは……

251 : 名無しのデジタルサマナー

いつそ悪魔になったほうが楽になれるのか

252 : 名無しのデジタルサマナー

ならねえよ

俺は人間で痛い、たとえ死んでもだ

253 : 名無しのデジタルサマナー

悪魔になったらうちの一族が断絶しちゃううう！

254 : 名無しのデジタルサマナー

結婚しろ

255 : 名無しのデジタルサマナー

嫁を作れ

256：名無しのデジタルサマナー

家庭を持ち給え、人としての義務だぞ？

257：名無しのデジタルサマナー

クロスファイア!?

258：名無しのデジタルサマナー

良き父親になるための努力は欠かせんよ

例えこの先が地獄であろうとも、少しでもよくしなければな

259：名無しのデジタルサマナー

すまん、ちよつと質問

南部からに在住しているものはいるか？

260：名無しのデジタルサマナー

フォークストンの作戦なら完了したぞ

261 : >>>259

違う

フランス南部だ、スペイン側から難民の情報がない

262 : 名無しのデジタルサマナー

あつちに生き残りはいたっけ？

263 : >>>259

難民が来るはずだった、その護衛依頼を受けていた

今その合流地点で待機してるのだが、おかしい

264 : 名無しのデジタルサマナー

どうした

265 : >>>259

なんだ、血？

血、いや、まってくれ、なんだあの膨大なMAGは  
今音声書き込みに切り替えた、デモニカが動いてる、場所はXX|X|XXXで

266：名無しのデジタルサマナー  
どうした！

267：名無しのデジタルサマナー  
どした？

268：名無しのデジタルサマナー  
書き込んでないで応援を出せ！

269：>>>259

すまん、これは無理だ

誰もくるな！ 迎撃体制を整えろ!! カメラでは多分なにもわからん！  
むせ返るような血が、大天使、ころされてる、ばかな！ あれが  
なんだDレベル、180の、いや、ちが、250超え!? 戦ってる!!

270 : 名無しのデジタルサマナー

おい!

271 : 名無しのデジタルサマナー

釣りか?

272 : >>>259

メシアン共が潰されてる!!

あいつだ! アイツが一人で! 来るぞ、まずい!! 避難しろ!!

戦うな逃げ

273 : 名無しのデジタルサマナー

おい

274 : 名無しのデジタルサマナー

おい、どうした

275：名無しのデジタルサマナー

座標確認した

フランス南部スペイン国境、北上？

276：名無しのデジタルサマナー

今緊急スレに書き込んだ

くそ、グー○ルアースが生きてれば

277：名無しのデジタルサマナー

飛行型の悪魔を使って、今写真を遅らせてる。

何だ、空が、赤いものがみえる

278：名無しのデジタルサマナー

なんかくるぞ

279：名無しのデジタルサマナー



ああくそ!! あの人達が魔人を潰してくれたっていうのにまだくるのか!

280 : 名無しのデジタルサマナー  
フアツク!

281 : 名無しのデジタルサマナー  
進路上にいるだろう知り合いにすぐ連絡しろ!!  
血風を撒き散らすなにかがくるぞ!!

282 : 名無しのデジタルサマナー  
こいつはやばいかもしれねえな

283 : 名無しのデジタルサマナー  
ただの釣りだと思いたい

284 : 名無しのデジタルサマナー

悪いな

こういう時の書き込みは大体当たる

285 : 名無しのデジタルサマナー

死亡フラグじゃねえか

286 : 名無しのデジタルデビル

これは最熟に近いな

勝てるかね、ブリテンのメシアよ

★国際情報交換スレ 33スレ目+@

.....

★国際情報交換スレ 33スレ目

124：名無しの転生者

メガテン主人公T U e e e e e e e e e e !

このまま全部ぶつ殺そうぜ！

125：名無しの転生者

魔人「所詮黙示録の四騎士など前座

後半に出てくる我々こそが本当に地獄よー」

126：名無しの転生者

やめろよ。トランペッターとかマザハだとしやれにならねえから

127：名無しの転生者

まあ閣下に勝った設定らしいし、いけるんじゃないんですかね？

128：名無しの転生者

その閣下が本当にいるかもわからねえけどな

銀座のバーにもいないし、上着剥かれた俺らもいないし

129：名無しの転生者

女装でもしてんじゃね？

確かくっそ前に南極のアレ封印されてたとか言われてたやん

130：名無しの転生者

シユバババだな米粒サイズに固定したとか

アレ？ あれ発生してたら四文字千切れてる？

131：名無しの転生者  
わからん

132：名無しの転生者  
なんかめっちゃ伸びてただけど前スレなんかあったんか？

133：名無しの転生者  
朗報 魔人四体死亡確認  
黙示録の4大ライダーがくたばったって

134：名無しの転生者  
マジで??  
現地勢、いや、海外渡航ニキたちか？

135：名無しの転生者  
いやメガテン主人公がやった  
つ「海外派遣の是非について語るスレ」

136：名無しの転生者

はえゝこんな話題があつたんですね

137：名無しの転生者

わいが地方で頑張つて営業していた間にこんなことが

138：名無しの転生者

わいが自衛隊やつてる間にこんなことが

139：名無しの転生者

ワイが1分の1スケールボムズ作つてる間に色々進んでるんやなく

140：名無しの転生者

まだ人型駆動兵器諦めてないやつおるんかー

141：名無しの転生者

最低野郎なんざよりさっさと鋼鉄ジー○作れつて  
ボ○テスVでもいいぞ

142：名無しの転生者

現世よろしくあつちで受けたからなー

そのうち悪魔になりそう

143：名無しの転生者

F a t e じゃないんだから あつちは蜘蛛男が英霊になつてた説あつたけど

144：名無しの転生者

南米とかは狩人ニキが必死こいて色々もちこませてたな

前世知識使つて、うちら参加のアニメ会社に人気あつたやつ作らせたり。

145：名無しの転生者

あつちかなり終末と魔界化進んでるんだっけ？

146：名無しの転生者

ケツ神「平和の神なんですけどー、討伐人員とか物資ほしいなつて☆ じゃないと全滅しちゃうー！」

テス神「心臓を捧げよ。人間が全滅しないために戦士を作らねば、麻薬と奴隷なら出すぞ」

狩人ニキ「平和な奴はあまり貢献してくれないけど、やばいやつは物資を出してくれる、どうして」

147：名無しの転生者

おいたわしや狩人ニキ

148：名無しの転生者

さつさと見捨てたほうがいいんじゃないですかね？

149：名無しの転生者

狩人「せやけどあつち放置して全滅されたら北アメリカ大陸と合流しちゃうし」



150：名無しの転生者

今のイアアと天使祭りなのに、内戦(?)終わってごっちゃしてるのに

ひとかたまりになって北に攻め込んだらもうマジで手に負えなくなっちゃうから

151：名無しの転生者

だからって北米横断したあと、遠回りに外へのアプローチまで掛ける狩人ニキ

まじばねえ

152：名無しの転生者

ケツ神「狩人ニキ！世界をもう一度繋いで！」

狩人ニキ「くそつたれめ！」

153：名無しの転生者

神はアメリだった？

154：名無しの転生者

實際邪神じゃろ。

155：名無しの転生者

アメリカって誰だよ？

156：名無しの転生者

狩人ニキ「聖闘士星矢を寄越せ、麻薬代わりにぶちこんでやる」ビキビキ

157：名無しの転生者

らめえええ！ 文化汚染されちやうく！

158：名無しの転生者

悪魔もいなかった前世でもあったことだから大丈夫大丈夫

159：名無しの転生者

悪魔がいなかったら平和ってわけでもないんだよなあ（人類史を振り返りつつ）

160：名無しの転生者

これにはイタリアローマもガッツポーズ

161：名無しの転生者

実際覚醒修行的に間違っていない気もするんだよなあ 小宇宙

162：名無しの転生者

ガイアなのにコスモスつてもうわけがわからねえな

163：名無しの転生者

向こうのアルテミスがつつり嵌って汚染されてるっていわれてなかったっけ？

164：★プーサー

うーす、ちよつと相談いい？

165：名無しの転生者

ペルソナ的にはもう合体魔法であるから手遅れだよ天馬流星烈拳

ペルソナ2に登場する合体魔法

疾風↓ソニックパンチ 流星の如く駆け抜ける音速の拳を繰り出して単体に打撃系の大ダメージ

166：名無しの転生者

お、おひさー

167：名無しの転生者

夜の魔女ネキとの結婚生活は楽しいかー？

168：★プーサー

最高ですが??

169：名無しの転生者

ぶっころしてえ

170：名無しの転生者

お、おれたちにもシキガミがいるから！

171：★プーサー

ワイには可愛い可愛い愛娘がいるんだよな

172：名無しの転生者

ぶつころ

173：名無しの転生者

愛に不可能はねえ！

174：名無しの転生者

ガイア技術部なら！ ガイア技術部なら！

なんとかしてくれる！ え？ 普通に見合いか婚活しろって？

しゅ、終末が近いから……

175：名無しの転生者

ブラックカード見せびらかせば幾らでも女なんて食い放題だぞ

176：名無しの転生者

マヨネーズさんに袖にされた人おつー

177：名無しの転生者

引くわゝ

お大臣にもなれるからってほんとうにする？（押し返されたドルフィンヘルメットかぶりつつ）

178：名無しの転生者

ワイ、ガイア技術部服飾担当 大天使のブラと名付けた画期的防具開発に成功するも女性批判が大きく、男女両用装備に妥協させられました

179：名無しの転生者

ただの原作定期

180:★プーサー

うちの嫁には装備してもらってますが？  
知力足りてるからなあ!!

181:名無しの転生者

ここ嫁さんに覗かれてたら死ぬぞ

182:★プーサー

土下座して装備してもらったから大丈夫(メガテニストとしてデータ提示した)

183:名無しの転生者

草

184:名無しの転生者

草

185:名無しの転生者

メガテニストならしょうがないね

186：名無しの転生者

カツオくんは犠牲になったのだ

187：名無しの転生者

ハムネキならスラオシャぐらいなら降ろして受胎マラソンしてくれそう大天使のブ  
ラはP5Rで入手可能 P3の受胎ではなく電気椅子処刑が必要なので出来ない

188：名無しの転生者

やめろ殺されるぞ!!

189：名無しの転生者

言葉面がひどすぎるwww

190：名無しの転生者

いや無理だろ



191：名無しの転生者

ハムネキならレベル80ぐらいってそうじゃない？

スラオシヤってそれぐらいだったろ

192：名無しの転生者

いや、そんなコミュ結べる友人居るとは想えないんだけど

193：名無しの転生者

あー

194：名無しの転生者

(空を仰ぐ)

195：名無しの転生者

無理だ

196：名無しの転生者  
すまなかつたハムネキ

197：名無しの転生者  
合体でいけたらいいね

198：名無しの転生者  
本人がいないところでひどいこといわれてるww

199：名無しの転生者  
それじゃあ、出来ると思ふのかよ

200：名無しの転生者  
人間には可能性がいつだって存在する！

201：★プーサー

今、無言で会議画面から席を立っていったよ

202：名無しの転生者  
やめて!!

203：名無しの転生者  
チャリ、チャリ

204：名無しの転生者  
たすけてーたすけてー

205：名無しの転生者  
ハムネキはついに刈り取る者に進化した？

206：名無しの転生者  
ペルソナで降ろせそう

207：名無しの転生者

孤独は人を強くする

208：名無しの転生者

で、相談って？

言っておくが、ワイたち賑やかしは出来てもガチ相談は無理やで

209：★プーサー

エクスカリバー欲しいっていわれたんだけど渡していいかな？

210：名無しの転生者

？

211：名無しの転生者

草

212：名無しの転生者

どういうことやねん

213:★プーサー

いや、旧約2主人公さんがようやくイギリスについてね

主人公「どうもこんにちは。あ、エクスカリバーあるんですね、もらえませんか？」

持ち主「えっ」

自分「いいんじゃないかな？ どーぞどーぞ」

なおギャン泣きで抵抗されました

214:名無しの転生者

草

215:★プーサー

妻にもなんか怒られた(グーで殴られたお腹を抑えつつ)

216:名無しの転生者

草

217：名無しの転生者

残当じゃなくて当然だわ

218：名無しの転生者

何考えてんの？

あ、両方ね

219：★プーサー

いやだってぶっちゃけいらないうるかこんな腐れ聖剣のせいだし

下手したらロリで固定されるし、槍のほうが個人的にデザインいいし

220：名無しの転生者

本音が出やがった

221：名無しの転生者

わかるよ 上と下どっちもいいもんな

222：名無しの転生者

拙は反対ですぞ〜

223：★プーサー

ちなみに経緯はこんな感じ

- ①主人公さんは使える武器がほしい。で、エクスカリバーをくださいと提案
- ②うちの身内「握れるわけないでしょ」「選ばれてないものには触れることも出来ませんよ」

わい、無言で距離を取る

- ③主人公さん「持てたぞ」 身内（可愛いほう）「!?」 魔女「私も持てるわよ」 身内（美しいほう）「?!」

④わい「ほえーすごいなあ、じゃあエクスカリバーは寄贈ってことで」

⑤>>213の流れに続く

224：名無しの転生者

ばかなの?!

225：名無しの転生者  
エクスカリバーさん!?

226：名無しの転生者

アーサー王どうした!! 選定の剣じゃないからセーフとかそういう理屈?! クラレントさん!

227：★プーサー

>>226 クラレントと選定の剣カリバーンは違う(腹パン) あれは死蔵してた奴だし

メガテン的にはどっちなんだろうね、ダナン連中に大金届けたらくれた設定もあったし?

まあなんか主人公さんたち曰く「前に入手して使ってたことがあった、役に立つから欲しい」だつて。

228：名無しの転生者

エクスカリバー使ってたのかよ



229:★プーサー

最終的に主人公さんの武器には力不足だったから魔女さんの護身用武器になって

ソロモン王の剣とか、ヴァジュラとか、あああいつものヒノカグツチをぶんまわしてたらしい

それないかって言われたんだけど、あるわけないじゃん。

230:名無しの転生者

なにいつてんだてめーは案件

231:名無しの転生者

神話の武器過ぎるww

232:名無しの転生者

ゲームならどっかで絶対封印されてる定期

233:名無しの転生者

とかヒノカグツチならメガテン世界だってわかってから  
ガイア連合総出で搜索続けてるけど見つかってないんだよなあ

234：名無しの転生者

結構いい武器渡してるんじゃないの？ 海外渡航主人公陣営たちに

エクスカリバーまで欲しいとか強欲過ぎんだろ

現地人なんかには豚に真珠だろ

235：名無しの転生者

一応海外出向組と同じレベルの装備は渡してるぞ

オーダー仕様には渡されたマツカとかフォルマが足りねえから無理だったが

236：名無しの転生者

どうせ戦死するからいらねえだろ

237：★プーサー

エクスカリバーなら魔界までなら通じるんだが

魔王レベルとの殴り合いにはもう一声欲しいらしい

238 : 名無しの転生者

>>237 宇宙猫

239 : 名無しの転生者

>>237 魔王?

240 : 名無しの転生者

>>237 RPGの主人公かてめーは

そうだったわ

241 : ★プーサー

レベル100ぐらいの相手にはやや力不足かあ

か  
これは凄いというべきか、それとも世界一有名な聖剣のくせに嘆かわしいと思うべきか

242：名無しの転生者

相手がおかしいんだと思う

243：名無しの転生者

なんだつたらそれ想定してるほうがおかしいぞ☆

244：名無しの転生者

南米の支配神共のレベルいくつぐらいだっけ？

245：名無しの転生者

確かどっちも4〜50前後 60までは超えないはず真1 龍王ケツアルカトルL

V50・邪神テトカトリポカLV62

信者の数とか、信仰の流れで変動してるらしいけど

246：名無しの転生者

さすがにふかしすぎだろ レベル100ってアホか

247：名無しの転生者

ラスボスレベルだもんなあ

そんなの想定するにしても早すぎるだろ 終末もまだきてないし

248：名無しの転生者

というかそんな大事な案件、俺たちに相談していいの？

249：★プーサー

上との相談は済んでる

その上でどっちでもいって

250：名無しの転生者

渡すに一票 装備強化させとけば仕事するだろ

251：名無しの転生者

反対に一票 エクスカリバーに限らず変に力つけられたら困る

252：名無しの転生者

反対だわ

極Nに転ぶイメージしかない

そつちあのダグザいるんだろ、見張つとけ

253：名無しの転生者

反対

というかほいほい渡すのはどうなのよ、プーニキとしては

254：★プーサー

個人的に言うとうと聖剣なんて押し付けられるなら押し付けたい

誰にも持てなかったのが二人も持てる人間が出来たんだ

うちの娘に負わせられた一方的な責任から脱却するチャンスだ

255：名無しの転生者

そういわれると賛成したいんだけど、アーサー王信者が発狂しない？

256：名無しの転生者

イギリス人がマジギレしそう

相手一応日本人だし、ワイ拉的に言うなら国宝外国人に渡すようなもんだろ？

結構抵抗感あるわ

257：名無しの転生者

こつちでいうなら草薙の剣とか、アメノハバキリを振り回されるようもんだしな

258：★プーサー

そのリスクはたしかにある

うちの娘も断固拒否の態度だからね、でもチャンスなのは間違いないんだ

どう説得すればいいやら うーんって感じ

259：名無しの転生者

心理的にはわかった

ここは実利で考えてみよう、聖剣渡すメリットは？

260：名無しの転生者

ていうかプーニキ的にはめつき渡したい空気をひしひし感じる

261：★プーサー

いやだつてメガテン主人公だよ？

支援すればそんだけほしい仕事してくれるにきまつてんじやん！

262：★プーサー

というか、明らかにうちの娘よりも使い慣れていて

主人公「あー魔界で見つけた時と変わってないな」（ぶおんぶおん

プリティドーター「私の剣なのに」（ギリイ

とかつてなつてる。

263：名無しの転生者

脳破壊されてるやんけ

264：名無しの転生者



WSN (私が 先に 抜いたのに) ?

265 : 名無しの転生者

NTTRされてるやんけ〜！

266 : 名無しの転生者

寝てから言え

267 : ★プーサー

うちの娘に性的な目を向けるな

股間にかりバーンするぞ

268 : 名無しの転生者

ア、ハイ

269 : 名無しの転生者

日本に戻ってきたら逃げよう

270：名無しの転生者  
出来心だったんです！

271：名無しの転生者  
犯罪者は皆そういう

272：名無しの転生者  
衝動的犯行を抑えきれないのはやべえやつでしょ

273：★プーサー  
で、どうすればいいと思う？

274：名無しの転生者  
時間まだあるんだからゆっくり考えたら？

275：名無しの転生者

そっちの家庭の問題だし

276：名無しの転生者

家庭（イギリス全土）

277：名無しの転生者

マジレスすると外に持ち出されて紛失されたらしやれにならんから

やめといたほうがいいとおもう

278：名無しの転生者

魔人四体も倒してくれたあたりで投資分回収出来てますからね

279：名無しの転生者

そもなんで四体も倒してるんだ??

280：★プーサー

なんか一休出会い頭に倒したら残り全部が因縁つけてきたって

281：名無しの転生者

>>280

チンピラかなんかで??

282：名無しの転生者

>>280

そんな不良漫画みたいな

283：名無しの転生者

>>280

結果全☆滅 草枯れるわ

284：名無しの転生者

この勢いなら残りの魔人も全部片付けてくれそう(こなみ)

285：名無しの転生者

さすがにもう出んだろ

今の所新月にランダムポップアップらしいし

286：名無しの転生者

あとは狩人ニキのところにいる美少女ちゃんぐらいか？ 魔人つて。

287：名無しの転生者

TS雪女バカも一応魔人だし

288：名無しの転生者

人間でも悪魔でもないという意味で魔人

289：名無しの転生者

アレ一応分類は人修羅になるんじゃないか……

290：名無しの転生者

いやだよ、あんなバカが人修羅とか

291：名無しの転生者

人生生まれ変わって楽しいよ？

292：名無しの転生者

>>291

まるで成長していない

293：名無しの転生者

>>291

こいつのせいでシキガミ技術が上がったのが納得いかねえw

294：名無しの転生者

しかし、閣下倒した設定本当なら

今どこいんだろうな、あの女装シヨタイケメン

295：名無しの転生者

わからん

この世界が本当にメガテンならどっかにいるはずだが

296：名無しの転生者

出会ったら悲鳴上げるわ

.....

.....

★ガイア連合・人外専用雑談スレ その28

555：名無しの悪魔

なんでうちの信者たちがギリシャ信仰に染まってんのよおおお!!!

556：名無しの悪魔

w w w w w

557：名無しの悪魔

おかしいでしょ！

薬?! クスリが足りないの?! もっと霊薬増産しないと！

558：名無しの悪魔

信仰ごつつあんだわ w w w

559：名無しの悪魔

人の子が生み出す娯楽は下手な薬より何度でもキマるんだよな〜

560：名無しの悪魔

にしてもどうなってるんだ？

なんでうちの娘がメインで、俺への信仰が低いんだが



561：名無しの悪魔

やはり美女、美女こそ英雄を引き寄せる力よ

562：名無しの悪魔

ええいどいつもこいつもアコギな稼ぎをしおって！

正当な神ならば自分の神話を広めて、それに肖ってネタをこすられ続けるべき！

563：名無しの悪魔

そして美少女へ

564：名無しの悪魔

どうして、どうして、わいは女の化身なんて一度も

おー！ マイウエポンがこんな可愛い子に！！

565：名無しの悪魔

Noooooooo!!

566：名無しの悪魔

やめてくれないか！

一度うつかりほいほい英雄神のTSにひっかかったら  
それと合体した神像を普通にカテゴリにいれるのは！  
アレ見る度にうちの嫁が、ダンスしはじめるのだが

567：名無しの悪魔

瞑想でもしたらどうです？

568：名無しの悪魔

あ！ ちよつかい出したやつがまた焼かれた！

569：名無しの悪魔

ご立派な墓を建てるづら

570：名無しのご立派

のお、あやつあんなに骨たくさんはなかったはずなんじゃが？

571：名無しの悪魔

まあいいわ

どっちにしろ麻薬シエアはあつちのほうはまだでかいし

その分ダメージはでかいもの……にしても魔人共、さつさとアメリカいつてほしい

572：名無しの悪魔

あーヘルズエンジェルだったか？

あいつアメリカの魔人だと思ったんだが

573：名無しの悪魔

お前らなんかしたんだろ

574：名無しの悪魔

知らないわよ！

遠乗り気分ですつこんでくるわ、毎度追いつくの大変なんだから!!

マタドールのくそが最近出てこなくて平和になったっていうのに

575：名無しの悪魔

マザーハーロットも妙な動きをしているな

黙示録の四騎士が滅ぼされて、魔人共の動きにも変化が生じてたか

576：名無しの悪魔

人の子が魔人を滅ぼしたなど信じられん

それも軍勢ではなく、少人数とは……それもガイアの子らではないのだろうか？

577：名無しの悪魔

まさに救世主です

おお！ ついに我々が待ち望んだものの来訪！ 今こそ約束の時が始まるのは間違  
いありません

578：名無しの悪魔

黙ってろ

579：名無しの悪魔

>>>577

いい加減あつちの三天使どうかしろ

580：名無しの悪魔

>>>5777

メシアと言われると信じられなくなるわな

まっちぼんぶ？ とやらではないのか

581：名無しの悪魔

はあー！ うちの子が優秀なだけなんですけどー！

ガイア連合もしっかり船で送り出したみたいだし、このまま活躍してもらおうつもり

あ、お礼は海外製品でいいわよ？ AMOZONがそのまま続けられるのは当然として、製品増やして貰わないと

582：名無しの悪魔

大和の最高神の姿かこれが？

583：名無しの悪魔  
仕事しろ穀潰し

584：名無しの悪魔  
仕事してゐるんですけどー！

585：名無しの悪魔  
姉上え……

586：名無しの戦神  
姉貴はさあ

ま、そこそこマシな戦士共ってことだろ。情報がろくにはいらねえがな

587：名無しの悪魔  
誰なのか知らないのかホー？

588：名無しの悪魔

む？ 悪魔を倒した強者ほどならさぞかし名がある戦士なのではないか？

589：名無しの悪魔

わからん。千里眼で見たんだが、毎度防がれてる。

590：名無しの悪魔

救世主です、間違いありません

591：名無しの悪魔

黙ってろ頭メシア

592：名無しの悪魔

幾つかの俺たち、野良悪魔じゃねえ

神々に近い気配も時々感じやがるな。

一体どんなやつなんだか。

593：名無しの戦神

せめて顔でも拝んでやろうと呼び出したら生意気にも無視しやがったからな  
こつちのほうに戻ってきたらどんな面してるか確かめてやんぜ

594：名無しの悪魔

あんたねえ。

うちから追い出されたみたいなことするんじゃないわよ

595：名無しの悪魔

おふたりともおやめなさい

これだから威厳がないと言われるのですよ

596：名無しの戦神

存在感がねえやつにいわれてもなあ

597：名無しの悪魔



ほんとね

598 : 名無しの悪魔  
引きこもります

599 : 名無しの悪魔  
兄弟仲良しだホー

600 : 名無しの悪魔  
新月オンリーになるからやめろ

601 : 名無しの英雄  
ゆるさないゆるされない

602 : 名無しの悪魔  
お?

603：名無しの悪魔  
なんだ

604：名無しの英雄

私の聖剣だぞ

私の剣だぞ

私が王なのだ、それを奪う？

相応しい？

騎士でもないくせに

605：名無しの悪魔

誰だこいつ

606：名無しの英雄

認められるものか

救世主は私だ

私が救わなければならない

607：名無しの悪魔

誰かが掲示板に書き込んでる？

608：名無しの悪魔

悪魔専用の場所だホー？

609：名無しの悪魔

いや、今見てるが、これは誰か乗っ取ってるぞ

610：名無しの英雄

この国を救うのは私です

私の意思で、私が救い、私が滅ぼす

611：名無しの英雄

そのために私は蘇る

612：名無しの悪魔

あーこいつは

613：名無しの英雄

私は戦うのだ

614：名無しの悪魔

転生してゐるな

615：名無しの悪魔

人の望み、悪魔の望み

どちらを選ぶか、それは秩序でも混沌でもなく、善きと悪きの選択なのだよ

トモダチさまが しんのきゆうせいしゆて した

「お父様のバカー!!」

「ま、待つんだアルトリアー!」

扉を蹴破らん勢いで飛び出した愛娘に手を伸ばすも、一足早く視界の外に消えてしま  
う。

幼子時に必死に追いかける親の気持ちとは裏腹に、楽しげに逃げ回っていた頃を思  
出す見事な飛び出しっぷりだった。

「ええいもう!」

「しばし放っておいたほうがいいわよ、アーサー」

覚醒者特有の尋常ならざる速度に、慌てて追いかけてやうとするアーサーを妻が制  
した。

銀糸を月の光で溶かしたような髪、伶俐さを象徴する切れ長の瞳に、娘にも受け継  
がれた整えられた美貌。

女性としては長身の豊かな体軀を、顔ひとつ分上回る長身の夫へと腕組みながら彼女

——モルガン・エヴァンスは告げた。

「それより本気なのですか。アーサー王の戴冠を延期するなど」

「ああ、本気だとも」

妻の見上げる視線に、アーサー・エヴァンスは目をそらすことなく返す。

「幸い……幸いなんて言っつてはいけないけど、ブリテン島の情勢はまだ完全に不安定だ。魔人討伐の祝いはあるけどね」

「それと共に合わせてアーサー王の戴冠式、ブリテン連合王国の成立を公式に宣言するはずだったのでは？」

「ああ。民衆をまとめ、民意……アーサー王を求めるイギリス人共の声に応えるって意味ではね」

やや汚い口調と共に端正な顔をしかめるアーサー。

娘の前では決して見せないその表情の意味するものを、モルガンは重々承知だった。アルトリア・エヴァンス。

別世界からの転生者であるアーサーとモルガンの二人の愛娘は、アーサー王の転生体だった。

同じ転生者であっても意味も次元も違う。今思えばウカツにも過ぎる名前に、結ばれ

た二人。

型月ファンだったなんて安易なノリで名付けた名前が、まさかのアーサー王の魂と器を呼び寄せるなんて。

創作でしかないと思っていた神話と神秘の連なる世界の裏側を、神主たちの掲示板とオフ会で理解してから血の気が引いた。

それは F a t e 的に言えば運命であり、女神転生として考えれば宿命の導きなのだろう。

幾度となく戸籍変更などによる改名をしようとして頑固に反対され、この国に来る後に覚醒の予兆、そしてあのヴィヴィアンによる姦計。

前世でプレイしていた真・女神転生 I M A G I N E で起きたアレのまんまだった。  
【湖の乙女の姦詐】

真・女神転生 I M A G I N E でのクエストイベント

悪魔ヴィヴィアンのネガイを聞いて悪魔からドロップする魔力結晶を指定数渡すことによつてアイテムと交換出来る

アヴァロンシリーズの武器の素体になる【鋼の剣】もそれで入手するが……

「エクスカリバーは必須じゃない。こうして君の技術で、同じアヴァロンソードは出来

上がった」

「デザインは違いますが……伝承補正でしょうか」

「いや、普通に素材さえあれば鋼の剣からプレイヤーが改造強化できたしね。君の技術なら当たり前さ鋼の剣はくれるが、その後の改造はプレイヤーが必死に掘るしかないのである！ 素材を！」

「メガテンは本当にやりたい放題してますね」

「いやまあ現実とごっちゃにするのもよくないんだけどね」

呆れた顔でアーサーを見るモルガン。  
メガテニスト 型月ファン

「ともかく、エクスカリバーの授与は、この決められたレールから外れるチャンスだ。君の作っていた礼装副の剣剣……からヴィヴィアンの力によって作られたエクスカリバー、あのタイミングといい、間違いない仕組まれている流れを感じている」

「……グランドクソ野郎マーリンの仕業ですか？」

「これがフェイトならありそうだと思うが、多分違う。大きな運命の宿命、あるいは神の定め、原理的に言えばダグザ神か」

「？ 何故ダグザ神が……」

「ダナン神族はメガテン的にエクスカリバー保持者だからだ」



「えっ」

「真4Fにおいてエクスカリバーは天羽々斬剣と同一視されていて、妖精の森ティル・ナ・ノグの奥地の沼に沈んでいたんだ」

モルガンが宇宙猫した。

「ま、まっつてください。なんでエクスカリバーが日本神話の神剣と同一視？」

「それに特攻相手が世界蛇シーシヤだったからかな。まあメガテンクオリティってことで」

「め、メガテン!! いつもそうですね、私たちの伝承を何だと思ってるんですか!？」

「東京を滅ぼす道具」

「ひどいものだな」

モルガンのマジレス。

「ともかく、そういう事情もあってあの時、実家に襲撃してきた悪魔や神話生物共、それからのヴィヴィアンと妖精共の祭り上げ。これらはダグザの仕業だと考えている」

彼らからすればメガテン知識なんてメタ知識は想定外だろうけどね。

そういつて戯けるアーサーに、言葉の内容と吟味しながら考えていたモルガンがふと疑問を覚えた。

「いえ、それはそれとして悪魔の襲撃ならともかくクトルウフの神話生物の襲撃は事故

では？ あれらは邪神の影響では」

「フオーモリア神族」

「フオーモリア？ いえ、フオモール族ですか。確かあのバロールがいたという異形の巨人たち」

「うん、バロールとかブレスとかそういうのもメガテンだとでてただけだね」

同じ転生者である四条翔から聞いた話を思い出し、さらにメガテニスト御用達の掲示板、そこに書かれていた記述にアーサーはあるひらめきを得ていた。

「偽典女神転生において、イアイア連中は全員ダナン神族と対立していたフオモール神族に分類されている」

「北の海の果てからやってきた奴らを、かつてダナン神族が支配し、それから追い出した。今イギリスに襲いかかってきてるのは？」

「かつてフオモール神族が支配していたこの土地に襲いかかってきたパーソロン族は、その武力で成功し掛けたが、ペストを流行らされて撤退した」

「奇妙な符号だろうか？」

色白い肌が死人めいた顔色になるのを、同じような顔色になつてゐるだろう自覚をしな  
がらもアーサーは最後の言葉を締めた。

「僕らのイギリスは、この神話再現の図式に組み込まれているのかもしれない」

． ． ．

「お父様のバカ！ 考えなし！ イケメン！」

「バアウ……お嬢様」

ペンデニス城の外、のしのしとアルトリア・エヴァンスは如何にも不機嫌ですよという態度で歩いていた。

その少し後ろを獣形態のアーサーのシキガミ・カヴァスが追従している。

「エクスカリバーは私の王権です！」

「はい」

「エクスカリバーは私の武器です！」

「ええ」

「現状めっちゃ強くて専用スキルも出せます！」

「そうですね」

「なのに、どうして、エクスカリバーを捨てるなんて……！」

「お嬢様……」

常に腰に履いている聖剣に手を当てる。

エクスカリバー。

私の剣エクスカリバー、私の力にしてブリテンの王権、そして私の運命を決めたモノ。

これに手を当てるといつも落ち着いて、心の乱れが静まります。

「お嬢様。マスターは、貴方のためを思ってあの提案をなさったかと」

「わかっています。父も母も、私のこれからを案じてることは」

アルトリア・エヴァンスはアーサー王の転生者だ。

王の魂を継ぎ、このイギリス、ブリテン島の皆を見捨てられない。

ここには友達もいる、お爺ちゃんとお婆ちゃんたちに、知り合った多くの民たちがいます。それをどうして捨てられようか。

この身が王として相応しく立てば一人でも救えるならば立つべきだと私は考えている。

それが父上と母上を悲しませている現状は理解しているけれど……

「そも、彼らは何者だ……ん？」

歩き、その視界の端に見えた人影たちに足を止める。

ペンデニス城の結界内、テントを張りながらイギリス支部から発行されるクエストの納品と受注を行う高レベル（といってもお父様たちと比べたらずっと下だけど）人外ハントーたちに、それらと会話する日本から来たガイアの人たちが見えた。

どうやらバイクを弄ってるらしく、お母様がよく手入れをしているモータードキュイラツシエFateZEROにて登場したVMAX型バイク セイバー（アルトリア）専用を用意されたモンスターマシンにもよく似た車体を囲んでにぎやかに会話をした。

「なにをしてるんですか？」

「ん？ おお、アルトリアの嬢ちゃん。見ての通り、バイクを弄ってたのさ。対悪魔用のな」

「対悪魔用……お父様が乗ってるモータードキュイラツシエみたいに？」

なんとなく乗ってみたんだけど、まだ私の背丈が足りないという理由でバイクには騎乗させてくれない。

だからお母様が手入れと改造したバイクに、お父様が乗って、それを何故かキヤーキヤー言いながら写真を取ってた記憶がある。オルタも捨てがたいと行ってたけど。

「覚醒者といっても徒歩で音速を超えたり出来るような化け物は殆どいないからね。持続性、安定性を考えれば騎乗するものがあつたほうがいい」

「悪魔に乗ればいいんじゃない？」

「おいおい嬢ちゃん。悪魔にまたがれるような強者はそんな多くねえよ、そも頑張つてはいるが調教にも時間かかるし……馬型じゃないのもあるし」

「馬型じゃない？」

知り合いのハンターさんの目線を追って、別の方角を見る。

そこにはくるくると回るでかいヒトデみたいな悪魔の上に、緑のジャケットを着た人が必死にバランスを取りながら乗っていた。

「うおー！ もう少し大人しく！」

「ほれほれほれー!!」

「ぬわー!!」

勢いよく回転したのをしばらく頑張っていたが、ぽーんと放り出されて、あ、受身取って着陸した。

「まったくナオキの奴、あんなんで戦えるわけないだろ。ま、ガッツは認めるがな」

「だな。あの男は本当になんていうかおかしいぜ」

「魔人なんて倒せる奴はどこかぶつとんでるんかね」

(魔人を倒した奴)

「ヒデトさんでしたっけ。あの人どうです?」

「うん? なんだアルトリアのお嬢さん、ヒデトの奴ならまたクエストに行ってるが

……話したんじゃないのか」

「いえ。一応話はしたんですけど」

(お父様が凄いテンションで話していて、あまり会話出来なかったっていうか)

ヒデトとロザンナ、それからフィネガンやナオミにレイジさん、それ以外にも志願したシロフネの中心メンバーを招いて昨晩は夕食会だった。

その時の父ときたら物凄い高めのテンションで、終始母が呆れた顔をしていたのを覚えてる。

(たくさんの興味深い話は聞けたけど……あれでエクスカリバーが奪われそうになった)

忘れるわけがない屈辱。

握れるわけがないと考えたエクスカリバーがあっさり、あのヒデトという男にも、ロザンナという魔女の手にも握られたのだ。

アーサーに強く言い含められたとはいえ、そのままに軽い手合わせまでされた。

アーサーのāvアロンソードに対して、スキルもなしで一振り、2・3回もの斬撃を繰り出された。旧約2のエクスカリバー 攻撃回数2〜3回

この手に吸い付き、私を王だと認めている聖剣が、我が物顔で振り回されたのだ。ガヴェインほどの騎士でもないというのに！

それから聖剣は返して貰ったが、その後の記憶が曖昧だった。

あまりにも悔しくて、いやびっくりして？ 朝までふて寝していたような気がする。だからあまり人となりというのもわかっていない。

そういった旨をやんわりと伝えるとハンターさんは顎に手を当てて、言葉を選ぶように答える。

「そうだな、いっちゃなんだが……不思議なやつだな」

「不思議なやつ？」



「ああ。やつこさんら、まあそのナオキもそうだが、魔人を倒したんだろう？　ここま  
で旅をしながらだ、とんでもねえ強行軍だわな」

「ですね」

フランスを横断し、イギリスにまで魔人や他の悪魔たちを蹴散らしながら辿り着いた  
なんて今でも信じられない。

フランスは未だにメシア過激派に対して現代聖人を抱えた穏健派に、デジタルサマ  
ナーの有志たちが抵抗を続けている。

フランス由来の神話はあまり中心になるものがなく、多民族の集まった国だからこそ  
一致団結は難しいが、飲み込まれるのもまた簡単ではない。が、それでも過激派の勢い  
は異常だ。首都は既に占領され、多くの土地に天使が我が物顔で飛び回っていると聞く  
のに……

（突破しながら旅してきたなんて本当なんだろうか？）

それともそれだけガイア連合本部からの支援が手厚く、物資を転送しているのだろう  
か。

父と母でさえ、現地でダナン神族などと協力し、何も役に立てない移民労働者共の世  
話を焼いているというのに。

「？」

（今なにかおかしかったような「それが昨日の今日でまたクエスト行きだ、まったく頭が下がるよ」

「クエスト、ですか？」

「ああ。塩漬けになりそうな、今シエルタータウンの開放に向かつてるような連中じゃないと手が出せないクエストを片っ端からな。本人は素材稼ぎなんて行つてたが、そんなに出来る量と難易度じゃねえよ、まったく」

「仲間の分の装備素材も稼ぐとか行つていたが、照れ隠しだろうな」

仲間を数人と、レベルの高い悪魔を連れて旅立ったという。

確か、父が手配したという祭具が届くまであと一週間、休んでいてくれって言われていたはずなのに。

「まるで救世主様だよ、ありがたいこつた」

「——救世主アーサー王だど？」

「ん？ いやそんなことはいってないんだが」

「え、はい？」

何を言つたんだろうか。

よく聞こえなかったが、ハンターの人が青ざめた顔をしている。

「なんか悪いことを言ったか? ……おっかない顔をしてたぞ」

「え? そうですか」

私がそんな顔をしただろうか。

「お嬢様、もう城に戻って休まれては? そろそろマスターたちもおちつかれ」

ヴー! ヴー!

カヴオスの言葉を遮るように、スマホのバイブレーションが震え出した。

いや、アルトリアのだけではなく視界の中のハンターたち全員が一斉にスマホを取り出す、それを見る。

「緊急収集?」

「アルトリアー!!」

「お姉ちゃん!!」

城から物凄い勢いで駆け込んできたのは、モリガンのシキガミ・パーヴァンシーだった。

「全員、緊急性Aを除くクエストを中断!! これより発令される即応クエストに対処しろ!! いいな!」

「なにがあつたの?!」

「アルトリア、お前は城に戻れ。お母様から話がある」

「答えて!! 普通じゃないことぐらいわかるから!」

「……魔人だ」

その言葉に、周囲の空気が凍りついた。

魔人。

それは不吉の象徴、ようやく振り払ったばかりの絶望であり。

「スペインから北上し——イギリスに向かってくる膨大な数の悪魔ワイルドハントの群れが確認された」

「ワイルドハントの如き牛追エンシエロいを起こした魔人が迫っている」

魔人マタドール 襲来



悪魔共が有象無象に後ろから迫る驚異に、泡を吹きながら逃げ惑う。

吹き飛ばされ、蹴散らされ、踏み躪られた悪魔と——不幸にも死に損なつた人間が砕け散つて、空間を汚す血になっているのだ。

これを観測した時、迅速に人外ハンター協会は止めようと動いた。

範囲攻撃の魔法による爆撃。

対悪魔用の洗礼儀式を受けた地雷原。

デジタルサマナーによる物理、魔法反射の特性を備えた使役悪魔による障害物。

知恵を絞り、被害を減らすために避難勧告を行った。それを見て襲い来る卑劣な天使共の妨害に罵倒を吐きながら努力した。

その全てが粉碎された。

ムドオン 呪殺魔法 敵単体に高確率で瀕死効果を与える

放電 魔法スキル 敵複数に1〜3回の電撃小ダメージ

紫煙乱打 物理スキル 敵複数に1〜3回の物理中ダメージ、混乱の追加効果を

与える

パンデミアブーム 特殊スキル 敵全体に風邪の状態異常を与える

膨大な悪魔の数は広範囲の魔法でも削りきれず。

地雷原においては怯んだ屍を踏み台に突き進み。

物理・魔法反射には正確な判断など交えずにめちやくちやに撒き散らして吹き飛ばされて、踏み潰された。

小賢しい天使共が誘導しようと空から光を放とうとする度に、それに交じる真紅の外套を纏う魔人が蹴散らす。

その魔人は悪魔の群れの中で踏み潰されることなく、踊るように、笑っていた。

種族 軍勢 逃げ惑う悪魔の群れ LV47 属性???

相性耐性

?????

高精度観測機で測った結果がこれだった。

Dレベルにして150近い規格外の悪魔戦力。

それを食い止めるために、今ドーバーにイギリス戦力が集結していた。

「まったくフォークストーンに四騎士が突っ込んできたと思ったら、今度はドーバーか。とんだロードス島だ」

ガイア連合製のデモニカスーツを装着した男、四条翔は名残惜しそうに葉巻を口から外してシガーケースに仕舞う。

葉巻を後で吸い直すと味が落ちるが、貴重な嗜好品だ。

これが終わった後に勝利の苦味を味わうのもいいだろう。

「く、死亡フラグだな」

四条は縁起でもないと言ったと苦笑した。

自衛隊に努めていた頃は決して口にしなかった煙草に出したのはこの世界がメガテンだと知ったからか。

あるいはクトゥルフ神話RPGの如く死ぬのが慈悲、いや、死ぬることが幸せな地獄だと知ったからか。

転生者でありながら、自分の覚醒を信じずに、デモニカスーツを纏い、それによる現地の部隊を作り上げたのが彼だった。



この世界は残酷だ。

現地人——否、通常の人間と転生者には比べものにならない差異がある。

そして、その転生者の中でも幹部級と呼ばれるガチ勢とそうではない転生者の差がある。

魂の差があるのではない。人間としての質と差だ。

人間は決して平等ではない。

環境と才能、境遇と運、人格と指導者。

陸上自衛官として自分を優秀な探索者として鍛え上げたつもりだったが、それも霊的な経歴を持った幹部勢と比べれば見劣りする。

自衛官ニキと呼ばれるTSされて、仕置されたネタ転生者と大差ない。

自分は英雄ではないと見切りを付けた。

いわゆるキャラ作成時のダイスが悪かった、それだけだ。

いい大人の癖にしてゲーム脳とは救いがない。だがそうとでも考えなければやってられない。

だからこそこそうやって平均値を上げて、数による力を信じようと部隊を作り上げた。弱者救済なんて善意ではない。

全ては自分のため、自分が生き残るための肉壁を用意する。いつものことだ。

探索者の作法

「来ましたよ、隊長」

「ああ見えている、嫌な景色だ」

部下のデモニカ隊員の報告に、言葉を返す。

考え事をしていても最大限の警戒を周囲に向けていたからすぐに反応した。

「ドーバーの白い崖が赤く染まってやがる」

海を溺れながら悪魔共が突き進んでいる。

数千、数万単位の屍の群れ。さながら聖書のレギオンか、豚のように喚きながら泳ぎ、後ろから責め立てる衝撃波に碎かれながら死にたくないと言っていると進んでいる。

崖も他の悪魔を踏み台にしながら進み、急激な傾斜のある崖を登りあげると巨大な流れとなっている。

「あいつらなんで分かんないんだ？ バラバラに逃げられたらそりゃあ溜まったもんじゃないですが」

「よく見ろ。あいつら、MAGを浴びすぎて癒着してる」

あそこまで実体化していれば通常の光学機器ですら映る悪魔の姿に、海面から除き見える下腹部を見た。

それは無数の赤い手がどの悪魔にもしがみついている、さながらスライムのように混ぜあっている。

どの悪魔も必死にそれからの逃れようと前に入るヤツに組み付いて、自分を引き上げようとして、それを後ろからされている。

その繰り返し、連鎖の繰り返し。

さながらカンタダの地獄か。

「コンバック※ラストバイブルシリーズ 魔獣同士を合体する魔法、いや吸収真II 同種の悪魔同士を吸収しHPとMPを合算した状態になるか？」

先日訪れたある男の出現を契機に、活発化した転生者掲示板のメガテン考察スレの記述を思い出す。

現実化したことによつて殆ど意味がないと初期だけの活発だった後に廃れていたものだったが、近年の地方との格差、GPの上昇による対悪魔戦闘の情報交換がより高度化した結果、再評価されはじめたスレだ。

前世と違つてウイキもない以上、転生者たちの頭の中にあるうる覚えの情報だから勘違いや検証が必要だったが、幾つかえげつないスキルとして記載されていたのだ。

マツカビームこつちのマツカが半減する、心が死ぬ、バイナルストライクペルソナ1 100%相性（相性無視、どんなやつにも通じる）で敵複数に特殊物理ダメージ、マジで死ぬ P2でも相性無視仕様、不幸のフラダンスP2 こつちの所持金が半減する、やめて、特攻P2 ゾンビ日本兵などが所持 相性無視で敵単体を瀕死、自分も死

ぬ、e t c e t c ……

思い出すだけでも陰鬱になる初見殺しの数々。

一定の倍数レベルで問答無用で即死するスキルレベルトラップ：P2より登場の相性無視の酷いスキル 条件が組み合えば問答無用で即死するとか、レベル5デスかよ。

これらを目にして使ってきそうなレベル段階での戦闘をやめた奴がいてもしようがないだろう。

これらの知識を知っているものは現地人には殆いない。

だからこそ希望を捨てられずに戦い続けられる。

(思考が脱線しているな、怯えているのか)

背筋がビリビリと冷たく感じる。

眼の前の自分のレベルを超える軍勢レベルのせいか、あるいはその中に潜む魔人のプレッシャーか。

横目で部下を見る。

その部下は必死に震える腕を抑えながら、ギラついた目で悪魔の軍勢を見ていた。

そういえば彼はここが故郷だった。

イギリスが故郷の人間は悪魔に蹂躪されるのを誰よりも恐れる。いや、それは故郷ならば誰もが同じか。

「ここではないどこかが自分の故郷だと考えている転生者たちを除いて……」

「魔人は出てきていないな」

「！ は、はい！」

「作戦目標は魔人マタドールの観測及び暫定名称【ワイルドハント】の弱体化及び遅延だ。撃退までする必要はない」

「戦闘可能な目標時間ターン数を規模から推測する。

「決戦場は最終防衛戦ロンドン要塞だ。それまでに出来るだけ相手の情報を剥ぎ取り、弱らせる」

「おそらくこの人員レベルではさほど長くは戦えない。

「英傑悪魔は連れてきていない。

「起動と維持にはまだ不安定性が残る、柔軟な動きと離脱するのが目的な以上、アーサーの提案を四条は断っていた。

「無理はしない」

「マタドールの情報を抜かなければ意味がない。

「は、はい！」

「だから。

「安心しろ、逃げれば死にはしないさ」

おそらくここで半分は死ぬ。

「死んでも蘇生は出来るしな」

死骸さえ残っていればリカーム、サマリカーム持ちの回復悪魔とアイテムは多く揃えた。

このレベルなら即死するか、しないかでしかない。

それぐらいの希望を持ってもいいだろう。

「そうですね、やりましょう！」

「ああ」

俺は地獄に落ちるな。

降ろしたデモニカスーツのマスクがありがたかった。

「そういえば、あの人達はこないんですか」

「うん？」

「ペイルライダーを倒した救世主は」

「彼らならスコットランド方面の街の開放に出かけたままだ。過激派天使共の鎮圧、避

難の救出だけでも半日以上かかる。間に合わん」

女神転生に關しては詳しくはない。

旧版の昔の主人公、ヒーローだったかといって何なんだ。

環境はインフレする。

クトウルフ神話TPPGの無限SAN値でも持つてるシャーロック・ホームズでも来てくれたら涙が出てくるほど頼もしいが、それほどの期待は出来ない。

おそらく高く見繕っても幹部級、シヨタオジは論外として、虫姫様ぐらいの戦力だろう。

彼女がここにおいても大変助かっただろうが、戦況をひっくり返す事は出来ない。だからこそアーサーは主要な戦力をロンドンに集めて、そこを決戦場に選んだ。

「俺たちがやるぞ」

転生者しかやれないのだ。

少なくともこんな島国の危機ぐらいは救わないと——生まれた意味がないじゃないか。

・ ・ ・

作戦は間違っていないかった。

「攻撃と集中を分散させろ！ 奴らは正気じゃない、ちよつかいを出せば四方八方に迷い出す！」

「近距離で戦うのは1ターン継続の物反鏡を！ 遠距離でやりあうやつは魔反鏡を活用しろ！」

「逃げ回るな！ 誘導しろ、必ず三人一組で動け！ 匣にするなら悪魔を使え！」

「テトラジヤを切らすな！ 死んでもそれだけは維持しろ！ 命をつなぐ、無駄撃ちにはならん！」

「くらしの玉アイテム 敵との戦闘から100%の確率で逃亡出来る、BOSS戦には無効の使用をためらうな！ 死ぬな、次の戦いが待ってるぞ！」

ドーバー海峡から這い上がる奴らに向かって、三方から別々の属性魔法を叩きつけた。

メインになったのは氷結魔法の重ねがけによるアイスブラストP2：氷結↓氷結魔法によって発生 敵全体に氷結属性大ダメージ 追加効果で凍結。同様に電撃によるサnderブラストP2：電撃↓電撃魔法によって発生 敵全体に電撃属性大ダメージ 追



加効果で感電、そして飛具によるハニーコウムP2：飛具系特殊物理↓飛具系特殊物理  
↓飛具系特殊物理によって発動、敵全体に乱れ打ちによる大ダメージ

特殊な連携と順序を重ねて発動することが判明した合体魔法を叩きつけた。

種族分類軍勢には範囲攻撃が効く種族軍勢 真4・Fより登場した膨大な数による悪魔戦闘を模したもの。全てを纏めて単体として扱うが、複数回の行動を行い、HPが減少する度に行動回数が減る。範囲攻撃をすることによって多段ヒットする。

驚異となる攻撃をぶつけて数を減らし、その上でヘイトを分散させる。

大きな軍勢を3つの支流へと分けて、それから細かくこぼれ落ちた悪魔共を人外ハンターたちが各個撃破する。

突貫だがドーバーの建物を計算的に爆破し、こちらだけが把握できる迷路化したことによる攪乱だった。

先日ペイルライダーを迎撃したフォークストーンと並び島外からの進攻戦略を食い止める要塞化の準備が生きている。

囿として誘導するのはアプリを常時維持し、パワーアシストによって長時間高速で動き回れるデモニカ部隊の役目だった。

悪魔狩りを行い、厳しい鍛錬を積んで中身も相応に鍛え上げた精鋭部隊。

日本にいる五島陸将の抱える部隊にも引けは劣らぬ練度があると四条は自負してい

た。

だからそこまでは順調だった。

魔人が出てこないことが懸念事案だったが、目標弱体だった二割、いや、半減までいけるんじゃないか。

そんな甘い夢を考えていた。

「素晴らしいな、計算された殺し間だ」

空から、ビル壁を駆け上り、それを見ていた魔人が動くまでは。「計算外に対する冗長性があれば完璧だったとも」

——疾風の咆哮——

風が吹いた。

そして、悪魔の速度が加速し、デモニカ部隊の動きが減速した。「なっ!?!」

赤い血風が吹き荒れて、気がつけば間隔を離していたはずの軍勢が目の前にまで迫っていた。

殿で牽制をしていたデモニカの一人が掴まれて、言葉を発する隙もなく踏み潰された。

戦友の死に上げかけた悲鳴を堪えて、デモニカ隊員の一人が叫んだ。

「スクカジャとスクンダだ!! 誰か使って」

「素晴らしい。我が身を省みず情報を伝える——驚異だとも」

その叫び声と共に濁った音が、隊員たちに響き渡った。

上空から落下してきた赤い閃光が、その首を刎ね飛ばしていた。

そして、残った二人の隊員がデカジャの石を、もう一人が銃口を向けて——それと見せかけてガイア式悪魔召喚プログラムで指示を出し。

——スピードスター——

「恐ろしい速度で複数行動を行う」魔人に石ごと刺し穿たれ、銃撃の盾にしながら流れるように撥ね上げた脚部が残った隊員の頭部を粉碎した。

「勇気に喝采を」

振り下ろす。

頭部にめり込んでいた足ごと地面に叩きつけて、その死骸が血染みと化した。

それを魔人は躊躇なく蹴り飛ばした。ゴルフボールのようなあつけなさとともに建物の屋根にぶつかり、爆ぜて染みとなった

表情もない骸骨の歯をカチ鳴らし、回転。

我が身を省みない突貫を行う悪魔の伏撃を避けた

次の瞬間、爆風が吹き荒れた。

悪魔が砕け散り、死骸が割れて、共に高濃度の血煙となって散る。

その血風に彩られるように、真紅のカポータをなびかせて、それは一礼した。

＼カカカツ／

AL  
 種族 ガイヤーズ 四条 翔 LV51 属性NEUTRAL|NEUTR

相性耐性 銃撃無効 破魔無効 呪殺耐性

＼カカカツ／

種族 妖魔 ヴアルキリー LV45DSJ 属性NEUTRAL|LAW

相性耐性 物理耐性

＼カカカツ／

種族 幽鬼 グレイマン LV37ソウルハッカーズ 属性DARK|CH

AOS

相性耐性 打撃・斬撃反射

＼カカカツ／

種族 造魔 シキガミ LV50DDSJ 属性NEUTRAL|NEUTR

AL

相性耐性 物理吸収 衝撃無効

デモニカスーツを纏った四条に、北欧神話の戦乙女、スコットランド伝承に纏わる灰色の亡霊、そして四条の側で色違いのデモニカスーツを装着したヒトガタのシキガミ。

彼らを歓迎するように、その魔人は胸襟を開いた。

—DEVIL ANALYZE—

有無を言わずアナライズ。

そして、その結果は——

／＼カカカッ／

種族 魔人 マタドール LV87

属性 NEUTRAL—CHAOS

相性耐性 氷結弱点↓反射

????

「馬鹿な……LV87だど!? 氷結が反射?」

(LV87、最悪のケースだ。アーサーが言っていた真4F仕様か、だがそれなら氷結が弱点のはず。微妙に違いがある? 解析を進めるしかないか)

「ふむ、無粋な目で覗く」

(レベルは高い、だが、問題ない。氷結以外で攻めればいい、その対策は備えている。少なくとも時間は稼げる!)

「だが知恵を凝らす。死力を尽くす、そこそが我が闘争に求めるもの」

魔人がカポータを振るう。

風が吹き荒れる。

赤い風が吹いて、血しぶきの舞う戦場を彩り染めていく。

楽しげに、愉快げに、その帽子を被る闘牛士は剣を構えた。

「貴公は我が渴望を満たしてくれるか？」

「来るぞ!! 時間を稼げ!!」

銃口を向け、ありったけの強化魔法を重ね出す彼に対し、マタドールは眼窩の奥にて

笑い声を響かせた。

「勝利を望まぬものに奇跡は訪れないものだ」

そして。

彼らは壊滅した。

手足を斬り飛ばされ、頭を踏み潰され、蘇生もできない形で、蹂躪された。

残ったのはデモニカから送られた解析データ。

そしてたった一言の叫び、命がけの叫び。

「知らないスキルがある、やつは真4Fじゃない!! もっとおぞましいものだ!!」

転生者四条 翔はM I Aと判断され、その一報にアーサー・エヴァンスは机を叩き割ったという。

笑い咆える魔人と泣き叫ぶ悪魔の軍勢は北上を続ける。

決戦はロンドンへと引き継がれた。



まことのきゅうせいしゅとしてみとめましょう

ロンドン。

かつての英国の首都にして霧が立ち込める都市。

アメリカ核基地を支配下においたメシア教共による各国 I C B M 攻撃によって核の炎に飲み込まれ、崩落した。

立ち込める放射能に、I C B M に搭載された悪魔召喚プログラムによって出没した悪魔共による蹂躪。

ロンドンは死都と化し、首都としての価値を失い廃棄された。

この都市に訪れたのは四条翔と共にデモニカ部隊を率い、生存者たちの救出活動をした時だった。

それからは来るはずがなかった。

こんな決戦都市として用意するまでは。

「アーサー、偵察部隊から連絡が入りました。見えたそうです」

「早いな。やつはまつすぐこちらに？ ロンドンを迂回してくるなんて悪夢は止めてほ

しいね」

「ブレイキも効きそうにない大所帯ですもの。その心配はいらないでしょう」

ロンドン王立公園の一つ、ハイドパーク。

奇跡的に放射能残量も少ないこの幅広い土地で、アーサーたちは陣形を展開していた。

自軍全員に対毒装備のアミュレットやガスマスクなどを装備し、それ以外にも治療を行える悪魔や道具を用意している。

それ以外にも耐毒用に調整、一時的な処置を施された英傑悪魔たちが起動を開始しており、既に動けるものたちは少しでも作戦成功率を上げんと忙しなく駆け回っていた。

「それにしても本当に悪魔が少ない……悪魔に放射能が有効だなんて」

「ICBMを打ち込まれてその広まったMAGと拡大したGPで大量の悪魔が発生した。だけど、悪魔にとって放射能は決して無害じゃないのさ」偽典女神転生における特殊弾頭 劣化ウラン弾は毒を無効化する悪魔に対しても猛毒を与える、放射性物質は悪魔をも蝕む

「瘴気のようなものなの？」

「もしかしたら魔界の環境は悪魔に心地いいものじゃないのかもしれないね」

斬新な解釈を行う妻に苦笑して、ガイア技術部と妻が直々に設計してくれたアーム

ターミナルを起動。

搭載したアプリを起動させる。

モルガンが作ってくれたアミュレットはしつかりと放射能を毒扱いして遮断してくれているが、まだ無視出来ない放射線量が残っていることを検知している。

「真・女神転生1から2に至るまで、外の世界は環境破壊によつて生存不可能領域が広がり……約束の地、あの完全環境施設を持つミレニアムへと人々は集まっていた」

「？」

「そして、救世主は誕生した……か。大破壊を防いでも次に洪水が起こるか、それなら……」

「お父様！」

考察に沈んでいたアーサーに再度揺さぶるように、アルトリアの声がかげられた。

カヴオスを側に連れて、常でない甲冑姿に身を包んでる。

「普段の軽快な機動性を重視したものではなく、対物反射特性を宿した霊的複合甲冑【ウィガール】だ。」

モルガンとそしてアーサーが指示し、着せた防具だ。

「なんだいアルトリア。新しい鎧の着心地が悪いとか？ それなら我慢してくれ、僕用のものを慌てて調整しただけだからね」

アーサーが着ている鎧は普段のものに加えて対物耐性を付与し、揚羽蝶を思わせるマントを羽織っている。

アゲハのマント旧約ⅠⅠ 衝撃に強い特性を得るマント男女共用、防御力に加えて運も上昇する

ほぼ飾りにしかならないだろうが、一応マハザンも習得しているマタドール対策の装備だった。

「それならお父様が着ればよかったでしょうに。いえ、そんなことより私が前に出てはいけないとはどういうことですか!？」

「事前のミーティング通りだ。アルトリア、君は他の皆と一緒に取り巻きを削ること。決して前に出るな」

「何故です！ 私がやらないと!!」

「必中技を持っていない、それが理由だ」  
「!!」

「四条さんは命をかけて重要な情報を伝えてくれた。これがなかったら間違いなく全滅していた」

軍勢を分断する要塞計画への指示、重要な戦力になる英傑悪魔の運用と打ち合わせ、モルガンを含む魔法傾向の戦力の抜粋。

それらの時間を除いて、アーサーは繰り返し、四条とデモニカ部隊が送信してくれた魔人マタドールとの動画を見直していた。

物理無効の仲魔に対して——物理貫通付与の物理スキル。

テトラカーンを展開すれば——マハザンのノックバック。

デカジャをぶつけければカポータの振り直して音速を超え直す赤のカポータ マタドール専用スキル 自身の命中・回避を最大段階まで上昇させる。

挑発女神転生3 敵全体の攻撃力を2段階上昇させ、防御力を二段階落とす、疾風の咆哮D2スキル 敵全体にスクンダ、味方全体にスクカジャ効果を同時に与える

こっちの攻撃だけが当たらず、相手の攻撃だけが命中し、砂上の城の如く誰もが砕け散らされ、悲鳴と怒号に染まっていた。

その光景の中で四条の声だけがしっかりと残っていた。

『奴の動きを見ろアーサー』

防御反射するグレイマンが、ただの一撃で瀕死寸前まで碎かれる。おそらく魂砕撃真4Fマタドール所持 万能相性、敵一体をHP1にする。

『あいつの回避、おかしくないか?』

捧魂の法ストレンジジャーニー・自分のHPを1にすると引き換えに全能力を最大まで上昇させるにて強化されたヴァルキリーが、マタドールに追いつがる。

音速を超える攻防の中で剣を受け止め、スキルも使わない剣に回復魔法で完全構築された肉体は十分受け止めて。

『見えない攻撃がある』

ヴァルキリーの反撃にマタドールが避けた次の瞬間、戦乙女が四散した。

放射線状に空間が波立ち、映像を撮る四条たちもダメージを受けたのが解る。

『3，いや、4発！ 威力にばらつきがあるが、無効は、出来なかった！』

血に溢れる音が交る。

画像がひび割れて、それでも砕け散らなかつたのは頭とカメラだけを守つた四条の献身だった。

『ギミックを看破しろ！ 鍵は命中、いや、必中だ！ 反撃は出来ない！』

仲魔が砕け散る。

魔人の笑い声が響く。串刺しに、魔法を封じられたものたちがバラバラにされる。

音すら置き去りにする速度で、四条は銃撃をばらまきながら、声を上げ続ける。

最後の最後まで。

『勝てアーサー！ 魔人を倒せ!!』

真正面から迫る魔人に抗いながら残した。

『俺達の世界を頼む！』

そして、映像は途絶えた

「D2スキルだ」

アーサーの前世の記憶は真4Fの発売後までしか残っていない。

魔人マタドールがソシャゲーのD2に実装されたかどうかは覚えていない、前世の記憶といつてもはや体験上では二十年以上前の過去。

メガテニストだって@ウイキを脳内に仕込んでるわけじゃない。

だがそれでもここまでクソ仕様のスキルがあるとしたら、D2D×2真・女神転生リベレーション セガより配信されているスマートフォン用ゲームアプリ

プレイヤーは悪魔召喚アプリを手に入れたデビルダウンローダー(D×2)として人類存亡をかけた戦いを繰り広げる

現在超高性能悪魔同士によるインフレが始まっており、先に殺す初手圧殺か、凌いで虐殺し尽くす世紀末バトルと化しているとしたら考えられない。IMAGINE? 馬鹿め、奴は死んだわ。

（あのセガ運営が何を考えて積んだのかわからないが、おそらく物理回避をトリガーに発動するパッシブスキルだ。常識的に考えればMPかHPの消費があるはずだが無消費で発動するし、1ターンの回数制限もない。現実には残酷だ最悪それすらもない可能性があるし、打ち止めまで躲させるのは現実的じゃない）

真3の人修羅反撃か、ペルソナー1の反撃状態グッドステータス路線の可能性があるか。

手書きのノート片手に悪魔合体プランを考えたり、アバチュウの鬼畜混沌王てめえムドかハマで死ぬ儂い存在だったろポケナス!! と喚きながら仲間とスキルの組み立てを考えた遠い記憶のメガテニストあるあるな脳味噌をフル回転させながら、現実的な推測を告げる。

「間違いなく真つ当な悪魔じゃない、下手をすればこちらの全滅もありえる」

「そ、そんな！ 父上が負けるわけが」

「この世界に無敵の存在なんていない」

アルトリアが絶句する。

彼女にとつて父と母は偉大な存在だった。

どんな時でも自分を守ってくれる。強く、悪魔が出てきても苦戦した姿も見たことがない。



だからこそここまで一度として弱音を言ったことがない頼もしい背中しか見たことがなかった。

「もちろんそれは魔人においても例外じゃない。僕らは勝つつもりだ」

ニコリと微笑んでアルトリアの頭を撫でるアーサーはいつもどおりの父だった。

「だが、それでも万が一はある。だからこそアルトリア、君には二陣と共に下がっていてくれ。カヴオス、僕がいなくてもアルトリアを最後まで守りきれ」

「はい、マスター」

「お父様!!」

「そしてヒデトさんと合流しろ。彼のための情報を出来るだけ稼ぐ、手傷も負わせる。そうすれば必ずこの国は守られる、勝利する」

アルトリアの目が大きく見開かれる。

縫り付く自分よりも、アーサーは違う誰かのことを見ていた。

側に立つモルガンも夫の言葉に口を挟まずに頷いていた。

自分を頼らずに、外からやってきた男を勝利の鍵と見ていた。

自分よりも騎士王として相応しい振る舞いをする男が異国のものへと後を託す。

「あ、ああああああああ!!」

アルトリアが声を上げて、飛び出す。

「お嬢様!!」

大型のカヴオスが慌ててそれを追いかけて、モルガンの指示を受けてバーヴァンシーも追う。

泣きながら離れる愛する娘を、父親と母親はあえて追わずに見送っていた。

「嫌われたかなあ」

「散々脅すからです。娘の傷跡に成りたい年頃ですか」

「いやいや最後の別れの時ぐらい悪い思い出のほうが振り切りやすいと思つてさ」

「まったく。男というものは無駄にカッコつけるものだな。これで死ぬつもりといったら折檻ものだぞ」

「死ぬつもりはない。アルトリアを玉座からただの女の子に戻して、白無垢姿を見るまではね。意地でも生き延びるさ」

「死なせはせんさ。私は魔女モルガンだぞ、死ぬような運命の摂理捻じ曲げて不死身の緑の騎士にしてやろう」

「おーおつかない。正直そんな魔女なんて似合わないよね、モルガンは」

「……どうせロールプレイですよー、もお」

「ごめんごめん」

夫婦の会話。

笑いながら、惜しみながら、お互いの視線を変えながら、娘の父親と母親たちは武器を手に取り。

「それじゃ」

空を見上げながら、騎士と魔女へと変わる。

赤い風が吹いていた。

そして、真紅の死が舞い降りた。

「貴公は我が渴望を満たしてくれるかね」

＼カカカッ／

種族 魔人      マタドール      LV 87      属性 NEUTRAL | CHAOS

相性耐性      氷結反射      物理・銃・破魔・呪殺耐性      即死無効

魔人マタドールが、悪魔の軍勢共を置き去りに、そこに佇んでいた。

＼カカカツ／

種族 超人   アーサー・エヴァンス   LV66   属性NEUTRAL—LAW

相性耐性 物理に強い   魔力に強い   破魔・呪殺無効

「メノラーならないぞ、帰れ！」

＼カカカツ／

種族 顕現者   モルガン・エヴァンス   LV64   属性NEUTRAL—CH

AOS

相性耐性 物理無効   電撃吸収   破魔に強い   神経・精神・魔力・呪殺反射

「テムズ川の下水なら好きなら飲みなさい」

人外の、転生者たちですらも恐れ慄く超高位悪魔の出現に対しても、二人は涼やかに

罵倒した。

覚悟は決めていた。

英霊たちの姿を模した英傑悪魔たちよりもソウルを持って屈することなく睨み付ける。

そんな素晴らしい振る舞いに、マタドールは風穴の空いたハットを被り直して齒をかち鳴らす。

「言葉は不要か」

風が吹いた。

錆臭い風が清々しいほどに吹き荒れた。

「貴公らの命、貰い受ける」

「ここがお前の終着点だ」

「悪夢に溺れて溺死しろ」

英国の明日を決める闘争が始まった。

大地が震えた。

「?!」

「な、なに!?!」

アルトリアとパーヴァンシーが振り返る。

そこには悪夢のような光景が広がっていた。

先程まで青天だった空に暗雲が立ち込め、クラスタ爆弾でも落ちたように土煙が断続的に上がっている。

「え」

轟音。

軍用トラックが千切れた紙切れのように舞い上がっていた。

人間だったのか悪魔だったのかもわからない残骸が濁った音を響かせて、周囲に落ちた。

爆発音と落雷の暴力的な音と衝撃が休む隙もなく襲いかかって、アルトリアは思わず尻もちを付いていた。

付いた手が柔らかいものに触れた。

「え」

赤かった。

汚いものだった。

それが千切れた人間の手の断片だと理解するのに数秒かかった。

「お、お父さん、お母さん？」

あそこにいたのは誰だったのか。

自分の両親が居た場所だと思い出すのに、とてつもない時間がかかって。

その間に周囲に残っていた建造物が三つ、硝子でも砕いたように粉碎されていた。

轟音。

覚醒者として高められたアルトリアの視力は見た。

土煙を貫いて、直線を描いて吹き飛ばされた英傑ジークフリートが数百メートル先の

ビル壁に叩きつけられる。

その横から『α・コスモス』終末が来たりし世に英傑の旗を掲げよオリジナル武器

武器スキルとして対応する英傑悪魔特有のスキルを発動可能とする。この作品におい

ては自分限定のテトラカーン・マカラカーン（1ターン）同時発動 改良の余地ありを

構えたアキレウスが迫り、マタドールの剣がそれを斬り伏せた。D2の貫通はテトラ

カーン・マカラカーンを無効化する

それと同時にとても美しい巨剣を構えたヘラクレスがマタドールに斬撃を叩き込む。マタドールの左腕がカポテと共に千切れ飛ぶ。

入った！ そう歓喜を覚えて「見事」左腕を犠牲に致命打を凌いだマタドールがサーベルをヘラクレスの巨体に突きつけていた。

—— 魂砕撃 ——

ヘラクレスの巨軀が感電したように震えて。

—— 血のアンダルシア ——

十二発の衝撃が食いしばりも許さずに爆散させる。真4F仕様

その余波が、もくもくと立ち上っていた土煙も同時に吹き散らし。

「アカジャ！！」

血塗れのモルガンの魔法が、マタドールの力を高めていた補助効果を消失させる。

—— ダークエナジー ——

アーサーが血反吐を吐きながら攻撃・魔力を高めながら、踏み込む。それをマタドールはカチンと歯を鳴らし。

「ここで笑っていれば勝てただろうに」

上を見た。



落下する自分の左手を噛んで、カポータを振るつた。

赤のカポータ 特殊補助 マタドール専用スキル。自身の命中・回避を最大段階まで上昇させる

—— 連撃斬・極 ——

マタドールは風と化した。

空間すらも叩き割る刃を、避けて、受けて、避けて避けて避けて避けて、受けて、耐えて、避けて、アーサーの十六の斬打を半ば以上避け切る。

そして。

血のアンダルシア パッシブ 消費MP —— マタドール専用スキル。

敵の物理攻撃を回避したとき、次の連動効果が発動する。

「敵全体に4回、クリティカル率50%の物理属性ダメージを与える」

このスキルは反撃効果の発動を無視する。最大練度の場合物理回避率が自動上昇する

血飛沫が広がった。

悪夢が起こった。

アルトリアはそれを直視した。

父と母が死ぬ。

彼女は絶叫し、力を求める。

王の力を。

魔人を倒す力を。

欲した。

王の物語が開幕の喇叭を鳴らした。



相性耐性 物理にとっても強い 魔法にやや弱い

「約束エされたク！」

聖剣を抜き放つ。

怒りを込めて、憎悪を込めて、魔人を消滅させんと光の聖剣が引き抜かれる。

「勝利カの剣リああああああああああ!!」

約束聖された王勝利光の剣臨 特殊スキル 敵全体に100%属性の特ダメージ+高  
 確率で瀕死（神聖判定） 聖王光臨剣 ペルソナ2罪にてエンジェルジョーカーが所持す  
 るスキル

光の奔流がマタドールを含む場を蹂躪した。

後方のビルが光の刃に引き裂かれて、碎け散る。

「はあ、はあ」

圧倒的な威力だった。

振り抜いた先には全てが灰燼と化して、後ろにいたはずの悪魔共でさえ粉微塵に砕け散っている。

「あは」

騎士王は勝利した。

「アハハ」

彼女は帰還した。

「アハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ!!」

アーサー王はブリテン島に再臨した。

アルトリア・エヴァンスは両親を失った涙を流して、アーサー・ペンドラゴンと崇拜

される悪魔は歓喜した。

笑いながら泣いて。

哭きながら微笑っている。

「あ、アルトリア……」

「お嬢様!」

義姉と慕った女性の声も、父が付けてくれた愛犬シキガミの声も届かずに、少女は笑っていた。

何もかも遅すぎて／何もかも間に合ったからこそ。

少女／王は、泣き／笑う。

「残心もないとは素人かね？」

その笑い声がピタリと止んだ。

アーサー王が硬直しながら、前を見る。

粉塵が赤い衣に拭われて、かき消えていた。

種族 魔人 マタドール LV 87

属性 NEUTRAL | CHAOS

相性耐性 氷結反射 物理・銃・破魔・呪殺耐性 即死無効

命中回避・4段階に上昇中

カカカツ

魔人マタドールが現れた。

「……嘘だ」

聖剣の一撃で滅ぼされない魔人がそこにいた。

「馬鹿な！ お嬢様の聖剣が……!?!」

「当たらなければ何の効果もあるまい？」

折れた自分の左腕を右手に掴み、赤のカポータを翳しながら、骸骨の顎が震えて笑う。

今にも死にかけてたポロポロの骸骨。

アーサー・エヴァンスとモルガン・エヴァンス、そして共に闘った戦士たちによる死

闘の証。

だというのに、数秒数えてマタドールは不思議そうに告げた。

「かかってこないのかね」

「!!」

アルトリアが聖剣を、パーヴァンシーが竖琴を、カヴオスが唸りを上げて牙を剥き出しにする。

三人とも闘志を失ったわけでもなく、己が両親を、主を奪われた増悪に胸は焼かれて  
いる。

だがそれ以上に、その感情すらも凍りつかせるほどに魔人は桁外れだった。

今にも死にかけてた姿であっても、立ち向かうことを失念するほどに。

「マタドール!!」

「貴公が我が名を呼んでも死にはしない」

カラカラと顎を打ち震わせ、銃痕の刻まれた帽子を傾ける。

わかりやすく告げるのならば。

魔人は肩をすくめた。

「力を示せ。彼ら戦士のように」

「BOW!」

フォッグブレス 補助特技 敵全体の回避率と命中率を2段階ダウン

「旋風陣!」

旋風陣 疾風魔法 敵全体に疾風相性のダメージを与える

「マハブフーラ!」



マハブフーラ 氷結魔法 敵全体に氷結相性の魔法中ダメージを与える

カヴオスが命中・回避を下げるブレスを吐き出し、二人の悪魔少女がかさず魔法を魔人へと叩きつける。

マハガルダインを超える疾風系最強の魔法に、弱点を突く氷結魔法。

それに魔人は

M I S S B L O O K !

軽やかに風を回避し、氷結にニヤリと嘲笑ったニヤリシステム 敵の弱点を突く、クリティカルを出す、敵の攻撃を無効・反射・吸収すると発生することがある。

「遅い」

——疾風の咆哮——

アルトリアたちの動きが一段低下し、マタドールの速度が三段階目まで上昇する。

「遅い」

——疾風の咆哮——

アルトリアたちの動きが二段目まで低下し、マタドールの速度が四段階目まで上昇す

る。

「二手にて返し終わる」

真紅の残像と共にカヴオスが血しぶきを巻き上げた。

昇  
ソウルドレイン 特殊特技 敵単体からHP・MPを吸収する。ニヤリ時威力上昇

物理耐性を吸収まで高めたシキガミの耐性を万能にて踏み躪る。

雄々しく吠えたけていたカヴオスの肉体が半ば命が抜けたように倒れ込む。

それに伴いマタドールの傷が癒えていくが、まだ浅い。

それは威力が足りないのではなくシキガミ本体の生命力HPの総量だ。

万能に対する耐性と対処方法を転生者を含めた戦士たちが浅い。

「どうした、まさかこの程度で死するつもりか？ 先の二人ならばまだ耐えたぞ？」

「約束エされたス！」

騎士王が踏み込む。

——マタドールは顔をしかめた。

輝ける聖剣を携えて。

——闘牛士は息を吐いた。

「勝利カの剣リああああああああああああ!!」

勝利を振りかざした。

約束聖された勝利王の剣光 特殊スキル 敵全体に100%属性の特ダメージ+高  
確率で瀕死（神聖判定） 聖王光臨剣 ペルソナ2罪にてエンジェルジョーカーが所持す  
るスキル

M I S S !

避けられた。

騎士王の命中率が、魔人の回避力から下回りすぎたために。

「血のアンダルシア」

血のアンダルシア パッシブ 消費MP — マタドール専用スキル。

敵の物理攻撃を回避したとき、次の連動効果が発動する。

「敵全体に4回、クリティカル率50%の物理属性ダメージを与える」

このスキルは反撃効果の発動を無視する。最大練度の場合物理回避率が自動上昇する。

「散りたまえ」

衝撃が走る。

カヴオスがアルトリアを底<sup>カ</sup>つてして砕<sup>バ</sup>け散る。

衝撃が奔る。

耐えきれないと悟ったパーヴァンシーがアルトリアの壁<sup>カバ</sup>となって血まみれに割れる。

衝撃が疾走る。

対物反射の甲冑を〈貫通〉して、少女が血反吐を漏らす。

剣閃が突き刺さる。

「貴公は弱い」

侮蔑と共に騎士王とした完成された少女は敗北に吹き飛ばされた。

——まだだ。

「あ」

吹き飛ばされ、聖剣がこぼれ落ちる。

ゴロゴロと転がりながら、手を握りしめる。

「ああ」

地面に弾む、大地の上で弾む。

それでもまだ原型を保っている。

——まだだ。

「あ、あ」

両親が用意してくれた鎧は、甲冑は騎士王の敗北を齎しても、少女の身体は守った。

物理無効を貫通されてもその防御力は、少女を守ろうとした防護はまだ命脈を繋い

で。

「ああああああ」

——立ち上がれ。

歯を食いしげれば、耐えられる。立ち上がれる。

「ああああああああああああああああああああ」

一流の戦士ならば、救世主なら、騎士王ならば立ち上がれ。

食いしげつて、手を動かせ、剣を取れ。

聖剣を握りしめろ。

お前がア—<sup>救</sup>サー<sup>世</sup>王<sup>主</sup>なのだから。

歯を食いしげれ

「あ、ああああん、ああああああん」

れなかった。

「やだよお」

少女は、アルトリアは泣いていた。

二十にも満たない少女は、両親が死んだ事に、泣いていた。

喚き立てる騎士王の誇りが、怨嗟のように使命感のように内側から突き立てながら、手足が全然動かなかった。

守りたかった人たちは皆死んだ。

無敵だと思っていた両親は死んだ。

家族だった人は自分を守って砕け散った。

それなら。それなら、なんで。

「もうやだ」

騎士王は、否、騎士王になれなかったただのアルト両親リに愛アされてエいた少女スは曇った空を見上げて泣きじやくった。

子供のように。

ただ泣いていた。

ぼろぼろ、涙がこぼれた。

あの妖精たちが、精霊たちが囁し立てた騎士王の帰還なんて姿はなかった。

ただの幼子が泣いていた。

「どうやら貴公は戦士ではなかったようだな」

見下すような、呆れるような声が聞こえた。  
それに怒りすら覚えない。

ただボロボロにひび割れた小手で顔を覆って、うずくまる。  
心が折れていた。

聖剣は吹き飛ばされて、手に握れてなかった。

だから。

「子供が戦士でいいわけがないだろう」

その声に、間違いだと思った。

顔を上げる。

その先には掲げられた聖剣があった。

「此処から先は俺が相手だ」

義手の、銀腕デカトラームの英雄がそこにいた。

いないはずの男が、金髪の魔女と、ヘルメットを失った装甲服を着た男と共にいた。



「貴公らは戦士か？」

「デビルバスター」

短く、まっすぐな声。

怒りに震えるただの人間が、そこに聖剣を握っていた。

「お前らのような悪魔を滅ぼす奴だ」

ヒデトがそこにいた。

しれんをうけ　るゆうきか　ありますか

「デビルバスター……」

快活に、ひび割れた骨と擦り切れた闘牛士の装束を纏った魔人が嗤う。

「悪魔を倒すもの、なんともシンプルだ。ハンターではないのかね？」

「一方的に狩れるほど強くない」

聖剣を握りしめて銀腕の悪魔使いはそう告げた。

側に佇む魔女は鏡仕掛けのマスクミラーマスク※旧約IIマスク装備　男女共用

火炎相性ダメージを25%dまで軽減する防具を身につける。

そして、反対側を経つ損傷の目立つ機動装甲服を装着した男は、半ばから吸い止めていた葉巻を吹かした。

「お望み通りの戦士のご到着だ、喜べ。クソ野郎」

「クハ！　クハハハハハハハハ！！　不思議なことが続く、妙な話だ、何故君がいるのかね？」

「貴公は我が葬ったはずだが？」

ガイア連合製のデモニカスーツを装着した男、四条翔は眼前の魔人に刎ねられた首を叩いた。

「ヘバイトザバレット」バイトザバレット※D S Jで追加されたサブアプリ 味方全体に1回だけH P Iで復活する効果を付与、使用したターン中のみ有効 ガイア連合が開発したデモニカ用の戦闘アプリだ。肉体が死亡すると同時に強制的に賦活、魂が抜けないように入れ直す」

さらに事前に自分が戦闘しても契約が解除、逃走しないように△デスマーチ△デスマーチ※D S Jで追加されたサブアプリ 主人公が死亡、石化してもゲームオーバーにならないをセット、自分が死亡しても最後まで戦えるように設定済み。

同時に奴が敵対者を倒す度に蘇生困難になるように戦うのを確認したあと、バイトザバレットで蘇生した場合、死んだふりをしてでも自分の肉体パーツを集めておくように指示。

結果、ギリギリのタイミングだったが息を吹き返すことが出来た。

「俺の部下共は間に合わなかったが、仇は取らせてもらおう」

葉巻を吐き捨てて、途中から千切れていたデモニカスーツのバケツヘルメットを被る。

ほぼ機能は損壊、修繕も間に合っていない以上、ただの防具装備真4 デモニカスーツ一式扱いに過ぎないが十分だ。

『ヒデト、戦場を移動させる。出来るか?』

スーツ内通信機から、自分の死骸を引つ張り出してくれた男に呼びかける。

そして、興味を引かないようにヘルメット越しに倒れ伏した少女を四条は見ていた。父と母と家族を殺された少女は突然の援軍に目を見開きながらも、動かない。

動けない。

呼吸も荒い、重傷で戦闘に巻き込まれたら瞬く間に死ぬ。

眼の前の魔人が、人質なんて小賢しい真似をするとは思えないが、それに気を使つて戦つてくれるとは到底思えない。

むしろこちらのやる気を出すためになら眼の前でアルトリアを刺し殺すぐらいはする。

「わかった」

無茶な注文、今からでも命をかけた死闘だというのにヒデトは了承した。

魔女は肩をすくめて、手を打ち鳴らす。己が魔力を持つて魔界と繋がり、魔界魔法を

呼び出す独特のうねり。

「我が名はマタドール！ 戦士よ、名は？」

「ヒゲト」

独特のガスマスクを眼前に降ろし、唸りを上げてパワ<sup>ブ</sup>ラックデモニカ<sup>デモニカ</sup>セット※真4F 特殊装備、デモニカスーツ一式よりも廉価版のブラックデモニカと呼ばれる量産型 銃撃無効の他それなりの性能を発揮するが、本来のデモニカスーツ（真4）と比べれば性能が落ちる。アメノトリフネへの予算配分の問題でカットされたが起動する。

「CALL」

銀色の義手が滑らかに動き、数式が表示される。

描かれるのは悪魔を使役するプログラム。

神の計算を超えて、観測者ですらもそれを生み出すのではなく模倣から始めた一人の青年が作り出したプログラム。

— SUMMON —

＼カカカッ／

種族 幻魔 ハヌマーン LV60ソウルハッカーズ 属性 LIGHT-N

EUTRAL

相性耐性 精神・神経・魔力耐性 破魔・呪殺無効

《魔人か。我が主、我が敵に相応しい》

＼カカカッ／

種族 破壊神 セイテンタイセイ LV56デビルサマナー 属性 LIGHT

TCHOS

相性耐性 呪殺・魔力・神経耐性 火炎・破魔無効

《いいね、いいね！ ぶち殺し甲斐があるじゃねえか！》

＼カカカッ／

種族 竜王 ヤマトノオロチ LV59デビルサマナー 属性・NEUTRAL  
LINEUTRAL

相性耐性 火炎・氷結・電撃耐性 状態異常に強い

《肉モ身モノナイ骨力！ サツサト壊シテヤルゾ、サマナー！》  
／カカカツ／

中 種族 魔神（技芸族） トート LV58アバドン王においてはLV31 成長  
属性 LIGHT-NEUTRAL

吸収 相性耐性 物理に弱い 呪殺弱点 火炎・電撃・衝撃・氷結・精神・神経・破魔

《オヤマあ、魔人だネン。本当に飽きないね、チミたちは》

＼カカカッ／

種族 魔女      ロザンナ      LV62      属性NEUTRAL—CHAOS

相性耐性      火炎に強い      電撃吸収      衝撃耐性      破魔・呪殺無効  
 「レベルだけでも魔王級ね。全力で行くわよ」

＼カカカッ／

種族 悪魔使い      ヒデオ      LV59      属性NEUTRAL—GOOD

相性耐性      全体的に強く      銃撃・破魔・呪殺無効  
 「皆、頼むぞで」

＼カカカッ／



AL  
種族 ガイヤーズ 四条 翔 LV51 属性NEUTRAL|NEUTR

相性耐性 銃撃無効 破魔無効 呪殺耐性  
「俺はサポートに回る、頼むぞ！」真4F パートナーシステム 戦闘メンバーに加わらないがターンごとに固有の支援を行う  
死闘が始まった。

種族 魔人 マタドール LV87 属性NEUTRAL|CHAOS

相性耐性 氷結反射 物理・銃・破魔・呪殺耐性 即死無効  
カカカッ／

魔人マタドールが現れた。

—— スモークノイズ ——

「奴に躲させるな!!」

宣戦開始。

四条が先んじて煙幕弾を射出する。スモークノイズ※D S J 敵全体の命中回避率を大きく(二段階)低下させる

妨害煙がマタドールを飲み込む。

耐悪魔用の麻痺やスクンダ効果など未覚醒者が喰らえば指一本動かせなくなる化学兵器だが、魔人ほどの上位悪魔には効果が薄い。

肝要なのはその煙幕。

普通ならお互いに姿が見えなくなるものだが、マタドールほどの動きがあれば煙で予兆が見える。

「またかね?」

「何度でも、だ!」

(使い損ねた最後の一発だがな!)

抱え落ちして死ぬところだったが、ここで切らずにして何時使う。

『回避二段階低下!』

《ウオオオオオオオ!》

—— ダイ・ハード —— ダイ・ハード※デビルサマナー 味方全体の防御・命中率が上昇する

龍王ヤマタノオロチが吠え猛る。

—— ヒデトたちの防御力と命中率が一段階上昇する!

—— ラク・カジャ —— ※ソウルハッカーズ

幻魔ハヌマーンが手慣れた仕草で防護の結界を張る。

—— ヒデトたちの防御力が一段階上昇する!

—— テトラカーン —— テトラカーン(仲魔用)※アバドン王 味方全体に物理反

射の結界を10(1T)秒間展開する、ファイの時報により10秒延長(合計2T)

魔神トートが、自分の弱みを埋める反射結界を構築する。

—— ヒデトたちが物理反射状態になった!

《余裕だネン? あの魔人》

永世ライドウと呼ばれた悪魔召喚士に仕えていた魔神が、忠告するように囁く。

「跪きなあ!」

悪魔合体にて作られた破壊神が吠え猛けた。

いかく（威嚇） 補助特技 敵全体に『ラク・カジヤ』7回分（最大段階）および『タル・ンダ』4回分の効果※デビルサマナー

「ぬっ?!」

——マタドールの防御力が最大まで高まり、攻撃力が四段階低下した!

自らの赤のカポータ同様、だが違う方角性の、それも敵を強化/弱体させる特技。これが撃たれたということは。

——デカジヤの石 ——

ロザンナが強化解除の道具を発動させる。

——マタドールの防御力が元に戻る!

残るは足が鈍り、手の動きも半減した魔人。

そこにサマナーが踏み込んだ。

聖剣エクスカリバーの閃光が三度魔人の骨を削る。外套を貫いて、とつさに首を振るうマタドールの頬骨を砕いた。

「悪魔召喚士が、踏み込むか!?!」

「それしか能がない、悪いか?」

「いいやちつともー」

風を切る、音すらも置き去りになるほどの超人と魔人の動き。

本来のレベル差ならば機械仕掛けの義手とデモニカスツの補助があつてもヒデト程度の超人ならば一撃で撥ね飛ばせる力がある。

だが四段階の攻撃力攻勢干渉率の低下低下と、スモークノイズが思うようにマタドールの動きを取らせない。

なんと計算された殺し間か！

凄まじいと言う言葉すらも陳腐なほどに研鑽されたヒデトの剣も相まってマタドールは眼窩の奥に燃える炎を輝かせた。

歓喜。

その色は歓喜であつた。

戦士と戦士、悪魔とヒト、その決闘とは生存競争に他ならない。

自らの持ち得る手札を全て費やし、環境すら整えて殺しにかかる。それに何の非礼があろうか。

自らが闘技場に招かれ、狭い闘技場に押し込められたバツファローであるならば、挑みかかる闘牛士はデビルバスターたちに他ならない。

溢れんばかりの殺意と全身全霊のソウルの輝きこそ、マタドールにとって万雷の喝采

に等しい。

「ハハハ！ ならば我も全身全霊で挑もう！」

歓喜の笑い声を響かせて、ヒデトの聖剣から弾かれるように距離を取る。

僅か二歩の間合い、それで十分。

—— 赤のカポータ ——

マタドールは自らの赤き自己証明をはためかせた。

赤のカポータ 特殊補助 マタドール専用スキル。自身の命中・回避を最大段階まで上昇させる。

撒かれていた煙幕が消失する。

ヒデトが踏み込む、一步。その剣閃は鋭く。

「もう一つの地球は嘲笑う」

その踏み込みが——反転した。

否、マタドールとの距離が広がる。無属性の、■H■Hが魔人に授けた最優の万能魔法。

「この程度で死んでくれるなよ？」

アンティクトン 万能魔法 敵全体に万能属性で特大ダメージ。攻撃力・防御力・命中・回避率を一段階低下させる。

「がつ!？」

音すらも生み出さない不可視、不透明の存在否定の波動が、ヒデトの足を止める。

それだけではない周囲の命あるものが、悪魔の残骸すらも消え去って、距離を詰めたロザンナや仲魔たちをも蝕み、弱らせる。

ヒデトたちの全能力が一段階低下する。

それはさながら神の意思めいて。

「真4のスキル仕様か!」真4 レアエンカウトマタドールがアンティクトンを所持している

後方、ある一箇所めがけて移動していた四条は外から見て気づいた。

メタ知識を持つ転生者は気づかない。

ロザンナは、ヒデトは、ハヌマーンは気づいた。

(この魔人は！)

「耐えたか、それでこそ！」

マタドールの眼窩が燃える、楽しげに、愉快げに。

そして、マタドールの最大速度敬意を持って、音すら許さぬ剣閃が放たれる。

—— 冥界破 ——

周囲一体を全て破壊する斬閃、否、破滅が吹き荒れた。

物理反射の結界すらも紙のように貫通し、命を失った大地が粉碎された。

《ヤバいのねん！ アデュー！》

魔神トートが僅かに斜め前に踏み出して、砕け散る。

ヒデトが、ロザンナが、仲魔たちが各々の動きと姿勢を持って、生き延びる。

深手を負わせながらもたった一体しか落とせなかった手強さにマタドールは闘志を

輝かせる。

その期待に答えるようにヒデトたちは立ち上がる。

「解除する！」

—— デカジャの石 ——



四条が遠くから投げ込んだデカジャの石が、マタドールの速度を解除する。

タイムイングから見て冥界破とほぼ同時、ヒデトたちが立ち上がることを確信してなければ無駄撃ち。

《よくもヤツテクレタナアアアア！》

—— ダイ・ハード —— ダイ・ハード※デビルサマナー 味方全体の防御・命中率が上昇する

龍王ヤマタノオロチが再び吠え猛る。

—— ヒデトたちの防御力と命中率が一段階上昇する！ これで元通り！

《奴の手先か。油断なさらず！》

—— ラク・カジャ —— ※ソウルハツカーズ

幻魔ハヌマーンが手慣れた仕草で防護の結界を張る。

—— ヒデトたちの防御力が一段階上昇する！ これで元通り！

《ちっ》

破壊神セイテンタイセイが音も立てずに、ある方角へと走り出す。

—— メディアハン —— ※旧約女神転生ⅠⅠ 味方全体のHPを最大値まで回復。

この魔法はラストバイブルと旧約にしか存在しない

「これで立て直しー」

ロザンナが回復の魔法を行う。

傷が塞がり、なによりも体力が戻る。踏みしめる全員の足に力が宿る。

「CALL」

—SUMMON—

種族 降天使    デカラビア    LV46偽典・女神転生    成長中属性    NEUTR

AL—CHAOS

相性耐性    属性攻撃に強い    破魔・呪殺・神経無効    魔力反射

《我は天を見限り、魔界へと降り立ったデカラビア以下省略！ 怖いのでテトラカーン！》

星型の墮天使が、魔神トートの穴を埋めるように召喚される。

テトラカーン    結界系魔法    物理攻撃を跳ね返す魔法をひとりに作る

物理反射の結界を、デカラビアが纏う。

そして、それ以外の全員が未だに物理反射の結果を纏っている。

（見事。本来の私ならば手も足も出ないであろう）

あの魔神トートの物理結界の見事さだ。

本来ならば10秒として消え去るはずの反射結界を死してもなお味方に残して散った。

だが残念ながら今のマタドールにその意味はない。

自分の物理貫通は、全ての障壁を貫いて届かせる。

ある時を境に魔人たる自分に与えられた権能スキルと拡張した自我。

そして与えられた使命感。

極東外に蔓延る転生者を殺せ、■殺しを消せ。

万物に等しく凶事を与える魔人を傀儡にするかのような啓示。

——我が記録に残るあの美しき救世主が消し去られた時のように。

——我が記録に残るあの修羅たる人でも悪魔でもなき少年が大天使に屠られた時のように。

——我が記録に残る堕天使の主が、■魔王へと置換された時のように。

それに自らと相争っていた四騎士共はあつという間に狂い、辛うじて逆らえているのは黙示録に関わりのない【だいそうじょう】や【ヘルズエンジェル】、そして【獣の女帝】

ぐらいだろう。

屈辱ではある。

だがしかし、それでも力には間違いはない。

今の自分の全霊を振るうことこそが、決闘者への礼儀。

(全てを殺し、鍛え上げ、気に入らぬものを消し去ればよいのだ！)

—— 挑発 ——

挑発 特殊特技 敵全体に『タルカジャ』2回分および『ラク・ンダ』2回分の

効果※真3仕様

マタドールの眼光が、強者のソウルを活性化させる。

それは先程の威嚇とはまさに正反対に。

—— 赤のカポーテ ——

そして、再びマタドールは最大速度を得る。

赤のカポーテ 特殊補助 マタドール専用スキル。自身の命中・回避を最大段階

まで上昇させる

「永遠に踊ろうか！ この素晴らしき闘争を！」

「アンテイクトン」

無が生まれた。

世界が再び反転する、大地が反転し、その防備が下がったヒデトたちを選別するかの  
ように飲み込んで。

「力に溺れたな、闘争の魔人」

その虚無が、星型の墮天使に。

天を見限り、自ら魔界へと降り立った降天使に跳ね返された。

「なにつ!?!」

マタドールは己の、与えられた力に——打ち据えられた。

ヒデトたちと同じく、いやそれ以上の勢いで吹き飛び、地面に転がり叩きつけられる。大破壊から残された人々が抵抗を続けた果ての、

天に逆らいし聖王が洪水に吞まれる前の時代を知らない。

彼らは、その先の、絶望だけの世界を進んだことを知らぬがゆえに。

「が、あ」

下がった力はもはや下がる余地はない。

速度は僅かに下がったが、それだけ。

ただ防護が僅かに弱まった、その軋みに失策を理解する。

自分のあまりの醜態に、顔から火が出そうだ。

「くっ」

そして。

跳ね上がるように起きて見た。

——視線の先にて、碎け散る光を。

——そして、その先で立ち上がる3つの人影を。

一人のシキガミが立っていた。

赤く輝く髪をなびかせて、半ば千切れたドレスを纏いながら手を打ち鳴らしていた。  
もはや泣くことを止めた少女だった。

＼カカカツ／

R A L  
種族 完全造魔 バー・バンシー L V 5 2 属性 N A T U R A L | N E U T R A

一匹のシキガミが立っていた。

灰色の毛並みをなびかせて、片目から血を流しながらも、唸る番犬だった。  
もはや負けぬと誓う守護者だった。

＼カカカツ／

L  
種族 獣型造魔 カヴォス L V 5 7 属性 N A T U R A L | N E U T R A

一人の少女が立っていた。

その手に英雄から託された美しき巨剣を握りしめて、涙の跡を残しながらも前を見る。

冠をかなぐり捨てたただの少女だった。

／カカカツ／

種族 導師 アルトリア・エヴァンス LV60 属性 NATURAL | GO  
od

「「我ら三名、ここより決闘に乱入させてもらおう。よいですか!」」

「力を貸して欲しい、俺たちだけでは勝てない」

「「承知!!」」

リカームドラにて蘇生され、覚醒を果たしたものがたちが参戦を開始した。